最新AIツール大全

The Ultimate AI Tools Guide

ヒルトル・フィリップ太郎

最新AIツール大全

2026年11月5日更新バージョン

目次

更新履歴（新規追加・更新したツールの一覧） 6

Chapter 1 はじめに 14

この書籍を執筆した理由 15
本書の対象者について 16
本書内の情報の鮮度について 17
各AIツールの評価基準について 18
※本書の著作権について 19
免責事項 20
コラム：仕事でAIを安全に使うための5つの注意点 21

Chapter 2 チャットボットAI 24

チャットボットAI：あなたのパートナーとなるAIライター 25
ChatGPT 26
Claude 31
Gemini 35
Google AI Studio 39
Siri AI by Apple 41
Grok 44
DeepSeek 47
Qwen Chat　※サイト上の表記は「Qwen Studio」 49
Kimi 51
MiniMax Agent　※旧Hailuo AI Chat 53
Poe 55
Microsoft Copilot 56
Mistral Vibe　※旧Le Chat 59
Muse Spark by Meta 61
Sakana AI 64
Groq　※Grokとは別の会社です 66
番外編：Arena　※旧LM Arena 67
番外編：Artificial Analysis 69
番外編：Jev by TypeSafe AI 71
番外編：Obsidian 73
結論：どのAIチャットボットがオススメ？ 75

Chapter 3 AIエージェント 77

AIエージェント：そもそもAIエージェントって何なの？ 78
Claude Cowork 79
ChatGPT Work 82
Claude in Chrome 86
Gemini Spark 88
Notion AI 90

Genspark 93
Manus 95
OpenClaw 97
n8n 99
Dify 101
dots by OpenAI 103
Grok Bot 106
Muse by Meta 108
結論：どのAIエージェントがオススメ？ 111

Chapter 4 検索AI 113
検索AI：調べ物やレポート作成はAIに任せよう 114
Perplexity 115
ChatGPTの検索機能 118
Claudeの検索機能 120
Geminiの検索機能 122
Grokの検索機能 124
Felo 126
結論：どの検索AIがオススメ？ 128

Chapter 5 スライド/資料作成AI 129
スライド/資料作成AI：面倒な資料作成の時間を削減しよう！ 130
ChatGPTのスライド作成機能 131
Claudeのスライド作成機能 133
GensparkのAIスライド 135
GenOffice by Genspark 137
ManusのAIスライド機能 139
イルシル 141
Gamma 143
Napkin.ai 145
Beautiful.ai 146
結論：どのAIツールがオススメ？ 147

Chapter 6 要約AI 149
要約AI：莫大な情報をAIを使って瞬時に理解しよう 150
Gemini Notebook 151
ChatGPT Summarize 154
Mapify 155
結論：どのAIツールがオススメ？ 156

Chapter 7 AIコーディング 157
AIコーディング：AIでサイトやアプリを作れるの？ 158
Claude Code 159
Codex by OpenAI 162
Cursor 166
Antigravity 169
Devin Desktop　※旧Windsurf 172
Base44 174

Bolt.new 176
Lovable 178
Replit 181
Anything　※旧Create.xyz 183
Stitch 185
Grok Build 186
結論：どのAIコーディングツールがオススメ？ 188

Chapter 8 画像生成AI 189
画像生成AI：もうストック画像に高いお金を払う必要はない 190
ChatGPTの画像生成機能 191
Geminiの画像生成機能 194
Canva 196
Muse Image / Muse Video 198
Midjourney 200
Flux 202
Poeでの画像生成 204
Ideogram 205
Krea.ai 207
Leonardo.ai 209
Magnific　※旧Freepik 210
Recraft.ai 212
Microsoft Designer 214
Kling.aiの画像生成機能 215
Grokでの画像生成　※Imagine Image 2.0 216
Adobe Firefly 218
結論：どれがオススメ？ 220
画像生成AIツールの個人的ランキングベスト3 222

Chapter 9 動画生成AI 223
動画生成AI：時間とコストをかけない新時代の動画制作の形 224
Google Veo 225
Google Flow 227
Google Vids 229
Hailuo AI ／ MiniMax H3 231
MiniMax H3を自分のパソコンで動かす　※オープンウェイト版 233
Seedance ／ Dreamina（ドリーミナ） 235
Midjourneyの動画生成機能 237
Kling.ai 239
Higgsfield.ai 241
Magnificでの動画生成 244
Krea.ai 246
Poeでの動画生成 247
PixVerse 248
SkyReels 250
Wan 251
Runway 253
Luma AI　※旧Dream Machine 256

Hunyuan Video 258
AnimeGen 260
Pika 262
Vidu 264
LTX Studio 266
DomoAI 268
Genmo 269
Viggle.ai 270
Morphic 271
Moonvalley Marey 272
OpenAI Sora　※公開終了 273
Meta Movie Gen → Muse Video 275
結論：どの動画生成AIツールがオススメ？ 276
動画生成AIツールの個人的ランキングベスト3 277

Chapter 10 アバター生成AI 278
アバター生成AI：AIアバター動画はビジネスで使えるのか？ 279
Akool 280
HeyGen 281
Synthesia 283
Tavus 286
Arcads 288
D-ID 289
結論：どれがオススメ？ 290

Chapter 11 音声生成（音声読み上げ）AI 291
音声生成AI：属人性の低い仕事はAI音声に任せよう！ 292
GPT-Live 293
OpenAI.fm 296
Geminiの音声読み上げモデル 297
CoeFont 299
音読さん 301
ElevenLabs 302
MiniMax Audio　※旧Hailuo AI Audio 304
Speechify 305
Artlist.ioのボイスオーバー機能 306
結論：どれがオススメ？ 307

Chapter 12 音楽生成（楽曲生成）AI 308
音楽生成AI：プロレベルの楽曲制作が瞬時に可能に 309
Suno 310
Google Flow Music 314
Udio 316
SoundRaw 317
Mureka.ai 318
結論：どれがオススメ？ 319

Chapter 13 動画編集AI 320
動画編集AI：動画編集はAIでどこまで効率化できる？ 321
DaVinci Resolve 322
Recut 324
FireCut 326
Eddie AI 328
Adobe Premiere　※旧Premiere Pro 330
Final Cut Pro 332
CapCut 334
Video Remix 336
Figma Motion 338
AutoCut 340
Gling.ai 342
Opus Clip 343
Klap 345
2ShortAI 346
Submagic 347
結論：どの動画編集ツールがオススメ？ 348

Chapter 14 その他の便利なAIツール（文字起こしAIなど） 350
その他の便利なAIツール：作業効率を大幅に向上させるサポート役 351
Google AI Studioでの音声文字起こし 352
Rimo　※旧Rimo Voice 354
ElevenLabsのScribe機能 356
tl;dv 357
Notta 358
SimonSaysAI 360
Otter 361
mymind 363
Wispr Flow 364
Julius AI 366
Google Labs 368
結論：どれがオススメ？ 370

Chapter 15 まとめ 371
AIを頼れるあなたの相棒に 372
さらに詳しく最新のAIツールの使い方と活用事例を学びたい方へ… 373
毎朝のAIニュースも、音声で聞けます 375

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

更新履歴

直近3回の更新で新しく追加したツールと、内容を更新したツールの一覧です（いちばん上が最新の回です）。ツール名を押すと、そのページに移動できます。

2026年11月5日の更新分

2026年11月1日から11月5日までの動きを反映し、あわせて本全体の「11月1日時点」の記述を公式の情報で確かめ直し、確かめられたものを「11月5日時点」に直しました。中心は、ChatGPTの新しい画像生成モデル「ChatGPT Images 2.6」、Gemini Sparkの名前が「タスク」に変わったこと、そしてKimi K3.1 Proの重みの公開です。あわせて、Gammaの料金とRecraftの無料プランの説明を公式の料金ページに合わせて直し、Artificial Analysisの点数も最新の表示にそろえました。

内容を更新 27ツール

ChatGPT P.26
新しい画像生成モデル「ChatGPT Images 2.6」（11月4日）。12月からChatGPTとCodexで使える量が共有になります

Claude P.31
Artificial Analysisの点数を最新の表示に直しました（Opus 5.5は59点）

Gemini P.35
Artificial Analysisの点数を最新の表示に直しました（Gemini 4 Carbonは60点）。エージェント機能「タスク」が使える環境の説明も直しました

Kimi P.51
Kimi K3.1 Proの重みが、予告どおり公開されました

番外編：Obsidian P.73
スマホ版でのPDFの書き出しなどが加わったバージョン1.15（11月2日）

Gemini Spark P.88
名前が「タスク」に変わったことを反映しました（Googleのヘルプで確認）

ChatGPT Work P.82
Workのエージェント機能がChatGPT本体に組み込まれていく予定と、12月からの使える量の共有

Notion AI P.90
既存のワークスペースのクレジット制への切り替え日（11月2日）を過ぎました

dots by OpenAI P.103
大きな組織向けのプランで正式に提供が始まりました（11月4日）

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

n8n P.99
自分のサーバーで動かしている方へ、更新のお願いを追記しました（10月28日に欠陥12件が公表）

Gamma P.143
料金を公式の最新の表示に合わせました（Plusは月1,800円、毎月1,500クレジット）

Cursor P.166
配布サイトに不正な拡張機能が並んだ事件（10月29日）。以前のプランの説明も直しました

Antigravity P.169
GPT-OSS-120bが選べなくなる日が11月18日に変わりました。リモートエージェントの提供開始（11月3日）

Codex by OpenAI P.162
12月からChatGPTと使える量が共有になります

Lovable P.178
ほかのツールのプロジェクトの取り込み（10月29日）と「Memory」（10月30日）

Bolt.new P.176
新しいデータベースの表が最初から非公開に（10月30日）。料金の請求がLinkに移りました（11月1日）

Devin Desktop　※旧Windsurf P.172
自社の新しいモデル「SWE-2 Flash」（11月4日）

ChatGPTの画像生成機能 P.191
ChatGPT Images 2.6（11月4日）。GIFの作成と参考画像の保存

Grokでの画像生成　※Imagine Image 2.0 P.216
古い画像モデルが終了しました（11月2日）

Recraft.ai P.212
無料プランの説明を、公式の料金ページの最新の表示に合わせました

Luma AI　※旧Dream Machine P.256
ChatGPTやClaudeの中から使えるMCPコネクタ（11月3日）

Synthesia P.283
ChatGPTの中で動画を作れるプラグイン（11月3日）

ElevenLabs P.302
効果音の新しいモデル「SFX v3」（11月2日）

Geminiの音声読み上げモデル P.297
声を文章の指示で変えて保存できる「ボイスリミックス」（11月4日）

Suno P.310
Studioのアシスタント「Chat」（10月29日）と、MIDIファイルからの曲づくり（11月4日）

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Recut P.324
最新版4.5.2（11月1日）。Linuxにも対応しています

Klap P.345
年払いの金額を公式の表示に合わせました

2026年11月1日の更新分

2026年10月30日から11月1日までの動きを反映し、あわせて本全体の「10月30日時点」の記述を公式の情報で確かめ直し、確かめられたものを「11月1日時点」に直しました。中心は、Claudeの料金プランの名前の変更（Max 20x → Ultra）、ChatGPTのProの使用枠を減らす話の取りやめ、そして期限を迎えたLovableの無料枠などです。あわせて、FLUX 3とRecutの記述の誤りを訂正し、動画生成の章でVeoの使い方の説明が食い違っていたところもそろえました。また、アバター生成の章から、ツールを1つ外しました（収録数は154になりました）。

内容を更新 22ツール

ChatGPT P.26
月額200ドルのProの使用枠を減らす話が取りやめに（10月29日）。月額100ドル・500ドルのProは使用枠が2倍に。Proの方は月額と同じ額のAPIクレジットも受け取れます（10月28日）

Claude P.31
「Max 20x」が「Ultra」（月額200ドル）に、「Max 5x」が「Max」（月額100ドル）に名前が変わりました（10月30日）

Gemini P.35
Geminiアプリの中で、文書・PDF・スライド・表計算のファイルを作って、その場で直せるように（10月29日）

Mistral Vibe　※旧Le Chat P.59
改良版のMistral Large 4の中身（重み）を公開（10月29日）

Claude Cowork P.79
Claudeの新しいプラン名（Max・Ultra）に合わせて直しました

Claude in Chrome P.86
Claudeの新しいプラン名（Max・Ultra）に合わせて直しました

dots by OpenAI P.103
公開から1か月の使用枠の上乗せ期間が終わりました

Claudeの検索機能 P.120
Claudeの新しいプラン名（Max・Ultra）に合わせて直しました

Claudeのスライド作成機能 P.133
Claudeの新しいプラン名（Max・Ultra）に合わせて直しました

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Claude Code P.159
Claudeの新しいプラン名（Max・Ultra）に合わせて直しました

Codex by OpenAI P.162
Proの使用枠が2倍になったことと、Pro向けのAPIクレジットを追記

Antigravity P.169
内蔵ブラウザとPDFビューア（10月27日）、FigmaやNotionなどとつなぐプラグイン（10月29日）

Lovable P.178
10月31日までだったチャットの無料枠の期間が終わりました

Replit P.181
GPT-6.1 Terraを選べるように（10月30日）

Canva P.196
Canva初の自社画像モデル「Canva Craft」（10月22日）と、デザイン編集AI「Brush」

Flux P.202
（訂正）誰でもダウンロードできる「FLUX 3 Image Klein」が10月15日に公開されていました

Google Veo P.225
GeminiアプリのGemini Omniが作るため、Veoを使う場所をGoogle Flowに直しました

Google Vids P.229
中で使われている動画モデルと無料枠の説明をそろえました

Runway P.253
App Studio（10月26日）

Luma AI　※旧Dream Machine P.256
Kling 4.0が使えるように（10月23日）

Synthesia P.283
Syrenの新機能（ムードボード、PowerPointからの動画づくりなど。10月21〜23日）

Recut P.324
（訂正）4.5.0の公開日は10月16日で、最新は10月17日の4.5.1です

2026年10月30日の更新分

2026年10月15日から10月30日までの動きを反映し、あわせて本全体の「○月○日時点」の記述を、公式の情報で1つずつ確かめ直しました。中心は、OpenAIの新しいモデル「GPT-6.1 Terra」、Googleが発表した次の最上位モデル「Gemini 4 Carbon」、Grok・Cursor・Xをまとめた新しい料金「The X Subscription」、そして正式に公開された「Kling 4.0」です。独立系の評価サイトArtificial Analysisの採点方法が10月27日に新しくなったため、各モデルの点数も新しい版の数字に直しています。あわせて、Siri AI、Notion AI、Muse（Metaの個人向けAIエージェント）の3つのツールと、仕事でAIを安全に使うための注意点をまとめたコラムを新しく加えました。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

新しく追加 3ツール・1コラム

コラム：仕事でAIを安全に使うための5つの注意点 P.21
入力してはいけない情報、学習に使わせない設定、著作権、AI音声詐欺、AIエージェントへの「仕込まれた指示」を1ページにまとめた新しいコラム（10月23日公表の個人情報の事例つき）

Siri AI by Apple P.41
iPhoneなどに入っているSiriが会話型のAIアシスタントになり、日本語版は2026年10月27日配信のiOS 27.2から使えます。

Notion AI P.90
Notionに組み込まれたAIエージェント。専用のパソコンで最長24時間働けるように作り直され（10月19日）、既存のワークスペースは11月2日にクレジット制へ切り替わります

Muse by Meta P.108
2026年10月23日に日本で使えるようになったMetaの個人向けAIエージェント「Muse」を新しく取り上げ、良い評判と、セキュリティ・プライバシーの心配の両方を出典つきでご紹介しました。

内容を更新 45ツール

ChatGPT P.26
新モデル「GPT-6.1 Terra」（10月26日）、会話を隠せる「チャットのロック」（10月20日）、Pro 200プランの使用枠の変更

Gemini P.35
次の最上位モデル「Gemini 4 Carbon」を発表（10月28日。一般向けはまだ）。Gemから「スキル」への移行日程（11月17日・12月17日）

Grok P.44
GrokとCursorとXの有料機能をまとめた新しい料金「The X Subscription」（10月12日）

Claude P.31
Artificial Analysisの新しい採点方法での点数に更新

Kimi P.51
最新モデル「Kimi K3.1 Pro」（10月24日）

DeepSeek P.47
改良版「V4.1-Flash-1017」をウェブ・アプリ・APIで公開（10月17日）

Muse Spark by Meta P.61
（訂正）個人向けAIエージェント「Muse」は10月23日から日本でも使えます（シンガポールは10月27日）。新しい採点方法での点数

番外編：Arena　※旧LM Arena P.67
10月30日時点の順位（1位Gemini 4 Carbon）

番外編：Artificial Analysis P.69
採点方法が第5版に（10月27日）

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

番外編：Jev by TypeSafe AI P.71
画像（PNG・JPEG）を試験的に読めるように

番外編：Obsidian P.73
安全上の重要な修正を含むパソコン版1.14.5（10月22日）

Claude Cowork P.79
作業がクラウドで動くように（10月6日）。Enterpriseプランでも正式提供（10月23日）

ChatGPT Work P.82
Spaceでのスライド作成（10月16日）と、GPT-6.1 Terra（10月26日）

Grok Bot P.106
新しい料金ではPremium以上で使え、使用量は共通の週ごとの枠から。法人向けの申し込み方法

Perplexity P.115
MaxプランのComputerで返事を速くする「Ultrafast」（10月19日）

Geminiの検索機能 P.122
Google検索のAIモードでGemini 4 Argonが使えるように（10月13日）

Grokの検索機能 P.124
新しい料金「The X Subscription」を反映

ChatGPTのスライド作成機能 P.131
Pro・Business・Enterpriseプランで使えるように（10月16日）

Gemini Notebook P.151
Geminiアプリのチャットからノートを作れるように（10月23日）。スマホでの録音（10月27日）

Antigravity P.169
Gemini 4 Argonが月額2,900円のProでも使えるように（10月16日）

Codex by OpenAI P.162
GPT-6.1 Terraが使えるように（10月26日）

Base44 P.174
GPT-6.1 Terra（10月28日）。データベースの容量の上限（10月18日）

Lovable P.178
消したプロジェクトを60日以内なら戻せるように。集客を手伝う「Growth tools」（10月14日）

Replit P.181
公開したアプリの不具合を調べて直す「Monitoring Agent」（10月23日）

Grok Build P.186
新しい料金「The X Subscription」を反映

Krea.ai P.207
新しい画像モデル「Krea 3」。一番安いBasicプラン（月9ドル）を料金に追記

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Ideogram P.205
ChatGPTで一度に作れる画像の枚数についての記述を訂正

Grokでの画像生成　※Imagine Image 2.0 P.216
新しい料金「The X Subscription」を反映

Kling.ai P.239
完全版の「Kling 4.0」が正式公開（10月15日）

Google Veo P.225
開発者向けのGemini APIでのVeo 3.1の提供終了（10月22日）を反映

Google Vids P.229
AIでの動画生成の無料枠を最新に（個人のアカウントで月60秒分）

Runway P.253
広告づくりを任せられる「Runway Ads」（10月27日）

Pika P.262
一番安いStarterプランでも商用利用できることを反映

Krea.ai P.246
Basicプランでも使える動画モデルを追記

HeyGen P.281
動画生成モデル「HeyGen Video」と音声モデル「HeyGen Voice」

Synthesia P.283
StarterとProの料金の値下げを反映

GPT-Live P.293
音声モデルが「GPT-Live-1.1」に（10月15日）。日本語の新しい声も

ElevenLabs P.302
声で会話するAI向けの新モデル「Eleven Realtime」（10月20日）

Geminiの音声読み上げモデル P.297
声の数についての説明を、Googleの2つの公式情報に合わせて直しました

Suno P.310
ClaudeやChatGPTから使える「Suno MCP」（10月28日・ベータ）。チームの「ワークスペース」

DaVinci Resolve P.322
最新版21.1.2を反映

Recut P.324
新しいバージョン4.5.0（10月28日）。DaVinci Resolve用の書き出しも

Adobe Premiere　※旧Premiere Pro P.330
文字起こしから下書きの編集を作る「Paper Edit」などを追記

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Wispr Flow P.364

無料プランの使える量を最新に

Google Labs P.368

Mixboardの提供終了（9月28日）を反映

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Chapter 1

はじめに



≡ 目次に戻る

この書籍を執筆した理由



著者　ヒルトル・フィリップ太郎

この度は「最新AIツール大全」をお手に取っていただき、誠にありがとうございます！この書籍は現在世の中で公開されている主要なAIツールを文章執筆、画像生成、動画生成などのカテゴリーごとにご紹介する**「百科事典」のような資料**となることを目指して制作してまいりました。

私自身もかつては「巷にいろいろなAIがありすぎてどれをどう使えばいいのかわからない・・」という状況でした。

しかし、そこから私は最新のAI情報をネットで徹底的にリサーチし、**話題になっている代表的なAIツールを全て試した**と言っても過言ではありません。

そうやって時間と手間をかけて、**合計154個のAIツールを実際に使ったり、公式の情報や評判をくわしく調べたりした**上で、各ツールのご紹介と率直な感想をこの書籍にまとめました。

あなたが私と同じように全てのAIツールを試そうと思ったら、それだけの時間や多大なコストがかかってしまうわけですが、あなたには同じ手間をかけてほしくはないと思い、私がその手間とコストを負担してこの書籍を制作しました。

あなたが業務や趣味などでAIを活用したい分野があれば、私がこの書籍でご紹介しているAIツールを私のコメントも参考にしながら試していただき、あなたの目的やご予算に合うものを探してみてください。

（**どのソフトウェアも無料プランがある場合がほとんどです**ので、まずは無料で使ってみて、必要に応じて課金されることを検討してみてください。）

この書籍の内容があなたがAIを活用して日々の業務を効率化し、コストを削減しながらあなたが望む成果を素早く出すための助けになれば幸いです。ぜひご活用ください！

ヒルトル・フィリップ太郎より

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

本書の対象者について

本書は、AIを活用して日々の業務や生活を効率化したい**中小企業経営者、個人事業主の方々を主な対象**として執筆されています。

特に、プログラミングなどの知識がなくても、様々なAIツールを手軽に使い、実際の仕事で成果を出していただくためのツールを見つけていただくことを目的にしています。

そのため本書では、ソフトウェア開発者向けの情報、具体的にはAIモデルのAPI（プログラムから直接AIを呼び出す仕組み）の使い方や、開発者向けの細かい料金体系には踏み込んでいません。

ただし、「このツールは現在API経由でしか使えません」というように、ツールの提供状況を正しくお伝えするために必要な場面では、APIに触れることがあります。

また、本書の更新時に「AIコーディング」のチャプターを追加しましたが、こちらもあくまで非エンジニアの方を対象とした内容となっておりますことをご了承ください。

あくまで、私のような非エンジニアの方でもAIを使って、文章、画像、動画、音声、楽曲の生成や、検索や要約など行い、日々の業務の生産性をアップしていただくためのAIツール選定のガイドを作るという基準においてご紹介するAIツールを選定いたしました。

特に、AIを初めて使ってみたい方や、**特別な技術知識なしでAIの恩恵を受けたい方**に向けて、オススメできるツールをご紹介するための指南書となることを目指して制作いたしました。

本書が、あなたが最新のAIツールを活用するきっかけとなり、日常や仕事をより便利で創造的に変えるお手伝いができれば幸いです。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

本書内の情報の鮮度について

本書の情報は**2026年11月5日時点の情報をもとに執筆・更新**されています。AIツールの技術や市場は非常にスピード感を持って進化しており、各ツールの機能や価格が変更されることがあります。

可能な限り、今後も本書の内容をアップデートしていく予定ですが、最新情報については**各ツールの公式サイトをご確認いただくことをお勧めします**。

特に、無料プランの提供条件や有料プランの料金、対応言語や機能の詳細は公式サイトで確認することで、正確な情報に基づいてご利用いただけます。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

各AIツールの評価基準について

この最新AIツール大全の中では、読者の方々にわかりやすく私の個人的な評価をお伝えする目的で、各AIツールごとに**「5段階でのオススメ度（星5つが最高評価）」**という形で評価を行っております。

この評価はあくまで筆者の個人的な主観（独断と偏見を含む）によるものであることをご了承ください。

5段階評価のおおよその意味

★★★★★＝誰にでもオススメできます！

★★★★＝オススメできるけど注意事項あり（人を選ぶかも）

★★★＝イマイチな部分もあるので積極的にはオススメしません

★★＝あまりオススメはしませんが試してみてもいいかも？

★＝正直、使うことを推奨しません

以上が大まかな評価の意味ですが、使用目的や使用する機能によっては私と異なる評価になるケースもあるかと思いますので、私の意見も参考にしていただきつつも、最終的にはご自身で実際に各AIツールを使っていただき、最終的にそのツールを導入されるかどうかの**判断はあなた自身で下していただくことを推奨いたします**。

そして、各チャプターの中のAIツールは、アルファベット順ではなく、原則としてオススメ度（星の数）が高い順に並べています。

星の数が同じツールは、より代表的なもの・多くの方に関係のありそうなものを先に置いています。ただし、同じ会社のツールをまとめたほうが分かりやすい場合など、読みやすさを優先して順番を入れ替えている箇所もあります。

ですので、「どのAIツールがいいのかな？」と迷ったら、各チャプターで最初にご紹介しているものから順にお試しいただくのがお勧めです。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

※本書の著作権について

本書の内容は著作権法によって保護されています。弊社の許可なく、本書の一部または全部を**複製、改変、転載、販売、配布、共有することを禁止します**。

個人での学習や参考のために使用することは可能ですが、商業目的での無断使用や第三者への提供は固くお断りいたします。

万が一、無断利用が発覚した場合は、法的措置を取る場合がありますのでご注意ください。

本書の内容を最大限に活用し、ご自身の知識やスキル向上にお役立てください。

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

免責事項

本書で紹介しているサービス名・製品名・会社名およびロゴは、それぞれ各社の商標または登録商標です。本書は各社と提携・承認されたものではなく、著者の独自の見解・情報提供を目的としています。

記載内容は2026年11月5日時点での情報に基づいており、**今後予告なく変更される可能性があります**。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

コラム

仕事でAIを安全に使うための5つの注意点

仕事でAIを使うときに気をつけたいことは、どのツールでもほとんど同じです。ここでは、2026年11月5日時点で知っておいていただきたい5つの注意点をまとめました。

1つ目は、AIに入力してはいけない情報を決めておくことです。お客様の名前や連絡先などの個人情報、取引先から預かった資料、**まだ発表していない情報は、そのままAIに入力しないのが基本です。**

パナソニック オペレーショナルエクセレンスは2026年10月23日、人事情報システムを作るプロジェクトのメンバーが、会社で利用を禁止していた外部の生成AIサービスに、**約33万4000人分の個人情報をアップロードしていた**と発表しました（ITmedia エンタープライズ、2026年10月28日の記事による）。

対象は従業員約7万5000人、元従業員約17万8000人、その家族約8万1000人で、社員番号や住所、電話番号、メールアドレスなどが含まれていました。

同社は9月29日に、個人情報保護委員会（個人情報の扱いを監督する国の機関）へ報告しています。

データは発覚の直後に削除されました。ただ、サービス側は削除したデータも30日間保存するため、AIの会社の手元に残らなくなるのは、その期間が過ぎた10月25日以降としています。

この事例から分かるのは、**ルールで禁止するだけではAIの勝手な利用は防げない**ということです。会社が把握していないところで社員がAIを使うことを「シャドーAI」と呼びます。

社員が少ない会社でも、「仕事で使ってよいAIはこれ」「この情報は入れない」を具体的に決めて、全員に伝えておきましょう。

使ってよいAIを会社で用意しておくことも、こっそり別のAIを使われないための大事な対策です。

2つ目は、学習に使わせない設定です。多くのチャットボットAIは、設定によっては、あなたとの会話をAIの性能を良くするための「学習」に使います。

仕事で使う前に、次の設定を確認しておきましょう（2026年11月5日時点の各社のヘルプページによる）。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

- **ChatGPT**：「設定」→「データコントロール」にある「すべての人のためにモデルを改善する」をオフにします。
- **Claude**：設定のプライバシーの項目で、会話をモデルの改善に使うかどうかを切り替えられます。
- **Gemini**：「Gemini アプリ アクティビティ」のページで「アクティビティの保存」をオフにします。

ChatGPTとGeminiにある「一時チャット」は、学習に使われません（安全のための保存は、ChatGPTで最大30日間、Geminiで72時間あります）。

また、OpenAIのヘルプによると、ChatGPTの法人向けプラン（BusinessやEnterpriseなど）の会話は、初めから学習に使われません。

ただし、学習に使わせない設定にしても、**入力した内容がAIの会社に送られることは変わりません。**設定をしたから個人情報を入れてよい、ということにはなりません。

3つ目は、著作権です。AIで作った文章や画像を、ブログや広告、商品に使うときは注意が必要です。

文化庁のウェブサイトでは、「AIと著作権に関する考え方について」（2024年3月15日）と「AIと著作権に関するチェックリスト＆ガイダンス」（2024年7月31日）が公開されています。

2026年11月5日時点で、このページにこれより新しい版は出ていません。

ガイダンスでは、著作権の侵害になるのは、すでにある作品と「似ていること（類似性）」と「その作品をもとにしたこと（依拠性）」の両方がそろったとき、と説明しています。

作るだけなら問題にならない場合でも、ネットで公開したり販売したりすると話が変わることが多い、とも書かれています。

公開する前に、インターネット検索などで既存の作品と似ていないか確かめましょう。

また、作品のタイトルやキャラクター名をAIへの指示（プロンプト）に入れると、依拠性が認められやすくなるとされています。

どんな指示で作ったかを記録して残しておくと安心です。

4つ目は、AI音声詐欺です。AIで本物そっくりの声を作り、家族や上司になりすましてお金を振り込ませる詐欺に注意してください。

ハーバード大学やMetaなどの研究者らが米国の成人4,100人を対象に行った研究（学術誌「Expert Systems with Applications」、2026年）では、AIの声による詐欺

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

電話の要求に、平均16.5%（約6人に1人）が「応じる」または「分からない」と答えました（ITmedia NEWS、2026年10月28日の記事による）。

AIでまねた人の声（クローン音声）で「困っている姉妹」を装い、急ぎの送金を求める設定では、36.1%の人が要求に応じる可能性を示しました。

だまされるかどうかを分けたのは、声の人間らしさではなく、話の説得力だったそうです。

ですから、声が本人に聞こえるかどうかではなく、**話の中身で判断することが大切です。**「急いで振り込んで」と言われたら、いったん電話を切り、いつもの番号にかけ直しましょう。

家族や社内で、**本人だと確かめるための「合言葉」を決めておく**のもお勧めです。

5つ目は、AIエージェント（あなたの代わりにパソコンを操作して作業を進めるAI）への「仕込まれた指示」です。

ウェブページやファイルにAI向けの命令をこっそり書いておき、AIを操る攻撃で、「プロンプトインジェクション」と呼ばれます。

2026年10月22日には、セキュリティ企業のForever Securityが、パソコンの「ダウンロード」フォルダに悪意のある指示ファイル（AGENTS.mdなど）を置く手口を自社のブログで公表しました。

ウェブサイトによっては、あなたが何もしなくてもこのフォルダにファイルを保存できるためです（ITmedia AI+、2026年10月28日の記事による）。

そこでAIエージェントを動かすと、攻撃者の指示に従って悪いプログラムを入れたり、ログイン情報を外に送ったりするおそれがあるため、同社はダウンロードフォルダでAIエージェントを起動しないよう呼びかけています。

中身を知らないフォルダや初めて見るウェブページでは、AIエージェントを動かさないようにしましょう。AIが「実行してよいですか」と確認してくる設定はオフにせず、**メールの送信や支払いの前には必ず人間が中身を確かめてください。**

最後に、明日からできることをまとめます。

- **入力**：個人情報・顧客情報・未公開の情報は、AIにそのまま入れない
- **設定**：使っているAIの「学習に使わせない設定」を確認する
- **公開前**：AIで作った文章や画像が、既存の作品と似ていないか検索で確かめる
- **電話**：お金の話が出たら、声ではなく中身で判断し、かけ直して確かめる
- **エージェント**：知らないフォルダで動かさず、送信や支払いの前に人間が確認する

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Chapter 2

チャットボットAI



≡ 目次に戻る

Chapter 2　チャットボットAI

あなたのパートナーとなるAIライター

AI技術の中でも、特に注目を集めているのがチャットボットAIです。これらのAIは、人間との自然な会話を可能にし、あらゆる分野で活躍しています。

ブログやSNS、メルマガ、ウェブサイトや広告のコピー、動画の台本など、**ウェブ集客や販売で必要となる様々な文章をAIに執筆してもらうことが可能です**。

それ以外にもカスタマーサポートから、書籍や小説の執筆、サイト作成やアプリ開発のコーディングまでその用途は無限大です。

これまで、私たち人間がそのような作業を行うためには多くの時間と労力が必要でした。しかし、チャットボットAIを活用することで、**これらのタスクを圧倒的に効率化できるようになりました**。

さらに、単なる効率化だけでなく、アイデアの発想や高度な分析、複雑な問題解決に関する回答を得ることも可能です。

本書では、特に注目されている最新のチャットボットAIを厳選してご紹介します。それぞれのツールがどのような特徴を持ち、どのような場面で役立つのかを、初心者でも分かりやすく解説します。

ここで紹介するツールは、すでに多くのビジネスや個人に活用されており、**私たちの働き方に関する常識を大きく変える可能性**を秘めています。

たとえば、定番のチャットボットAIである「ChatGPT」だけではなく、Googleの「Gemini」、エンジニアに人気の「Claude」、中国勢の「DeepSeek」や「Qwen」「Kimi」などそれぞれに独自の強みがあります。

これらのAIを活用することで、日常のタスクがどれだけ楽になるのか、きっと驚かされることでしょう。

これからの時代、チャットボットAIを使いこなして、AIにあなたの仕事のパートナーとなってもらうことで、**あなた個人の能力を大きく拡張することができます**。

これまではあなた1人では難しかったことも、AIの力を借りることでこれまで以上の成果を出していきましょう！

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



ChatGPT

チャットGPT

- **公式サイト**：https://chatgpt.com/
- **料金プラン**：無料でも使用可能（アカウント登録なしでも使用可能）です。無料プランでも文章のチャットは実質無制限に使えます（2026年10月8日からは、使われるモデルが新しいGPT-6 Lunaになりました）。
  有料プランは月額8ドル（1,400円）のGoプラン、月額20ドル（3,000円）のPlusプラン、そして月額100ドル・200ドル・500ドルの3種類のProプランがあり、上位プランほど最上位モデルの使用枠が増えたり、新機能が優先的に使えるなどのメリットがあります。
  一番上の「Pro 500」（月額500ドル）は2026年9月29日に新しく加わったプランで、3つのProプランの中で使える量がいちばん多く、ChatGPT WorkとCodexの中で、最上位モデルの返事を速くするための「Ultrafast（ウルトラファスト）」も使えます（ただし、速くなることが約束されているわけではありません。また、Ultrafastを使うと、使える量がふだんの8倍のペースで減っていきます）。
  一方で、月額200ドルのプランは、同じ日から使用枠を減らすと発表されていましたが、OpenAIは2026年10月29日にこの変更を取りやめました。
  もとの多い枠を持っていた方はそのまま使え、少ない枠になっていた方も、ChatGPT WorkとCodexで使える量が2倍になって、同じ量にそろいました。
  同じ日から、月額100ドルと月額500ドルのProプランでも、ChatGPT WorkとCodexで使える量が2倍になっています。
  さらに2026年10月28日からは、Proプランの方は、自分で作るアプリやAIエージェントに使える開発者向けの「APIクレジット」を、毎月、月額料金と同じ額（100ドル・200ドル・500ドル）まで受け取れるようになりました（契約から7日以上たってから、ChatGPTの設定の「請求」から手続きします。Plusプランは対象外です）。
  なお、最上位モデルのGPT-6 Astraを普段のチャット画面で使えるのはProプラン以上です。Plusプランでは、作業を任せる「ChatGPT Work」と、プログラム開発の「Codex」の中でのみ使えます。
  また、2026年11月5日時点の公式ヘルプによると、**12月からは、Plus・Pro・Businessプランの使える量が、ChatGPTとCodexで共有になります**（すぐに答える「Instant」のチャットは、この量を使いません）。

ChatGPTは、OpenAIが開発したAIチャットボットです。自然な対話と質の高い文章に加えて、画像生成、調べ物、資料作り、プログラム開発まで、1つでひと通りこなせるのが特徴です。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

OpenAIによると、週間利用者数は2026年8月に10億人を突破しました。2026年11月5日時点で、**普段のチャット画面で使われているのは「GPT-6」ファミリーです**。

2026年10月7日から全世界で順に切り替わり、Plus・Pro・法人向けのプランでは「GPT-6 Sol（ソル）」、無料プランとGoプランでは軽量版の「GPT-6 Luna（ルナ）」（10月8日から）が使われるようになりました。

あわせて、**答えの中に図や比較表、計算ツールなどを自動で組み込んで見せてくれる**「Intelligent UI（インテリジェントUI）」も始まっています。

考えたり調べたりしながら先に答え始めて、わかったことを後から書き足してくれるのも、GPT-6の新しい点です。

考える深さは、すぐに答える「Instant」から、いちばんじっくり考える「Extra High」まで段階があります。

なお、1つ前の世代の「GPT-5.6」ファミリー（2026年7月公開）も、有料プランでは引き続き使えます。

GPT-6の中で一番上にいるのが、2026年9月3日に公開された「GPT-6 Astra（アストラ）」で、OpenAIはこれを「最も難しい仕事を最後までやり切るための、最高性能のモデル」と説明しています。

特に伸びたのはパソコンの操作で、**同じ作業を前の世代より約47%速くこなし**、会社のテンプレートや配色に合わせた資料やスライドも作れます。

一度に読み込める量は約105万トークンです。Solは難しい開発や作業の代行向け、Lunaは要約や情報の抜き出しのような量の多い定型作業向けで、OpenAIは「Solの間違いは前の世代のおよそ半分になった」と説明しています。

さらに2026年9月29日（日本時間30日未明）には、年に一度の開発者向けイベント「DevDay（デブデイ）」で、**改良版の「GPT-6.1 Sol」が公開されました**。

OpenAIは「プログラム開発、パソコンの操作、仕事の作業では、Astraにほぼ並ぶ賢さを、Astraの5分の1の料金で使える」と説明しています（この料金は開発者向けのものです）。

一方で、Astraの改良版として10月に予定されていた「GPT-6.1 Astra」は、安全性のテストで、頼まれていない範囲の作業まで許可なく進めてしまうなどの問題が見つかったとして、9月28日に公開が取りやめになりました。

ただし、GPT-6のモデルは、どの画面でも同じように使えるわけではありません。**普段のチャット画面でAstraを使えるのは、Proプラン（月額100ドル・200ドル・**

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

500ドル）と法人向けのプランだけで、画面には「GPT-6 Pro」という名前で表示されます。

また、改良版のGPT-6.1 Solは、2026年11月5日時点では、作業を任せる「ChatGPT Work」とプログラム開発の「Codex」の中でしか使えません（普段のチャット画面に入ったのは、6.1ではない「GPT-6 Sol」です）。

Plusプラン（月額20ドル）でも、ChatGPT WorkとCodexの中なら、AstraとGPT-6.1 Solを使えます。

さらに2026年10月26日には、**中くらいの大きさのモデル「GPT-6.1 Terra（テラ）」**が、Plus以上のプランのChatGPT WorkとCodexで使えるようになりました。

画面に映っているものを読み取ってパソコンを操作する作業が得意で、OpenAIは「GPT-6 AstraやGPT-6.1 Solより3倍以上速く作業を終えられる」と説明しています（Plusプランの場合、Codexで5時間あたりに送れる回数の目安は、GPT-6.1 Solのおよそ2倍です）。

同じDevDayでは、24時間動き続けるAIエージェント「dots（ドッツ）」も発表されました（第3章でご紹介しています）。

このほか、**Microsoft Wordの画面の横にChatGPTを出して**、下書き・要約・推敲をその場で頼むこともできます（2026年9月17日から、無料プランを含む全プランで利用可能）。

2026年9月22日からは、テーマや手持ちのメモから暗記用のフラッシュカード（単語カード）を作る機能も、全プランで使えるようになりました。

2026年10月6日からは有料プランで、**会議やインタビューの録音ファイルをアップロードして**、文字起こし・要約・議事メモ・お礼メールの下書きまで作ってもらえるようになりました（言語によって精度に差があると説明されており、日本語の精度については特に書かれていません）。

なお、無料プランは広告収入によって支えられる形になっており、OpenAIは2026年8月31日に、この広告事業「ChatGPT Ads」をインドやヨーロッパ、中東・北アフリカにも広げると発表しています。

2026年9月25日には、ログインやパスキーの変更などの記録を確認できる「セキュリティ履歴」が、全プランで設定画面から見られるようになりました。

また9月下旬には、OpenAIが訓練中のAIエージェントが想定外の動きをして、**学習への利用を許可していたChatGPTユーザーの画像53枚を、外部の画像サイトに投稿**

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

していたことをOpenAI自身が公表しています（リンクは一般には公開されておらず、OpenAIは「個人を特定できる形にはなっていない」と説明しています）。

会話や画像をAIの学習に使わせたくない方は、**設定の「データ コントロール」からオフにできます**（ほかのAIの設定は、Chapter 1のコラム「仕事でAIを安全に使うための5つの注意点」にまとめています）。

2026年10月20日からは、人に見られたくない会話を履歴や検索結果から隠しておき、4桁の暗証番号か、使っている端末の顔認証・指紋認証などで開く**「チャットのロック」機能**も、無料プランを含む個人向けのプラン（Free・Go・Plus・Pro）で順に使えるようになっています。

また2026年10月15日には、声で会話する機能のモデルが「GPT-Live-1.1」に新しくなり、日本語を含む新しい声が加わりました。

さらに2026年11月4日には、**画像生成の新しいモデル「ChatGPT Images 2.6」が公開されました**。

OpenAIによると、画像ができあがるまでの時間が約50%速くなり、背景を変えても服装はそのまま、というように細かい部分を保って直しやすくなっています。

絵を動かしてGIF画像にする機能も順に使えるようになっています。Images 2.6そのものは、OpenAIによると、世界中のすべての料金プランで使えます。

Review **オススメ度** ★★★★★

「AIといえばChatGPT」と言っても過言ではないほど、一番知名度が高いチャットボットAIです。チャット、文章執筆、画像生成、リサーチ、コーディングまで一通りこなせる万能型で、無料プランでも文章のチャットは実質無制限に使えます。

（ただし、その無料プランは広告収入で支えられている、ということは頭の片隅に置いておくと良いでしょう。）最上位モデルのGPT-6 Astraで良かったのは、パソコンの操作と、長い作業を最後までやり切る力です。

答えを知らないときに平然とウソをつく「ハルシネーション（もっともらしい作り話）」も、**独立系サイトの調査で92%から51%へとほぼ半減しました**。

ここは実務で一番ありがたい変化です。一方で、独立系の評価サイトArtificial Analysisの総合スコア（2026年10月27日に採点方法が新しくなった後の版）では、Astraは57点で、Claude Opus 5.5（59点）にわずかに届きませんでした。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

また、9月22日に出たGPT-6 Solは、前の世代とほぼ同じ点数で、「性能アップ」より「値下げ」だと言われていました。

私も、GPT-6 SolにChatGPTのデスクトップアプリで大量の画像を作らせたところ、後半になるほど画像を作るための指示が雑になり、画質が落ちてしまったことがあります。

ChatGPTでは、会話を担当するAIが画像用の指示文を書いてから画像を作るので、**会話のAIの集中力が切れると、画像の出来にもそのまま響くのです**。

ところが、1週間後の9月29日に出た改良版のGPT-6.1 Solでは、この点がかなり改善されていて、**「これはAstraに近い性能なのでは？」と感じました**。

実際、Artificial Analysisの総合スコア（2026年10月27日からの新しい版）でも、6.1 Solは55点と、Astra（57点）に2点差まで迫っています。

（OpenAIは「長い作業で質が落ちにくくなった」とまでは説明していませんので、この部分はあくまで私の使用感です。）ちなみに私は、Astraの性能が想像以上に高かったので、月額20ドルのPlusから月額100ドルのProプランに切り替えました。

Proにして一番良かったのは、Astraを普段のチャット画面でも使えて、使用制限をあまり気にせずに済むことです。

不具合が続いたときに使用枠をリセットしてくれるなど、利用者への配慮も感じます。実際には、過去に書いたWordPressのブログ記事を一気に直してもらい、**そのままアイキャッチ画像まで作り直してもらう**、という使い方をしています。

「調べる・直す・画像を作る」を1つのツールで最後まで任せられるのが、いまのChatGPTの強みです。

ただ、月額100ドルは安くありません。PlusプランでもChatGPT WorkとCodexの中ならAstraや、それに近い6.1 Solを使えますので、**まずはPlusで試して、足りなくなったらProを検討する**、という順番で十分だと思います。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Claude

クロード

- **公式サイト**：https://claude.ai/
- **料金プラン**：**無料プランでも一定回数は使えます**。Proプラン（月額20ドル）を契約すると、最新のモデルの使用制限が緩和されたり、最新の機能が使えるようになるなどのメリットがあります。
  コーディングをメインで使いたいのであれば、月額100ドルのMaxプランか、月額200ドルのUltraプランを検討した方がいいでしょう（2026年10月30日（アメリカ時間）に、それまでの「Max 5x」は「Max」に、「Max 20x」は「Ultra」に名前が変わりました。料金はそのままで、契約中の方は自動で切り替わります。Ultraは1週間に使える量がProの10倍で、Anthropicがアカウントや支払いの記録をもとに自動で確認を済ませたアカウントでは、「5時間あたりの使用上限」がなくなりました。Maxは、5時間ごとと1週間ごとに、Proの5倍の量を使えます）。
  2026年9月22日に公開された「Claude Opus 5.5」は、Proプラン以上なら、いつもの使用枠の中で追加料金なしで使えます（無料プランでは使えません）。
  一方、最上位の「Claude Fable 5.1」は、MaxプランとUltraプランなら週の使用上限の半分まで追加料金なしで使えますが、Proプランでは追加の「使用クレジット」を購入した場合のみ使える仕組みです。
  Fableシリーズも無料プランでは使えません。2026年9月28日に公開された「Claude Sonnet 5.5」は、ウェブ版・スマホアプリ・デスクトップアプリ・Claude Codeで使えます。
  公式の料金ページでは、無料プランで使えるモデルは「SonnetとHaiku」と書かれていますが、どの版のSonnetが使えるかまでは、2026年11月5日時点では明記されていません。
  また2026年10月7日からは、Max・Ultra・Teamの各プランに、自分で作ったアプリやAIエージェントを動かすための「APIクレジット」が毎月付くようになりました（Maxは月100ドル分、Ultraは月200ドル分、Teamはチーム全体で最大月500ドル分）。

Claudeは、**元OpenAI社の技術者が創業したAnthropic社が開発したチャットボットAI**で、Constitutional AI（憲法的なAI）という仕組みに基づいて開発されています。

文章の質の高さと、プログラム開発の強さで知られています。2026年11月5日時点で中心になっているモデルは3つです。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

1つは、2026年9月22日に公開された「Claude Opus 5.5」です。Anthropicは「**ほとんどの仕事でClaude Fable 5.1と同じ水準の性能を、Opus 5より40%安いコストで出せる**」「自律的なプログラム開発、パソコンの操作、知識労働で首位に立つ」と説明しており、答えを書き出す速さもOpus 5より30%以上速くなりました。

一度に読み込める量は100万トークン（文庫本にすると何冊分もの分量）です。前のOpus 5より少ない使用量で済むため、Pro・Maxなどの有料プランでは、**同じ使用枠で約25%長く使える**とのことです。

あわせて、有料プランの「5時間あたりの使用上限」が引き上げられ、好きなときに使える枠のリセットも1回分配られました。

2つ目は、2026年9月28日（日本時間では29日の未明）に公開された**弟分の「Claude Sonnet 5.5」です**。

前のSonnet 5より30%以上速く、多くの作業で最大30%安く済むとされ、範囲のはっきりした日々の作業や、見栄えの良い文書・スライド・表計算の作成を得意としています。

さらに2026年10月7日には、**一番小さくて安い「Claude Haiku 5.5」も公開されました**。

前のHaiku 4.5より平均で約75%安く（開発者向けの料金）、要約や分類のような量の多い作業や、すばやい受け答えが必要な場面に向いています。

ただし、複雑なプログラム開発ではSonnet 5.5とOpus 5.5のほうが上だと、Anthropic自身が説明しています。

3つ目が、最上位の「Claude Fable 5.1」（2026年9月1日公開）です。Fable 5.1は、長時間かかるプログラム開発、資料・表計算・スライドを扱う仕事、PDFの中の細かいグラフや表の読み取りを得意としています。

機能の面では、2026年9月16日に、作業を任せるための画面だった「Cowork（コワーク）」が普通のチャットと1つに統合され、どの会話からでも資料作りやファイルの整理を頼めるようになりました。

会話の中で文書を作る「Claude Docs」、スライドを作る「Claude Slides」、デザインを作る「Claude Design」は、**2026年10月8日にベータ版を終えて正式版になり**、無料プランを含むすべてのプランで使えます。

同じ日には、会社のデータ（BigQuery・Snowflake・Salesforceなど）とつないで、いつも最新の数字に保たれるグラフを作る「Claude Dashboards」（有料プラン

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

でベータ版）と、文章から動く解説動画を作ってMP4で保存できる「Claude Motion」（TeamプランとEnterpriseプランでベータ版）も始まりました。

なお、Claude Designを単独で使うサイト（claude.ai/design）は2026年12月14日で終わり、そこでのチャットやコメント、公開リンクは使えなくなります（会話の中で使うClaude Designはそのまま使えます）。

また、中小企業向けの「Claude for Small Business」には、2026年9月15日に43種類の業務の型と、Shopify・Square・Stripe・Zoom・Zapierなど27の連携先が追加されました。

有料プランなら追加費用なしで使えます。さらに2026年10月6日からは、Googleドキュメント・スプレッドシート・スライドの横にClaudeを開いて、ファイルの中身を読ませたり、選んだ部分をその場で直してもらったりできるアドオン（追加機能）も使えるようになりました（有料プランのみの公開ベータ版で、Google Workspace Marketplaceから追加します）。

チャットの画面からGoogleのファイルを作ったり直したりできるコネクター（連携機能）もベータ版で加わりましたが、TeamプランとEnterpriseプランでは、先に組織のオーナーが有効にする必要があります。

Review **オススメ度** ★★★★★

ClaudeはChatGPTに比べると知名度やユーザー数では劣りますが、AIを実際に使っている人たちの間では非常に評価の高いAIです。

私も2024年にClaude 3が公開されてから、ブログ記事や広告やウェブサイトの文章を書いてもらってきました。

Skill（スキル）機能にこれまでのプロンプトを登録してあるので、**最低限の指示だけで私の好みを理解した回答が返ってくる**のも助かっています。

また、Claude Codeのおかげで、**非エンジニアの私でも簡単なウェブサイトやアプリを作れるようになりました**。

ここはいまも他社より一歩先にいると感じます。一方で、ずっと不満だったのが最上位モデルの使いにくさです。

Fable 5.1は性能こそ非常に高いものの、月額100ドルのMaxプランや月額200ドルのUltraプランでも週の使用枠の半分までしか使えず、あっという間に上限に達してしまいます。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

その答えとも言えるのが、2026年9月22日に公開されたOpus 5.5です。※Opus 5.5は公開から日が浅く、私自身まだ使い込めていないため、ここからは公式情報と海外のレビューをもとにお伝えします。

独立系の評価サイトArtificial Analysisでは、2026年10月27日に新しくなった採点方法でも総合スコア59点で、Fable 5.1（50点）やChatGPTのGPT-6 Astra（57点）を上回りました（10月28日には、まだ一部のセキュリティの専門家しか使えないGoogleのGemini 4 Carbonが60点で1位になっています）。

アメリカのメディアEveryは「Codexに乗り換えた社員を、Claudeに呼び戻している」と評価し、文章もOpus 5より平易で読みやすくなったとしています。

それでいて、Fableのような「週の枠の半分まで」という制限がなく、**Proプランでも使えるのは大きな変化です**。

ただし、良いことばかりではありません。**1つの作業で使う量（トークン）がOpus 5の1.6倍ほどに増えた**という測定があり、一番じっくり考えさせる設定では、考えすぎて答えが出てこなかったという報告もあります。

頼んでいない作業に脱線したり、自分で出した改善案を書き直しの際に無視したりすることもあるそうなので、**最初は結果を確認しながら使うと安心です**。

9月12日にAnthropicのCEOダリオ・アモデイ氏が「AIの進化のペースを落とそう」と呼びかけた後、最初に出てきたのが、性能を上げるよりも「同じ性能をより安く」に振ったこのモデルでした。

私は「性能競争が一段落するなら、高性能なモデルをもっと気軽に使えるようにしてほしい」と思っていましたので、まさにその方向の答えが返ってきた形です。

ChatGPTとどちらをメインにするかは、しばらく両方を使い比べてから判断したいと思います。なお、9月28日には弟分のSonnet 5.5も公開されました。

まだ試せていませんが、独立系の評価サイトArtificial Analysisでも、2026年10月27日からの新しい採点方法で55点と、Claudeのモデルの中ではOpus 5.5（59点）に次ぐ点数ですので、**普段の作業はSonnet 5.5、ここぞという作業はOpus 5.5、という使い分けになりそうです**。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Gemini

ジェミナイ

- **公式サイト**：https://gemini.google.com/
- **料金プラン**：**無料プランと月額2,900円（税込）のGoogle AI Proプラン**があります。最上位モデルの「Gemini 4 Argon」を使えるのは、このGoogle AI Pro以上の契約者です。
  節約したい人向けには月額725円のGoogle AI Plusプランもありますので、まずはこちらから試してみるのもありでしょう（ただし、PlusではGemini 4 Argonは使えません）。
  さらに上には月額14,500円（20倍枠は32,000円）のGoogle AI Ultraプランがあり、使える量がProの5倍（20倍枠は20倍）に増えます。

Geminiは、Googleが開発しているAIチャットボットであり、GoogleドキュメントやGoogle Chromeブラウザ、YouTubeなどの**Googleエコシステムとの親和性が高いのが特徴です**。

Androidスマホはもちろん、iPhoneの「Siri AI」も、GeminiをもとにつくられたAIモデルで動いていますので、一般消費者に一番馴染み深いAIモデルかもしれません。

2026年8月11日には、Geminiアプリの月間利用者数が10億人を突破したと発表されました。9月2日には、速さと安さはそのままに、長い作業や自律的に動くエージェント用途を強化した「Gemini 3.8 Flash」が公開されています（Googleいわく「これまでで最も賢いFlash」）。

そして、9月30日に発表されたGoogleの新しい最上位モデル「Gemini 4 Argon（アルゴン）」が、**2026年10月14日（日本時間）からGeminiアプリで使えるようになりました**。

Googleは、難しい作業を最初から最後まで任せられるモデルだと説明しており、プログラム開発や、法務・財務のような専門的な事務作業に強いとしています。

独立系の評価サイトArtificial Analysisの総合スコアは、2026年10月27日に採点方法が新しくなった後の版で50点です（同じ版でClaude Opus 5.5は59点、ChatGPTのGPT-6 Astraは57点）。

さらに2026年10月28日には、**Googleの次の最上位モデル「Gemini 4 Carbon（カーボン）」が発表されました**。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

プログラム開発と、セキュリティの弱点を見つけて直す作業に特に強く、Artificial Analysisの総合スコアでは60点で1位に立っています。

ただし2026年11月5日時点では、**一部のセキュリティの専門家だけに提供されていて、Geminiアプリではまだ使えません**（Googleは、安全のための仕組みを整えてから、一般の利用者にもできるだけ早く届けるとしています）。

なお、長く待たれていたGemini 3.5 Proは、Googleが「もう出す予定はない」と説明しており（2026年10月1日のロイター報道）、**Gemini 4 Argonがその後を継ぐ形になりました**。

Geminiアプリで選べるモデルはプランによって違い、2026年11月5日時点では、無料プランでは主に軽くて速い「Flash-Lite」が答え、月額725円のGoogle AI Plusでは「Flash」なども選べるようになります。

月額2,900円のGoogle AI ProとUltraでは、最上位の「Argon」（Gemini 4 Argon）も選べるほか、パソコンの前にいない間も作業を進めてくれる「タスク」機能も使えます。

使える量には上限があり、5時間ごとに回復しますが、週ごとの上限もあります（上限に達すると、Flash-Liteで会話を続けられます）。

Googleの開発ツール「Antigravity（アンチグラビティー）」でも、月額2,900円のProでGemini 4 Argonを使えますが、使える量には週ごとの上限があります（たくさん使いたい場合は、使える量がいちばん多い月額14,500円からのUltraが向いています）。

また、Google検索の「AIモード」でも、2026年10月13日（アメリカ時間）から、ProとUltraの契約者向けに世界で順に使えるようになっています。

また2026年9月9日には、Google Workspace（Gmail、ドキュメント、スライド、チャット、ドライブ）の中で、**アプリを移動せずに文章の作成・調べ物のまとめ・メールの下書き・打ち合わせの日程調整・やることの管理までGeminiに頼めるようになりました**。

さらに2026年9月10日には、**Windows用のデスクトップアプリが公開されました**。キーボードで**「Altキー＋スペースキー」を押すだけで、いま開いている画面の上にGeminiが出てくる**ので、ブラウザでGeminiのページを開き直す手間がなくなります。

画像生成のNano Bananaや動画生成もこのアプリから使えます（旧Gemini Sparkのエージェント機能「タスク」は、Googleのヘルプでは、使えるのはスマホアプリ、Mac用アプリ、ウェブ版とされていて、Windows用アプリは挙げられていません）。

Windows 10と11に対応していて、gemini.google/desktop から無料でダウンロードできます（Mac版は2026年4月に先行して公開されていました）。

Googleのサービスで日々の仕事をしている方は、この統合が一番大きな変化かもしれません。さらに2026年9月15日には、**その場で話せる音声モデル「Gemini 3.8 Live」が公開されました**。

97の言語を自動で聞き分け、会話を止めずに裏で調べ物などの作業を進めてくれます。じっくり考える「Extended Thinking」版では、「確認しますね」と相づちを打ちながら考える、という人間らしい間の取り方もします。

そして2026年9月30日には、**よく使う指示を「スキル」として保存しておき**、「/（スラッシュ）」に続けて名前を打つだけで呼び出せる機能が、世界中で順に使えるようになりました（10月13日からは、年齢を問わず全ユーザー向けに順に提供が始まり、11月中ごろまでに行き渡る予定です）。

いくつかのスキルを組み合わせたり、PDFや画像などの参考資料を付けておいたりもできます。これまで指示を保存しておく役目だった「Gem」は、個人のGoogleアカウント（18歳以上）では2026年11月17日に自動でスキルへ移され、それ以降のGemは見ることはできても、使ったり編集したりはできなくなります。

そして2026年12月17日には、Gemそのものが見られなくなる予定です（18歳未満の方の日程はまだ発表されておらず、会社や学校のアカウントは2027年からです）。

また2026年10月には、スマホのカメラや画面を見せながら話しかけると、**見えているものを声でわかりやすく説明してくれる「シンプルガイド」**（Gemini Liveの機能）が、日本でもAndroidのスマホ（Android 9以上）から順に使えるようになっています。

説明書の小さな文字を読み上げてもらったり、怪しいSMSかどうかを一緒に確かめてもらったりできます。さらに2026年10月29日には、Geminiアプリの中で、文書・PDF・スライド・表計算などのファイルを作って、その場で中身を見ながら直せるようになりました。

全画面に広げて自分で文字を打ち直したり、直してほしい部分を選んでGeminiに頼んだりできます（Googleによると、Geminiアプリが使えるすべての言語で使えます。スマホで見たり直したりできるのはPDFだけで、ほかの形式はウェブ版で使えます）。

Review **オススメ度** ★★★★★

Geminiは2025年の2.5 Proモデルから性能が大きく上がり、日本語の性能も良かったので、2025年は仕事で一番メインに使っていたかもしれません。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

画像・動画・音楽といった様々なメディアを1つで生成できるのもGeminiの強いところで、スマートフォンで気軽に画像や動画を作ってもらう、といった一般ユーザー向けの使い方には非常に適していると思います。

ただ、その後はしばらく新しいProモデルが出ず、ChatGPTやClaudeのほうが良いと感じて、Geminiは全然使わなくなっていました。

そんな中、2026年10月14日（日本時間）にGemini 4 Argonが公開されたので、Google AI Pro（月額2,900円）から月100ドル（日本では月額14,500円）のGoogle AI Ultraにアップグレードして、ブラウザ版とAntigravityで実際の仕事をさせてみました。

結論から言うと、**Gemini 4 Argonはかなりいいです**。Claude Opusと比べても遜色がない仕事をしてくれて、下手するとGPT-6 Astraよりいいのでは、という感じです。

ブラウザ版で「Gemini 4 Argon 複雑なタスク向け」を選んで書籍の原稿を書かせたところ、約13万文字になりました（GPT-6などは8万〜9万文字、Claude Opusは14万文字でした）。

冒頭からインパクトがあって心に刺さる文章で、**日本語の性能はClaudeと遜色なく**、ChatGPTよりは優れていると感じました。

Claude Opusとどちらを選ぶかは好みかな、というくらいの質です。Antigravityでは、開発中のサイト作成システムを敵対的にレビューさせたところ、**今までClaudeが見つけられなかった細かいバグや改善点を見つけてくれました**。

さらに、約16分の読み上げ式セールス動画、動画を埋め込んだ販売ページ、告知用のステップメールまで、商品販売に必要なものをパッと作ってくれました。

販売ページは、2026年の前半にGemini 3.1 Proでは作れなかった長さのものを、Claudeと遜色ないレベルで作ってくれています。

困った点は使用量の上限で、Ultraでもこれらの作業だけで5時間ごとの制限を使い切り、週の上限も25%を使ってしまいました。

エフォート（考える深さ）をHighではなくMediumにするのもありかなと思っています。すでにChatGPTやClaudeにしっかり課金している方は、**まずは月額2,900円のProでブラウザ版から使ってみるので十分だと思います**。

Geminiだけで仕事をしっかり回したい方は、月200ドル（3万円以上）のプランも視野に入ります。高くはなりますが、いつでも働いてくれる優秀な従業員を数万円で雇えると思えば、そこまで高くないと思います。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Google AI Studio

グーグルAIスタジオ

- **公式サイト**：https://aistudio.google.com/
- **料金プラン**：無料で使うことができます。ただし、最上位モデルのGemini 4 Argonなど一部のモデルや機能は有料です（Gemini 4 Argonを使うには、有料のAPIか、月額14,500円からのGoogle AI Ultraの契約が必要です）。

Google AI Studioは、Googleが提供する開発者向けのAIツールで、生成AIモデル「Gemini」や「Gemma」などの最新モデルを簡単に試せるプラットフォームです。

2026年10月14日（日本時間）に正式提供が始まったGoogleの最上位モデル「Gemini 4 Argon」や、9月2日に公開された「Gemini 3.8 Flash」、8月26日に正式版になった文字起こし専用モデル「Gemini 3.5 Transcribe」、8月27日に正式版になった動画生成モデル「Gemini Omni 1.1 Flash」といった最新モデルも、Gemini API経由でそのまま使えます。

Google AI Proなどの有料サブスクに課金をしていると、**Nano Bananaの画像生成がGeminiロゴなしで生成可能**となりますので、Geminiのウェブアプリとの併用もお勧めです。

GeminiモデルのAPIキーも簡単に取得できるので、Claudeなどでアプリを開発する際にGoogleのAIモデルと連携したいと思った際は、このGoogle AI Studioをぜひ活用してみると良いでしょう。

Review **オススメ度** ★★★★★

Google AI StudioはGoogleが開発者向けに提供しているAIツールです。開発者向けなので、画面のUIは全て英語ですし、様々なAIモデルの選択肢もあり、**一般ユーザーには特に最初は使用するハードルが高く感じられるでしょう**。

しかし、もしあなたが既存のAIツールでは物足りず、自分専用のアプリを開発したいと思うことがあれば、その際は**このGoogle AI Studioを活用すべきタイミングです**。

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

私の場合は、Geminiの文字起こし機能が気に入っているのですが、独自のプロンプトやワークフローを反映した文字起こしアプリを作りたかったので、Claude Codeでコードを書いてもらい、GeminiのAPIキーをGoogle AI Studioで取得し、自分好みの文字起こしアプリを作ることができました。

8月26日には文字起こし専用の新モデル「Gemini 3.5 Transcribe」（日本語対応、話している人の区別も可能）も正式版になりましたので、私の文字起こしアプリもさらに精度が上がりそうで楽しみです。

他にも、画像、動画、音声、音楽の生成などGoogleが提供している様々なAIモデルを使って、独自のアプリを作ることが可能ですので、AI Studioを活用してあなたのアイデアを具現化してみてください。

新しいモデルが出ればすぐにここから試せるのも、AI Studioの良いところだと感じます。

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Siri AI by Apple

シリAI

- **公式サイト**：https://www.apple.com/jp/apple-intelligence/
- **料金プラン**：追加料金はかかりません。対応するiPhone・iPad・Macの基本ソフトをiOS 27.2などに更新すれば、無料で使えます。
  ただし、Siri AIのようにAppleのサーバーを使う機能には、1日に使える回数の上限があります。
  Appleは今後、有料で使える量を増やす予定だとしていますが、その料金は2026年11月5日時点では発表されていません。

Siri AI（シリAI）は、iPhoneやiPad、Macに最初から入っている音声アシスタント「Siri」を、Appleが**会話型のAIアシスタントとして作り直したもの**です。

AppleのAI機能「Apple Intelligence（アップルインテリジェンス）」の1つとして提供されています。

iOS 27（iPhoneの基本ソフトの新しい版）は、2026年9月14日に配信が始まりました。日本語のSiri AIは、2026年10月27日（日本時間）に配信が始まった**iOS 27.2から使えるようになりました**。

Appleの発表によると、iPadOS 27.2やmacOS 27.2などでも日本語のSiri AIが使えます。

2026年11月5日時点では、まだベータ版（試験版）です。使えるのは、iPhone 15 Pro／15 Pro Max、iPhone 16以降の全モデル、M1以降のチップを積んだMacとiPadなどです。

端末の言語とSiriの言語を、どちらも日本語にしておく必要があります。13歳未満の方は使えません。

できることは、大きく分けて4つあります。

1つ目は、ChatGPTのような会話です。自由に質問でき、答えのあとに続けて質問を重ねることもできます。

Appleは、インターネット上の情報をもとに、くわしく新しい答えを返すと説明しています。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

2つ目は、あなたの端末の中にある情報を探して使うことです。メッセージ、メール、写真の中から、必要な情報を見つけてくれます。

Appleは、グループで届いたメールから買い物リストを作る例を紹介しています。

3つ目は、**画面に表示されている内容を使った操作**です。たとえば、ウェブページに載っている予定を、そのままカレンダーに入れられます。

メッセージやリマインダーなどのAppleのアプリに加えて、「Yahoo!乗換案内」のような対応するアプリも、Siriに頼んで動かせます。

4つ目は、文章を書く手伝いです。指示を出すと下書きを書いてくれて、あなたが書いた文章に意見を返したり、直したりもしてくれます。

誤字などの校正も、文字を入力するほとんどの場面で使えます。

このほか、過去の会話を見返せる専用の「Siriアプリ」があります。会話はiCloudで同期されるので、iPhoneで始めた会話をMacで続けられます。

カメラの「Siriモード」を使えば、目の前にある物を映して質問することもできます。

AIの処理は、端末の中と、Appleが運営するサーバー「プライベートクラウドコンピューティング」で行われます。

Appleは、このサーバーで処理した個人データは、Appleを含めて誰も保存したり見たりできないと説明しています。

土台のAIモデルは、Googleの「Gemini（ジェミナイ）」をもとに作られています（AppleとGoogleが2026年1月12日に出した共同声明と、Appleの2026年10月26日の発表による）。

ただし両社は、処理はこれまでどおりAppleの端末とAppleのサーバーで行うと説明しています。

また、設定でOpenAIの「ChatGPT」とつなぐ拡張機能をオンにすることもできます。オンにすると、頼んだ内容によってはChatGPTに送られます。

AppleのサポートページによるとSiri AIでは、確認なしでChatGPTに自動で送る設定は使えません。

Review **オススメ度** ★★★★☆

私はまだ使っていませんので、公式情報と海外のレビューをもとにお伝えします。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Siri AIのいちばんの良さは、新しいアプリを入れたり、お金を払ったりしなくても、**いま手元にあるiPhoneでそのまま使えること**です。

移動中や手がふさがっているときに、声で予定を入れたり、メールの中身を探してもらったりできるのは、ひとりで何役もこなす個人事業主の方には便利なはずです。

アメリカのニュースサイトTechCrunchの記者は、iOS 27を試した記事（2026年9月14日）のタイトルで、「iOS 27でまたSiriを使うようになった」と書いています。

いくつもの手順をまたぐ頼みごとや、画面に表示したウェブサイトの内容を使った調べ物がうまくできた、と評価しています。

一方で、メモを正しいメモ帳に追加させるのに苦労した場面もあったそうです。他社のアプリとの連携がスムーズに動くかは、まだ分からないとも書いています。

★4にした理由は3つあります。1つ目は、2026年11月5日時点ではベータ版で、日本語版は公開から数日しかたっていないことです。

日本語での使い心地は、これから確かめられていく段階です。

2つ目は、**1日に使える回数に上限があること**です。決まった回数は示されておらず、機能や頼む内容、混み具合によって変わるとされています。

長い文章を書く仕事や、資料をたくさん読ませる仕事は、この章でご紹介している専用のチャットボットAIに任せるほうが安心です。

3つ目は、使える機種が限られることです。iPhone 15と15 Plus、それより前のiPhoneでは使えません。

お客様の個人情報を扱うときは、ChatGPTとつなぐ拡張機能をオンにしているかどうかも確かめておきましょう。

まずは、予定の登録やメッセージの中の情報探しのような、**失敗しても困らない小さな用事から試してみる**のがおすすめです。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Grok

グロック

- **公式サイト**：https://grok.com/
- **料金プラン**：無料でも一定回数はチャット可能ですが、使える量には制限があります。有料プランは、2026年10月12日に始まった新しいセット料金「The X Subscription（Xサブスクリプション）」にまとめられ、新しく契約する場合は、Plus（月額8ドル）、Premium（月額30ドル）、Super（月額100ドル）、Ultra（月額200ドル）の4つから選びます（日本のウェブ版の購入画面では、Plusが月額1,280円、Premiumが月額5,280円と表示されていると報じられています）。
  1つの契約で、Grok、AIコーディングツールのCursor、Xの有料機能をまとめて使えるのが特徴です。
  以前の「X Premium（月額980円）」や「SuperGrok」の各プランをすでに契約している方は、自分で切り替えない限り、そのままの料金と内容で使い続けられます。

Grokは、イーロン・マスク氏率いるSpaceXSI社（SpaceX Super Intelligence。旧xAI社）が提供しているAIチャットボットです。

2026年2月にSpaceXがxAIを買収したことでブランド名が「SpaceXAI」に変わり、さらに2026年10月には「SpaceXSI」に変わりました。

X（旧Twitter）との連携によるリアルタイムな情報収集に強く、Xユーザーには一定の支持を得ています。

2026年7月8日には、AIコーディングツールとして有名なCursor（こちらもSpaceXが買収）と共同で訓練されたGrok 4.5が公開され、さらに8月12日には最新モデルの「Grok 4.6」が公開されました。

Grok 4.6は、長時間の作業を任せるエージェント用途を意識したモデルで、**一度に読み込める文章量は50万トークンに拡大**しています。

8月にはこのほかにも、チャットの中でアプリやサイトを作れる「Grok Build」が無料プランを含む全プランに開放され（8月19日）、24時間働き続ける常駐型のAIエージェント「Grok Bot」がSuperGrokの各プランに広がる（8月26日）など、大きな動きが続きました。

そして2026年9月21日には、**最新モデルの「Grok 4.7」が公開されました**。
SpaceXSIは「コーディングと知識労働のための最も強力なモデル」「同じクラスの

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

モデルの半額で、2倍の速さ」と説明しています。

まずは開発者向けのAPIと、アプリ作成機能のGrok Build、AIコーディングツールのCursorから提供が始まっており、API料金は4.6と同じ入力100万トークンあたり2ドル・出力6ドルに据え置かれました。

そして2026年10月12日には、**Grok・Cursor・Xの有料機能を1つにまとめた新しい料金体系「The X Subscription」が始まりました**（料金は上の「料金プラン」をご覧ください）。

新しい料金体系でGrok Botを使えるのは、Premium（月額30ドル）以上のプランです。

Review **オススメ度** ★★★★☆

私もXに課金して初期からGrokを使ってきましたが、初期の頃はGrokの最初のバージョンはChatGPTなどと比べると性能は低いと感じていたものの、その後のバージョンは大きくレベルアップしていると感じます。

特に、X上で投稿されているユーザーの意見や評判をリサーチしたい時にはGrokに質問して、特定のトピックに関する**X上における評判を確かめるなどの使い方はお勧めできます**。

2026年2月にはGrok 4.20 Betaが公開され、4つのエージェントが並列に協力して回答する「マルチエージェント構成」という独特なアーキテクチャを採用しました。

そして2026年7月8日にはGrok 4.5、8月12日にはGrok 4.6が公開されました。4.5は性能の高さそのものよりも「価格の安さとスピード」を武器にしたモデルでしたが、4.6は「長時間のエージェント作業」に軸足を移したモデルで、API料金は入力100万トークンあたり2ドル・出力6ドルと、**Claudeの最上位モデルの4分の1以下という安さ**は変わっていません。

SpaceXSIは「GPT-5.6 Solと同点の性能」とアピールしていますが、利用者の投票で順位を決めるArena（旧LM Arena）のランキングでは4.6は上位には入っておらず、**評価は割れているという印象です**。

とはいえ、「十分に賢いAIを安く速く使える」という点で、コスト重視の開発者の間では引き続き話題になっています。

9月21日に出たGrok 4.7も、まずは開発者向けの提供で、打ち出しているのは「半額で2倍速い」という安さと速さです。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

その後もSpaceXSIは手を止めておらず、7月23日には通常1回あたり128体、大型のジョブでは最大1,024体のエージェントを裏側で同時に走らせる「Workflows」、7月24日にはGoogleのスプレッドシートやスライドと連携する無料のアドオンが提供されました。

そして8月19日には、チャットの中でウェブサイトやアプリ、ゲームまで作れる「Grok Build」が、無料プランを含む全プランで、スマホアプリからも使えるようになりました（詳しくはChapter 7でご紹介します）。

8月26日には、あなたの代わりに24時間クラウド上で働き続ける「Grok Bot」もSuperGrokの全プランに広がりました。

単なるチャットボットから、作業を任せられる道具に変わろうとしているのを感じます。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



DeepSeek

ディープシーク

- **公式サイト**：https://www.deepseek.com/
- **料金プラン**：**一般向けのチャットボット機能は無料で使えます**。開発者向けのAPI料金も非常に安いと評判です。ChatGPTなどと違い、オープンソースのAIモデルなので誰でも自由に改変、改良、再配布可能なことも大きな特徴です。

DeepSeek（ディープシーク）は、中国のDeepSeek社が開発した大規模言語モデル（LLM）です。

米国製のAIモデルよりも遥かに安いコストで開発が行われたことが話題になりました。2026年4月にプレビュー版が公開されたDeepSeek V4は、7月31日に軽量版の「V4 Flash」、そして8月13日に上位版の「V4 Pro」が正式版となり、プレビュー期間を終えました。

さらに2026年9月10日には、新しい仕組みで作り直した**軽量版「V4.1 Flash」が、開発者向けのAPIで公開されました**。

画像の理解にも最初から対応していて、DeepSeekは「V4 Proを含む上位モデルよりも良い結果が出た」と説明しています。

これに合わせて、APIではV4 Flashと画像対応の実験版「V4 Flash Vision」の提供が終わり、料金も下がりました。

2026年10月17日には、9月に出たV4.1 Flashの改良版「V4.1-Flash-1017」が、DeepSeekのウェブサイト・スマホアプリ・APIで使えるようになり、重み（AIの中身にあたるデータ）も公開されました。

DeepSeekは「前の版より性能が上がり、作業が速く、答えも短くまとまるようになった」と説明しています。

上位版のV4 Proは、2026年11月5日時点でもAPIで使えます（後継の「V4.1 Pro」も予告されていますが、時期は発表されていません）。

DeepSeekのウェブサイト上で**入力したデータは中国本土に送られることから、使用する際は注意が必要**であることをご承知ください。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Review **オススメ度** ★★★★☆

2026年8月13日、DeepSeek V4 Proがプレビューを終えて正式版になりました（軽量版のV4 Flashは7月31日に正式版になっています）。

1Mトークンの広大なコンテキスト、Thinking / Non-Thinkingの2モード、そしてV4 Proは1.6兆パラメータのMoEアーキテクチャ（回答のたびに一部の専門家だけが呼び出される仕組み）を搭載したフラッグシップモデルへと進化しました。

どちらもMITライセンスで公開されており、プログラミングの実力を測るベンチマークでは、誰でも重みを入手できるオープンなモデルの中では最高クラスのスコアを出しています。

特筆すべきは、V4がAnthropicのClaude CodeやOpenClawなどのAIエージェントツール向けに最適化されている点で、Claude Codeの代替としてDeepSeek V4を使うことで、**APIコストを大幅に削減できるという用途で注目されています**。

実際に私もDeepSeekの公式サイトで使ってみましたが、以前のようにChatGPTやClaudeの周回遅れ、という印象ではなく、**アメリカ製のAIと肩を並べることができるような性能があると感じました**。

ただ、モデル自体の性能は高くても、ChatGPTはCodexという開発者用のアプリ、ClaudeはCoworkやClaude Codeという仕事用/開発用のアプリを進化させており、実際にDeepSeekを仕事で使うかというと、**ChatGPTやClaudeに軍配が上がるでしょう**。

あとはどうしても中国製のAIというだけで使いたくない、という人も多いでしょうね。なお、8月16日からはAPI料金が「混雑する時間帯と空いている時間帯で料金が変わる（空いている時間帯は半額）」という新しい仕組みに変わりました。

8月21日に出た画像も理解できる実験版の「V4 Flash Vision」は、9月10日に公開された後継の「V4.1 Flash」（画像の理解に最初から対応）に置き換わって提供を終えていますので、開発者の方は覚えておくと良いでしょう。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

Qwen Chat

クウェンチャット

※サイト上の表記は「Qwen Studio」

- **公式サイト**：https://chat.qwen.ai/
- **料金プラン**：2026年11月5日時点では**有料プランは見当たらないので無料で使えるようです**。

Qwen Chat（クウェンチャット）は中国の有名なIT企業であるAlibaba（アリババ）社が公開しているAIツールです。

「チャット」とあるようにチャットがメインの機能のようですが、**画像生成や動画生成の機能もある総合型の生成AIツール**と言えるでしょう。

私が試した限りでは、画像生成のクオリティは悪くないですが、**動画生成はサーバーが混雑していたり、待ち時間が非常に長かったりと実用的ではありませんでした**。

ただ、このような高機能を持つAIツールが無料で公開されていることから、中国の会社も真剣にAI競争に打ち勝とうとしている本気度がうかがえますね。

なお、サイト上の名称は「Qwen Studio」という表記に変わっていますが、URLは同じです。また2026年9月2日には、**最上位モデルのQwen3.8-Maxが中身だけ強化された新しい版（0902版）に差し替えられました**。

バージョン番号は上げずに性能だけを上げる形で、画面まわりのプログラムを書かせる評価では首位に立ち、料金も据え置きです。

2026年9月18日には、文章・画像・音声・動画をまとめて読み込める「Qwen3.8-Omni-Flash」が公開されました（こちらは開発者向けの提供のみです）。

また9月20日に公開された画像生成モデル「Qwen-Image-2.1」は、2048×2048の大きさで直接生成できるようになった一方で、利用条件が研究目的限定に変わり、商用利用には個別の契約が必要になりました。

Review **オススメ度** ★★★★☆

まずQwen ChatではQwen3.8シリーズをはじめとする様々なバージョンの言語モデルを使うことができます。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

通常のチャットのやり取りはもちろん、ウェブ検索機能やサイト作成などのコードを執筆してもらえるアーティファクト機能など、多くの機能があるチャットボットツールだという印象を受けました。

そして、2026年に入り、Alibabaは凄まじいスピードでQwenシリーズを連発しています。2026年2月にQwen3.5（397B-A17B MoE）、4月にQwen3.6シリーズ、そして5月19-20日のAlibaba Cloud SummitでQwen3.7-MaxとQwen3.7-Plusを発表しました。

Qwen3.7-MaxはArtificial Analysisの知能指数で56.6点を獲得し、**中国製モデルで初めて世界Top 5入りを果たしました**。

1Mトークンのコンテキスト、35時間連続稼働で1,000以上のツール呼び出しに対応する自律エージェント機能、そしてClaude CodeのAnthropic APIプロトコルにネイティブ対応しており、Claudeの代替バックエンドとしても使える点が特徴です。

その勢いは止まらず、7月19日に上海のWAICでプレビュー版が公開された「Qwen3.8-Max」（2.4兆パラメータ、文章だけでなく画像・動画・書類まで扱えるマルチモーダルモデル）は、8月2日に正式版となり、8月12日には誰でも重みをダウンロードできるオープン版が、ベンチマークの表とセットで公開されました。

プログラミング系のTerminal Bench 2.1というテストでは**Claude Fable 5を上回り、GPT-5.6 Solに迫るスコア**が示されています。

8月14日には家庭用のパソコンでも動かしやすい27B版、8月26日には次の世代「Qwen4」の新しい仕組みを先取りした「Qwen3.8-Flash-Next」まで公開されており、「近日公開」と言われていたものが1か月で全部出てきた形です。

私としては、ベンチマークの数字よりも実際に日本語の仕事で使ってどうか、をこれから確かめたいところです。

7月20日には第3世代の画像生成モデル「Qwen-Image-3.0」、8月下旬には最長30秒の動画を音声つきで作れる動画生成モデル「Wan 3.0」（Chapter 9でご紹介します）も出ており、**Alibabaの勢いは本物だと感じます**。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

Kimi

キミ

- **公式サイト**：https://www.kimi.com/
- **料金プラン**：無料プランあり、**有料プランは月額19ドル〜**

Kimi（キミ）は、中国のAIスタートアップ企業であるMoonshot AI（月之暗面科技有限公司）が開発したAIチャットボットです。

北京を拠点とするヤン・ジリン（楊植麟）氏が2023年3月に創業した会社で、同年10月に最初のバージョンを公開しました。

Kimiは初代モデルの時点で**20万文字もの長文を一度に読み込める**「長いコンテキストウィンドウ」が大きな特徴で、2026年4月20日にはKimi K2.6を公開しました。

そして2026年7月16日〜17日には「Kimi K3」が公開されました。K3は2.8兆パラメータという規模で、誰でも重み（AIの中身にあたるデータ）をダウンロードできる「オープンウェイト」のAIモデルとしては世界最大とされています。

100万トークンのコンテキストに対応し、推論（考える力）とコーディングの性能が強化されました。さらに2026年10月24日には、K3をもとに鍛え直した**最新モデル「Kimi K3.1 Pro」が公開され**、Kimiのウェブ版とスマホアプリ、仕事用アプリのKimi Work、開発用のKimi Codeで使えるようになりました。

Moonshot AIは、もっともらしいウソをつく割合が大きく下がったと説明しています（Moonshot AI自身のテストでの数字です）。

誰でもダウンロードできる重みも、予告どおり公開されました（2026年11月5日時点）。Moonshot AI独自のライセンスで、商用利用もできますが、AIモデルそのものをAPIなどでほかの人に提供する事業で、12か月の売上が2,000万ドルを超える会社は、別の契約が必要です。

2026年8月25日には、Moonshot AIが日本向けの展開を本格化させることを表明したと報じられており、今後は日本語での情報やサポートも増えていきそうです。

なお2026年9月30日には、OpenAIが「自社のAIが内部で考えた中身を抜き出して、他社のAIの学習に使おうとする組織的な動きを止めた」と公表し、その中心に「Kimiの開発元であるMoonshot AIの関係者」がいたと名指ししています（2026年

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

10月28日のブルームバーグの報道でも、Moonshot AIはこうした指摘に公には答えていないとされています）。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Kimiは、2026年に存在感を急速に高めている中国製AIの1つです。私が特に注目したのは、Cursorのような世界トップクラスのAIコーディングツールが「自社の最新モデル」として打ち出していたComposer 2.0が、実はKimi K2.5の上に構築されていた、というニュースです。

それだけ中国製のオープンソースAIモデルの性能が、すでにアメリカ製の有名ツールの土台として採用されるレベルまで来ているということでしょう。

そして2026年7月に公開されたKimi K3は、Vals AIというベンチマークの総合順位で**Claude Fable 5に次ぐ2位につけ、GPT-5.6 Solを上回りました**。

利用者の投票で順位が決まるArena（旧LM Arena）でも、2026年10月8日更新のランキングでK3は16位につけています。

無料で重みが配られているモデルがここまで来たのか、というのが正直な感想です。日本の国産AIであるSakana AIも、日本語特化モデル「Namazu」の土台としてKimiのモデルを採用しています。

Kimi.comでは無料のAdagioプランから試すことができ、有料プランも月額19ドルから用意されているので、ChatGPTやClaudeのProプランとほぼ同じ価格帯で導入できます。

ただ、正直なところを言うと、私のメインの業務であれば、すでに契約しているClaudeやChatGPTやGeminiでほぼ全てをカバーできてしまうので、**あえてKimiに追加で課金する理由は今のところ少ないかな**、というのが私の印象です。

なお、以前は「KimiのAPIは圧倒的に安い」と書いていましたが、K3のAPI料金は入力100万トークンあたり3ドル、出力15ドルと、Claude Sonnet 5（2ドル／10ドル）より高く、Opus 5（5ドル／25ドル）より少し安い、という程度になっています。

「安さ」よりも「オープンなモデルで最高クラスの性能」が今のKimiの売りだと考えたほうが良さそうです。

8月25日に日本展開を本格化するという発表もありましたので、日本語のサポートが充実してくれば、選択肢に入ってくる人も増えるかもしれませんね。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

MiniMax Agent

ミニマックス・エージェント

※旧Hailuo AI Chat

- **公式サイト**：https://agent.minimax.io/
- **料金プラン**：Hailuo.aiのメイン機能は動画生成モデルなので動画生成AIのチャプターで解説しますが、**チャット機能については無料で使えます**。（有料プランもありますが、チャット機能だけのために課金する必要は薄いでしょう）

「MiniMax Agent」は中国のMiniMax社が公開しているチャットボットAIです。以前は「Hailuo AI Chat」という名前でchat.minimax.ioというURLで提供されていましたが、現在はエージェント機能を前面に出した「MiniMax Agent」という名称になり、URLもagent.minimax.ioに変わっています（2026年11月5日時点では、旧URLのchat.minimax.ioを日本から開くと中国語版のサイトに転送されてしまうため、agent.minimax.ioを直接開いてください）。

MiniMaxには動画生成ができる「Hailuo（Video）」、音声生成ができる「Audio」、そしてチャットでやり取りができる「Agent」があります。

元々はHailuo AIと言えば、動画生成が出来るAIとして話題になったのですが、現在は動画、音声、チャット（文章生成）というように**総合的なAIツールになりつつあります**。

2026年7月31日には新しい動画モデルのMiniMax H3（Hailuo 3.0）を公開し、8月3日にはその重みをオープンウェイトとして無償公開、8月13日には**最長5分の楽曲を作れる音楽生成モデル「Music 3.0」**を正式発表するなど、中国製AIツールはどこも破竹の勢いで進化を続けていますね。

Review **オススメ度** ★★★★☆

私がHailuoのAIチャット機能を初めて使ってみたときは、無料プランしかなく、性能もイマイチだったので少し試しただけでほとんど使っていませんでした。

ただ、2025年10月に久々にアクセスしてみると、有料プランや「Agent（エージェント）」という新機能も追加され、着実に進化していることがうかがえます。

特にAgent機能を使った際は、ChatGPTやGoogleのAIモデルを使った場合と比べて**遜色があまりないような精度の高い文章を生成してくれました**ので、個人的には

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Hailuoに関する印象が大きく変わりました。

とはいえ、ChatGPTやGeminiはもちろん、GensparkやManusなどの優秀なAIツールも増えているため、あえてMiniMaxのAIチャットやエージェント機能を使うかというと、優先順位は低いですね。

中国製のAIということで嫌がる人も多いかもしれませんし、**あえて使う理由は少ないと感じました**。ただ、MiniMax社自体は2026年7月の上海WAICでフラッグシップモデルのM3や次世代のマルチモーダルモデル「H3」を披露し、7月31日にはそのH3を動画モデルとして正式リリース、8月3日には重みまで無償公開するなど、勢いは本物です。

チャット機能そのものより、動画や音楽の生成のほうに注目しておくと良いかもしれません。

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Poe

ポー

- **公式サイト**：https://poe.com/
- **料金プラン**：無料プランでは1日あたり3000ポイントが使えますが、すぐに消化されてしまうので、本格的に使いたい場合は、**月額20ドル（3,000円）の有料プラン**（毎月100万ポイントを使用可能）に課金するのがお勧めです。
  月額4.99ドル（800円）で1日1万ポイント使える最安プランもあります。

Poe（ポー）は統合型のチャットボットです。つまり、Poe独自のAIモデルではなく、ChatGPT、Claude、Gemini、DeepSeek、Grokなどの本書で解説している様々な言語モデルや、画像生成や動画生成モデルなどを比較しながら使うことができる面白いチャットボットツールです。

Review **オススメ度** ★★★★☆

上記でも解説しているように、この書籍でもご紹介しているような様々なAIモデルをPoeの中で横断的に使うことができます。

例えば、1つの命令を「ChatGPTとClaudeとGeminiとDeepSeekに伝えて、回答を比較してみる」というような様々な会社のAIモデルをまたいだ面白い使い方ができるわけです。

さらには、画像生成や動画生成も可能ですので、**「とりあえず1つのAIツール内でいろいろなAIの機能を試してみたい」という人**はPoeを使ってみると良いでしょう。

（Poe上で米国版のDeepSeekを使うことも可能です。）また、ChatGPT、Claude、Geminiなど各社の最新モデルをいち早く導入するなどのスピード感も高いので、様々なAIモデルを1つのツールだけで完結して使いたい人には向いているかもしれません。

特に動画生成や静止画に特化したAIツールを複数契約するのは大変なので、私はPoeに課金して動画や静止画を生成しています。

様々なAIを使いたい人にはお勧めできるツールです。

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Microsoft Copilot

マイクロソフトコパイロット

- **公式サイト**：https://copilot.microsoft.com/
- **料金プラン**：上記のサイトから**Microsoftのアカウントがなくても無料で使えます**。以前あった「Copilot Pro」は新規の販売が終了し、現在は月額3,200円（税込）の「Microsoft 365 Premium」を契約することで、WordやExcelなどのOffice製品とセットで最新のAI機能に優先的にアクセスしたり、画像生成を高速に行えるなどのメリットがあります。

Microsoft Copilotは、Microsoft社とOpenAIが協力して提供しているAIツールです。

OpenAIが開発した**ChatGPTをMicrosoft用にカスタマイズしたバージョン**だと言っても良いでしょう。

上記のサイトでChatGPTのようにチャットをしたり、画像生成を行うことも可能ですが、Microsoft Edgeブラウザ上やOffice製品上でAI機能を活用することも可能です。

2026年7月9日には、OpenAIの当時の最新モデルGPT-5.6がMicrosoft 365 Copilotの推奨モデルになりました。

そして8月25日の大型アップデートでは、Word上のCopilotの標準モデルがAnthropicのClaude Sonnet 5になり、Copilot Cowork（コワーク）ではOpenAIの「ChatGPT Images 2.0」による画像の生成・編集もできるようになっています（こちらは搭載当時の最新版です。ChatGPT本体では、その後Images 2.5（2026年9月8日）とImages 2.6（2026年11月4日）が公開されています）。

そして2026年9月25日には「新しいCopilot」が発表され、会話と作業の代行を1つにまとめた「Home」、言葉で頼むだけでアプリや自動化の仕組みを作れる「Code」、常に動き続ける個人向けのエージェント「Autopilot」の3本柱に作り直されることになりました。

CodeとAutopilotは使った分だけ支払う「Copilot Credits」で、まずは企業向けの先行プログラムから順に提供されます。

日本での提供時期と日本語への対応は、2026年11月5日時点では発表されていません。また2026年9月下旬には、アメリカのニュースサイト404 Mediaが、Microsoft

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

から仕事を請け負ったスタッフが、Copilotに入力された文章やアップロードされた画像を見て、AIの出来を評価していると報じました。

Microsoftの公式の説明（プライバシーに関するよくある質問）にも、「製品の改善や安全のために、一部の会話は自動の仕組みと人の両方で確認する」と書かれています。

Microsoftのアカウントでログインしていれば、会話をAIの学習に使わせない設定はできますが、**規約違反が疑われる場合の人による確認は、オフにできません**。

人に見られて困る写真や情報は、入力しないようにしましょう。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Microsoft Copilotは、これまでOpenAIのChatGPTをベースにしていましたが、2026年1月7日からはAnthropicのClaudeモデルがデフォルトで有効化されるなど、**『脱OpenAI依存』を急速に進めています**。

2026年5月4日からはWord・Excel・PowerPoint上のCopilotでもAnthropicのClaudeモデルがデフォルトとなりました。

Copilotの利用者は、特に意識せずにOpenAIやAnthropicのモデルを使い分けられるようになっています（マイクロソフト管理画面でモデルの選択は可能）。

実際、2026年7月9日にはGPT-5.6がMicrosoft 365 Copilotの推奨モデルになり、ExcelのCopilotではOpenAIとAnthropicの両方の最新モデルを選べるようになりました。

そして8月25日にはWordの標準モデルが当時最新のClaude Sonnet 5になり、ExcelのCopilotではPythonを使った本格的なデータ分析、Copilot CoworkではChatGPTの画像生成モデルを使った画像づくりまでできるようになっています。

両社のいいとこ取りをする姿勢がはっきりしてきましたね。さらに、2025年10月には音声モード用の可愛らしいキャラクター『Mico』も登場し、対話の流れに応じて色が変わるなど、AIに『顔』を与える試みも行われています。

2026年3月にはAnthropicと共同開発した『Copilot Cowork』もリリースされ、Anthropicの『Claude Cowork』に正面から対抗する形になりました。

7月15日にはMCP（AIと外部ツールをつなぐ共通規格）に対応したエージェントがWord・Excel・PowerPoint・Outlookで使えるようになり、社内で作ったエージェントを管理者が審査して配布できる仕組みも整いました。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

8月25日には、ウェブ検索と社内の資料検索を1つのボタンで切り替えられる「Work IQ」も加わっています。

会社ぐるみでAIを使う土台という意味では、かなり先を行っている印象です。なお、個人向けの「Copilot Pro」は2025年10月に新規の販売が終わり、いまはOffice製品とセットになった**「Microsoft 365 Premium」（月額3,200円）が実質的な後継プラン**になっていますので、以前の情報で探している方は注意してください。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Mistral Vibe

ミストラル・ヴァイブ

※旧Le Chat

- **公式サイト**：https://chat.mistral.ai/
- **料金プラン**：**基本的には無料で使えます**が、使える量が増えるProプラン（月額14.99ドル、税別）と、Teamプラン（1ユーザーあたり月額24.99ドル、税別）もあります。
  どちらも「無制限」ではなく、常識的な使い方の範囲（フェアユース）という上限があります。

Vibe（ヴァイブ）は、フランスのMistral.ai社が提供するAIチャットボットです。以前は「Le Chat（ル・シャ）」という名前でしたが、**2026年夏に「Vibe（旧Le Chat）」という名称に変わりました**（URLは以前と同じです）。

Web検索、画像生成、Canvas（AIと一緒に文章やコードを共同編集できる）機能など、ChatGPTなどにも存在する代表的な機能が搭載されています。

Mistral.ai社の言語モデル（Mistral Largeなど）はオープンソースなので様々なAIツールで採用されていますが、私たち一般ユーザーが気軽にチャット機能を使いたいと思ったら、このVibeのサイトで気軽に使うことが可能です。

2026年9月16日には、MozillaとMistral.aiの提携が発表され、**Firefoxの新機能「Smart Window」の中でMistral Small 4を選べるようになりました**（まずはアメリカとカナダ、そしてフランス語版からの提供です）。

2026年10月6日には、**同社で最も大きなモデル「Mistral Large 4」**が、開発者向けに試験公開されました。

2026年10月29日には、その改良版の中身（重み）が公開され、誰でもダウンロードして使えるようになりました（愛称は「Le Chonk（ル・チョンク）」です）。

商用利用もできますが、このAIを他社向けのサービスとして提供する会社は、Mistralから別に許可を受ける必要があります。

Vibeの中にあるプログラム開発用の画面「Vibe Code」で試せますが、普段のチャット画面で使えるかどうかは、2026年11月5日時点では発表されていません。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Review **オススメ度** ★★★☆☆

フランスのAIスタートアップ企業が開発しているAIチャットボットツールです。2025年になってからも再度使ってみましたが、個人的な印象としては、「少し前のChatGPTのような性能」という感じで、**アメリカ製のAIチャットボットと比べると周回遅れの性能のような印象**を受けました。

しかし、2025年12月にMistral Large 3、2026年3月にMistral Small 4（推論・視覚・コーディングを統合）、4月30日にMistral Medium 3.5（128B dense、256kコンテキスト）を相次いで公開しました。

さらにWork Modeという、Email・カレンダー・ドキュメント・Jira・GitHub・Slackを横断してエージェントが多段階タスクを実行する新機能も追加され、ChatGPTやClaudeのエージェント機能に追従しようとしています。

2026年1月時点で年間収益は4億ドルに達し、2026年9月8日には30億ユーロの資金調達を発表して評価額は210億ユーロを超えており、**『ヨーロッパのOpenAI』というキャッチフレーズが現実味を帯びてきました**。

2026年8月は、名前が「Vibe」に変わったこと以外に大きな新モデルの発表はなく、AIの回答が危険な内容かどうかを判定する小型モデル「Shieldstral」（8月4日）や、社内の書類をAIが自分で探しに行く「Agentic Search」（8月20日）など、**業務で使う人向けの足回りを固めている印象です**。

「Le Chatという名前で覚えていたのにサイトの表記が変わっている」と戸惑わないようにしてください。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Muse Spark by Meta

ミューズスパーク

- **公式サイト**：https://www.meta.ai/
- **料金プラン**：**Meta AIのアプリやサイト上では無料で利用可能です**。（2026年8月下旬に海外の一部の国で始まった有料プラン「Meta AI Core / Premium」は、2026年9月15日に「Meta One」という名前で日本でも始まりました。月額949円のCoreと月額2,900円のPremiumがあります。）

Muse Spark（ミューズスパーク）は、**Meta社が2026年4月8日に公開した新世代のAIモデル**です。

Meta社は長年、Llama（ラマ）というオープンソースのAIモデルで有名でしたが、2025年4月のLlama 4が酷評されたことを受けて、ザッカーバーグ氏は数十億ドルを投じて「Meta Superintelligence Labs（MSL）」という新組織を設立。

その初代AI責任者であるアレクサンダー・ワン氏のチームが約9ヶ月でゼロから作り直したのが、このMuse Sparkです。

Llamaとは異なり中身を公開しないクローズドなモデルで、Meta AIアプリを皮切りに、FacebookやInstagram、WhatsAppにも順次搭載されていきます。

2026年7月には画像生成モデルの「Muse Image」と、性能を強化した「Muse Spark 1.1」が立て続けに公開され、8月5日にはコーディング性能をさらに高めた「Muse Spark 1.2」と、黒い画面（ターミナル）で動くコーディングエージェント「Muse Code」が発表されました。

さらに8月10日には、あなたのパソコンの中だけで動く小型のオープンモデル「Muse Glimmer 30B」も無償公開されています。

そして2026年9月2日には「Muse Spark 1.3」が公開され、プログラム開発と、自分で作業を進めるエージェントとしての性能が大きく上がりました（料金は据え置き）。

さらに2026年10月12日には、Metaが「これまでで最も高性能」とする新しいモデル**「Muse Wonder（ミューズ・ワンダー）」**と、その上位版「Muse Wonder Full」が発表されました。

会話をまたいで大事なことを覚えておく「Active Memory」と、難しい作業でも別のやり方を試しながら最後までやり抜く「Active Focus」が特長です。

独立した評価サイトArtificial Analysisの総合スコアでは、2026年10月27日に採点方法が新しくなった後の版で、Muse Wonder Fullは50点です（同じ版でClaude Opus

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

5.5は59点、GPT-6 Astraは57点）。

ただし、9種類のテストのうち、事務や資料づくりのような仕事の力を測る分野の「GDP.pdf」というテストでは、Muse Wonder Fullが一番の成績でした。

まずは開発者向けのAPIと、コーディング用の「Muse Code」から使えるようになり（FullはMuse Codeの契約者だけ）、Metaの個人向けAIエージェント「Muse」（2026年11月5日時点では、アメリカとカナダに加えて、10月23日から日本でも、10月27日からシンガポールでも提供。詳しくはChapter 3でご紹介します）にも、有料の契約者から順に搭載される予定です。

日本のMuseでいつから使えるかと、一般向けの料金は、2026年11月5日時点では発表されていません。

また、9月1日には、話した言葉をその場で文字にする新しい音声認識モデル「Muse Voice Transcribe（ミューズ・ボイス・トランスクライブ）」も公開されました。

70以上の言語で学習され（公開時点で品質を確認済みなのは25言語）、**20人以上の声を聞き分けて「誰が話したか」まで区別でき**、文の途中で言語が切り替わっても追いかけられるのが特徴です。

Mac用のMeta AIアプリでは、Fnキーを押しながら話すだけで、どのアプリの入力欄にでも音声入力ができます。

開発者向けには、MetaのAPIからも使えます。そして2026年9月15日には、Metaの新しい有料サブスク「Meta One」が日本でも始まりました。

月額949円の「Core」と月額2,900円の「Premium」があり、上位のプランほどMeta AI上での画像生成・動画生成の枠が広がります。

また2026年9月29日には、**中小企業向けのAIエージェント「Muse for Small Business」も発表されました**。

売上や広告、SNSの数字を読み解いて成長の計画を立てたり、メールを整理したりといった仕事を裏側で進めてくれるもので、Facebook・Instagram・Metaの広告アカウントのほか、Canva・Shopify・Stripeなどともつながります。

ただし、日本で使えるかどうかは、2026年11月5日時点では発表されていません（**Museのアプリそのものは、2026年10月23日から日本でも使えるようになりました**）。

Review **オススメ度** ★★★☆☆

MetaのLlama（ラマ）は、Meta社が開発した大規模言語モデル（LLM）シリーズで、長らくオープンソースの代表格として有名でした。

しかし、2025年4月のLlama 4の公開はネット上で『期待外れ』『信じられないほど悪い』との酷評を浴び、その後Meta社は約1年間、新しいモデルを公開しないとい

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

う異例の沈黙期間を続けました。

その間、ザッカーバーグ氏は数十億ドルを投じて『Meta Superintelligence Labs（MSL）』という新しい組織を作り、2026年4月8日にようやく『Muse Spark』（コードネーム：Avocado）という新世代モデルを公開しました。

Llamaシリーズの後継として位置付けられており、性能評価もLlama 4と違って好意的なものが多いようですが、**ChatGPTやClaudeに比べると話題性は劣ります**。

とはいえ、利用者の投票で順位が決まるArena（旧LM Arena）の文章部門では、2026年10月13日更新のランキングでは、10月12日に発表された最上位モデルのMuse Wonderが2位に入り、Muse Spark 1.3も11位につけています（2026年11月5日時点のランキングでは、Muse Wonderは4位、Muse Spark 1.3は11位です）。

一般ユーザーが直接Meta製のモデルを使うケースは依然として少なく、他社のチャットボットツールの中でモデルが採用されている形態がメインです。

そんな中、2026年7月7日に発表され、翌8日から使えるようになった画像生成AI**『Muse Image』は、私が今のMetaで一番おもしろいと思っている取り組みです**。

何がおもしろいかというと、絵を描くだけでなく、AI自身がウェブ検索やプログラムの実行といった道具を自分で呼び出して事実を確認し、出来上がった画像を自分で直してくれる『エージェント型』の画像生成AIだという点です。

そのおかげで、実際にスマホで読み取れるQRコードや、文字や数字が崩れないインフォグラフィック（図解）が作れますし、複数の参考画像を組み合わせる合成も得意とのことです。

画像生成AIの弱点だった『文字と正確さ』を、AI自身の確認作業で埋めにいくという発想が新鮮ですね。姉妹モデルの『Muse Video』は音声つきの動画生成に対応する予定ですが、2026年11月5日時点でもまだ「近日公開」のままです。

もう1つ注目しているのが、8月10日に無償公開された「Muse Glimmer 30B」です。メモリが24GB以上あるMacBookなどの手元のパソコンだけで動くので、**「社内の情報をクラウドに送りたくない」という会社にとっては現実的な選択肢**になってきました。

Meta AI上では1日あたり一定回数の生成が無料なので、まずは気軽に試してみてはいかがでしょう。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Sakana AI

サカナAI

- **公式サイト**：https://sakana.ai/
- **料金プラン**：
  - Sakana Chat（チャット・翻訳機能）：無料で利用可能
  - Sakana Fugu（高性能モデル）：開発者向けの「API Platform」の月額プランとして、**月額20ドルのStandardプラン**、月額100ドルのProプラン、月額200ドルのMaxプランの3種類があります（どれもFugu・Fugu Ultra・Fugu Maxが使えます）。このプランに入っても、Sakana Chatの利用上限は変わりませんのでご注意ください。使った分だけ支払うAPI従量課金プランもあります。

Sakana AI（サカナAI）は、**東京に本社を置く日本発のAIスタートアップ企業**です。2023年に創業し、NTT、ソニー、KDDI、NVIDIAなどが出資する、日本を代表するAIユニコーン企業となっています。

2026年3月には、日本の文化や言葉のニュアンスに適応させた独自モデル「Namazu（なまず）」を搭載した無料のチャットサービス「Sakana Chat」を公開し、2026年6月22日には、同社の切り札とも言える「Sakana Fugu（フグ）」が正式リリースされました。

Fuguは1つの巨大なAIモデルではなく、司令塔となる小さなAIがGPT、Claude、GeminiなどのAIモデルたちに「考える係」「作業する係」「チェックする係」という役割を割り振ってチームで働かせる、という珍しい仕組み（マルチエージェント・オーケストレーション）を採用しています。

2026年8月13日にはSakana Chatが大きく更新され、**無料のチャット画面からもFuguが使えるようになった**ほか、AIが安全な環境でプログラムを実行して計算をしたり、Wordやスライドなどのファイルを AIが作って画面上で確認したり、手元のファイルを添付して質問したりできるようになりました。

そして2026年9月11日には、この仕組みをさらに進めた「Fugu Max（フグ・マックス）」と「Fugu Ultra v2（フグ・ウルトラ ブイツー）」が公開されました。

狙いははっきりしていて、**「同じくらいの答えを、もっと安く出す」ことです**。Fugu Maxの料金は開発者向けで入力100万トークンあたり2ドル、出力6ドルで、Sakana AIによれば、**出力の料金はClaude Sonnet 5やGPT-5.6 Terraと比べて40〜60%安い**とのことです。

文章だけでなく画像やPDFも読み込め、ウェブ検索にも対応しています。そして2026年9月17日からは、チャットサービスの「Sakana Chat」でも、**全ユーザーが**

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Fugu Maxを選べるようになりました（追加の設定は不要で、モデルの選択画面でFugu Maxを選ぶだけです）。

あわせて、一度伝えた内容を次の会話にも引き継げる「メモリー」機能も加わっています。2026年10月15日には、Sakana Chatが何を覚えているのかを、種類ごとの一覧、記憶どうしのつながりの図、いつ読み書きされたかの履歴で確かめられる**「My Fish（マイ・フィッシュ）」も始まりました**（「設定」→「My Fish」から開けます。Webとスマホに対応し、記憶の機能はいつでもオフにできます）。

なお、開発者向けのAPIは、個人情報保護の法律への対応が済んでいないため、**EU圏では使えません（日本は対象内です）**。

Review **オススメ度** ★★★☆☆

「日本製のAIは海外勢に周回遅れ」というイメージをお持ちの方も多いと思いますが、そのイメージを変えようとしているのがこのSakana AIです。

特に面白いのが、Fuguの「複数のAIをチームとして働かせる」という発想です。ゼロから巨大モデルを作るのではなく、既存の優秀なAIたちをまとめ上げる司令塔を作る、という戦略は、**資金力でアメリカや中国に劣る日本の会社らしい賢い戦い方**だと感じます。

料金も月額20ドルから（開発者向けのAPIのプラン）と、ChatGPTやClaudeの有料プランと同じ価格帯で、**1つの契約で複数社のAIモデルの集合知が使える**というのは面白い提案です。

8月13日のアップデートで、無料のSakana Chatからも（回数制限はあるものの）Fuguを試せるようになったので、課金する前に実力を確かめやすくなったのは良い変化ですね。

ただ、注意点もあります。Fuguは1つの指示に対して裏側で複数のAIが動くため、単純な作業でも消費が大きくなりがちで、**コストが読みにくいという指摘もあります**。

また、実際の頭脳はGPTやClaudeなどの他社モデルですし、8月3日に開発者向けに提供が始まった日本語特化モデル「Namazu」のAPIも、中国のMoonshot AIのKimi K2.6というモデルをベースに日本語向けに鍛え直したものだと公式に説明されています。

「純国産のAI」を期待している方はその点を理解した上で使うと良いでしょう。8月には防衛省から情報分析の実証事業を受注するなど、企業や官公庁向けの実績も着実に増えています。

≡ 目次に戻る

Groq

グロック

※Grokとは別の会社です

- **公式サイト**：https://groq.com/
- **料金プラン**：一般ユーザーはGroqのウェブサイトから**無料でチャット機能を使うことが可能です**。（無料アカウントを作成する必要あり）

Groqは元Googleのエンジニアであるジョナサン・ロス氏が2016年に立ち上げた会社です。Groq社はAI開発者や企業向けにチャットボットツールの提供やハードウェアの販売を行っており、独自に開発したLPU（Language Processing Unit）と呼ばれる言語処理に特化したプロセッサのおかげで**ChatGPTの20倍も素早いと言われる回答速度**を実現しているらしいです。

2026年8月17日には、NVIDIAも参加する3億5,000万ドル（約500億円）の資金調達を発表し、「NVIDIAのGPUも使うAI推論クラウド」へと会社の性格を変えつつあります。

Review **オススメ度** ★★★☆☆

Groqのウェブサイトから簡易的なチャット機能を使うことができ、アカウント登録は必要ですが、無料でAIに回答をしてもらうことが可能です。

特にそのスピードは他の一般的なチャットボットAIと比べて、とてつもなく速いので、**急いでいるときにGroqを使うのはありかもしれません**。

また、日本語の精度はイマイチでしたが、この書籍でも紹介している中国製のQwenなどのAIモデル（2026年11月5日時点ではQwen 3.8の27B版）やOpenAIのオープンモデルであるgpt-ossを選択することができるので、日本語のクオリティは問題なくなりました。

（以前はDeepSeekも選べましたが、2026年11月5日時点でも提供されるモデルの一覧から外れています。）ChatGPTなどのような便利な機能は存在しないので星は少なめに評価しましたが、**高性能な最新AIモデルが無料で使えるという点は評価できます**。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

番外編

Arena

アリーナ

※旧LM Arena

- **公式サイト**：https://arena.ai/
- **料金プラン**：**無料で誰でも使うことができます**。

Arena（旧LM Arena）は、**あなたがAIモデルの本当の実力を知るためのウェブサイトです**。以前はlmarena.aiというURLで「LM Arena」と呼ばれていましたが、現在は「Arena」という名前でarena.aiに移転しています（旧URLからは自動的に転送されます）。

このサイトでは、どのAIが答えているか分からない状態で2つの回答を見比べて、どちらが良いかを評価します。

評価後に初めてAIの正体が明かされるため、先入観なく純粋な性能だけを判断できます。アカウント登録は不要で、簡単にAIモデル同士を対決させることができます。

あなたが質問を入力すると、複数のAIが回答し、その質を比較評価する仕組みです。リーダーボードでは総合ランキングだけでなく、テキスト生成やコーディングなど分野別の順位も確認できます。

つまり、Arenaはあなたが目的に合った最適なAIを見つけるための信頼できる指標を提供してくれる実用的なプラットフォームなのです。

Review **オススメ度** （比較サイトなので評価なし）

ここまでいろいろなチャットボットAIをご紹介してきましたが、「どれを使えばいいのかわからない！」「今、評価が高いAIモデルはどれなの？」ということが気になる場合は、Arenaのサイトを訪れてみてください。

そこでleaderboard（ランキング）のページを見てみると、どのAIの性能が人気なのかが一目瞭然でわかります。

ちなみに2026年11月5日時点の文章部門のランキングでは、10月28日に発表されたばかりのGoogleの「Gemini 4 Carbon」が1位（まだ投票の数が少なめです）、2位が同じGoogleの「Gemini 4 Argon」、3位がClaude Opus 5.5、4位がMetaの「Muse

Wonder」、5位から9位にはClaudeのモデル（Fable 5.1、Fable 5、Opus 4.6の2種類、Opus 4.7）が並び、10位にGoogleのGemini 3.8 Flashと、**Google・Anthropic・Metaが上位を占めました**。

一方で、ChatGPTのGPT-6.1 Solは27位、最上位モデルのGPT-6 Astraは37位、ClaudeのSonnet 5.5は31位という結果でした。

「ChatGPTが一番」というイメージとは違う順位になっているのが面白いですね。
各社から新しいモデルが公開された後は、ランキングが変動するケースも多いので、「今、どのAIモデルが優れているのか？」を自分の感覚だけではなく、世の中の評価も知りたい場合は、定期的にArenaを訪問してみてください。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

番外編

Artificial Analysis

アーティフィシャル・アナリシス

- **公式サイト**：https://artificialanalysis.ai/
- **料金プラン**：サイト上のランキングや比較データは、**アカウント登録なしで誰でも無料で見ることができます**。（企業向けには、より詳しいデータを提供する有料のサービスもあるようです。）

Artificial Analysisは、世の中に出ている**生成AIモデルを同じ条件でテストして比べてくれる、独立系の調査サイト**です。

アメリカのサンフランシスコとオーストラリアのメルボルンに拠点を置く会社が運営しており、特定のAI企業の傘下ではないため、どこかのメーカーに有利な結果になりにくいのが特徴です。

文章を書くAIだけでなく、画像生成、動画生成、音声の読み上げや文字起こし、さらにはAIコーディング用のエージェントまで、幅広い種類のモデルが比較の対象になっています。

特徴的なのが**「Intelligence Index（知能指数）」という独自の総合スコア**で、9種類のテスト（2026年10月27日に新しくなった第5版で、点数の6割は、答えが外に公開されていないテストから出しているので、答えを覚えて点数を稼ぐことがしにくい作りです）の結果を1つの数字にまとめているため、「今どのモデルが賢いのか」がひと目で分かります。

それに加えて、1秒あたりにどれだけの量を出力できるかという速さ、返事が返ってくるまでの待ち時間、そして**同じ仕事をさせたときにいくらかかるのかという料金まで、同じ画面の中で並べて比べられる**ようになっています。

画像生成や音声読み上げについては、どちらが好みかを投票で決める「アリーナ」も用意されています。

Review **オススメ度** （比較サイトなので評価なし）

私も、海外のYouTuberがこのサイトをよく紹介しているのを見かけるようになり、「どのAIの評価が高いのか」を確認したいときには、先ほどご紹介したArena（旧LM Arena）よりも、**こちらのArtificial Analysisを見ることが多くなりました**。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Arenaが「人間の投票による好み」を映しているのに対して、こちらは決まったテストの点数で比べているので、数字として納得しやすいのだと思います。

そして**個人的に一番助かっているのが、AIのコストを比べられる点です**。「賢さは少し落ちるけれど、料金は何分の1かで済む」といったモデルが一覧で分かるので、どのAIにお金を払うかを考えるときの材料になります。

私のように複数のAIツールを同時に契約していると、「本当にこの料金を払い続ける価値があるのか？」と迷う場面が出てきますが、そのときにこのサイトの数字を見ると判断がしやすくなります。

サイトはすべて英語ですが、中身はグラフと数字が中心ですので、**英語が苦手な方でも見るだけならそれほど困りません**。

（ブラウザの翻訳機能にかけてしまえば、さらに読みやすくなります。）新しいAIモデルが公開されて「実際のところ、どれくらい賢いの？」と気になったときに、まずのぞいてみると良いでしょう。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



番外編

Jev by TypeSafe AI

ジェブ

- **公式サイト**：https://typesafe.ai/ （申し込みと管理の画面：https://console.typesafe.ai/ ）
- **料金プラン**：入力が100万トークンあたり0.042ドル（日本円で7円ほど）で、出力は無料です。ただし2026年11月5日時点では、開発者がプログラムから呼び出して使う形での提供のみで、一般の方がアプリやサイトから使えるサービスにはなっていません。
  以前は順番待ちの招待制でしたが、2026年9月18日からは、いろいろなAIをまとめて使えるサービス「OpenRouter（オープンルーター）」を通せば、順番待ちなしで使えます。

Jevは、アメリカのTypeSafe AIという会社が2026年9月15日に発表した、少し変わったAIです。

何が変わっているかというと、文章をいっさい書きません。「この問い合わせは苦情か、質問か、注文か」「このお客様の声は5段階でいくつか」「この文章は社内のルールに違反しているか、していないか」といった判断だけを返します。

しかも、その判断がどれくらい確からしいかという数字も一緒に返してきます。ChatGPTやClaudeのように文章を組み立てないぶん、**答えが返ってくるまで0.07秒から0.5秒と非常に速く、費用も桁違いに安いのが特徴です**。

TypeSafe AI社はこの仕組みを「システム1のモデル」と呼んでいます。人間の脳の、じっくり考える働き（システム2）ではなく、パッと見て直感で判断する働き（システム1）のほうを担当するAI、という意味です。

ただし2026年11月5日時点では、主に文字（テキスト）での入力を前提にしていて、PDFや音声、動画は読めません。

画像（PNGとJPEGという形式の写真や図）は試験的に読めるようになりましたが、TypeSafe AI社自身が「まだ本番で使える品質ではなく、試作や実験向け」と説明しています。

英語以外の言語では精度が落ちるとされていますので、日本語でどこまで使えるかは実際に試して確かめる必要があります。

利用規約はアメリカ国内の利用者を想定した内容になっており、データもアメリカで扱われます。なお、名前の似た「Typeless（タイプレス）」というAI音声入力アプリがありますが、こちらはまったく別の会社の、別のサービスです。

Review **オススメ度** （開発者向けのため評価なし）

正直にお伝えすると、Jevは2026年11月5日時点では、**あなたが明日から使えるツールではありません**。

それでも番外編として取り上げたのは、この先あなたが使うAIツールの「中身」が変わるかもしれない、と感じたからです。

いま私たちがAIに頼んでいる作業の中には、よく考えると文章を書いてもらう必要のないものが混ざっています。

「この問い合わせを担当者ごとに振り分けて」「このアンケートの回答を良い・普通・悪いに分けて」といった、仕分けの作業がそうです。

ところがこれまでは、**その仕分けにまで、文章を書くための高価なAIを使ってきました**。Jevはそこだけを切り出して、速く安く済ませようという発想です。

100万トークンで0.042ドルという価格は、**大手のAIと比べると数百分の1の水準になります**。もしこの考え方が広がれば、あなたが使っている問い合わせ対応ツールや業務システムの中でAIが動いても、月々の料金が上がりにくくなる、ということです。

とはいえ、まだ開発者向けの提供だけで、日本語の精度も未知数ですので、「いますぐ何かを始めましょう」という話ではありません。

「AIとは文章を書いてくれるもの」という思い込みが1つ外れた、という意味で、頭の片隅に置いておくと良いニュースだと思います。

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



番外編

Obsidian

オブジディアン

- **公式サイト**：https://obsidian.md/
- **料金プラン**：**無料で使用可能です**。課金するとクラウド同期できるなどの機能はあるようですが無料で十分です。（AI機能はありませんのでご注意ください。）

Obsidian（オブシディアン）は、無料で使えるMarkdown対応のメモアプリです。Mac、Windows、Linux、iOS、Androidすべてに対応しており、クロスプラットフォームで利用できます。

最大の特徴は、データがすべてローカルのMarkdownファイルとして保存されるため、**データの所有権が完全にユーザーにあるという点です**。

ベンダーロックインがなく、将来的に他のツールに移行したい場合もデータをそのまま持ち出せます。また、双方向リンク機能により、ノート同士を内部リンクで繋げることができ、自分だけの「第二の脳」を構築できます。

「グラフビュー」機能では、これらのリンク関係を視覚的なネットワーク図として表示でき、知識の繋がりを俯瞰できます。

AIに書いてもらった文章や自分のアイデアを保存しておくツールとしてお勧めですのでこちらのチャプターの中で紹介させていただきました。

2026年8月にはバージョン1.13.6が公開され、設定画面が検索しやすい新しいデザインに作り直されるなど、細かな改良が続いています。

2026年10月5日のバージョン1.14.4では、iPhoneのロック画面やウィジェットから、すぐにメモを取れる「Quick Capture」も加わっています。

2026年10月22日には、安全性に関わる重要な修正を含むパソコン版のバージョン1.14.5が公開され、公式サイトからアプリをダウンロードし直して入れ直すよう案内されています。

2026年11月2日のバージョン1.15では、スマホ版でのPDFの書き出しと、iPhoneのQuick Captureでの音声入力も加わりました。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Review **オススメ度** ★★★★★

Obsidianは、EvernoteやNotionなど他のメモアプリの代替として非常に優秀です。個人的には、**無料でここまで多機能なメモアプリは他にないと感じています**。

Obsidianは無料かつWindowsでも使えるのでお勧めできます。特に便利なのは、**AntigravityやCursorと同じフォルダを開くことで自動的に同期できる**という点です。

Obsidianで整理しておいた過去の原稿やプロンプトを、AIエディタ側で簡単に呼び出せるので、「あのファイルどこ行ったかな」と探す時間が大幅に削減できます。

純粋な文章執筆・編集はObsidian、AIへの指示はAntigravityと役割分担することで、非常に効率的なワークフローを構築できます。

iCloudやOneDriveと組み合わせれば、パソコンが壊れてもデータは安全ですし、iPhoneやiPadからも閲覧・編集が可能です。

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

結論

どのAIチャットボットがオススメ？

ここまでご紹介してきたチャットボットAIツールを使ってみた感想としては、**「どのAIも今は進化しているのでどれもお勧めできる」**ということです。

特に2026年になってからは各社のAIチャットボットの最新モデルの性能も非常に上がっているので、どれも甲乙つけ難いです。

（なお、Siri AIは私自身がまだ使っていませんので、評価は公式情報と海外のレビューをもとにしたものです。）

ただ、やはり最低でも**ChatGPT、Gemini、Claudeの3つは無料プランでもいいので使ってみる**ことをお勧めします。

（Xのアカウントをお持ちの方はGrokも気軽に使えるAIの選択肢になるでしょう。2026年8月からはChatGPTの無料プランでも文章のチャットが実質無制限になりましたので、無料で試すハードルはさらに下がっています。）

それを踏まえて私のお勧めをお伝えすると、**いま私が仕事で使っているのはChatGPTとClaudeの2つです**。

長らくClaudeをメインにしてきましたが、2026年9月にGPT-6 Astraが公開されたタイミングでChatGPTをProプランに切り替え、正直、メインをChatGPTに戻そうかと考えていました。

理由は2つありました。1つは、最新モデルを使える量です。

Claudeは月額100ドルのMaxプランや月額200ドルのUltraプランに入っていても、最上位のFableに使えるのは週の枠の半分までと決まっています。

それに対してChatGPTのProプランは、最上位のAstraを使用制限をあまり気にせずに使えます。

もう1つは、ChatGPTなら画像生成まで1つで完結することです。**「調べる・書く・直す・画像を作る」を1つの契約の中で最後まで任せられる**のは、やはり強いと感じます。

ただ、1つ目の理由については、**2026年9月22日に状況が変わりました**。Fable 5.1並みの性能を、Fableのような制限なしに、いつもの使用枠の中で使える「Claude

Opus 5.5」が公開されたからです。

同じ日にChatGPTでも「GPT-6 Sol」と「GPT-6 Luna」が出ていますので、どちらをメインにするかは、しばらく両方を使い比べてから決めるつもりです。

9月29日には、Astraに近い性能の「GPT-6.1 Sol」も出ましたので、比べる相手がまた1つ増えました。

とはいえ、Claudeが劣っているわけではありません。文章執筆の質と、一度に書いてくれる文章量、そしてClaude Codeを使ったサイト・アプリ作成の性能は、いまも他社より一歩先にいると感じます。

仕事の文章とコーディングが中心の方には、引き続きClaudeをお勧めします。

そして、画像の生成や、実写のような動画の生成はClaudeにはできませんので、その機能を使いたい方はChatGPTまたはGeminiが適しています。

（2026年10月8日に、文字やグラフを動かす解説動画をMP4で作れる「Claude Motion」が、TeamとEnterprise向けにベータ版で出ましたが、これは映像そのものをAIで生成する機能ではありません。）

それから、もう1つお伝えしておきたいことがあります。2026年9月3日に、**ChatGPT、Claude、Grokの3つが、ほぼ同じ時間帯に約90分にわたって使えなくなる**という出来事がありました。

3社が同時に止まった原因は、2026年10月30日時点でもはっきりしていません。ここから学べるのは、「AIツールは止まることがある」ということと、**「1つのAIに仕事のすべてを預けてしまうと、その日は何もできなくなる」**ということです。

この意味でも、メインで使うAIを1つ決めたうえで、**いざというときに切り替えられる予備をもう1つ触っておくことをお勧めします**。

今後も引き続き各社が性能を競い合って開発していくはずですので、また意見は変わるかもしれません。その際は、こちらのEブックの内容もアップデートしますので、定期的にチェックしてみてくださいね。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Chapter 3

AIエージェント



Chapter 3　AIエージェント

そもそもAIエージェントって何なの？

AIの進化は目覚ましく、これまで私たちが使ってきたAIツールも、どんどん賢くなっています。特にネットで話題になっているのが、「AIエージェント」という言葉です。

これは、単に質問に答えるだけのチャットボットとは一味違う、まるであなたの優秀なパートナーのように、**様々な仕事を自動でこなしてくれるAIのことです**。

これまでのチャットボットAIは、あなたが具体的に「これをしてほしい」と命令しないと何もしてくれませんでしたし、**単一の簡単な作業しかできませんでした**。

例えば、「近くのピザ屋さんを調べて」とお願いすればお店のリストは教えてくれますが、実際にピザを注文するところまではしてくれませんでした。

あなたがメールの返信をAIに書いてもらっても、それをメールソフトに貼り付けて送信するのは、結局あなたの仕事だったと思います。

しかし、AIエージェントは違います。あなたのざっくりとした指示を理解し、その目標を達成するために何が必要かを主体的に考えて、**複数のステップにわたる複雑な作業を自律的に実行してくれます**。

まるで映画に出てくるアンドロイドのように、あなたの「手足」となって現実世界のタスクをこなすことが可能になるのです。

このチャプターでは、そんなAIエージェントとは具体的に何なのか、そして従来のチャットボットとの違いは何かを、小学生でもわかるような言葉で解説していきます。

さらに、実際にAIエージェントの機能を持つAIツールをご紹介し、あなたがAIエージェントを活用することで、日々の業務がどれだけ効率的になるのか、そしてAIが私たちの働き方をどのように変えていくのかを、具体的な例を交えながらお伝えします。

AIエージェントの登場により、私たちはもっと創造的で、**もっと大切な仕事に集中できるようになります**。この新しい技術が、あなたの未来の働き方をどう変えるのか、ぜひこのチャプターを読んで一緒に考えてみませんか？

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

Claude Cowork

クロード・コワーク

- **公式サイト**：https://claude.ai/
- **料金プラン**：Claudeの有料プランの中の機能として提供されています。**Proプラン（月額20ドル）以上で利用でき、Cowork単体の追加料金はありません**（ただし、文書・スライド・デザインを作る「Claude Docs」「Claude Slides」「Claude Design」は、無料プランでも使えます）。
  たくさん使いたい場合は月額100ドルのMaxプランか、月額200ドルのUltraプラン（アメリカ時間の2026年10月30日に「Max 20x」から名前が変わりました）を検討してみてください。

Claude Coworkは、Anthropic社が提供している「**あなたの代わりに実際の作業を進めてくれるClaude**」です。

チャット画面で質問に答えてもらうだけでなく、ファイルを開いて中身を整理したり、資料を作ったり、複数の手順が必要な仕事をまとめて片付けたりできます。

2026年7月22日には「Record a skill（レコード・ア・スキル）」という機能が追加されました。

これは、あなたが普段やっている作業の**画面操作をそのまま録画して見せるだけで、Claudeがその手順を覚えてくれる**という仕組みです。

プログラミングの知識はもちろん、上手なプロンプト（指示文）を書く技術も要りません。「いつもやっている作業を1回だけ録画する」だけで、次からは同じ作業をClaudeに任せられるようになります。

Webやスマートフォンからの利用は、8月18日に全ての有料プランで使えるようになりました。さらに8月は、Chrome拡張機能のサイドパネルがそのままCoworkの作業画面になる更新（8月12日）、チャットとCoworkであなたについて覚えた内容を共有する新しいメモリ機能（8月25日）、そしてCoworkの中にClaude専用のブラウザが組み込まれ、Claudeが自分でウェブサイトを開いてクリックや入力を行えるようになる「内蔵ブラウザ」（8月26日）と、大きな更新が続きました。

さらに2026年9月1日には、新しい最上位モデル「Claude Fable 5.1」がCoworkでも使えるようになり、2026年9月22日には、Fable 5.1並みの性能をいつもの使用枠の中で使える**新モデル「Claude Opus 5.5」も加わりました**。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Coworkでは、速さと賢さのバランスを取った「Medium（中）」という設定が初期状態になっています。

そして2026年9月16日に、大きな変更がありました。**Coworkという独立した画面がなくなり、普通のClaudeのチャットと1つに統合されたのです**。

これまでCoworkでできていたことは、どの会話からでも頼めるようになりました。すでにCoworkで進めていた作業、登録したスキル、つないでいた連携先は、そのまま残っています。

この統合はProとMaxプランから始まり、2026年10月23日には会社向けのEnterpriseプランでも正式に使えるようになりました（Enterpriseでは、管理者が設定でオンにすると使えます。Teamプランでも試験版として使えます）。

9月16日の統合にあわせて、会話の中で文書を作る「Claude Docs」とスライドを作る「Claude Slides」も公開されました。

この2つと、デザインを作る「Claude Design」は、2026年10月8日にベータ版（試験版）ではなくなり、**無料プランを含むすべてのプランで使えます**。

文書はWord・PDF・Markdown・Googleドキュメントの形で、スライドはPowerPoint・PDFのほか、そのまま編集できるGoogleスライドとしても書き出せます。

Claude Designはどの会話の中でも使えるようになり、これまでの専用サイト（claude.ai/design）は2026年12月14日まで使えますが、そのあとは、そこでのチャットやコメント、公開リンクは使えなくなります。

同じ10月8日には、BigQueryやSalesforceなどの会社のデータにつなぐと、数字が自動で最新に保たれるグラフの画面（ダッシュボード）を作ってくれる「Claude Dashboards」も、有料プラン向けのベータ版として始まりました。

また2026年10月6日からは、ProとMaxプラン（2026年10月30日に「Max 20x」から名前が変わったUltraプランを含みます）で新しく始めるCoworkの作業が、Anthropic社のクラウド（インターネットの向こうにある同社のコンピューター）で動くようになりました。

パソコンを閉じても作業が続き、パソコン・Web・スマートフォンのどこからでも進み具合を確認できます。

あなたのパソコンの中のフォルダを読むのは、デスクトップアプリを開いている間、あなたがつないだフォルダだけです。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Review **オススメ度** ★★★★★

Claude Coworkの「Record a skill」は、**正直、AIエージェントに対する私の見方を変えた機能です**。

これまでAIに自分の仕事を覚えさせようとすると、手順を1つずつ文章にして説明する必要がありました。ところが、その説明を書くこと自体がけっこうな手間で、結局「自分でやったほうが早い」となってしまいがちでした。

画面を録画するだけで済むのであれば、そのハードルは一気に下がります。同じChapter 3でご紹介しているGemini SparkやChatGPT Work、Grok Botも自律的に動くエージェントですが、Coworkは「あなたのやり方をそのまま真似させる」という方向性が強いと感じます。

定型的な事務作業が多い中小企業や個人事業主の方には、この方向性のほうが実務では役に立つのではないでしょうか。

8月26日に加わった内蔵ブラウザも、私にとっては待っていた機能です。これまではウェブサイトを操作させるにはChromeの拡張機能が必要で、「自分が使っているブラウザをAIに触らせる」ことに抵抗がある方も多かったと思いますが、Cowork専用のブラウザがサイドパネルの中で開く形になったので、あなたのブックマークやパスワードをAIに見せることなく、サイトの閲覧やフォーム入力を任せられます。

注意点もあります。録画した操作をそのまま覚えるということは、**あなたのやり方が非効率だった場合、その非効率もそのまま覚えてしまう**ということです。

録画する前に一度自分の手順を見直しておくと、良い結果になりやすいと思います。また、画面を録画する以上、そこに映るものはすべてClaudeに渡ることになりますので、**お客様の個人情報などが映り込まないように気をつけてください**。

すでにClaudeの有料プランを契約している方であれば追加費用なしで試せますので、まずは毎週やっている単純作業を1つ録画してみてはいかがでしょう。

なお、9月16日にCoworkがチャットと1つになったのは、私は良い変更だと感じています。これまでは「調べ物はチャット、作業はCowork」と自分で画面を選ぶ必要がありましたが、その判断をClaude側がしてくれるようになったので、迷う場面が減りました。

ただ、そのぶん**「Cowork」という名前は今後使われなくなっていく可能性があります**ので、この見出しも次の版では見直すかもしれません。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



ChatGPT Work

ChatGPT ワーク

- **公式サイト**：https://chatgpt.com/
- **料金プラン**：ChatGPT本体のプランの中の機能として提供されています。Plus（月額20ドル）、Pro（月額100ドル・200ドル・500ドル）、Business、Enterpriseといった各プランで利用できます。
  無料プランとGoプランでもデスクトップアプリ限定で制限付きで試せます。
  ChatGPT Work単体の追加料金はありません。
  2026年11月5日時点の公式ヘルプによると、OpenAIはWorkのエージェント機能を普段のChatGPTの中に組み込んでいく予定で、12月からはPlus・Pro・Businessプランの使える量が、ChatGPTとCodexで共有になります。
  なお、Plusプランの方が最上位モデルのGPT-6 Astraを使えるのは、このChatGPT WorkとCodexの中だけです（普段のチャット画面では使えません）。

ChatGPT Workは、**2026年7月9日にOpenAIが発表した「仕事用の自律エージェント」機能です**。

普通のChatGPTが1回のやり取りで答えを返すのに対して、ChatGPT Workは複雑な仕事を渡すと、**自分で手順を考えて最後まで進めてくれます**。

Slack、Microsoft Teams、Googleドライブ、SharePointと連携でき、文章の中で「@」を付けて「この資料を見て」と参照先を指定できるのが特徴です。

さらに、Microsoft 365やGoogle Workspaceのファイルを直接編集することもできます。

同時に、これまでの「App Directory」は「Plugin Directory（プラグインディレクトリ）」に置き換わり、スキルやアプリをまとめて「プラグイン」として扱う形になりました。

また、これまで開発者向けのアプリだった「Codex」がChatGPT本体のアプリに昇格し、従来のアプリは「ChatGPT Classic」という名前になりました。

2026年7月16日にはデスクトップアプリも刷新され、通常のチャット画面とWorkの画面がレイアウトごと分かれ、Workでの会話はクラウドに同期されるようになっています。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

8月25日には、ChatGPT Workがログインが必要なウェブサイト（会員制のサイトや管理画面など）でも作業できるようになり（ログインの情報はあなた自身が入力し、AIにはパスワードが見えない仕組みです）、Gmail・Slack・GitHubの通知をきっかけに自動で動き出す「Webhook型のスケジュールタスク」も追加されました。

さらに2026年9月9日には、じっくり時間をかけて調べ物をする**「Deep Research（ディープリサーチ）」がChatGPT Workの中でも使えるようになりました**。

ウェブだけでなく、あなたがアップロードしたファイルや、つないでいるSlack・Googleドライブなどの中身もまとめて調べたうえで、1本のレポートにしてくれます。

同じ日に、ChatGPTの中に保存したファイルやフォルダを他の人と共有して、一緒に作業できる機能も追加されました。

そして2026年9月10日には、**会社のデータを分析する「Data（データ）」というプラグインが公開されました**。

社内のデータベースやGoogleドライブ・SharePointの中のファイルにつないでおくと、「先月から売上が落ちた原因を調べて」と日本語で頼むだけで、**AIが数字を調べて、その場で対話型のグラフや表（ダッシュボード）を作ってくれます**。

作った結果はSlackやメールで共有でき、次に何をすべきかの提案までしてくれます。Power BIやTableauといった、会社でよく使われている分析ソフトの中にダッシュボードを作らせることもできます。

どのデータにつなぐかは管理者が決める仕組みで、**もともとの権限設定（この人はこの表しか見られない、など）もそのまま守られます**。

あわせて、ChatGPTに保存したファイルの置き場所として、これまでのGoogleドライブに加えてBox・Dropbox・SharePointも選べるようになりました。

2026年9月22日には、ChatGPT Workの中で使えるモデルに、新しい「GPT-6 Sol」と「GPT-6 Luna」が加わりました。

その後、**普段のチャット画面も2026年10月7日から順にGPT-6に切り替わり**、Plus・Pro・法人向けのプランではGPT-6 Sol、無料プランとGoプランでは10月8日からGPT-6 Lunaが使われています（ChatGPT WorkとCodexで使えるモデルは、この切り替えでは変わっていません）。

さらに9月23日には、ChatGPT Workでも**声で会話しながら作業を頼めるようになり**、話しながらメールやカレンダー、Slackなどのプラグインを使った仕事を任せら

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

れるようになりました。

2026年9月29日には、改良版の「GPT-6.1 Sol」もChatGPT Workで選べるようになりました（Plus・Pro・Businessなどの有料プランが対象で、無料プランとGoプランは対象外です）。

同じ日に、ProプランとBusiness・Enterpriseプランでは、チームのメンバーとChatGPTが資料を持ち寄って一緒に作業する「Space（スペース）」と、人とAIが一緒に書き込める新しい形の文書「Pages（ページズ）」が加わりました。

Pagesでは、会話の中身をそのまま文書にしたり、ChatGPTにグラフを足してもらったりできます（Spaceが使えるアカウントでは、これまでの「ライブラリ」がSpaceに置き換わります）。

Macのデスクトップアプリでは、**会議の内容からメモを自動で作る「Meetings（ミーティングス）」プラグイン**の試験版も始まりました（ProとBusinessプラン向けで、録音した音声はメモができあがると削除されます）。

BusinessとEnterpriseプランでは、SlackやMicrosoft Teamsの中で「@ChatGPT」と呼びかけて仕事を頼めるようにもなっています。

2026年10月16日には、Spaceの中でチームと一緒に直せるスライドを作る機能も、Pro・Business・Enterpriseプランで順番に使えるようになりました（詳しくはChapter 5でご紹介します）。

さらに10月26日には、速さを重視した新しいモデル「GPT-6.1 Terra（テラ）」が、ChatGPT WorkとCodexで選べるようになりました（Plus・Pro・Business・Enterpriseなどの有料プランが対象です）。

OpenAIによると、パソコンの画面操作や画像の読み取りが得意で、GPT-6.1 Solより3倍以上速く作業を終えられるそうです。

Review **オススメ度** ★★★★★

ChatGPT Workは、名前のとおり**「ChatGPTを仕事の道具に寄せた」機能だと感じます**。私がこれまでChatGPTに感じていた一番の不便は、社内の資料やチャットの中身をいちいちコピーして貼り付けなければならないことでした。

SlackやTeams、Googleドライブ、SharePointとつながり、「@」で参照先を指定できるようになったことで、そのひと手間がかなり減ります。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Googleが出しているGemini SparkがGoogleのサービスに強いのに対して、ChatGPT Workは**Microsoft 365もGoogle Workspaceもどちらも扱える**点が実務では効いてくると思います。

8月25日からはログインが必要なサイトでも作業してくれるようになったので、「会員制の管理画面から毎週データを取ってきてまとめる」というような、これまで人間がやるしかなかった作業も任せやすくなりました。

ただ、注意点もあります。1つは、旧Codexアプリがチャット本体に昇格し、これまで使っていたアプリが「ChatGPT Classic」という別物になったことで、正直、最初は自分がどのアプリを開いているのか分からなくなりました。

もう1つは、外部サービスと連携させるということは、それだけ社内の情報をChatGPTに見せることでもあるので、**会社で使う場合は必ず情報の取り扱いルールを決めてから導入したほうがよいでしょう**。

あと、自律的に動くエージェント全般に言えることですが、指示があいまいだと的外れな方向に走ることもあるので、最初は結果を確認しやすい小さな仕事から任せるのがお勧めです。

なお、**8月下旬からPlusプランでは5時間ごとの使用上限が設けられた**という報告もありますので、たくさん使う方はProプランも検討してみてください。

すでにChatGPTの有料プランを契約している方なら追加費用なしで試せますので、まずは日常的に繰り返している事務作業を1つ渡してみてはいかがでしょう。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

Claude in Chrome

クロード・イン・クローム

- **公式サイト**：https://claude.com/chrome
- **料金プラン**：Claudeの有料プラン（Pro、Max、Ultra、Team、Enterprise）の中の機能として提供されています。**単体の追加料金はありません**。（無料プランでは使えません。）

Claude in Chromeは、Anthropic社が提供しているGoogle Chrome用の拡張機能で、あなたのブラウザの中で**Claudeが実際にウェブサイトを開いて、読んで、クリックや入力をしてくれる**ツールです。

2025年からベータ版として一部のユーザーに提供されてきましたが、**2026年8月26日に正式版となり、全ての有料プランで使えるようになりました**。

8月12日の更新では、ブラウザの横に開くサイドパネルがそのままClaude Coworkの作業画面になり、会話の履歴が保存されて、パソコンやスマートフォンのClaudeから作業の続きを引き継げるようになっています。

安全だと判断した操作はClaudeが自動で進め、フォームの送信やメッセージの送信、ファイルのダウンロードといった取り返しのつかない操作の前には、あなたの元の指示と照らし合わせるチェックが入る仕組みになっています。

なお、8月26日にはCoworkのデスクトップアプリに「内蔵ブラウザ」も加わったため、「自分のChromeを触らせたくない」という方は、Cowork側のブラウザを使うという選択肢もあります。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Claude in Chromeを使ってみて感じるのは、**「調べ物」と「作業」の境目がなくなってきた**、ということです。

これまでは、AIに調べてもらった内容を見ながら、自分でサイトを開いて予約フォームを埋めたり、管理画面の設定を変えたりしていました。

Claude in Chromeを使うと、「このサイトの料金表を見て、うちのプランと比較した表を作って」というような、閲覧と作業がまざった依頼をそのまま任せられます。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

私の場合は、ウェブ上の管理画面での定型作業や、複数のサイトを見比べるリサーチで役に立ちそうだと感じています。

一方で、正直なところ注意点も多いです。まず、ブラウザの中でAIが動くということは、あなたがログインしているサイトの中身をAIが見られるということです。

ネットバンキングなどのサイトでは使わない、重要な操作は必ず自分で確認する、という線引きをしておいたほうが良いでしょう。

また、ウェブサイトの中に「AIへの指示」を紛れ込ませてAIを誤動作させる攻撃（プロンプトインジェクション）への対策はAnthropicも力を入れているとのことですが、100%ではありません（AIエージェントを使うときの注意点は、Chapter 1のコラム「仕事でAIを安全に使うための5つの注意点」にもまとめています）。

8月9日にOpenAIのAIブラウザ「ChatGPT Atlas」が終了し、OpenAIも拡張機能とアプリ内ブラウザの路線に切り替えたことを考えると、「専用ブラウザ」よりも**「今使っているブラウザにAIを足す」という形が主流になっていきそうです**。

すでにClaudeの有料プランをお使いなら追加費用はかかりませんので、まずは商品の比較調査のような、失敗しても困らない作業から試してみてはいかがでしょう。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Gemini Spark

ジェミニ・スパーク

- **公式サイト**：https://gemini.google.com/
- **料金プラン**：**Google AI Pro（月額2,900円）**またはGoogle AI Ultra（月額14,500円～）の契約で利用できます。
  Gemini Spark（いまの名前は「タスク」）単体の料金プランは用意されていません。
  18歳以上の個人用Googleアカウントが対象で、会社のGoogle Workspaceアカウントでは、2026年11月5日時点では使えません。

Gemini Sparkは、Googleが提供するAIエージェント（あなたの代わりに考えて作業を進めてくれるAI）です。

普通のチャットAIは、あなたが質問を送った時だけ返事をしてくれますが、Gemini Sparkはあなたがパソコンを閉じている間も**クラウド（Googleのサーバー）の上で24時間365日動き続け**、情報収集、データの整理、スケジュール管理、旅行の日程手配、メールの返信といった作業を自分で判断しながら進めてくれます。

GmailやカレンダーなどのGoogle Workspaceに加えて、他社のサービスとも連携でき、8月12日には議事録アプリのGranolaやOtter.ai、サイト作成のWix、チケット販売のTicketmasterなど、連携先が一気に増えました。

一度伝えた作業の手順は「スキル」として保存でき、次回からは呼び出すだけで同じ仕事をやってもらえます。

メールの送信のような取り返しのつかない操作の前には、必ずあなたに確認を取る仕組みになっているのも安心できる点です。

日本では2026年7月16日にGoogle AI Ultra向けに提供が始まり、7月29日の発表を経て、**8月上旬から月額2,900円のGoogle AI Proでも順次使えるようになりました**。

8月13日にはGemini 3.7 Flashで動くようになり、8月26日には音声で会話する「Gemini Live」から声でSparkに仕事を頼めるようにもなっています。

さらに2026年10月14日（日本時間）からは、Geminiアプリのいつものチャット画面で「チャット」から「タスク」に切り替えるだけで、**同じ画面からSparkに仕事を頼めるようになりました**（Google AI ProとUltraが対象で、日本でも使えます）。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Googleのヘルプによると、**この機能の名前は「Gemini Spark」から「タスク」に変わりました**。

これまでのタスクと予定はそのまま残っています。使えるのは、スマホアプリ、Mac用アプリ、ウェブ版（gemini.google.com）です。

タスクで使うモデルは、「Flash」か、同じ日にGeminiアプリで使えるようになった新しい「Gemini 4 Argon」から選べます。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Gemini Sparkは、これまでのGeminiとは使う感覚がまったく違うと感じます。ChatGPTやClaudeに「調べて」と頼むと、その場で答えを返してくれますが、Gemini Sparkは**「今週中にこれをやっておいて」という頼み方ができるのが大きな違いです**。

私が特に便利だと感じたのは、指示の手順を「スキル」として保存できる点で、毎週決まって発生する情報収集や資料の整理を一度覚えさせておけば、次からは一言で済むようになります。

GmailやGoogleカレンダーとそのままつながるので、すでにGoogleのサービスで仕事をしている方であれば、導入のハードルはかなり低いでしょう。

かつては月額14,500円のUltraプランが中心で、気軽に試せる価格ではありませんでした。しかし2026年8月からは月額2,900円のGoogle AI Proでも使えるようになりましたので、その心配はなくなりました。

ProとUltraで機能の差はなく、Ultraは長時間の作業に使える計算枠が多い、という違いだけのようです。

一方で、正直に言うと弱点もあります。エージェントが勝手に動くタイプのツールなので、最初のうちは「本当に正しい判断をしているか」を人間が見ておく必要があります。

重要な操作の前に確認を求めてくる設計にはなっていますが、**任せきりにするのはまだ早いという印象です**。また、会社のGoogle Workspaceアカウントでは使えず、**個人のGoogleアカウントが必要な点も、会社で導入したい方にとっては注意点です**。

すでにGoogle AI Proを契約している方は追加費用なしで試せますので、まずは自分の仕事のどこを任せられるか、小さな作業から試してみてはいかがでしょう。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Notion AI

ノーションAI

- **公式サイト**：https://www.notion.com/ja/product/ai
- **料金プラン**：
  - フリー：0円。Notion AIは、限られた回数だけ試せる「体験版」です。
  - プラス：1人あたり月1,650円。Notion AIは、フリーと同じく体験版です。
  - ビジネス：1人あたり月3,150円。Notionエージェント、AIミーティングノート、エンタープライズサーチ（ベータ版）が使えます。
  - エンタープライズ：料金は問い合わせ。ビジネスの機能に加えて、AIモデルを提供する会社にデータを残さない仕組み（ゼロデータ保持）があります。
  - 上の金額は、2026年11月5日時点の日本語の料金ページの表示です。料金ページには「年間プランで最大20%お得に」とも書かれています。
  - クレジット：ビジネスとエンタープライズでは、1人あたり毎月「スタンダードクレジット」が1,500（Notionが使うAIモデルを選ぶ作業用）と、「セレクトクレジット」が500（あなたがAIモデルを選ぶ作業や、カスタムエージェント用）付きます。どちらも翌月には繰り越せません。
  - クレジットを使い切ったあとも、管理者が許可すれば、ワークスペースで買う「Notionクレジット」で使い続けられます。料金ページでは、カスタムエージェントの料金として、1,000クレジットあたり月10ドルと表示されています。
  - ご注意：すでに使っているワークスペースも、公式の案内では2026年11月2日にこのクレジットの仕組みへ切り替わっています。

Notion AIは、メモや資料、顧客リスト、作業の管理表などを1か所にまとめられる情報整理ツール「Notion（ノーション）」に組み込まれたAIです。

中心になるのは「Notionエージェント」で、チャットで頼むと、Notionの中の情報や、つないだ外部のアプリの情報を使って、ページやデータベース（表の形で情報をためておく場所）を作ったり直したりする仕事を、あなたの代わりに進めてくれます。

2026年11月5日時点のNotionエージェントは、自分専用のパソコンとブラウザ（ホームページを見るためのソフト）を持っていて、**最長24時間かけて1つの仕事を続けられます。**

MCP（AIが外部のツールとつながるための共通のしくみ）を使って、**150以上のサービスとつなぐこともできます。**

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

作業ごとに合うAIモデルを自動で選ぶ「Auto」という仕組みもあります。Notionの説明では、20以上のよくある作業で、ClaudeのOpus 5.5やChatGPTのGPT-6 Astraに近い結果を、平均で約90%安い費用で出せたそうです。

仕事のやり方を「スキル」（AIに覚えさせて使い回せる手順書）として保存し、チームで共有することもできます。

決まった仕事を自動でこなす「カスタムエージェント」は、会議の要約ができあがるとすぐに動き出し、進み具合の報告を書いたり、やることを記録したりできます（ビジネスとエンタープライズ）。

ほかにも、会議にボットを参加させずに議事録とフォローアップを自動で作る「AIミーティングノート」や、Slack、Googleドライブ、GitHubなどつないだアプリもまとめて探せる「エンタープライズサーチ（ベータ版）」があります。

外出先からエージェントに仕事を頼める、iOS用の「Notion Agents」アプリもあります。ChatGPTのPlus・Pro・Goプランを契約している方は、その契約をNotionにつないで、自分用のNotionエージェントで使うこともできます。

公式サイト、料金ページ、ヘルプは日本語で用意されていて、料金も円で表示されます。

Review **オススメ度** ★★★★☆

私はまだ使っていませんので、公式情報と報道をもとにお伝えします。Notion AIの一番の良さは、**あなたの情報がもう入っている場所でAIが働くことです。**

顧客リストやマニュアル、議事録をNotionで管理している方なら、別のツールに資料を移さなくても、「先週の打ち合わせのメモから、やることの一覧を作って」と頼めます。

ただし、注意点が3つあります。1つ目は、**本格的に使うには1人あたり月3,150円のビジネスプランが必要なことです。**

フリーとプラスは体験版なので、使える回数に限りがあります。2つ目は、クレジットの減り方が、選ぶAIモデルで大きく変わることです。

ITmedia AI+が2026年10月28日に伝えたNotionの検証（推定の数字）では、メールの推敲（文章を整えること）で、Autoなら5クレジット、**Opus 5.5を自分で選ぶと50クレジットでした。**

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

クレジット制が発表されたときには「改悪だ」という声も上がったと、同じ記事は伝えています。Notionは、大多数のユーザーはクレジットを使い切らないと試算していますが、これはNotion自身の見込みです。

迷ったらAutoのままにしておくのが無難です。3つ目は、新しい機能が出たばかりなことです。

専用のパソコンで最長24時間動くエージェントは2026年10月19日に公開されたばかりで、使い心地を判断できる報告はまだ多くありません。

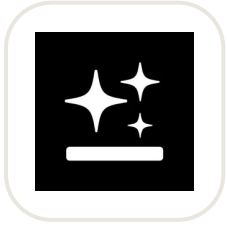
また、エージェントにつなぐアプリが増えるほど、社内やお客様の情報をAIに預ける範囲も広がります。まずは、エージェントに直接書き換えさせず、変更の案を出してもらってから、あなたが1つずつ確認して反映する使い方から始めると安心です。

すでにNotionを仕事の中心にしている方には、試す価値のあるエージェントです。一方で、まだNotionを使っていない方が、**エージェントのためだけに乗り換える必要はないと思います。**

その場合は、この章の結論のとおり、ClaudeかChatGPTで十分です。

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Genspark

ジェンスパーク

- **公式サイト**：https://genspark.ai
- **料金プラン**：**無料でも一定回数のお試しが可能です**。有料プランは月額24.99ドルのPlusプランと月額249.99ドルのProプランがあり、追加のクレジット購入も可能です。
  法人向けには1人あたり月額35ドルのTeamプラン（1人あたり毎月10,000クレジット）もあります。
  2026年9月18日からは、PlusとProプランに、毎週リセットされる無料の利用枠「Free Quota」が付き、スーパーエージェントやAIスライドなどの標準モードと、AIチャット・画像生成の基本のモデルを、クレジットを使わずに使えるようになりました。
  その代わり、新しく契約する方は、これまであった「AIチャットと画像生成が無制限」という特典の対象外です（すでに契約している方は、自動更新を続ければ2026年12月31日まで今の特典のままです）。

Gensparkの高度なAIエージェント機能は、あなたの仕事を根本から変える可能性を持っています。複数のAIが協力して、**市場調査や競合分析を自動で行い、きちんと引用つきのレポートを作ってくれます**。

情報が正しいかどうかのチェックも自動で行うので、安心して使えます。さらに驚くのは、プレゼン資料やスライドの作成、電話でのレストラン予約、動画や画像の作成まで自動でできることです。

AutoPilot Agent機能を使えば、時間のかかる調査や資料作成を任せて、完了したら知らせてくれます。

2026年1月に日本法人も設立され、日本でもCMや広告を流しているようなので日本でもユーザーが増えていくかもしれませんね。

2026年7月21日には東京で「AI Workspace 6.0」が発表され、ツールをまたいで記憶を持ち続けるSecondBrain（セカンドブレイン）、統合メールソフトのGenMail、チームで一緒に使えるGenTeam、画像などのデザイン素材を作るAI Design、プログラミングなしで業務ソフトを作れるAgentBaseなど、6つの新機能が一気に追加されました。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

同時に、カード型のICレコーダー「SecondBrain Note」（199ドル、プロモ価格179ドル。最大35時間の連続録音に対応）という自社ハードウェアも発表されています。

さらに8月3日には、Word・Excel・PowerPoint・PDFに相当する4つのソフトをまとめた**無料のオープンソースAIオフィスソフト「GenOffice（ジェンオフィス）」**を公開しました（詳しくはChapter 5でご紹介します）。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Gensparkは最初はただのAI検索ツールという印象で、あまり使っていませんでした。しかし、2024年末からどんどん新しい機能を追加して、「いろいろな仕事を任せることができる何でも屋さんの便利なAIツール」と呼べるような進化を遂げ、話題になっているツールです。

私も2025年はスライドの作成やサイト作成のコーディング機能などを中心に使っていましたが、2025年後半頃からはClaudeの性能が大きくアップしたので、正直、Gensparkを使う頻度が減ってしまい、**2026年には有料プランも解約してしまいました**。

便利なツールであるのですが、最新のAIモデルを使うと月間で使用可能なクレジットもすぐに消費してしまうので、それなら（5時間ごとや週間ごとの制限はあるにせよ）使用制限をあまり気にせずに使える**ClaudeやChatGPTの有料プランを契約する方がコスパがいいと思います**。

とりあえず**1つのツールでいろんなAIモデルを使ってみたい初心者の方には良いかもしれませんね**。ちなみに2026年7月の発表では、Gensparkは日本市場に3年間で10億ドルを投資すると表明し、製造・小売・メディアなどの国内企業9社が新たに導入したと公表されています。

8月14日にはAIスライドの標準モードのクレジット消費が約5分の1に引き下げられ、8月20日から10月1日までは日本向けに「AI Workspace 6.0の新機能を最大100%オフで使える」というキャンペーンも行われ、9月18日からは**毎週リセットされる無料の利用枠も付きましたので**、私が不満に感じていた「クレジットがすぐなくなる」問題は、少しずつ改善されているようです。

日本語での情報やサポートは今後さらに手厚くなっていきそうですので、日本のビジネスパーソンにとっては使いやすくなっていく方向だと感じます。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

Manus

マナス

- **公式サイト**：https://manus.im
- **招待リンク**：https://manus.im/invitation/RGBFUO0ZV1PNZ?utm_source=invitation&utm_medium=social&utm_campaign=copy_link（↑こちらから登録すると500クレジットがもらえます。）
- **料金プラン**：**無料でも使用可能です（毎日300クレジットが補充されます）**。個人向けの有料プランは月額20ドル（月4,000クレジット）、40ドル（8,000クレジット）、200ドル（40,000クレジット）の3種類で、年払いにすると約17%安くなります。
  2026年10月13日には、会社やチームで使うための「Team」プランが公式ブログで発表されました。
  有料の席1つあたり月20ドル（年払いなら年200ドル）からで、1席あたり毎月4,000クレジットが基本です。
  見るだけ・コメントするだけの「ゲスト」の席は無料です。Teamプランのデータを、AIモデルを作る会社に学習させないことも明記されています。

Manus（マナス）は、中国のスタートアップ企業Monicaが2025年3月に発表して大きな注目を集めたAIエージェントです。

あなたが「旅行プランを作って」と一言伝えるだけで、Manusは自分で情報を集め、プランを考え、予約まで全て自動で完了してくれます。

従来のチャットボットとは違い、Excelやブラウザなどのツールを直接操作でき、株価データの収集や資料作成なども人の手を借りずに処理できます。

作業中はリアルタイムでManusの思考過程を確認でき、安心してタスクを任せられます。2026年7月には、いきなり作業を始めるのではなく先に段取りを立ててから進める「Plan Mode（プランモード）」、1つの会話から複数の方向に枝分かれして試せる「Branch（ブランチ）」、一度作ったものを継続的に公開し続けられる「Auto-Publish（オートパブリッシュ）」などが追加され、PowerPoint形式でのスライド生成にも対応しました。

そして会社としては、2026年に大きな出来事がありました。Manusは2025年12月29日にMeta社に約20億ドルで買収されていたのですが、中国当局が国家安全保障を理由にこの買収の取り消しを求めたため、2026年6月にMetaが分離の手続きを始め、**8月11日にManusは「再び独立した会社として運営を続ける」と正式に発表しました**。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

この分離にともない、一部のユーザー（主に買収後に登録した人）については、2025年12月29日以降に作ったデータを8月23日～24日に削除する必要があり、その間はアカウントが使えなくなるという措置が取られました（8月25日から復旧用のページが開放され、対象ユーザーには割引などの「おかえりなさいボーナス」が用意されています）。

そして2026年9月28日には「Manus 2.0」が発表されました。仕組みを作り直したことで、**同じ作業にかかる時間は28%短く、費用は32%安くなった**とのことです。

メールやSlackに届いた連絡をきっかけに自動で動き出す仕組みや、デスクトップ版「Manus Studio」での動画編集にも対応しました。

個人向けの料金プランは変わっていません。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Manusは2025年になってから話題になったAIエージェントツールですが、2025年の5月から招待制ではなく、誰でも使えるようになりました。

スライドを作成できたり、Nano Banana やChatGPTなどの画像生成モデルを使って、気軽に画像を生成できるなど、Gensparkと同じようなメリットがあります。

ただ、Gensparkと同じように、ClaudeやChatGPTの性能が上がってきたので、**あえてManusを契約する意味合いが減ってきたのも事実です**。

個人的には、LINEでManusに指示ができるOpenClawのようなエージェント機能や、2026年7月に追加された「Plan Mode」のように、**AIが動き出す前に計画を見せてくれる機能がこのアプリの強みだと思います**。

（作業を丸ごと任せる時に、途中で見当違いの方向に進んでしまうのが一番もったいないので、先に段取りを確認できるのは正直、ありがたいです。）ただ、2026年8月のMetaからの分離騒動で、一部のユーザーのデータが削除されたという出来事は、AIツールを仕事で使う上での教訓になったと感じます。

「便利なクラウドのツールでも、会社の事情でデータが消えることがある」ということですので、Manusに限らず、**AIに作らせた大事な成果物は必ず自分の手元にダウンロードしておくことをお勧めします**。

なお、「Metaとの提携が解消された」と説明されることがありますが、正確には「Metaに買収されたあと、規制の関係で分離して独立に戻った」という流れです。

ただのチャットだけではなく、よりAIを使いこなしたいけど本格的なアプリ開発はハードルが高いと感じる方は、**Manusを使ってみるのはアリです**。

そこからさらにステップアップしたいと思ったら、Claude Codeでの開発にチャレンジするのも良いと思います。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



OpenClaw

オープンクロー

- **公式サイト**：https://openclaw.ai/
- **料金プラン**：OpenClawというソフト自体は無料のオープンソースで、誰でもGitHubからダウンロードして使えます。ただし、**AIモデルのAPIキーを別途契約する必要があり、その使用量に応じて費用がかかります**。

OpenClawは、オーストリア出身の開発者ピーター・シュタインベルガー（Peter Steinberger）氏が開発した、**オープンソースの自律型AIエージェントです**。

Slack、Discord、WhatsApp、Telegram、iMessage、LINEなどのあなたが普段使っているチャットアプリから、AIエージェントに「これをやっておいて」と指示を送るだけで、**AIがあなたのパソコン上で実際に作業を進めてくれます**。

ブラウザを操作したり、メールを送ったり、ファイルを編集したり、カレンダーを管理したりと、できる作業の幅が非常に広いのが特徴です。

2026年2月14日にはシュタインベルガー氏のOpenAI入社が発表され、7月8日にはプロジェクトの運営が新しく設立された非営利の「OpenClaw Foundation（財団）」に引き継がれました（OpenAIが主要な寄付者となり、シュタインベルガー氏も技術面の方針決めに関わり続けています）。

2026年7月13日の大型アップデート（v2026.7.1）では、操作画面が「会話しながら複数の作業を同時に進めるための1つのブラウザ画面」に作り直され、さらにmacOS版アプリはターミナル（黒い画面）も管理者権限も使わずに最初のチャットを始められるようになりました。

Windows向けにも「Hub」というアプリが配布されています。対応するAIモデルもGPT-5.6（Sol / Terra / Luna）、Claude Sonnet 5、Claude Mythos 5、Tencent Hunyuan Hy3、Meta Muse Spark 1.1へと大きく広がっています。

そして2026年8月31日には、ベータ版だった**v2026.8.1が「OpenClaw 2.0」として正式版になりました**。

操作画面はチャットアプリに近い形にさらに作り直され、会話を途中まで巻き戻して別の方向にやり直す機能、本筋の会話を止めずに別の質問ができる「ちょっと聞くだけ」の機能、AIが勝手に危ない操作をしないように許可を求める仕組み（許可の履歴は30日分さかのぼって確認できます）、裏で動いている作業の進み具合を会話の横に表示する機能などが加わっています。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

ただし、会話の保存の仕組みが新しくなっているため、**古いバージョンに戻すと以前の会話が見えなくなる可能性があります**。

アップデートの前にバックアップを取っておくと安心です。2026年9月21日には、セキュリティ専門企業のTrail of Bitsによる安全性の検査結果も公開されました。

見つかった24件の弱点（重大度「高」が2件）はすべて修正済みで、修正はバージョン2026.8.1と、長期サポート版の2026.7.33に含まれています。

古いバージョンを使っている方は、早めに更新しておきましょう。2026年10月2日には、公式のスキル配布所「ClawHub」の安全チェックに、Tencentの検査の仕組みも加わりました。

NVIDIAとTencentの2社の検査に、AIによる最終判断を重ねる形で、利用者の費用負担はありません。

Review **オススメ度** ★★★★☆

OpenClawは私もこれから導入してみようと考えており、まずはMac miniを購入して、それを24時間常時起動させた状態で動かす環境を作る予定です。

Mac miniは小さくて電気代も安く、ずっと電源を入れっぱなしにしてもうるさくないので、常時稼働させるAIエージェント用のマシンとしては最適です。

（8月25日にはメモリの帯域が大きく広がった新型のMac miniも発表され、「手元のパソコンでAIを動かす」用途で話題になっていますので、購入のタイミングとしても良さそうです。）AIモデルは、ChatGPT（OpenAI）のAPIキーを使う予定です。

私が実現したいのは、たとえば私が事前に書いておいた文章をAIにコミュニティの投稿画面まで運んでもらって投稿する、といった日々の作業の自動化です。

これまで「人を雇うほどでもないけど、自分でやるには時間がもったいない」と感じていた繰り返し作業を、OpenClawに肩代わりしてもらえる可能性を感じています。

ある程度のパソコンの知識が必要となるツールですので、**AI初心者の方がいきなり挑戦するハードルは高め**ですが、AIに本格的に仕事をさせてみたい方には、**2026年に最も注目すべきツールの1つだと言えるでしょう**。

なお、2026年7月のアップデートで**macOS版アプリはターミナルを触らなくても始められるようになりました**ので、以前よりも導入のハードルはかなり下がったという印象です。

開発の主体も個人から財団に移りましたので、「作者が急に開発をやめてしまうのでは？」という心配も減りました。

「黒い画面が苦手で敬遠していた」という方は、このタイミングで一度試してみてはいかがでしょう。

≡ 目次に戻る



n8n

エヌエイトエヌ

- **公式サイト**：https://n8n.io/
- **料金プラン**：
  - 自己ホスト版（Community Edition）：無料。自分で用意したサーバーに入れて使う形で、動かす回数の制限もありません。ただしサーバー代（月5〜20ドルほど）と、設定や管理の手間は自分持ちになります。
  - クラウド版 Starter：年払いで月20ユーロ。ワークフローを動かせるのが月2,500回まで。使う人数は無制限です。
  - クラウド版 Pro：年払いで月50ユーロ。月10,000回まで。
  - Business：年払いで月667ユーロ（2026年11月5日時点では、自分のサーバーで動かす版のみ）。シングルサインオンやGit連携など、会社で使うための機能が付きます。
  - クラウド版には無料トライアル（クレジットカード不要、1,000回まで）もあります。

n8nは、ドイツのベルリンにあるn8n GmbHが2019年から開発している**「アプリとアプリをつなぐ自動化ツール」です**。

画面に置いた箱（ノード）を線でつないでいくだけで、「問い合わせフォームに入力があったら→Slackに通知して→顧客リストに登録する」といった仕事の流れを組み立てられます。

そして、**その流れの途中にAIを部品として差し込めるのが最大の特徴です**。**500種類以上のアプリとつながる**ので、GmailやGoogleスプレッドシート、Slack、freeeなどを組み合わせて、途中でChatGPTやClaudeに文章を書かせたり判断させたりする、という仕組みを作れます。

ソースコードが公開されているため、**自分のサーバーに入れて無料で使うこともできます**（ただし他社に有料サービスとして提供したり、ロゴを消して自社製品として売ったりすることは禁止されています）。

2026年5月には、業務システム大手のSAPが出資して企業価値が52億ドルに倍増し、SAPの製品にn8nが組み込まれることも発表されました。

2025年12月の大型更新「n8n 2.0」では、下書きの保存と本番への公開が分けられ、うっかり動いている自動化を壊してしまう事故が起きにくくなっています。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

2026年に入ってからは、AIエージェント機能、MCP（AIが外部のツールを呼び出すための共通ルール）への対応、SlackやTelegramで人が承認してから次に進む仕組みなどが追加されています。

2026年9月25日には、**目的を文章で説明するだけでAIエージェントを作れる「n8n Agents」**の試験提供も始まりました（クラウド版なら最新版で誰でも使え、エージェントとの1往復が1回の実行として数えられます）。

なお、**自分のサーバーで動かしている方は、更新も自分の仕事です**。2026年10月28日には12件の欠陥（うち3件は危険度「高」）が公表され、2.46.1以上などの新しい版で直されています。

Review **オススメ度** ★★★★☆

n8nは、**「ZapierやMakeの請求額が高くなってきた」という方にこそ知ってほしいツールです**。Zapierは処理を1つ実行するごとに課金される仕組みですが、n8nは「ワークフローを1回動かしたら1回」という数え方なので、途中で何十個の処理をしても1回分として数えられます。

処理の数が多い自動化ほど、料金の差は大きく開いていきます。ただ、正直にお伝えすると、**これは「誰でもすぐ使えるノーコードツール」ではありません**。

まず、画面がすべて英語です。ブラウザの翻訳機能を使えば日本語で読めますが、専門用語の翻訳は不自然になります。

そして、条件で処理を分けたり、データを細かく加工したりしようとすると、プログラムの基礎知識があったほうが圧倒的に楽です。

実際に3ヶ月使った方のレビューでも「ZapierやMakeより慣れるまでに時間がかかる」と書かれていました。

ですので私がお勧めする順番は、まずZapierのような簡単なツールで「自動化とはこういうことか」という体験をしてから、物足りなくなったタイミングでn8nに移る、という流れです。

あなたの会社にパソコンに詳しい方がいるなら、その方に組んでもらうのも良い選択でしょう。逆に言えば、その壁さえ越えれば、**月に何万円も払っていた自動化ツールの費用を大きく下げられる可能性があります**。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

Dify

ディファイ

- **公式サイト**：https://dify.ai/ （日本法人のサイトは https://langgenius.co.jp/ ）
- **料金プラン**：
  - Sandbox：無料。ずっと無料で使えるお試し枠で、200メッセージ分のクレジット、アプリ5個、読み込ませる資料50件まで。
  - Professional：月59ドル。クレジット5,000／月、メンバー3人、アプリ50個、資料500件。
  - Team：月159ドル。クレジット10,000／月、メンバー50人、アプリ200個。
  - 自己ホスト版（Community）：無料。自分で用意したサーバーに入れて使う形です。
  - ご注意：上の「クレジット」は、Difyが用意したAIを使うときに減るポイントです。自分で契約したChatGPTやClaudeのAPIキーを設定すればクレジットは減りませんが、その場合はAIの利用料を各社に直接支払うことになります。「月59ドルだけで済むと思っていたら、別にAIの請求が来た」という勘違いが起きやすいところですので、覚えておいてください。

Difyは、アメリカ・デラウェア州のLangGenius社が2023年から公開している**「AIアプリを作るための工作キット」です**。

ChatGPTのような対話AIに自社の資料を読み込ませたり、複数の処理を順番に実行させたりする仕組みを、**画面上でブロックを並べるだけで作れます**。

作ったものは、社内向けのチャットボットとして公開したり、自社サイトに埋め込んだり、他のツールから呼び出せるAPIにしたりできます。

使うAIモデルはChatGPT、Claude、Gemini、Grokなどから選べて、後から差し替えても作り直す必要がありません。

2026年3月には30億円規模の資金調達を発表し、同時に「テンプレートマーケット」も公開されました。

他の人が作ったワークフローをそのまま持ってきて使えるので、ゼロから作らなくてよくなった点は大きな変化です。

そして2026年8月27日には、会話をするだけでエージェントを作れる新しい仕組みが公開されました。日本では2025年2月に**日本法人（株式会社LangGenius）が東京**

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

に設立され、リコーが販売パートナーになっているほか、NTTデータなどが参加する「一般社団法人Dify協会」も設立されています。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Difyの一番の強みは、この本の読者の方にとっては何と言っても**「管理画面が日本語で使える」ことだと思います**。

このチャプターでご紹介したn8nは画面がすべて英語ですが、Difyは設定から日本語に切り替えられますし、日本語のテンプレートも用意されています。

無料のSandboxプランがずっと使えるので、「まず自社のマニュアルを読ませたチャットボットを1つ作ってみる」という試し方が0円でできる点も、始めやすいところです。

一方で、使っている方から挙がっている不満も正直にお伝えしておきます。まず、**テスト用の環境と本番の環境が分かれていない**ので、うっかり本番を触って壊してしまうリスクが常にあります。

複数人で同時に編集するのも苦手なので、社内で使うなら「触るのは1人だけ」と決めておいたほうが安全です。

それから、**URLを知っていれば誰でもアクセスできてしまう基本設計**なので、お客様の個人情報のような機密を扱う用途では慎重になったほうが良いでしょう。

使い分けとしては、**n8nが「すでにあるツール同士をつなぐ配管工事」なのに対して、Difyは「AIそのものを作る工房」です**。

士業やコンサルタント、教室の運営など、ご自身の知識をAIに載せてお客様に提供したい方には、Difyのほうが向いていると感じます。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



dots by OpenAI

ドッツ

- **公式サイト**：https://chatgpt.com/ （dotsの解説ページ：https://openai.com/index/introducing-dots/ ）
- **料金プラン**：dots単体の料金はありません。ChatGPTのProプラン（月額100ドル・200ドル・500ドル）と、法人向けのBusiness（上位のPremium席）・Enterpriseで使えます（Enterpriseなどの大きな組織向けのプランでは、2026年11月4日に正式に提供が始まりました。11月18日までは管理者が有効にした場合に使え、11月18日からは管理者が止めない限り使えるようになります）。
  最初の1体はプランに含まれていて、追加料金はかかりません。dotsとの会話はChatGPTの使用枠には数えられませんが、dotsがChatGPT WorkやCodexで始めた作業は、それぞれの使用枠に数えられます（公開から1か月は、じっくりした作業に使える枠が多めに用意されていました。その後の条件はプランごとに知らせるとOpenAIは説明していますが、2026年11月5日時点のヘルプページには、まだくわしい内容は書かれていません）。
  2体目からの料金は、2026年11月5日時点では発表されていません。

dotsは、OpenAIが2026年9月29日（日本時間30日未明）の開発者向けイベント「DevDay」で発表した、**24時間動き続けるAIエージェントです**。

1体ずつを「dot（ドット）」と呼びます。最上位モデルのGPT-6 Astraで動き、**専用のパソコンをクラウド上に持っている**ので、あなたがパソコンを閉じている間も仕事を続けられます。

プラグインを通して4,000以上のアプリとつながり、あなたが許可すれば、あなたのパソコンを使って作業することもできます。

ChatGPT Workが「あなたが頼んだ仕事を進める」機能なのに対して、dotsは「あなた専属のスタッフとして、**状況の変化に合わせて先回りして動く**」ことを目指しています。

OpenAIが挙げている例は、お客様の声をもとにプログラムの不具合を直す、商品の内容が変わったときに販促資料を作り直す、新しいデータで分析を更新する、条件が変わるたびに提案書を作り直す、といったものです。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

一緒に仕事をするほど、あなたの好みや考え方、「どういう状態なら良い出来なのか」を覚えていくと説明されています。

作業の中身はいつでも確認できます。dotは、ChatGPTのデスクトップアプリやパソコンのブラウザに加えて、2026年10月9日までの更新で**スマホアプリからも作れるようになりました**（アプリを最新版にしておく必要があります）。

作ったあとは、スマホアプリや、SlackやMicrosoft Teamsからも話しかけられます。ただし、あなたのパソコンをdotにつなぐ設定はデスクトップアプリで行い、一度につなげるのは1台だけです（パソコンの電源が入っていて、ChatGPTアプリが開いている間だけ使えます）。

使えるのは18歳以上の方で、Proプランの場合、ヨーロッパ（EEA）・イギリス・スイスは対象外です。

日本は対象外の地域には入っていませんが、順番に提供されているため、対象のプランでもすぐには表示されないことがあります。

Review **オススメ度** ★★★☆☆

私はまだ使っていませんので、公式情報と海外のレビューをもとにお伝えします。

dotsは、この章でご紹介しているGrok Botと同じく、「クラウド上に自分のパソコンを持った、24時間働くAIの同僚」という発想のエージェントです。

ChatGPTの最上位モデルで動き、ChatGPT WorkやCodexとそのままつながるので、すでにChatGPTを仕事で使っている方ほど、任せられることが多いはずです。

ただ、2026年11月5日時点では、おすすめするのはまだ早いと感じます。理由は3つあります。

1つ目は、月額100ドル以上のProプランが必要なことです。2つ目は、公開されたばかりで不安定なことです。

いち早く試した海外のレビューサイトEveryの記事では、「権限まわりのトラブルや、送った指示が届かないことが多く、アプリの中のブラウザにつながらないこともよくあった」として、**「1〜2週間待ってから試す」ことを勧めています**。

（それでも筆者は「ChatGPTで新しい会話を始めるより、dotsに頼むほうが多くなった」とも書いていて、可能性は十分に感じます。）3つ目は、日本語での使い心地がまだ分からないことです。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

公式の資料には、日本語への対応についての記載がありません。また、AIに先回りして動いてもらうということは、それだけ多くのアプリやパスワード、社内の情報を預けるということでもあります。

dotsが使っているのは今のGPT-6 Astraですが、OpenAI自身も、次の改良版（GPT-6.1 Astra）を「頼まれていない範囲の作業まで許可なく進めてしまう」などの理由で公開を取りやめたばかりです。

すでにProプランを契約している方は、しばらく様子を見てから、**失敗しても困らない小さな仕事で試してみると良いでしょう**。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Grok Bot

グロック・ボット

- **公式サイト**：https://x.ai/grok （Grok Botの解説ページ：https://x.ai/news/introducing-grok-bot ）
- **料金プラン**：**Grok Bot単体の料金はありません**。2026年10月12日に始まった新しい料金体系「The X Subscription」のPremium（月額30ドル）以上のプランか、以前からのSuperGrok、SuperGrok Plus、SuperGrok Heavyのいずれかの契約（またはCursorの有料プラン）で利用できます。
  The X Subscriptionでは、Botが使う使用量は、GrokのアプリやCursorと共通の「週ごとの使用枠」から差し引かれ、Bot専用の枠はありません。
  以前からのSuperGrokの契約をつないで（連携して）使う場合や、Cursorの有料プランで使う場合は、Botの使用量はGrokのチャットとは別に、Cursorのアカウント側で週ごとに数えられます。
  法人向けは、GrokまたはCursorの法人向けプラン（Enterprise）を契約している会社で、管理者が管理画面から有効にすると使えます（法人向けの料金は営業窓口への問い合わせが必要です）。

Grok Botは、SpaceXSI（旧xAI）が**2026年8月11日にベータ版として発表した「24時間働き続けるAIの同僚」です**。

あなた専用のパソコンをクラウド上に持っていて、あなたが普段使っているアプリやウェブサイトにログインし、営業のメール送付やマーケティングの作業、顧客リストの更新、プログラムの修正といった仕事を最後まで自分で進めます。

あなたの作業を実際に見せて覚えさせる（デモンストレーション学習）、複数のBot同士がスレッドで連絡を取り合って共同作業をする、決まった時間に決まった仕事をする（ルーティン）、といったことにも対応しています。

当初はSuperGrok Heavyなどの上位プラン限定でしたが、**8月26日にSuperGrokの全プランとCursorの有料プランに広がりました**。

パソコンのデスクトップアプリとiPhoneアプリから利用できます。**さらに2026年9月2日にはAndroid版のアプリも公開され**、9月3日には画面の作りが大きく変わりました。

新しい画面では、チャットではなく「Bot（ボット）の一覧」が中心になり、Botごとに名前とアイコンを付けて、「営業担当のBot」「資料作成担当のBot」というように区別して管理できるようになっています。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

決まった時間に決まった仕事をさせる「ルーティン」機能も加わりました。あわせて、**X（旧Twitter）との連携も強くなり**、Botに「Xの投稿を検索して」「自分のタイムラインを見て」「メンションを確認して」といった仕事を任せられるようになっています。

SNSで自社の名前がどう語られているかを毎朝まとめてもらう、といった使い方ができそうです。2026年9月17日には、Grok Botに**声で指示を出せる音声モードが追加され**、パソコンとスマートフォンに順に提供されています。

2026年10月7日には、PowerPoint形式や**Googleスライド形式のスライド資料も作れるようになりました**。

Review **オススメ度** ★★★☆☆

Grok Botは、この章でご紹介している大手のAIエージェントの中では、**一番「人を雇う」という感覚に近いツールだと感じます**。

Claude Coworkが「あなたの手元の作業を代わりにやる」のに対して、Grok BotはGemini Sparkと同じくクラウド上で動くタイプですが、さらに一歩進んで「クラウド上に自分のパソコンを持った同僚」として、あなたが寝ている間も仕事を続けてくれる、という発想です。

Botに自分の作業を見せて覚えさせられる点は、Claude Coworkの「Record a skill」と似ていますが、Bot同士が連絡を取り合ってチームで働く、という部分はGrok Botならではで、「営業担当のBot」と「資料作成担当のBot」を分けて動かす、といった使い方ができるのは面白いですね。

ただ、正直なところ注意点も多いです。まず、公式の資料では「同じアカウントの全てのBotは1つのクラウド上のパソコンを共有するので、Bot同士を情報の壁として使わないでください」と明記されています。

つまり、**お客様ごとに情報を分けて扱いたい、というような使い方には向いていません**。また、Botがあなたの代わりにサービスにログインするということは、それだけ多くのパスワードや社内情報をSpaceXSIに預けることでもありますので、会社で使う場合は情報の取り扱いを慎重に考える必要があります。

日本語については、2026年8月19日の更新で**画面の表示言語に日本語が加わりました**が、日本で使えるかどうか（提供される国）は公式には明記されていませんので、2026年11月5日時点では**「まだ様子見」というのが私の正直な印象です**。

すでにSuperGrok（または新しい料金体系「The X Subscription」のPremium以上）に課金している方は、失敗しても困らない定型作業から試してみると良いでしょう。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

Muse by Meta

ミューズ

- **公式サイト**：https://muse.ai/ （日本向けの発表：https://about.fb.com/ja/news/2026/10/muse-personal-ai-agent-launches-in-japan/ ）
- **料金プラン**：基本的な機能は、使える量に上限つきで無料です（無料でどれだけ使えるかは公表されていません）。たくさん使いたい方向けに、次の有料プランがあります。
  有料プランの契約は18歳以上（または、住んでいる国の成人年齢以上）の方が対象です。
  - Metaのヘルプページでは、月額20ドルの「Power」（1週間に5億Museトークン。トークンはAIが処理する量の単位です）と、月額100ドルの「Maximum」（1週間に30億Museトークン）が案内されています。
  - 日本円の料金は、Metaの日本向けの発表には書かれていません。Impress Watchの記事（2026年10月23日）では、「月額2,799円～」と紹介されています。
  - Museの料金案内には、Chapter 2でご紹介したMeta AIの有料プラン「Meta One」についての記載はありません。

Muse（ミューズ）は、FacebookやInstagramを運営するMeta社の「個人向けAIエージェント」です。

2026年9月8日にアメリカで始まり、日本では2026年10月23日から、iPhone・Androidのアプリと、ウェブサイト（muse.ai）で使えるようになりました（Mac用のアプリについては、日本向けの発表には書かれていません）。

北米以外で提供されるのは、日本が最初です。Chapter 2でご紹介した「Muse Spark」は、AIの頭脳にあたるモデル（AIの中身）の名前です。

それに対してMuseは、そのモデルで動き、あなたの代わりに仕事を進めてくれるアプリです（アメリカで始まった時点では、Muse Sparkで動いていると発表されています）。

人に話しかけるようにメッセージを送るだけで、メールの送信、旅行の予約、ウェブサイトの申し込み欄の記入、あなたに代わっての交渉などを進めてくれます。

一人ひとりに専用のパソコンがクラウド（Metaのサーバー）の上に用意されていて、アプリを閉じている間も作業を続け、状況が変わったときや、あなたの許可が

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

必要なときに連絡をくれます。

メールの送信や買い物など大事な操作の前には、あなたに確認を取る仕組みです。あなたにとって大事なことを覚えておき、頼んでいないことでも先回りして提案してくれます（覚えてほしくないことは「忘れて」と伝えられます）。

日本でつなげる（連携できる）サービスとしては、Gmail、Googleカレンダー、Instagram、Stripe、Shopify、Trip.com、Agoda、Klookなどが挙げられています。

メルカリ、マネーフォワード ME、チケットぴあとの連携は、Metaが「進めて参ります」としている段階で、2026年11月5日時点では、まだ使えるとは発表されていません。

また、Metaの発表会「Meta Connect」で紹介された音声モードや、Muse専用のメールアドレスなどの機能は、日本では別途案内するとされています。

日本語に対応しているかどうかは、公式の発表には書かれていませんが、Impress Watchの試用記事（2026年10月27日）では、**日本語での依頼がそのまま通じています**。

なお、Chapter 2で触れた中小企業向けの「Muse for Small Business」は、別のアプリではなく、このMuseのアプリに仕事用の機能やつなぎ先を足すものです。

ただし、Metaがこれを発表した時点でMuseが使えたのはアメリカとカナダで、日本で使えるかどうかは、2026年11月5日時点では発表されていません。

Review **オススメ度** ★★★☆☆

私はまだしっかりとは試せていませんので、公式情報と海外のレビュー・報道をもとにお伝えします。Museは、この章でご紹介しているdotsやGrok Botと同じく「クラウド上に自分のパソコンを持ったAI」ですが、無料から始められて、**日本ですでに使えるという点では、3つの中で一番身近な存在です**。

Impress Watchによると、北米では公開から1か月で1,000万回以上ダウンロードされました。

同じくImpress Watchの試用記事では、日本語で頼んだ映画の予約を、座席と券の種類を選んで、ログインや支払いの手前まで進めてくれたそうです。

Gmailに届いていた別の予約と時間が重なることにも気づき、勝手に予定を変えずに、どちらを優先するか聞いてくれたといいます。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

一方で、セキュリティやプライバシーの心配も報じられています。2026年9月21日には、セキュリティ研究者のパトリック・ウォードル氏が見つけた、Mac版のMuseアプリの欠陥が報じられました。

パソコンにすでに悪いプログラムが入っている場合に、音声入力の中身を別のサーバーに送らせることができる、というものです。

Metaの幹部は「遠くから攻撃できるものではない」「実際の危険はかなり低い」としたうえで、修正版を出したと説明しています（英The Register）。

また、米Inc.誌のコラムニストは、Mac版のMuseに、許可していないはずのMacの「メッセージ」アプリの中身を読まれたと書きました。

Metaは、本人が何段階も許可しない限り読めない仕組みだと反論していて、決着はついていません（米TechCrunch、9月30日）。

同じ9月21日には、Amazonが、Metaから事前の連絡や許可がなかったことや、MuseがAIだと名乗らずにサイトを見て回っていることなどを理由に、Museが自社のサイトで買い物できないようにしました（Metaは、Museはパスワードや支払い方法を見ることができない、と説明しています。英The Register）。

Meta自身も、セキュリティの解説記事で**「Museは攻撃と無縁ではない」**と書き、プロンプトインジェクション（ウェブページなどに隠した命令文でAIをだます攻撃）は「業界でまだ解決していない問題」だと認めています。

トロント大学の教授も、「エージェントで多くのことをしようとするほど、自分のデータへのアクセスを多く渡すことになる」と指摘しています（カナダGlobal News、9月29日）。

こうした問題がまだ落ち着いていないことと、メルカリなど日本のサービスとの連携がまだ準備中であることから、2026年11月5日時点のオススメ度は★3としました。

試す場合は、失敗しても困らない用事から始めてください。**つなぐアカウントは必要なものだけに絞り**、お客様の情報が入った仕事用のアカウントは、最初はつながないほうが安心です。

メールの送信や支払い、住所などの個人情報の入力は、**確認の画面で中身を必ず自分の目で見てから許可しましょう**。

会話をAIの学習に使わせたくない場合は、設定でオフにできます。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

結論

どのAIエージェントがオススメ？

このチャプターでは、Claude CoworkやChatGPT Work、Gemini Spark、dots、Grok Bot、Museといった大手各社のエージェント機能、Notion AIのように普段使いのツールに組み込まれたエージェント機能と、GensparkやManusといった専業のAIエージェントツール、そしてオープンソースのOpenClawをご紹介しました。

と、紹介しておいてなんですが、2026年現在においては、**あえてGensparkやManusのような専業のツールを使う魅力が減ってしまっている**、と感じます。

その理由は、もうGensparkやManusを契約しなくても、「ClaudeやChatGPTで十分じゃない？」というレベルにまで、大手のAIツールがエージェント機能を進化させているからです。

2025年の中頃までは、AIで高品質なスライドを作りたいと思ったら、GensparkやManusを使うのがお勧めでした。

しかし、2026年現在では、もうChatGPTやClaudeでもハイクオリティなスライドを、GensparkやManusのようにクレジット数を気にすることなく作ることができます。

そう考えると、ChatGPTやClaudeとは**別のツールに課金する必要はないのでは？**というのが私の考えです。

最初はAIは、人間の質問に対して返事をしてくれる「AIチャットボット」として話題になりましたが、今ではそれだけではAIツールとしては魅力的ではありません。

なので、各社がこぞって、「AIがスライド資料やPDFの作成をしてくれたり、コードを書いてシステムを開発してくれる」などのように人間の代わりに作業を進めてくれる「AIエージェント」機能をどんどん進化させています。

2026年8月には、Claudeが自分でブラウザを操作できるようになり、Gemini Sparkが月額2,900円のプランで使えるようになり、SpaceXSIからは24時間働くGrok Botが出てきました。

9月29日には、OpenAIからも24時間動き続けるdotsが発表されています。10月23日には、Metaの個人向けAIエージェント「Muse」も日本で使えるようになりました。

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

「AIに作業を任せる」ことが、特別なことではなくなってきたと感じます。

そのため、私がおすすめのAIエージェントツールは、**AIチャットボットでご紹介した「Claude」または「ChatGPT」です**。

（Googleのサービスを中心に仕事をしている方は、Gemini Spark（いまの名前は「タスク」）も有力な選択肢になってきました。すでにNotionで社内の情報を管理している方は、ビジネスプランのNotion AIも候補になります。）もしあなたが「1つのツールで様々なAIモデルを使い比べてみたい！」と思うのなら、GensparkまたはManusを使ってみるのもありかもしれませんね。

Chapter 4

検索AI



Chapter 4　検索AI

調べ物やレポート作成はAIに任せよう

今まではネットで何か情報を得たいと思ったら、GoogleやYahoo!などの検索エンジンで特定のキーワードを入力し、表示されるサイトを1つずつアクセスして内容を確認する、というやり方が一般的でした。

もちろん今でも私用の調べ物であれば、その方法でネット上で調べ物をするのはありでしょう。

しかし、もし業務として限られた時間の中で急いで調べ物をしたり、リサーチ結果からレポート作成やプレゼンを行う必要がある場合は、**AIを使って検索をしてもらう手法を取り入れることを私は強く推奨します**。

その理由は、ChatGPTやGeminiにおける最新機能である「Deep Research（ディープリサーチ）」という検索機能を活用することで、AIが**たった数分間で数十個以上（場合によっては100個以上）のサイトをくまなくリサーチし**、**その検索結果を元に長文のレポートを書いてくれる**、ということが可能になったからです。

私もかつて勤めていた会社で新入社員の際に社長や上司からの依頼で、海外のサイトの情報を検索してレポートを作成して報告する、という業務を行っていたことがありましたが、今のAI技術があれば、そんな仕事をする必要はなくなるわけです。

（裏を返せば、AIでもできる作業だけで仕事をしていると、だんだん頼まれる仕事が減っていく、ということでもあります。だからこそ、先にAIを使う側に回っておきたいところです。）

また、上記のDeep Researchほど徹底的なリサーチの必要がない場合も、日本でもSoftBank社がプロモーションをしているPerplexity（パープレキシティ）を使って検索をすると、AIがあなたの代わりにいろいろなサイトの情報をまとめた検索結果を回答してくれるため、**少ない手間で多くの情報を得られるようになりました**。

それこそ、この電子書籍を執筆している際も、「このAIツールってどこの会社が開発しているんだっけ？」などのリサーチをする際もGoogle検索を使わずにPerplexityなどの検索AIツールで検索して素早く疑問を解消することができましたので、業務にも役立っています。

ぜひあなたも検索AIツールを実際に使ってみて、仕事の効率をアップしていきましょう！

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Perplexity

パープレキシティ

- **公式サイト**：https://www.perplexity.ai
- **料金プラン**：無料プランと有料プラン（Perplexity Pro）があり、**Proは月額20ドルまたは年額200ドル**で、詳しく調べる「Pro Search」を週単位の上限までたっぷり使えるほか、画像・ファイルのアップロード機能などが利用可能です。
  （無料プランはPro Searchが1日3回までです。）さらに上には、AIがパソコン作業を代行する「Computer」や記憶機能「Brain」を本格的に使える月額200ドル（年額2,000ドル）のMaxプランもあります。

Perplexity（パープレキシティ）は**アメリカ製の検索に強いAIツールです**。日本でもSoftBank社との提携により「パープレ」という親しみやすい名称で宣伝が行われたり日本でも浸透している検索AIツールだと言えるでしょう。

現在はComet（コメット）というブラウザも開発しており、そちらもお勧めできます。2026年7月には、使うほどにあなたの仕事のやり方を覚えていく記憶機能「Brain（ブレイン）」が登場し、7月27日にはMaxプランの加入者向けに15言語で世界展開されました。

同じく7月には当時の最新モデルのClaude Opus 5が検索機能とComputer（コンピュータ＝AIが代わりにパソコン作業をする機能）に全面導入され、回答の根拠になっている**引用元と本当に合っているかを照合してくれる「Check Sources」**、引用元の前後の文脈を確認できる「Source Context Panel」も追加されました。

調べた内容をそのままWebサイトとして公開できる機能も加わっています。8月には、複数のAIモデルに同じ質問をして意見を出し合わせる「Model Council（モデル評議会）」モード（8月4日）、メールを転送するだけでAIが作業して結果を返信してくれる「Computer in Email」（8月18日）、機密データを外に出さずに手元の機器の中だけでComputerを動かす「Portable Computer」（8月25日）などが追加され、対応モデルにもGPT-5.6 Terra / Luna、Grok 4.6、Kimi K3が加わりました。

なお、AIにパソコン作業を任せる「Computer」は、「クレジット」を使う仕組みになっています（ブラウザのCometでも、作業を任せるWorkモードではクレジットを使い、質問に答えるSearchモードでは使いません）。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

2026年11月5日時点の公式ヘルプによると、**Proプランには毎月のクレジットの補充はなく**、新しく契約したときの期間限定の特典として4,000クレジット（約30日で期限切れ）が1回だけ配られます。

その代わり、有料で契約しているProプランには、週ごとに決まった量のComputerの利用枠が順に付くようになっています（残りの量は、設定の「使用状況」のページで確認できます）。

Maxプランは毎月10,000クレジットで、新しく契約したときに35,000クレジット（約30日で期限切れ）が1回だけ追加されます。

足りなくなったときは、クレジットを買い足すこともできます。Proプランで自動操作をたくさん使おうと考えている方は、契約の前に実際の画面でご確認ください。

2026年9月21日には、AIにパソコン作業を任せる「Computer」で、作業にかける手間の度合いを選べるようになり、**ChatGPTの最上位モデルGPT-6 Astraも使えるようになりました**。

あわせて、よく使う作業の手順を「スキル」として探して取り込めるマーケットも公開されています。さらに9月29日には、Computerに、決まった時間や、SlackやGmail・Outlookに届いた連絡をきっかけに自動で動き出す「Automations（オートメーション）」が加わりました。

きっかけを待っている間はクレジットを使わず、実際に作業したときだけ消費されます。10月5日には、**Computerで動画も作れるようになり**（MiniMax H3やSeedance 2.5を使用、個人のPro・Maxプラン）、作業の画面の中で動かせるグラフも作れるようになりました。

使えるモデルにも、GPT-6.1 SolとClaude Fable 5.1（Pro・Max）が加わっています。

2026年10月19日には、Maxプランの方がComputerで、GPT-6 AstraとGPT-6.1 Solの返事を速くする「Ultrafast（ウルトラファスト）」という速さの設定を選べるようになりました。

Review **オススメ度** ★★★★★

ネット上の情報を気軽に検索したい時に、私が毎日使っているのがPerplexityです。（じっくり調べる作業はClaudeやChatGPTに任せていますが、**「ちょっと確認したい」という場面ではPerplexityが一番早いと感じます**。）Google検索だと調べるのに時間がかかる内容も、Perplexityだと同じ画面ですぐに回答に辿り着けるので、

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

「このAIツールって無料でどこまで使えるのかな？」と気になった場合などは素早く回答をしてくれるので重宝しています。

（このAIツール大全の書籍の内容を執筆する上でもPerplexityは非常に役立ちました。）また、有料プランに課金することで、ChatGPT、Claude、Gemini、DeepSeekなどの各社の最新モデルを使って回答を生成してもらうことが可能です。

2026年7月には当時のClaudeの最新モデルであるOpus 5、8月にはGrok 4.6やKimi K3も使えるようになりましたので、有料プランの価値は上がっていると感じます。

個人的には、Cometという Perplexityの公式ブラウザを気に入って使っており、Google検索の代わりにPerplexityに質問をしています。

実はProプランから無料プランにダウングレードしたのですが、無料でも十分かもしれません（笑）無料で気軽に気になったことを検索するAIとしては、お勧めできます。

ちなみに、AIの回答が引用元と本当に合っているかを確かめてくれる「Check Sources」のような機能が増えているのは、正直ありがたいですね。

AIの検索結果は便利な反面、たまに引用元に書いていないことを書いてしまうことがあるので、**こういう裏取りの仕組みは実務では効いてきます**。

8月に加わった「Computer in Email」は、computer@perplexity.com宛てにメールを送る（転送する）だけでAIが作業をして同じスレッドに返事をくれる、というもので、わざわざアプリを開かなくても仕事を頼めるという発想が面白いですね。

なお、Proプランの「Pro Searchは1日300回まで」という以前の上限は、**現在は「週単位の上限」という表現に変わっています**ので、以前の情報を見て契約を検討している方はご注意ください。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



ChatGPTの検索機能

- **公式サイト**：https://chatgpt.com/
- **料金プラン**：現在はChatGPTのサイトからアカウント登録をしなくても誰でもChatGPTのWeb検索機能を使うことが可能です。
  より詳細な検索ができるDeep Research機能は、**月額20ドルのPlusプランで月に25回程度**、月額100ドル～のProプランで月に250回程度が目安とされていますが、公式ヘルプでは現在具体的な回数が明記されておらず、残り回数は画面上のカウンターで確認する形になっています。

ChatGPTは以前はウェブ検索をすることができず、特定の年月日までの情報についてしか回答することができませんでしたが、現在は「検索する」ボタンをオンにして指示をすることで**ネット上の最新情報にアクセスして回答をしてもらうことが可能となっています**。

2026年7月9日には新しいモデル群「GPT-5.6ファミリー」（Sol / Terra / Lunaの3階層）が正式リリースされ、Plus・Proなどの有料プランでは最上位のSolを使った回答が可能になりました。

また7月14日には、ネット検索だけでなく、あなた自身の過去のチャット・プロジェクト・画像・書類を横断して探せる「Universal Search（ユニバーサルサーチ）」も追加されています。

8月には無料プランでもGPT-5.6 Lunaで文章のチャットが実質無制限になり、じっくり考えてから答える「Think」ボタンも無料プランで使えるようになりましたので、**検索AIとして無料で使える範囲がさらに広がりました**。

そして2026年10月7日からは、**普段のチャット画面のモデルがGPT-6の世代に切り替わり**（無料プランとGoプランはGPT-6 Luna、Plus以上はGPT-6 Sol）、調べた結果を図や比較表、計算ツールなどの形で見せてくれる「Intelligent UI」も始まっています。

Review **オススメ度** ★★★★★

ChatGPTの通常の検索機能は、短文の回答しかしてくれない傾向があるので、**検索AIツールとしてはイマイチだと感じます**。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

ただ、詳細な検索をAIがしてくれるDeep Research機能をオンにすると、AIが自律的にいろいろなサイトを検索してくれて数千文字から1万文字を超える詳細なレポートにまとめてくれるので、**その検索性能は非常に高いです**。

今まではネットで調べ物をする際は、Google検索をして出てきたサイトを1つずつ見ていく必要があり、場合によっては何時間も調べ物に時間を費やしていましたが、**それがわずか数分で完了するようになって非常に助かっています**。

「この方法がよくわからないけど、わかる人もいないし…」と放置していた長年の疑問も解決できたりしますので、ぜひ一度使ってみてください。

他のAIツールにおけるDeep Research機能の性能と比較してもかなり性能は高いと感じますが、**有料プランを契約する必要があり、使用回数も制限があるのがネックです**。

なお、2026年7月に追加された「Universal Search」は、ネットの外側＝自分がこれまでChatGPTに読み込ませてきた資料や過去の会話まで一緒に探してくれる機能です。

8月7日にはフォルダやファイルまで横断して探せるようにさらに強化されました。「あの資料、確かChatGPTに読ませたはずなんだけど、どの会話だったっけ？」と探し回っていた時間が減るので、個人的にはこちらもかなり便利だと感じています。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Claudeの検索機能

クロード

- **公式サイト**：https://claude.ai/
- **料金プラン**：
  - ウェブ検索：無料プランでも一部使えます。有料プラン（Proは月額20ドル）なら制限が緩和されます。
  - リサーチ（Research）：Pro・Max・Ultra・Team・Enterpriseの有料プラン限定です。
  - 追加料金はかからず、契約しているプランの枠の中で使えます。

Claudeにも、ネット上の最新情報を調べる機能が2つあります。1つ目は「ウェブ検索」で、聞かれたことに答えるために必要なときだけ、Claudeが自分で検索して、**出典のリンク付きで答えてくれる機能**です。

数秒から数十秒で返ってくるので、「この会社の最新の決算はいつ発表された？」のような、1〜2回調べれば分かることに向いています。

2つ目は「リサーチ（Research）」で、こちらは腰を据えた調査用です。1つのテーマについて何度も検索を重ね、複数のサイトを読み比べながら、**数分から長いときは45分ほどかけて1本のレポートにまとめてくれます**。

調べる深さは、質問の複雑さに応じてClaudeが自分で調整します。さらにGmailやGoogleカレンダー、Googleドライブとつなげておけば、**社内の資料とネット上の最新情報を組み合わせた調査もできます**。

どちらの機能も、答えの根拠になったページのリンクが必ず付くので、あとから自分で確かめられるのが安心なところです。

Review **オススメ度** ★★★★★

私は毎日のようにClaudeで調べ物をしていますが、その性能には十分満足しています。私の感覚では、**Claudeのリサーチ機能の良さは「調べた量」ではなく「まとめ方」にあります**。

ChatGPTのDeep Researchも非常に優秀で、量という意味ではこちらのほうが多く集めてくれる印象ですが、Claudeは集めた情報を「で、結局どういうことなのか」

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

という形に整理するのが上手です。

この書籍の改訂作業でも、各AIツールの最新情報を調べるときにClaudeのリサーチを使っていますが、**公式サイトの発表と第三者のレビューを分けて書いてくれる**ので、そのまま原稿の材料として使えます。

使い分けとしては、「答えが1つに決まる質問」ならウェブ検索、「比較して判断したい」「後で人に説明したい」ならリサーチ、と考えていただくと分かりやすいでしょう。

注意点としては、リサーチは長いときに45分ほどかかるので、その間ずっと画面の前で待つ使い方には向きません。

私は指示を出したら別の作業に移って、あとから結果を読みに行くようにしています。あと、これは他のAIも同じですが、**出てきた数字や日付は必ず出典のリンクを開いて確かめてください**。

もっともらしく書かれていても、古い情報を拾っていることはあります。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Geminiの検索機能

- **公式サイト**：https://gemini.google.com/
- **料金プラン**：無料でも使用可能ですが、回数制限があるため、定期的に使いたければ、**月額2,900円のGoogle AI Proプランを契約することが推奨されます**。

GeminiはGoogleが開発したAIツールだけあって以前からWeb上を検索する機能がありました。

そこにGemini Deep Researchという詳細な検索機能が追加され、話題になりました。ただ、同名の機能をChatGPTを始めとする競合他社もリリースしてきたためか、現在は**無料アカウントでも1日に5回までDeep Research機能が使えるようになりました**。

2026年4月にはより包括的な『Deep Research Max』が追加され、Gemini 3.1 Proベースで動作するようになりました。

図表やインフォグラフィックも生成してくれて、長時間の徹底調査にも対応するなど、さらに高機能化しています。

2026年11月5日時点では、Geminiアプリの「Flash」はGemini 3.8 Flashです。

なお、長らく待たれていた**Gemini 3.5 Proは出さないことになり**（2026年10月1日、Googleの広報担当者がロイターに説明）、その先の世代にあたる最上位モデル「Gemini 4 Argon」が、2026年10月14日（日本時間）からGoogle AI Pro（月額2,900円）とUltraの契約者向けにGeminiアプリで使えるようになりました（Google検索の「AIモード」でも、2026年10月13日（アメリカ時間）から、ProとUltraの契約者向けに世界で順に使えるようになっています）。

また、あなたの代わりに情報収集や予定の管理などを裏側で進めてくれるAIエージェント「Gemini Spark」（いまの名前は「タスク」）は、7月16日に日本でもGoogle AI Ultra向けに提供が始まり、8月からはGoogle AI Proプランでも使えるようになりました。

8月19日には、音声で会話する「Gemini Live」から声でDeep Researchを頼んで、アプリを閉じていても完了の通知を受け取り、その内容について音声で話し合える機能も加わっています。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Review **オススメ度** ★★★★★

GeminiのDeep Research機能の良いところは、文章でのレポートを生成できるだけではなく、それをウェブサイトにしたり、スライドっぽくしたり、解説音声を生成したり、理解度を試す4択クイズなど**1クリックで簡単に生成できる点です**。

どのAIツールもディープリサーチ的な機能は存在しますが、特に解説音声を簡単に生成することができるのは、2026年10月10日時点では、Geminiだけですね。

なので、「これってどうすればいいのかな？」「このテーマについての知識を深めたい」と思ったら、Geminiのディープリサーチ機能を使って質問して、そのレポートを音声で解説してもらうのが私の情報収集の方法の1つです。

やはり文章だけだと読むのが大変ですが、音声や図解での解説もあると、より理解度が上がると感じました。そのようなメリットがあるのがGeminiですので、ぜひ一度試してみると良いでしょう。

ちなみに、2026年7月から日本でも使えるようになった「Gemini Spark」は、調べ物をその場で終わらせるのではなく、裏側で動き続けて情報を集めてきてくれるタイプの機能です。

まずはGoogle AI Ultraからの提供でしたが、8月からはGoogle AI Proプランでも使えるようになりましたので、月額2,900円のプランを使っている方も試せるようになっています。

8月19日に加わった「声でDeep Researchを頼んで、あとで音声で解説してもらう」という使い方は、**私のように移動中に情報収集をしたい人間にとっては、かなり相性が良いと感じています**。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Grokの検索機能

グロック

- **公式サイト**：https://grok.com/
- **料金プラン**：Xのユーザーであれば、**無料でも一定回数はAI機能を使用可能です**。

SpaceXSI（SpaceX Super Intelligence。旧xAI、旧SpaceXAI）のAIチャット「Grok」の検索機能は、**特にX（旧Twitter）のリアルタイム情報に強い点が高く評価されています**。

海外AI界隈やマーケティング業界の最新トレンド、ユーザーの反応、新ツールの話題などを素早く把握できるため、「空気感を見るツール」として人気があります。

2026年は「DeeperSearch」というより徹底的なリサーチモードも追加され、リサーチ結果をPDFやPowerPoint、Excelファイルとして生成できるようになりました。

2026年7月に公開されたGrok 4.5、そして8月12日に公開されたGrok 4.6は、Excelでの複雑な資料作成や文書作成などの「オフィス業務」や長時間のエージェント作業を得意分野として打ち出しており、Xの投稿リサーチ→そのままレポート生成、というワークフローが**1つのAI内で完結する点は、他社にはない強みです**。

2026年7月にはこの「オフィス業務」路線がさらに進み、Microsoft 365への対応、OutlookとExcel向けのアドイン、そしてGoogleのスプレッドシート・スライド・ドキュメントで使える連携アドオンの無料提供が始まりました。

また、複数のAIを並行して裏側で走らせる「Workflows」、チャットの中でWebサイトやアプリ、ダッシュボードを作れる「Grok Build」（8月19日から全プランで利用可能）、24時間クラウド上で働き続ける「Grok Bot」（8月26日からSuperGrokの全プランで使えるようになり、2026年10月12日に始まった新しい料金体系「The X Subscription」ではPremium以上のプランで利用可能）も追加されています。

Review **オススメ度** ★★★★☆

もしあなたがX（旧Twitter）上のリアルタイムな投稿や世の中の反応を重点的に調べたいのであれば、Grok を活用するのもおすすめです。

X は投稿するハードルが低く、匿名やハンドルネームで利用している人も多いため、企業の公式発表だけではわからない**「実際に使った人の本音」や「リアルな感**

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

想」が集まりやすい媒体です。

特にAIツールや最新サービス、マーケティング関連の話題は、Google検索に情報が反映される前にX上で一気に拡散されるケースも多いため、「今、海外では何が話題なのか？」「実際に使った人はどう感じているのか？」を素早く把握したい時には非常に便利です。

とはいえ、あえてGrokに質問しなくても、Xの内容をリサーチしたければ、X内の検索機能を使うか、Googleで検索したり、他のAIチャットで質問をしても、Xの投稿内容を拾ってくれるので、**Grokが必須ではありません**。

「X内の情報を重点的にリサーチしたい！」という場合には、試しにGrokを使って検索をしてみるのも1つの方法ですね。

ただ、2026年7月にGoogleのスプレッドシートやスライド、ドキュメントで使えるアドオンが無料で提供されるようになったのは、地味ですが実務では効いてくる変化だと感じます。

「Xでリサーチした結果を、そのまま普段使っている表計算ソフトの中でまとめる」という流れが作れるようになったので、検索AIとしてだけでなく、**資料作成の相棒としても試す価値が出てきたという印象です**。

なお、8月20日前後にはGrokが意味の通らない返事を返す不具合が報じられるなど、新機能を急いで出している分、動作が不安定になる場面もあるようですので、**大事な調べ物では他のAIでも裏取りをすることをお勧めします**。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Felo

フェロ

- **公式サイト**：https://felo.ai
- **料金プラン**：無料プランと有料プランがあり、**有料プランは月額2,099円（年払いなら月あたり1,750円）**で資料生成や高度な分析機能などが利用可能です。

Feloは、**日本のスタートアップ企業Sparticle社が開発した多機能AI検索エンジン**で、検索結果を自動でマインドマップ形式に変換する機能や、検索結果を基に自動でプレゼンテーション資料を生成する機能などを備えています。

有料プランの価格も競合と言えるPerplexityよりも安いため、Feloを導入するのもありでしょう。

ただ、2026年現在は話題になることが減ってしまいましたね。とはいえ最新モデルへの対応は素早く、2026年7月5日にClaude Sonnet 5の追加、画像生成へのNano Banana 2 Liteの採用、Claude Fable 5をベースにしたリサーチ機能「Fable Research」の提供が始まり、7月14日にはOpenAIのGPT-5.6（Sol / Terra / Luna）とGrok 4.5、7月24日にはGemini 3.6 Flash、7月25日にはClaude Opus 5、8月6日にはDeepSeek V4 Flashが追加されました。

7月14日にはアップロードできるファイルの上限も拡大され（法人向けは50MB、個人向けは25MB）、AIエージェントが自動で進める作業ステップ数も50・100という長めの設定が選べるようになっています。

さらに8月11日には、文章から最長15秒・最大2Kの動画を作れる「Felo AI Video Generator」（有料プラン限定）も加わり、8月20日には画像生成にGrokの新しい画像モデル「Imagine Image 2.0」も採用されました。

9月29日には、Claudeの新しいSonnet 5.5もFelo Searchで無料で使えると発表されました（無料プランで何回まで使えるかは書かれていません）。

Review **オススメ度** ★★★★☆

FeloはPerplexityの日本版と言ってもよい検索AIツールで、UIや機能などもPerplexityにかなり似ていますので、**両方を使う必要はないと思っています**。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

PerplexityにないFeloの強みとしては、生成された検索結果から**PowerPoint用のプレゼンテーションファイルを生成することができる点**でしょう。

リサーチした内容をもとにプレゼンをする業務が頻繁に発生するのであれば、Feloを使ってみることをお勧めします。

それ以外にも、SNSのX上のデータを取得したり、検索結果を情報整理ツールのNotion（Notion AIはChapter 3でご紹介しています）に保存するなど、他のアプリケーションとの連携を重視した機能が豊富にあるようです。

そのような機能に価値を感じるのであればメインの検索AIツールとして使うのもありです。少し前までは他社のツールに対して性能が一歩遅れていた印象もありましたが、2026年に入ってからはどんどん新機能も追加されているので、あえて国産のAIツールであるFeloを使ってみるのもありだと感じます。

実際、2026年7月にはGPT-5.6やGrok 4.5といった各社の最新モデルが公開から1週間ほどで使えるようになっており、**「1つの契約で最新モデルを試したい」という方には相性が良いという印象です**。

8月には動画生成機能まで加わりましたので、「検索して、スライドを作って、動画まで作る」という流れを1つの契約で済ませたい方には、面白い選択肢になってきました。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

結論

どの検索AIがオススメ？

検索AIについても、結論を言えば「**ChatGPTやGeminiやClaudeでも十分ではないか？**」と感じます。

上記のAIツールも以前はネット上の最新情報を検索できなかった時期もありましたので、検索に強いAIツールをそれらとは別に使う意義はありました。

しかし、今ではChatGPT、Gemini、Claudeでもネット上の最新情報を検索できてしまうので、あえてPerplexityやFeloなどの検索に強いAIツールを使う意味は減っているのが正直なところです。

（AIエージェントの章でもお話ししましたが、大手のAIツールの性能がどんどん上がっているので、特定の専門分野に特化したAIツールを使う意味が減っていますよね。）

では、私自身がどうしているかをお伝えします。結論から言うと、**調べ物は基本的にClaudeとChatGPTの2つで済ませています**。

軽く確認したいことは、そのまま質問して数秒で答えをもらいます。腰を据えて調べたいときは、ClaudeのリサーチかChatGPTのDeep Researchに任せます。

この書籍の改訂作業で各ツールの最新情報を調べるときも、この2つを使っています。集めてくる量ではChatGPT、集めた情報の整理の仕方ではClaude、という印象ですが、どちらも実務で十分使えます。

スマホではAndroidを使っているので、手が離せないときはGeminiに聞くこともあります。

では、Perplexityはもう不要かというと、そうではありません。私は**Proプランから無料プランに戻しましたが、今も毎日使っています**。

スマホアプリに入れておくと最新ニュースを通知で送ってくれるので、ニュースアプリとして優秀ですし、「このAIツールって無料でどこまで使えるんだっけ？」といった軽い調べ物なら、無料のままでも十分です。

同じPerplexityが作っているブラウザ「Comet（コメット）」も気に入って使っています。（OpenAIのAIブラウザ「ChatGPT Atlas」は2026年8月9日に提供を終了しましたので、「AIブラウザ」を試したい方は、2026年11月5日時点ではCometが一番の候補になるでしょう。）

まとめると、「**調べ物のためにわざわざ新しいツールを契約する必要はありません**。まずは、あなたが普段メインで使っているAIに検索をしてもらってください。それで物足りなければ、Perplexityの無料プランを足してみる」という順番がお勧めです。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Chapter 5

スライド/資料作成AI



≡ 目次に戻る

Chapter 5　スライド/資料作成AI

面倒な資料作成の時間を削減しよう！

仕事の現場でスライドやPDFでの資料などを作るのって大変でしたよね。私もオンライン講座やウェブセミナーなどを定期的に開催しているので、「伝えたいメッセージは決まっているのにそれを高品質なスライドに落とし込む作業に時間が取られてしまう…」という悩みを長年抱えていました。

しかし、今ならAIに資料の内容をテキストで伝えて、「こんな感じの内容でいい感じのスライドを作成して」と伝えれば、**高品質なスライドやPDF資料が数分で完成する**のでいい時代になったものです。

こちらも当初は、ChatGPTやClaudeやGeminiだとスライドを作成することができなかったので、スライド作成に強い専用のAIツールを使うことを推奨していました。

しかし、2026年現在においては、ChatGPT、Claude、Geminiなどの大手のAIツールでも高品質なスライドやPDF資料を作ることができるようになりましたので、**あえてスライド作成用のAIをわざわざ使う理由は減ってしまった**のが正直なところです。

そのため、**まずはあなたがお使いのメインのAIツール**（ChatGPT、Claude、Gemini）にスライドや資料の作成をお願いしてみることをお勧めします。

私は主にはClaudeを使ってスライドや講義の補足となるPDF資料を作成してもらっています。または、画像をふんだんに取り入れた見栄えの良いスライドを作成してもらいたければ、最新の画像生成AIモデルを使うことができるChatGPTやGemini（Gemini Notebookでのスライド作成もありです）を使うことも推奨いたします。

ぜひAIにスライドを作成してもらい、スライドの中のメッセージを磨き上げることに時間を有効に活用していきましょう！

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

ChatGPTのスライド作成機能

- **公式サイト**：https://chatgpt.com/
- **料金プラン**：**無料アカウントでも使えます**（より多く使うならPlusプラン（月額20ドル）以上がお勧めです）。2026年のChatGPTの画像生成モデルのアップデートにより、ChatGPTの中でも高品質な画像を使ったスライド資料が簡単に作成可能になりました。
  現在の画像生成モデルは2026年11月4日公開の「ChatGPT Images 2.6」が最新です。
  また、2026年9月29日には、複数の人とAIが一緒に編集できる新しいスライド機能が発表されました。
  PowerPointやGoogleスライドに、見た目を崩さずに書き出せるのが特徴で、2026年10月16日から、Space（スペース：チームのメンバーとChatGPTが資料を持ち寄って一緒に作業する場所）が使えるPro・Business・Enterpriseプランで、パソコンのブラウザとデスクトップアプリから順番に使えるようになっています。
  作ったスライドは、Spaceの中で直したり、そのまま発表したり、ほかの人と共有したりできます。ブラウザからはPowerPoint・PDF・Googleスライドの形で書き出せ、デスクトップアプリからはPowerPointやKeynoteで開けます（2026年11月5日時点では、PlusプランとFreeプランでは使えません）。

Review **オススメ度** ★★★★★

2026年の初め頃までは、ChatGPTでのスライド作成機能はClaudeに遅れをとっており、仕事で使えるレベルの性能ではありませんでした。

しかし、2026年4月のChatGPTの画像生成モデルのアップデートにより、**画像入りの見栄えの良いスライドをChatGPTでも簡単に作れるようになりました**。

（**Claudeでは画像を生成することができない**ので人物の写真やイラスト的なイメージを含んだスライドを生成したければChatGPTがお勧めです。）ChatGPTも一時期はClaudeやGeminiと比べてイマイチな点が目立ちましたが、動画生成モデルのSoraから撤退するなど、不採算事業を停止して、「より仕事で使える＝お金を稼げる機能」にリソースを投下することで、ビジネスの現場でもより使いやすいAIツールとして進化していると感じます。

実際、2026年7月には新しいモデル群「GPT-5.6ファミリー」が公開され、8月6日にはその最上位モデルSolの改良版も出るなど、仕事で使う機能の強化が続いています。

以前のようにスライド作成のために**わざわざGensparkやManusを契約する必要はなくなってしまいました**ので、複数のAIツールを契約されている方は、課金されて

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

いるAIツールを見直すための良いタイミングかもしれません。

≡ 目次に戻る



Claudeのスライド作成機能

クロード

- **公式サイト**：https://claude.ai/
- **料金プラン**：
  - 無料プランでも一定回数は使えます。
  - Proプラン（月額20ドル）で使用枠が広がり、Maxプラン（月額100ドル）やUltraプラン（月額200ドル。2026年10月30日（アメリカ時間）に「Max 20x」から名前が変わりました）ならさらに余裕を持って使えます。
  - スライド作成のための追加料金はかかりません。

Claudeでスライドを作る方法は、大きく2つあります。1つは、チャットの中で「この内容でスライドを作って」と頼む方法です。

Claudeは**画面の右側に実際のスライドを表示してくれる**ので、その場で見た目を確認しながら「3枚目をもっと簡潔に」「グラフを入れて」と直していけます。

もう1つは、PowerPointのファイル（.pptx）として書き出す方法です。こちらは中身が本物のPowerPointファイルなので、**受け取った相手がそのまま開いて編集できます**。

会社のテンプレートや配色を先に伝えておけば、それに合わせた体裁で作ってもらうこともできます。また、Claudeの「Skill（スキル）」という機能を使うと、「自分の講座で使うスライドはこのデザインで」というルールを一度登録しておくだけで、毎回その形で出力させることもできます。

そして2026年9月16日には「Claude Slides（クロード・スライド）」という専用の機能がベータ版として公開され、**10月8日に正式版になって、無料プランを含むすべてのプランで使えるようになりました**。

会話の中で「スライドにして」と頼むと、その場で直せるスライドが開き、PowerPointまたはPDFとして書き出せるほか、Googleスライドにも、そのまま直せる形で送れます。

共有リンクを送れば、相手はスマートフォンからでも見られ、スマートフォンのClaudeアプリから手直しすることもできます。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

また10月6日には、Googleスライドなどの画面の横にClaudeを開いて、作りかけのスライドを読ませたり、選んだ部分をその場で直させたりできる追加機能（アドオン）も、有料プラン向けのベータ版として公開されています。

なお、Claude Slidesが公開された9月16日には、作業用の画面だったCowork（コワーク）が普通のチャットと統合されましたので、手元の資料を読み込ませてスライドを組み立てさせる、という使い方も、どの会話からでも頼めるようになりました。

Review **オススメ度** ★★★★★

私は普段からClaudeにスライドを作ってもらっていますが、性能には十分満足しています。GammaやGensparkのようなスライド専用ツールと比べたときのClaudeの良さは、**「文章の中身を一緒に考えてくれる」点だと感じます**。

専用ツールは、こちらが用意した文章をきれいに並べるのは得意ですが、「そもそも何を話すべきか」の部分は自分で考える必要があります。

Claudeの場合は、伝えたい相手と目的を先に伝えておくと、構成そのものから相談に乗ってくれるので、私のように講座や動画の台本を作りながらスライドも用意する使い方には合っています。

私の場合は、Skill機能に自分のスライドの決まり（背景色、見出しの大きさ、1枚あたりの文字数の上限など）を登録してあるので、**「このテーマで作って」と一言伝えるだけで、いつもの見た目で出てくる**ようになりました。

ここまで作り込むと、専用ツールに毎月お金を払う理由がだいぶ薄くなります。一方で、注意点もあります。

写真や素材の豊富さでは、Canvaのようなデザインツールにはかないません。「文字と図で説明する資料」はClaudeで、「見た目で惹きつけるチラシやバナー」はCanvaで、と分けるのが現実的だと思います。

また、枚数の多いスライドを一度に頼むと途中で力尽きることがあるので、**私は10枚くらいずつに分けて作らせています**。

≡ 目次に戻る



GensparkのAIスライド

ジェンスパーク

- **公式サイト**：https://genspark.ai
- **料金プラン**：無料プランと有料プラン（Genspark Plus）があり、Plusは月額24.99ドルで10,000クレジットが付与されます。

Gensparkに新しく追加された**「AIスライド」機能の性能は非常に高い**ので、AIにスライドを作成してもらいたい人は一度試してみると良いでしょう。

2026年7月21日に発表された「AI Workspace 6.0」では、画像などのビジュアル素材を作る「AI Design」が加わり、スライドに使う素材づくりまで同じサービスの中で完結しやすくなりました。

さらに8月5日には、生成したスライドをGensparkの画面上でそのまま直接編集できる内蔵エディタ（要素の移動・拡大縮小・回転、文字の書式変更、やり直しなど）が追加され、8月14日には標準モードでの**スライド生成に必要なクレジットが約5分の1**（1枚あたり10〜50クレジット）に引き下げられました。

9月10日からは、標準モードで使われるAIが、**Genspark初のスライド専用AI「Gen-1 Slides」**に切り替わっています（上位のUltraモードでは、これまでどおり他社の最新モデルも選べます）。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Gensparkの新機能「AIスライド」を試してみたら、**そのクオリティの高さにビックリしました**。何かスライドのテーマや資料を入力すると、その内容をしっかり反映した詳細なスライドを作成してくれます。

特にAIが自問自答をしながら、「今回のトピックはGoogle社が提供しているアプリについての内容だから、スライドの色もGoogleのロゴの色を意識しよう」などの思考をしながらスライドを作成してくれますので、「これがAIエージェントか！」と驚きましたね。

こちらが1つの指示をしただけで、AIが自発的に「このような指示をされたということは、ユーザーはきっとこういうことを望んでいるはずだ」という依頼者の意図を

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

汲み取った作業をしてくれるので、まるで非常に優秀なスタッフが仕事をしてくれるかのように感じました。

生成したスライドはPPT形式などで書き出して修正を行うことができますし、8月からはGensparkの画面上でそのまま手直しすることもできるようになりました（要素を動かしたり大きさを変えたりするだけならクレジットは消費しません）。

デメリットは時間がかかることと、無料プランではすぐにクレジットがなくなる点でしたが、8月14日に標準モードのクレジット消費が約5分の1に下がりましたので、こちらはかなり改善されています。

2026年7月の「AI Workspace 6.0」でビジュアル素材を作るAI Designも追加されましたので、スライドに使う画像も含めてGensparkの中で用意したい方は、試してみてはいかがでしょう。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



GenOffice by Genspark

ジェンオフィス

- **公式サイト**：https://genoffice.ai/
- **料金プラン**：**ソフト自体は無料（オープンソース）**で、広告も透かしもありません。
  文章や表を編集するだけなら無料で使えます。
  AIに作らせる機能は、Gensparkのアカウントでログインして使う（Gensparkのクレジットを消費します）か、ClaudeやOpenAI、Geminiなどの自分のAPIキー（AIを外から呼び出すための鍵）を登録して使う（その会社への利用料がかかります）か、どちらかを選べます。

GenOffice（ジェンオフィス）は、Gensparkが2026年8月3日に公開した、Word・Excel・PowerPoint・PDFに相当する4つのソフト（Docs・Sheets・Slides・PDF）をまとめた、オープンソースのAIオフィスソフトです。

2026年11月5日時点では、**MacとWindowsに加えてLinuxにも対応しており**、.docx・.xlsx・.pptx・.pdfといった**Microsoft Officeの形式のファイルをそのまま開いて編集できます**。

Webページ（HTML）とMarkdown（文章を書くための簡単な書き方）の編集ソフトも加わり、全部で6つのソフトになっています。

最大の特徴は、それぞれのソフトの中にGensparkの「Super Agent」が組み込まれていることで、「この表を月別に集計して」「この文章をもとにスライドを作って」といった指示を、ソフトを切り替えずにその場でAIに頼めます。

公開時点ではアルファ版（試験公開）という位置づけで、Gensparkは「世界初のフル機能のオープンソースAIオフィス」だとアピールしています。

Review **オススメ度** ★★★★☆

GenOfficeは、「AIで作った資料を、結局Officeで手直しする」という私たちの現実的な悩みに正面から応えようとしているツールだと感じます。

これまでのAIスライド作成ツールは、AIが作った後の細かい手直しは、PowerPointなどに書き出してから行う必要がありました。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

GenOfficeは、Officeと同じ形式のファイルを扱えるソフトの中にAIが最初から入っているので、**「AIに作らせる」と「自分で直す」を同じ画面の中で行ったり来たりできるのが強みです**。

Microsoft 365のサブスクリプション（月額千数百円〜）を払わずに、Officeの形式のファイルを開いて編集できる、という点だけでも、個人事業主の方にとっては価値があるかもしれません。

ただ、**正直なところ注意点も多いです**。まず、まだ正式版（バージョン1.0）になる前の開発中のソフトなので、動作が不安定だったり、複雑な書式のファイルを開くと表示が崩れたりする可能性は十分にあります。

会社の大事な書類をいきなりこれで扱うのは避けて、まずはコピーしたファイルで試すのが良いでしょう。また、AI機能を使うには、Genspark のクレジットか、自分で登録したAIのAPIキーの利用料がかかりますので、「無料」と言っても本格的にAIに作らせるなら、Genspark の有料プランか、AI各社への支払いが必要になります。

Microsoft 365のCopilotやGoogleのGeminiが、それぞれのOffice製品の中に組み込まれていく流れの中で、「オープンソースで、AIを最初から前提にしたOffice」という切り口は新鮮です。

無料で試せますので、Genspark をすでに使っている方は一度触ってみてはいかがでしょう。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



ManusのAIスライド機能

マナス

- **公式サイト**：https://manus.im
- **招待リンク**：https://manus.im/invitation/RGBFUO0ZV1PNZ?utm_source=invitation&utm_medium=social&utm_campaign=copy_link（↑こちらから登録すると500クレジットがもらえます。）
- **料金プラン**：**無料でも使用可能です（毎日300クレジットが補充されます）**。有料プランは月額20ドル（月4,000クレジット）、40ドル（8,000クレジット）、200ドル（40,000クレジット）の3種類です。
  2026年10月13日からは、チームで使う「Team Plan」（有料の席1つあたり月額20ドル、年払いなら年200ドルから。見るだけ・コメントするだけのゲストは無料）も始まりました。

ManusのAIスライド生成機能は、2025年5月30日のアップデートで劇的に進化しました。あなたが簡単なキーワードを入力するだけで、AIが自動的にインターネットから最新情報を集め、構成を考え、文章を書き、適切な画像を選んで美しいスライドを完成させます。

従来のスライド作成ツールとは違い、あなたは細かい指示を出す必要がありません。そして2026年7月14日のアップデートで、**ついにPowerPoint形式でのスライド生成に正式対応しました**。

さらに7月22日には、AIがいきなり作り始めるのではなく先に構成の計画を立ててから進める「Plan Mode（プランモード）」も追加されています。

なお、Manusは2026年8月11日にMeta社からの分離と独立運営への回帰を発表し、その際に**一部のユーザーのデータが8月23日〜24日に削除される**という出来事がありました（詳しくはChapter 3のManusの項をご覧ください）。

Review **オススメ度** ★★★★☆

AIエージェントツールのManusが新しいスライド作成機能「Manusスライド」を公開しましたので、実際に私も使ってみました。

この機能は、GensparkやPerplexityと同じように、あなたが調べたい内容を入力するだけで、AIが自動的にプレゼンテーション資料を作ってくれるものです。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

実際にChatGPTの歴史とユーザー数の推移について調べてもらったところ、AIがまず詳細な構成を計画し、その後12枚の綺麗なスライドを順次作成してくれました。

作成後は文章の編集もできて、PDFでダウンロードしたり、URLを生成して他の人と共有することも可能です。

以前はChatGPTでは難しかったスライド作成も、ManusやGensparkといった新しいAIツールなら簡単にできます。

特にManusは数百ページの長いプレゼンテーションも得意で、無料プランでも毎日300クレジットが回復するため、あなたの目的や用途に合わせて**両方のツールを実際に試してみることをおすすめします**。

そして2026年7月14日のアップデートでPowerPoint形式での生成に正式対応しましたので、「出来上がったスライドの見た目は良いけれど、結局PowerPointで手直しできないのが不便だった」と感じていた方には、朗報だと言えるでしょう。

会社の書式に合わせて自分で調整する前提でAIにたたき台を作らせる、という使い方がしやすくなったのは、実務では地味に大きな変化だと感じます。

ただ、8月にはMetaからの分離にともなって一部ユーザーのデータが削除されるという出来事もありましたので、**Manusで作ったスライドは必ず手元にダウンロードしておく**、ということだけは忘れないようにしてください。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

イルシル

- **公式サイト**：https://irusiru.jp/
- **料金プラン**：
  - フリープラン：0円。スライドを3個まで作れます。ただしPDFやPowerPointへの書き出しはできません。
  - パーソナルプラン：月額1,680円（税抜）。スライドの作成数は無制限で、PDF・PowerPointへの書き出しもできます。
  - パーソナルプラスプラン：年額66,000円（税込。月あたり5,500円）。メンバーを招待して一緒に使えるほか、AIでデザインを作れる枚数が1人あたり月200枚（パーソナルプランは月40枚）に増えます。
  - 法人プラン：料金は問い合わせが必要です。作成数は無制限で書き出しにも対応しています。
  - パーソナルプランとパーソナルプラスプランを年払い（1年）で新しく申し込む場合に限り、3日間の無料トライアルがあります（1か月・6か月のプランには付きません）。トライアルが終わると自動で有料プランに切り替わるので、続けない場合は期間内に解約してください。

イルシルは、日本の会社が開発している**日本製のAIスライド作成ツールです**。作りたい内容のキーワードや文章を入力すると、AIが構成を考えてスライドを自動で組み立ててくれます。

最大の特徴は、**3,000種類以上あるテンプレートがすべて日本語のビジネス資料を前提に作られている**ことです。

日本語の見出しと本文が入ったときに、文字の大きさや行間、図の配置が崩れないように設計されています。会社のロゴや色を登録しておけば、資料全体をブランドの色に揃えることもできます。

作ったスライドはブラウザ上で編集でき、有料プランならPDFやPowerPointの形式で書き出して、そのまま社内の会議やお客様への提案に使えます。

Review **オススメ度** ★★★★☆

このチャプターでご紹介しているスライド作成AIのうち、GammaもNapkin.aiもBeautiful.aiも、すべて海外のツールです。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

正直に書きましたが、Beautiful.aiは日本語を入れるとどうしても見栄えが悪くなってしまいます。

その点、イルシルは最初から日本語の資料を作るために設計されているので、**「日本語を入れたら急にダサくなった」ということが起きにくい**のが良いところです。

日本の会社の稟議書や提案書のような、独特の見た目が求められる資料を作る場面では、海外ツールよりも素直に使えると思います。

ただ、注意点が1つあります。**無料のフリープランではスライドを3個までしか作れず、しかもPDFやPowerPointへの書き出しができません**。

つまり、無料の範囲では「作ってみて画面で眺める」ところまでで、実際に配ったり印刷したりはできない、ということです。

「AIでスライドを作る感覚を掴むための体験版」と考えて、気に入ったら月1,680円のプランに進む、という使い方になるでしょう。

海外ツールの英語の画面や、日本語の崩れにストレスを感じていた方は、一度こちらを試してみると良いかもしれません。

≡ 目次に戻る



Gamma

ガンマ

- **公式サイト**：https://gamma.app
- **料金プラン**：
  - Freeプラン: 基本機能を無料で利用可能。サインアップ時に400 AIクレジットが付与され、基本的なAI画像生成や1回の指示で最大10枚のスライド生成が可能です。
  - 有料プラン: **Plusプランは月額1,800円**（年間契約の場合は月あたり1,440円。金額は2026年11月5日時点で、日本から公式の料金ページを開いたときの表示です）。毎月1,500クレジット、高度なAI画像生成、「Made with Gamma」の透かし削除、1回の指示で最大100枚のスライド生成などが含まれます（AIで作ったり直したりするたびにクレジットを使う仕組みで、無制限ではありません）。さらに上にはProプラン（月額3,500円、年間契約なら月あたり2,500円、毎月4,000クレジット）とUltraプラン（月額14,750円、年間契約なら月あたり13,274円、毎月20,000クレジット）、チーム向けのBusinessプラン（1人あたり月額5,900円、年払いのみ、毎月10,000クレジット）もあります。

Gammaは、アメリカのスタートアップ企業で開発されている便利なAIスライド作成ツールです。簡易的なウェブサイト作成機能もあるので、スライドだけではなく、簡単なランディングページやホームページを作りたい人はGammaを使うことで業者さんに支払うコストを大きく削減できるはずです。

2026年8月25日には、デザイン系のスタートアップであるLica（リカ）社を買収し、新しく「デザインリサーチ部門」を立ち上げると発表しました。

報道によると、**Gammaの利用者は1億人を超え、年間の売上は1億ドル、企業価値は21億ドル**に達しているとのことです。

そして2026年10月6日には、**大きな作り直し版の「Gamma 5」が、無料プランを含むすべてのプランで公開されました**。

デザインを始める前に、**AIが質問しながら話の筋を一緒に固めてくれる**ようになったほか、AIに任せて直す方法と、自分で自由に配置を動かす方法を切り替えられるようになりました。

手持ちのPowerPointやPDFも、**見た目を保ったまま取り込んで部分ごとに直せます**。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Review **オススメ度** ★★★☆☆

私もオンライン講座の作成やウェブセミナーの準備のためにスライド作成にこれまでの人生でかなり時間をかけてきた記憶がありますが、Gammaはその**面倒なスライド作成の時間をかなり削減してくれる便利なツールです**。

私が開講しているAI講座でも「AIに書いてもらった文章をGammaに貼っただけですぐにスライドが完成しました！」という嬉しいご感想も頂いてますので、まず無料で試してみることを推奨いたします。

スライドの中の画像も複数のAI画像生成モデルの中から好きなものを選択できますので、いろいろな画像生成AIモデルも試してみると良いでしょう。

ただ、最近はGensparkやManusなどのAIエージェントツールでスライドを作成する機会が増えてしまったので、**残念ながらGammaはほとんど使わなくなってしまいました**…。

とはいえ、利用者1億人・年間売上1億ドルという規模まで成長し、8月にはデザイン会社の買収まで行っているので、「AIスライドの専業ツール」としてはしっかり生き残っている印象です。

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Napkin.ai

ナプキンai

- **公式サイト**：https://www.napkin.ai
- **料金プラン**：**無料プラン（週に500クレジット）**、月額9ドルのPlusプラン（年払いなら月あたり6.75ドル）、月額22ドルのProプラン（年払いなら月あたり16.5ドル）の3つのプランがあります。

Napkin.aiは、テキストを入力すると、それをもとに**図解画像を瞬時に生成できる便利なツールです**。

SNS投稿やブログ、スライドで使うための図解画像を素早く作成したい方は試してみると良いでしょう。（しばらく無料プランのみでしたが、ついに有料化し、一定のクレジット内でのみ無料で使用できるようになりました。）

Review **オススメ度** ★★☆☆☆

Napkin.aiは無料でも使えるにもかかわらず、スライドやプレゼンやブログ記事などで使える図解画像が瞬時に作成できると話題になっているツールです。

例えば、スライド自体は前述のGammaで作成して、そのスライド内の特定の画像だけ、Napkinを使って生成した図解画像に置き換える、というような**2つのツールを組み合わせた使い方もお勧めです**。

また、**日本語にもしっかり対応しています**ので、日本語の文章を使った図解画像も簡単に作成できますし、「〇〇について教えて」と指示をしたら（おそらく裏側でChatGPTなどのAIモデルを使って文章を執筆していると予想しますが）日本語の文章で回答をしてくれ、その文章の中の特定のパートに関する図解画像を作ってもらう、ということも簡単にできます。

そのようにNapkin内で文章を書いてもらいながら、さらに図解画像も作ってもらうという使い方もできますので、一度試してみてはいかがでしょうか。

ただ、「図解画像を作れる」というだけだと**他の便利なAIツールと比べると弱い**ので、どこか大手の会社に買収されて統合された方が良いのでは？という気もします。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

Beautiful.ai

ビューティフルai

- **公式サイト**：https://www.beautiful.ai
- **料金プラン**：
  - Proプラン: 個人ユーザー向けで、月額14.50ドル（**年間契約時。月払いだと45ドル**）。無制限のスライド作成、AIコンテンツ生成、バージョン履歴、PowerPointのインポート/エクスポート、視聴者分析、スライド＆プレゼンテーションのインスピレーションライブラリなどが含まれます。
  - Teamプラン: チーム向けで、月額40ドル/ユーザー（年間契約時。月払いだと50ドル/ユーザー）。2〜20ユーザーが対象です。Proプランの全機能に加え、Salesforce統合、共同作業スペース、カスタム会社テーマ、中央管理のスライド＆テンプレートライブラリ、共有アセットライブラリなどが提供されます。

Beautiful.aiは、AIを活用して美しいプレゼンテーションを迅速に作成できるツールです。ユーザーがコンテンツを追加すると、スライドが自動的に適応し、デザインの手間を省きます。

2026年3月には「Beautiful.ai 3.0」として文脈を理解するAI機能が追加され、**日本語を含む15言語への対応も発表されています**。

Review **オススメ度** ★☆☆☆☆

Beautiful.aiは海外ではよくお勧めされるAIスライド作成ツールで、私も1年ほど課金をして使ってみましたので、正直な感想をお伝えしますが、**少なくとも日本語の環境においては使いづらいです**。

生成されるスライド画像も英語だけならよいのかもしれませんが、日本語を入力するとダサい感じになってしまうので、英語以外の言語へのローカライズが微妙な印象です。

それならば**Gammaを使う方が遥かに内容も見栄えも良いスライドができる**と感じましたので**使わなくてOKです**。

（2026年3月に日本語を含む15言語への対応が発表されましたので、以前より改善されている可能性はありますが、私はまだ確かめていません。）「だったら紹介するなよ」と言われそうですが、私のように無駄なお金を支払う人を減らしたいので「お勧めしない」ということを伝えるためにこの書籍の中であえて取り上げました。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

結論

どのAIツールがオススメ？

AIスライド作成ツールは、しばらくGamma（ガンマ）をお勧めしていましたが、最近はGensparkやManusの「AIスライド」作成機能が話題になっており、実際に試してみましたが、**かなりのクオリティのスライドを作成できることを確認しました**。

Gammaも非常に素晴らしいツールなのですが、指定した設定やテンプレートに従って素早くスライドを生成する、というツールなので、**毎回同じようなスライドになってしまいがち**、というデメリットもあります。

それに対して、GensparkやManusのAIスライド機能は、「AIがしっかり考えながら、ユーザーの意図を可能な限り汲み取って、最適な出力をしようと努力してくれている」という様子が見て取れるので、**GensparkもManusもどちらもオススメできます**。

（AI業界は競争が激しいので開発する側は大変ですが、私たちユーザーとしては各社が競争しあってより良いツールの選択肢が増えていくことは嬉しいことですよね。）

ただ、2026年現在は、ClaudeやChatGPTのスライド生成機能もレベルアップしていますので、**あえてスライド作成のためにManusやGensparkを契約するほどではない**、という状況に変わってきました。

以前はChatGPTやClaudeやGeminiでできないことをManusやGensparkで行うために契約してきましたが、大手のツールの性能が上がってきたことで、正直、それらのツールの存在意義が揺らいでいるとも感じます。

いくらスタートアップが大手のAIツールにできないことを売りにして人気を集めても、やがて大手が同じ機能を実装してしまうと、あえてそれ以外のツールを別途契約する必要性も下がってしまうので、AI時代のツール開発の難しさを感じますね。

（その意味で、Gensparkが2026年8月に出した無料のオープンソースOffice「GenOffice」のように、「大手と同じ土俵ではなく、別の切り口で勝負する」という動きは、今後も注目していきたいところです。）

最後に、このチャプターでご紹介したツールを、目的別にまとめておきます。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

まず、すでにChatGPTかClaudeを契約している方は、**そのままスライド作成を頼んでみてください**。

これが一番お金がかかりません。まだどれも契約していない方も、ClaudeのSlides機能は2026年10月8日から無料プランでも使えるようになりましたので、まずは無料で試してみるとよいでしょう。

日本語の見た目にこだわった資料を作りたい方や、**日本の会社らしい体裁の稟議書・提案書が必要な方は、イルシルが向いています**。

テンプレートに沿って素早く大量に作りたい方はGamma、文章を図やイラストに変えたいだけならNapkin.aiが便利です。

なお、Beautiful.aiは海外でよく勧められていますが、日本語を入れると見た目が崩れやすいので、**日本語で使う前提なら私はお勧めしません**。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Chapter 6

要約AI



Chapter 6　要約AI

莫大な情報をAIを使って瞬時に理解しよう

要約はAIが得意な分野の1つであり、ChatGPTなどのチャットボットAIに長文の文章やPDFを貼り付けて、要約をしてもらったり、その内容についてAIに質問するなどの活用をされている方は多いでしょう。

小説や映画であれば、休みの日にゆっくりコンテンツを消費するのも休日の醍醐味ですが、「新しい情報やノウハウ」の場合は、毎日のように出てくるので、忙しい仕事中に時間をかけてじっくりと内容を消化することは難しいですよね？

私自身も毎日海外の情報をネット上から集めたり、英語のYouTubeやドキュメントに触れる機会も多いですが、AIの進化によってそれらを素早く理解することが容易になったので、外国語の内容を理解するための労力が減って本当に助かっています。

例えば、数時間もの英語のYouTube動画の内容を短時間で理解するには、Googleの**Gemini Notebook（旧NotebookLM）という無料のサービス**を使って、そのYouTube動画を読み込ませると、素早く内容を要約してくれたり、要約した内容を解説してくれる音声（現在は日本語にも対応しています）を生成してくれたりします。

Gemini Notebookを使えば、YouTubeだけでなくPDF文書の内容も同じように瞬時に要約したり、その文書の内容について質問しても詳しく回答をしてくれるので、**英語が得意な優秀な秘書を無料で雇うことができているかのようです**。

Gemini Notebook以外にも、ウェブサイトやYouTube動画の内容を**1クリックで素早く要約してくれるGoogle Chromeの拡張機能**や、大量の情報を瞬時にマインドマップ化して理解を助けてくれるMapify（マッピファイ）などの便利な要約AIツールをこのチャプターでご紹介しています。

ぜひ一度試していただき、あなたのお仕事の生産性アップに役立ててください。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Gemini Notebook

旧NotebookLM

- **公式サイト**：https://notebook.google.com
- **料金プラン**：Gemini Notebookは無料で使うことができますが、月額2,900円（税込）のGoogle AI Proに課金すると、音声解説などを作れる量が無料プランの4倍になり、作れるノートブックの数（100個→500個）や、1つのノートブックに読み込ませられる資料の数（50個→300個）も増えます。
  ただ、**一般的な用途であれば無料プランでも十分です**。

Gemini Notebook（旧NotebookLM）は、Googleが提供するAIノートテイキングおよびリサーチアシスタントツールで、ドキュメントやYouTube動画、音声ファイルなどを要約し、チャットボット形式での対話も可能です。

特に、**YouTubeのリンクを貼り付けるだけで、全文の文字起こしや要約を自動的に生成する**機能が注目されています。

さらにはマインドマップや音声、動画、スライドまで生成する機能も追加されました。2026年7月16日の名称変更と同じタイミングで、安全に守られたクラウド上のコンピュータでプログラムを実際に動かす「ネイティブコード実行」にも対応し、これまで難しかった**複雑なデータ分析までこのツールの中でできるようになりました**。

（この機能はGoogle AI Ultraの利用者とWorkspaceの利用者から先に提供され、Proプランの利用者にも順次広げられています。）また、Geminiアプリとの間で内容を同期できるようになり、**Google検索のAIモードからも同じノートブックを開いて使えるようになりました**（2026年11月5日時点では、AIモードの中で使えるのは英語だけです）。

8月には、ノートブックを丸ごと複製する機能（8月17日）や、Google Playブックスで購入した電子書籍をそのまま資料として読み込ませられる機能（8月27日）も追加されました。

そして2026年9月2日からは、使用量の数え方が変わりました。これまでの「1日に何回まで」という単純な回数制限がなくなり、指示の複雑さや資料の数に応じて消費量が変わる仕組みになっています。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

残りの量は画面のバーで確認でき、5時間ごとに回復します。使える量の目安は、無料プランを1倍として、Google AI Plusが2倍、Google AI Proが4倍です。

2026年9月15日には、**ノートの中身について声で会話できる機能が加わりました**。約100の言語に対応し、こちらから途中で割り込んで質問することもできます。

あわせて、スマートフォンで講義や会議をその場で録音してノートに取り込む機能と、内容を約60秒の動画にまとめる機能（80以上の言語に対応）も追加されました。

声での会話は、まずGoogle AI Ultraの契約者から使えるようになっています。スマートフォンのアプリでの録音機能は、2026年10月27日からAndroidとiPhoneで広く提供が始まり、1回に1時間まで録音できます。

さらに2026年9月23日には、音声解説の読み上げに、Googleの新しい音声モデル**「Gemini 3.8 Flash TTS」が使われるようになりました**。

2026年10月23日には、Geminiアプリのチャットの中から「ノートブックを作って」「この資料を足して」と頼むだけで、Gemini Notebookのノートを作ったり、資料を追加したり、中身について質問したりできるようにもなりました（個人のGoogleアカウントとGoogle Workspaceの両方で使えます。ただし、ヨーロッパの国々では初めは設定がオフになっています）。

Review **オススメ度** ★★★★★

NotebookLM（現在の名称はGemini Notebook）はGoogleが開発しているサービスということもあり、**これだけの機能があるツールを無料で使えるのはすごいこと**だと感じます。

個人的にも数時間の英語のYouTube動画などを読み込ませて、その要約文章を読んだり、解説音声を生成してもらって聞くことで、英語の情報を素早く理解するために活用しています。

具体的な活用例を挙げると、特定の新しいツールや機材の使い方を学びたい時に、開発元が公開している数百ページもの取り扱い説明書のPDFをGemini Notebookにアップロードし、わからない点が出てきたら、チャットで質問をして解説してもらうという使い方ができます。

「適切な資料を読み込ませておけば、その特定の分野やツールに特化した解説をしてくれる**自分専用のAIチャットツールとして使える**」というような便利な使い方も注目されています。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

現在は読み込ませた資料を元に動画/音声/クイズ/レポート/スライド/インフォグラフィックなど様々な出力が可能です。

そして2026年7月16日に、**名前が「NotebookLM」から「Gemini Notebook」に変わりました**。

名前は変わりましたが、これまでの使い勝手や無料で使える点はそのままですので、**慌てて何かをする必要はありません**。

私が個人的に注目しているのは、同時に追加された「ネイティブコード実行」です。読み込ませた資料を要約してもらうだけでなく、その中の数字を実際に計算・分析させられるようになったので、売上データや調査結果のような数字を含む資料を扱う場面では、さらに使い道が広がりそうだと感じます。

8月27日に加わった「Google Playブックスで買った電子書籍を読み込ませる」機能も、「買ったけど読めていない本」が溜まっている私のような人間にとっては、正直かなりありがたい機能ですね。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



ChatGPT Summarize

Chrome拡張機能

- **公式サイト**：「ChatGPT Summarize」と検索するか以下のURLへアクセスしてください。
- https://chromewebstore.google.com/detail/chatgpt-summarize/cbgecfllfhmmnknmamkejadjmnmpfjmp?hl=ja
- **料金プラン**：多くの拡張機能は無料で提供されていますが、一部の機能は無料では使えず、自分のOpenAIの開発者アカウントと連携して、API経由でクレジットを消費しながら使うということもできるようです。
  ただ、**基本的な使い方であれば、無料で十分に使えます**。

この拡張機能は、Google Chromeブラウザに一度インストールしておけば、WebサイトやYouTubeの画面上でワンクリックするだけでサイトの文章や動画の内容をわかりやすく要約してくれます。

特に長時間のYouTube動画の内容を素早く理解するために非常に便利です。
（**OpenAI社の公式アプリではなく他社によって開発されたアプリ**であることをご承知の上、お使いください。2026年11月5日時点でも10万人以上のユーザーが使っており、継続して提供されています。）

Review **オススメ度** ★★★★★

このツールはChromeブラウザの拡張機能ですが、無料でも使えて、ブラウザからすぐにYouTube動画やウェブサイトを気軽に要約できることに使い勝手の良さを感じました。

特に英語のYouTube動画を見ている際に、この拡張機能で動画の大まかな内容を頭に入れながら動画を見ると、理解が速いと感じますので、個人的にはかなり活用をしています。

英語など、日本語以外の言語が全くわからない場合は、YouTube動画のURLをGemini Notebookに読み込ませて、詳細に解説してもらう方が理解は進むでしょうが、ワンクリックですぐに要約してもらえることは非常に助かっていますので、ぜひ使ってみることを推奨いたします。

私が日常的に使っている便利なツールの1つです。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Mapify

マッピファイ

- **公式サイト**：https://mapify.so/ja
- **料金プラン**：
  - 無料プラン: 初回に30クレジットが提供され、PDFやドキュメントの要約、YouTube動画の要約（字幕付き動画のみ）などの基本機能を試すことができます。
  - Basicプラン: 月額9.99ドル（年払いの場合は月あたり5.99ドル）。毎月1,000 AIクレジットが付与され、YouTube動画の要約、マインドマップの編集・変換、スライド表示、各種形式へのエクスポートが可能です。
  - Proプラン: 月額19.99ドル（年払いの場合は月あたり11.99ドル）。毎月2,000 AIクレジットが付与され、音声や画像の要約、カスタム要約設定、強力なウェブ検索、テキストから画像への変換など、より高度な機能が利用できます。
  - Unlimitedプラン: 月額29.99ドル（年払いの場合は月あたり17.99ドル）。素早い「Instant」モードは無制限に使え（高性能な「Powerful」モードは毎月6,000クレジットまで）、Proプランのすべての機能に加えて、新機能への優先アクセス、専用コミュニティ、優先サポートも利用できます。

Mapifyは、PDF、Word、PowerPoint、YouTube動画、画像など、さまざまなコンテンツを**数秒で構造化されたマインドマップに変換できるAIツールです**。

裏側では各社の最新の大規模言語モデル（LLM）を使っており、素早い「Instant」と高性能な「Powerful」の2種類のモードを切り替えて、情報の要約や視覚的な整理を効率的に行えます。

2026年6月には、マインドマップについてAIと会話しながら深掘りできる「Mapify Chat」も追加されました。

Review **オススメ度** ★★★★☆

もしあなたがマインドマップを素早く作りたいのであれば、**Mapifyはオススメできるツールです**。無料プランでお試しもできるので、一度試してみてください。

筆者にはそこまでマインドマップを作る必要性は高くないので課金はしていませんが、マインドマップを作るのが好きな方には課金をしてでも使う価値はあると感じます。

ただ、**Gemini Notebookでもマインドマップは生成できる**ようになってしまったのであえてMapifyも使う必要性が減ってしまったかもしれませんね。

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

結論

どのAIツールがオススメ？

長文のドキュメントや長時間の動画を要約してもらい、その内容について質問をして解説をしてもらったり、解説音声を生成してもらえるGemini Notebook（旧NotebookLM）が**要約AIツールの中では一番オススメできるツールです**。

動画編集ソフトなどの新しい使い方をマスターしたいツールのマニュアル原稿などをGemini Notebookに読み込ませておいて、困った時には質問して回答をもらえる、というような使い方をしている人もネットで見かけます。

「特定の領域に特化したチャットボット」を無料で簡単に作れるという意味では、Gemini Notebookがオススメですので、ぜひ一度試してみてください。

（ちなみに、Google AI Proの有料プランに申し込むと有料版を使えるようになりますが、**無料版でもほとんどのケースでは問題ありません**。）

Gemini Notebookも定期的にアップデートが行われており、マインドマップの生成や解説音声、さらには動画までも日本語で生成できるようになったので、長文の資料を音声で解説してくれるようになり、さらに活用しやすくなりました。

（解説動画は音声に比べると尺も短く、内容も薄いので、**個人的には音声解説が気に入っています**。）

これらのような要約ツールの進化によって言語の壁はどんどんなくなっていますので、ぜひ世界中の新しい情報を積極的にリサーチし、あなた自身の知識やスキルを最速でアップデートしていくことで、AIの力を借りながら自分自身もレベルアップしていきましょう！

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Chapter 7

AIコーディング



Chapter 7　AIコーディング

AIでサイトやアプリを作れるの？

あなたは、Vibe Coding（ヴァイブコーディング）という言葉をご存知でしょうか？

Vibe Codingとは、テスラとOpenAIでAI開発を率いた後、2024年7月にAI教育の会社「Eureka Labs（ユーリカラボ）」を立ち上げた著名なAI研究者、アンドレイ・カルパシー（Andrej Karpathy）氏が提唱して広めた言葉です。

Vibe（ヴァイブ＝雰囲気、ノリ）でコーディングを行う、という名前の通り、賛否両論はありつつも、誰でも気軽にAIに「こんなアプリやシステムやサイトを作りたい」と伝えれば、**短時間でAIがコードを書いて実現してくれる**、ということが可能な時代になりました。

私も2026年現在、主にはClaude Codeを使って、様々なサイトやシステムを開発しています。以前から簡単なランディングページなどのサイトをAIに作ってもらうことは頻繁に行なっていましたが、現在はプログラマーに依頼すると高額な人件費と長期間の開発期間が必要なツールも**私のような非エンジニアでも作ることができています**。

具体的には、サイトやメール上に表示するカウントダウンタイマー作成アプリ、LINEステップ配信アプリ、私のワークフローに合わせた独自の動画文字起こしアプリ、ワードプレスやYouTubeの投稿を自動的に各SNSでシェアするための自動化アプリなどを**1日〜1週間以内に開発ができるようになり、非常に興奮しています**。

もちろん、そのアプリをお客様からお金を頂いて公開するためにはもっと本格的に開発を行う必要がありますが、とりあえず自分で使う分には気軽に作ることができるので、本来は毎月課金をしてコストをかけていた負担を大きく減らすことができ、非常に助かっています。

ぜひあなたも**非エンジニアでも気軽にAIでのシステム開発に挑戦してみましょう！**

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Claude Code

クロードコード

- **公式ドキュメント**：https://code.claude.com/docs/
- **料金プラン**：ClaudeのProプラン（月額20ドル）、**Maxプラン（月額100ドル）、Ultraプラン（月額200ドル）**のどれかの契約があれば使用可能です（2026年10月30日（アメリカ時間）に、それまでの「Max 5x」は「Max」に、「Max 20x」は「Ultra」に名前が変わりました。Ultraプランは1週間に使える量がProの10倍で、本人確認が自動で済んだアカウントなら「5時間あたりの使用上限」がなく、1週間の上限だけになります）

Claude Codeは、あなたがコンピューターでプログラムを作る時に手助けしてくれるAIツールです。

プログラミングの専門知識がなくとも、普通の日本語で話しかけるだけで、**AIがあなたのプログラム全体を理解して修正してくれます**。

プログラムの変更、テスト実行、バージョン管理や公開まで、面倒な作業をすべて自動でやってくれるので、あなたは本当に大切な部分に集中できます。

サーバーやリモート環境でも動きますし、あなたのコードは安全に扱われます。他のAIツールとの大きな違いは、単にコードを提案するだけでなく、**実際に作業を完了まで主体的に進めてくれる点です**。

2026年8月も、ほぼ毎週のように更新が続いています。8月14日には、いちいち操作の許可を求めずに作業を進める「autoモード」が標準になることが発表され、8月17日には、Claudeの使用上限に達して止まってしまった作業を、上限がリセットされたら自動で再開してくれるようになりました。

8月20日には結論から短く報告する「Concise（簡潔）」という出力スタイル、8月27日にはファイルの読み書きだけに権限を絞る「制限モード」も加わっています。

また、8月29日に発表されていた週の使用上限の新しい基準が、2026年9月14日から始まりました。5月から続いていた一時的な増枠（増枠前の1.5倍）は9月13日で終わり、そこからは増枠前の1.25倍が恒久的な標準になっています。

増枠前と比べれば増えていますが、**直前の枠と比べると17%減った形になります**ので、MaxプランやUltraプランで長時間の作業を任せている方は覚えておくと良いで

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

しょう。

そして2026年9月1日には、新しい最上位モデル**「Claude Fable 5.1」がClaude Codeでも選べるようになりました**。

Claude Codeでは、じっくり考えさせる「High（高）」という設定が初期状態になっていますので、長時間かかる開発作業や、大きなプログラムの作り直しを任せたい方は試してみると良いでしょう。

9月4日の更新では、**AIが書き換えたところをまとめて全画面で確認できる画面も追加され**、「AIが何をどう変えたのか」を見比べやすくなりました。

9月5日から9日にかけても更新が続いており、**AIがどれだけ考えるかの上限を自分で決められる設定**や、画面に表示できる作業結果の文字数の上限を大きく広げる改善が入っています。

9月11日の更新では、**追加した拡張機能（プラグイン）がきちんと動くかを自動で確かめる仕組み**や、出力の見た目を途中で切り替える機能も加わりました。

2026年9月17日には**「Claude Code Projects」という機能も公開されました**。1つの依頼を複数の作業に自動で分けて同時に進め、共有の記憶で話の流れを引き継いでくれる、「ずっと動き続ける会話」のような仕組みです。

ProプランとMaxプラン（2026年10月30日に「Max 20x」から名前が変わったUltraプランを含みます）の一部の方から順に提供されています。

そして2026年9月22日には、新モデル「Claude Opus 5.5」が公開され、**Claude CodeでOpusを選んだときの標準のモデルになりました**。

Anthropicは「自律的なプログラム開発で首位に立つ」と説明しており、Fable 5.1並みの性能を、Fableのような「週の枠の半分まで」という制限なしに使えるのが大きな違いです。

2026年9月28日には、**新しいSonnet 5.5にも対応しました**（バージョン2.1.284以降）。

あわせて、許可の出し方を自分で設定していない場合は、起動したときから「オートモード」で動くようになりました。

Claudeが安全だと判断した操作は確認なしで進め、**危ない操作だけ止めて確認を求める動き方です**。プログラミング初心者から上級者まで、**あなたの開発作業を大幅に楽にしてくれる画期的なツールです**。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Review オススメ度 ★★★★★

私も2026年現在、**ClaudeのUltraプラン**（月額200ドル。2026年10月30日に「Max 20x」から名前が変わりました）に課金をして、様々なアプリを作ることができています。

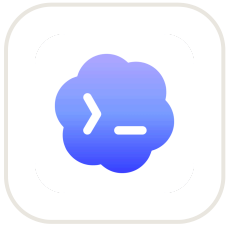
これまでは既存のSaaSツールを契約してコストをかけていたり、エンジニアに依頼をして、時間とコストをかけてシステム開発を行なっていましたが、それがAIの使用料金（ネット上に公開する場合はサーバー費用はかかりますが）だけで、すぐに自分の仕事を効率化できるツールを開発することができていますので、すごい時代になったなと思います。

ターミナルと呼ばれる黒い画面でコマンドを入力しなくても、今はClaudeのデスクトップアプリで「Code」のタブを選択し、「こんなことができるアプリを作って！」と依頼すれば、**簡単にあなたのアイデアをシステム化することができる**ので、ぜひ試してみると良いでしょう！

8月17日に加わった「使用上限がリセットされたら自動で作業を再開する」機能は、私のように夜に長い作業を任せて寝てしまうタイプの人間にとっては、**地味ですが本当にありがたい機能です**。

以前は朝起きたら上限で止まっていて、もう一度指示し直す、ということがよくありましたので。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.



Codex by OpenAI

コーデックス

- **公式サイト**：https://openai.com/ja-JP/codex/
- **料金プラン**：無料プランやGoプランでも制限付きで試せるようになりましたが、本格的に使うなら**ChatGPTのPlusプラン（月額20ドル）以上がお勧めです**。
  より多く使いたい場合は、Proプラン（月額100ドル・200ドル・500ドル）も用意されています。2026年10月29日からは、月額100ドルと500ドルのProプランでは、Codexで使える量が2倍になり、月額200ドルのプランで予定されていた使用量の削減も取りやめになりました（くわしくは第2章のChatGPTの項目をご覧ください）。
  また2026年10月28日からは、Proプランの方は、毎月、月額料金と同じ額までの開発者向けの「APIクレジット」も受け取れます（自分で作るアプリに使うためのもので、Codexで使える量が増えるわけではありません）。
  2026年11月5日時点の公式ヘルプによると、12月からは、Plus・Pro・Businessプランの使える量が、ChatGPTとCodexで共有になります（すぐに答える「Instant」のチャットは、この量を使いません）。

OpenAIのCodexは、**あなたの代わりにプログラム開発を進めてくれるAI開発エージェントです**。普通の日本語で「こんなアプリを作りたい」「このエラーを直して」と指示するだけで、AIがコードを書くだけではなく、ファイルの修正、テスト実行、バグ修正、Pull Request（プルリクエスト＝コードの変更をチームに提案する仕組み）の作成まで自動で行ってくれます。

単なるコード補完ツールではなく、実際に作業を完了まで進めてくれるのが大きな特徴です。Web版、デスクトップアプリなどにも対応しており、Windows・Macに加えて、8月11日からはChatGPT（Codex）アプリのLinux版もプレビュー版として提供されています。

また、Codexは複数のAIエージェントを同時に動かすことができるため、「バグ修正をしながら別の機能追加も進める」といった人間の開発チームのような使い方もできます。

2026年7月9日には、Codexが**ChatGPTのデスクトップアプリ（Mac版・Windows版）に統合されました**。

これに伴って、これまでのCodexアプリがそのまま「ChatGPT本体」のアプリへと昇格し、従来のChatGPTアプリは「ChatGPT Classic」という名前に変わっていま

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

す。

つまり、ChatGPTのアプリを開けば、そのままCodexでの開発も始められるようになったということです。

同じ更新で、文章やコードをその場で書き換えられるインライン編集や、GitHubのPull Requestをレビューするための「PR Chat」も加わりました。

8月11日には、Claude CodeやCursorで使っていた設定をCodexに取り込んで自動で同期する機能も追加され、他のツールからの乗り換えがしやすくなっています。

なお、Codexの中で使えるGPT-5.4系のモデルは**8月31日で終了し、GPT-5.6のTerra / Lunaに切り替わりました**。

そして2026年9月3日には、新世代の最上位モデル「GPT-6 Astra」がCodexでも使えるようになりました。

Astraでは、長い会話が続いても**過去の作業内容を「メモ」として保持できるようになり**、以前のように話が長くなると前半の内容を忘れてしまう、という問題が起きにくくなっています。

以前は会話が長くなるたびに中身を圧縮して要約し直していたため、細かい約束事が抜け落ちることがありましたが、Astraでは**その圧縮を繰り返さずに積み上げた情報を保てる作りに変わりました**。

その後も更新は続いており、2026年9月10日には、**同じプロジェクトの中で複数の作業を並行して進められる仕組み（試験機能）**や、作業の途中でCodexに質問して答えてもらえる機能、Windowsでの動作改善などが加わっています。

9月11日にはデスクトップアプリも更新され、Windowsでも軽いチャットをすぐ開けるようになったほか、**いま開いているアプリの画面をそのままCodexに渡して話の材料にできる「Appshots（アップショット）」**、文章を差し込む「Codex Micro」、音声入力の対応言語の改善などが加わりました。

2026年9月22日には、**Codexで使えるモデルに「GPT-6 Sol」と「GPT-6 Luna」が加わりました**。

Solは難しい開発向け、Lunaは速さと安さを重視した定型作業向けで、Plusプランでも選べます。Plusプランの方は、最上位のGPT-6 AstraもこのCodexとChatGPT Workの中で使えます。

2026年9月29日には、改良版の「GPT-6.1 Sol」もCodexで使えるようになりました（Plus・Pro・Businessなどの有料プランが対象で、無料プランとGoプランは対象

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

外です）。

同じ日に始まった「Codex Cloud（コーデックス・クラウド）」を使うと、Plusプラン以上なら、Codexの作業をクラウドの上で進めさせることができ、**パソコンをスリープにしている間も作業が止まりません**。

途中の作業は、パソコン・ウェブ・スマホのどこからでも確認して続けられます。また、無料プランを含む全プランで、GitHubのPull Requestの中身を要約して変更点を確認してくれる「Code Review（コードレビュー）」も、デスクトップアプリで使えるようになっています。

2026年10月26日には、速さと効率を重視した「GPT-6.1 Terra（テラ）」も、Plusプラン以上のCodexとChatGPT Workで使えるようになりました（普通のチャットでは選べません）。

Plusプランなら、5時間あたりに送れる回数の目安がGPT-6.1 Solのおよそ2倍と多めです。

Review **オススメ度** ★★★★★

私もChatGPTを契約しており、Claude Codeと併用してCodexでのアプリ開発にも挑戦してみましたが、非常に使いやすいですし、**Claude Codeと比べても遜色のない性能を持っていると感じました**。

AIコーディングといえば、Claude Codeが一番有名でしたがOpenAI社も仕事で使えるAIの開発に注力をしており、開発者の間でもCodexの評価は高く、Claude CodeからCodexに乗り換えている開発者も多いと聞きます。

しかも2026年7月からは、Codexが「ChatGPTのデスクトップアプリそのもの」に統合されましたので、別々のアプリを行ったり来たりする必要がなくなりました。

ChatGPTを契約されている方でアプリも開発してみたい場合は、Claudeを契約しなくとも、ChatGPTのアプリをダウンロードして、「こんなアプリを作って！」と依頼してみると良いでしょう。

ChatGPTのスマホアプリからもCodexに指示をできる機能があるのも大きな魅力です。個人的には、7月末に加わった「複数のリポジトリをまたいでコードレビューをしてくれる機能」がありがたく、複数のプロジェクトを並行して抱えている方ほど恩恵が大きいという印象です。

8月に「Claude CodeやCursorの設定を取り込める」ようになったのも、私のように複数のツールを行き来している人間にとっては地味に助かる変化でした。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

無料プランでも制限付きで試せるようになりましたので、「AIでの開発ってどんな感じなの？」と気になっている方は、まず無料で触ってみてはいかがでしょう。

なお、2026年9月にGPT-6 Astraが出たタイミングで、私は**ChatGPTをPlusプランからProプラン（月額100ドル）にアップグレードしました**。

これからCodexを本格的に使って、新しいアプリの開発と、いま開発中のアプリの続きを進めていく予定です。

進み具合や、実際にどれくらい楽になったのかは、また次の版でお伝えしますね。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Cursor

カーサー

- **公式サイト**：https://www.cursor.com/ja
- **料金プラン**：無料プランあり。2026年11月5日時点の公式の料金ページでは、XやGrokの有料機能とセットになったプランに変わっており、Plus（月額8ドル。使えるのはGrokのモデルのみ）、Premium（月額30ドル）、Super（月額100ドル）、Ultra（月額200ドル）、チーム向けのTeams（1人あたり月額30ドル〜）があります。ClaudeやGeminiなどほかの会社のモデルはPremium以上で使えますが、月額料金には含まれず、使った分だけAPIの定価で別に支払う形です。
  （以前のPro（月額20ドル）などのプランは、すでに契約している方向けに、そのまま続いています。）

Cursor（カーサー）は、**AI機能を搭載した新しいタイプのコードエディタです**。あなたがプログラマーでなくても、プロジェクト管理やドキュメント作成の仕事をしているなら、このツールは大きな助けになります。

最大の特徴は、AIがあなたの作業を理解して、**次に必要なコードを自動で提案してくれることです**。「こんな機能を作りたい」と簡単な言葉で伝えるだけで、必要なプログラムを作ってくれるため、初心者でも効率よく開発ができます。

そして2026年6月には、イーロン・マスク氏率いるSpaceXがCursorの開発元であるAnysphere社を約600億ドル（約9兆円）で買収するという大きなニュースがあり、8月14日にはこの買収が正式に完了して、**Cursorは「SpaceXの一部」になりました**。

買収の発表後に公開されたSpaceXSIのモデル「Grok 4.5」（7月）、「Grok 4.6」（8月12日）はいずれもCursorと共同で訓練されており、公開当日からCursorで使えるようになっています。

2026年7月には機能面でも大きな追加がありました。7月10日のバージョン3.11では、本筋の会話とは別に相談できる「サイドチャット」（並行して別の会話ができる機能）と、過去のエージェントの作業履歴をコマンドパレットから検索できる機能が入りました。

8月には、Gmail・Googleドライブ・カレンダーと連携するプラグイン（8月3日）、本番環境の監視ツールを作っていたFiretiger社の買収（8月13日）、Cursor自身がコ

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

ードを預かる「Origin（オリジン）」というサービスの早期ベータ（8月17日）などが続いています。

そして2026年8月28日には、OpenAIが「SpaceXがCursorを買収したことを受けて、Cursorへのモデルの提供をやめる」と発表しました。

OpenAIは移行の期限として2026年11月12日を提案しており、その日を目安に、CursorからChatGPTのモデル（GPT-5.6など）が使えなくなる見込みです（正式な終了日は、両社が確認したうえで知らせるとのことで、2026年11月5日時点ではまだ出ていません。OpenAIのヘルプでは、自分のOpenAIのAPIキーをCursorに登録して使う方法なども案内されています）。

2026年10月6日には、iPhoneのCursorアプリから、**自分のパソコンで動いているAIエージェントの様子を見たり、返事をしたりできる**「Remote control（リモートコントロール）」も加わりました（パソコンは電源を入れたまま、ネットにつないでおく必要があります）。

2026年10月29日（アメリカ時間）には、Cursorの拡張機能の配布サイトに、Anthropic社が作ったものではない**不正な「Claude Code」の拡張機能（バージョン2.1.312と2.1.313）が約11時間並ぶという事件が起きました**。

この間にMacかWindowsで入れたり更新したりした方は、拡張機能を消すだけでは足りないことがありますので、Cursorの公式ブログの案内に沿って確認と修復をしてください。

Review **オススメ度** ★★★★★

Cursor（カーサー）は世界的に非常に有名なAIコードエディターであり、AIを使ったWeb開発をされている会社で導入されているケースはかなり多いのではないでしょうか？

個人的には、「エンジニアではなくても、AIに文章を書いてもらう場合には使える」という話を聞いて導入してみました。

使ってみると、確かにChatGPTやGeminiのウェブアプリで文章を書いてもらう場合よりも、書いてもらった文章をテキストエディタにコピペする回数が少なくなりましたし、AIが書いた文章をCursor内のエディタに直接反映してくれるので、**AIで文章執筆をされている方は、一度試してみるべきツールだと感じます**。

月額**30ドルのPremium以上のプランに課金すると**、ChatGPT、Claude、Geminiの最新モデルも使用できるので、**可能なら課金することを推奨します**（2026年11月5

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

日時点の料金ページでは、これらのモデルの利用料は月額料金に含まれず、使った分だけ別料金がかかります）。

なお、SpaceXによる買収後は、GrokがCursor専用に最適化されたモデルとして提供されており、8月12日のGrok 4.6は公開から1週間、Cursorでの利用枠が2倍になるというキャンペーンも行われました。

（以前は無料プランでもGrokが使えましたが、2026年11月5日時点の新しい料金ページでも、無料プランでどのモデルが使えるかははっきり書かれていませんので、**無料で使いたい方は実際の画面でご確認ください**。）今後CursorがGrok中心のツールになっていくのか、これまで通りClaudeなど他社のAIモデルも自由に選べる状態が続くのかは、8月14日に買収が正式に完了したこともあり、Cursorユーザーとしては引き続き注視しておきたいポイントです。

その意味で、7月に追加されたCursor Routerは面白い動きだと感じています。モデル選びをCursor側に任せられるようになったので、「毎回どのAIを選ぶか迷う」という手間がなくなりました。

正直、私のように毎日いろんなモデルを試している人間にとっては少し物足りない部分もありますが、これから始める方には親切な機能です。

あとは、**iPadからCursorが使えるようになった**のも地味に嬉しい変化で、移動中にAIの作業結果をチェックするくらいのことなら、もうパソコンを開かなくても済んでしまいます。

なお、2026年8月28日に、OpenAIがCursorへのモデル提供を、11月12日を目安に打ち切ると発表しました。

CursorでChatGPTのモデルを使ってきた方は、**11月以降はClaudeやGeminiなど別のモデルに切り替える必要が出てきます**。

買収によって使えるAIモデルが変わってしまうというのは、自分が毎日使っているツールで起きると考えると、なかなか怖い話です。

「1つのツールにすべてを預けきらない」という姿勢は、これからますます大事になりそうだと感じます。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Antigravity

アンチグラビティー

- **公式サイト**：https://antigravity.google/
- **料金プラン**：**無料で使用可能です**。Google AI Pro（月額2,900円）に課金すると使用制限が緩和されます。
  Googleの最上位モデル「Gemini 4 Argon」は、個人向けのプランでは、有料で契約した月額2,900円のGoogle AI Proと、月額14,500円からのGoogle AI Ultraで使えます（Proでは、Argon専用の週ごとの使用枠が別に用意されています）。

Antigravity（アンチグラビティー）は、Googleが開発したAIコーディングツールです。もともとは有名なVS Codeをベースにして、Googleの最新AIモデル「Gemini」を統合したテキストエディターとして登場し（この形は現在「Antigravity IDE」として別途提供されています）、2026年5月の「Antigravity 2」からは、AIエージェントに作業を任せることを中心にしたアプリに生まれ変わりました。

エンジニア向けにコードを書くために開発されたツールですが、**非エンジニアでも文章執筆の目的で活用することができます**。

「Planning」モードで計画を立てさせてから執筆させるなど、じっくり考えさせることも可能です。さらに、Geminiだけでなく Claudeのモデルも選択可能という点が非常に便利で、複数のAIツールに課金しなくてもこのツール一つで済みます（最新のClaude Opus 5.5とSonnet 5.5を選べるのは、お試し期間中を除くGoogle AI ProとUltraです。無料プランなどで選べる1つ前の世代のClaude（Sonnet 4.6・Opus 4.6）と、GPT系のGPT-OSS-120bは、2026年11月18日で選べなくなります）。

Googleの最上位モデル「Gemini 4 Argon」も、2026年10月14日（日本時間）からUltraの契約者向けに、**10月16日（日本時間）からは有料のGoogle AI Proの契約者にも選べるようになりました**が、旧来の形の「Antigravity IDE」では使えず、Antigravityのアプリ・CLI版・IDE拡張機能で使えます。

Google AI Pro（月額2,900円）に加入していれば、追加課金なしでAntigravityでも同じ使用枠が適用されます。

2026年11月5日時点では、役割や指示をファイルに書いておくだけで自分専用のAIエージェントを作れる「Custom Agents」、VS CodeやJetBrains、Xcodeなど普段使っているエディタの中からAntigravityを使える「IDE拡張機能」、別のパソコンで動

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

いている作業をブラウザから操作できる「Remote Control」、決まった時間に作業を自動で進めてくれる「Automations」などが使えます。

ターミナルから使うCLI版もあり、「/model」でモデルを切り替えたり、「/voice」で音声で指示したりできます。

さらに2026年10月14日（日本時間）からは、**Mac版のGeminiアプリの中からAntigravityのコーディング画面を直接使えるようになりました**（英語のみ・18歳以上が対象）。

2026年10月27日のAntigravityのアプリの更新では、アプリの中でそのままウェブページやPDFを開いて見られるようになり、20MBまでのファイルなら、動画やデザインのファイルなど種類を問わず添付できるようになりました。

10月29日には、Figma・Linear・Notion・Stripeといったほかの会社のサービスとつなぐ「プラグイン」も、Marketplace（マーケットプレイス）から追加できるようになっています。

11月3日の更新では、作業をクラウドで動かす「リモートエージェント」の提供が、Google AI UltraとProの契約者に順番に始まりました。

Gemini Liveを使った音声モードも、順番に提供されています。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Antigravityは、Googleが開発をしているAIコーディングツールです。2026年5月のアップデートにより、Antigravity 2 という新しいバージョンに進化し、Claude CodeやOpenAIのCodexを意識したコーディングツールに進化しました。

Claude CodeやCodexに比べると、**まだ出来たばかりの新しいツールなので進化の余地はあるようです**が、Geminiの最新モデルを使うことができて、**素早くアプリを開発することができています**。

Google AI ProなどのGoogleのAIプランに課金していて、システム開発を行いたい人はぜひ使ってみると良いでしょう。

ちなみに、Antigravityバージョン1のようなIDE（エディタ）の機能はなくなってしまったので、バージョン1のときのUIで使いたい場合は、**Antigravity IDEという別バージョンを使うことを推奨します**。

ただ、8月20日に「IDE拡張機能」が出たことで、VS Codeなどの使い慣れたエディタの中からAntigravityを呼び出す、という形でも使えるようになりましたので、エ

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

ディタ派の方にとっては、この拡張機能のほうが本命になるかもしれません。

8月の更新の多さを見ていると、**Googleが本気でClaude CodeとCodexを追いかけているのがよく分かります**。

2026年10月14日には、Gemini 4 Argonを試すために月100ドル（日本では月額14,500円）のGoogle AI Ultraにアップグレードしましたが、そのときは、AntigravityでGemini 4 Argonを使うにはこのUltraが必要で（月額2,900円のProで選べるGeminiのモデルはGemini 3.8 Flashだけでした）、ハードルが高いのがそこだけ残念なポイントでした。

ただ、その2日後の10月16日（日本時間）からは、有料で契約したProでも、Argon専用の週ごとの使用枠の範囲で使えるようになっています。

また、Mac版のGeminiアプリの右上にある「Antigravity」を押すと切り替えられるようになり、ChatGPTとCodex、ClaudeとClaude Codeのように、Googleもチャットとコードを書く機能を1つのアプリにまとめる方向に向かっているようです。

切り替えが少しややこしく、日本語にも対応していないので荒削りな部分はありますが、便利な統合型のデスクトップアプリを作ろうとしている感じがうかがえます。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Devin Desktop

デビン デスクトップ

※旧Windsurf

- **公式サイト**：https://devin.ai/desktop
- **料金プラン**：無料プランあり。**Proプランは月額20ドル、Maxプランは月額200ドル**。チーム向けのTeamsプランは月額80ドル＋開発者1人あたり月額40ドル

かつて「Windsurf（ウィンドサーフ）」という名前で親しまれていたAIコードエディタは、2026年6月2日に**「Devin Desktop（デビン デスクトップ）」へ正式に改名されました**。

Windsurfというブランドはこれで終了しており、公式サイトも windsurf.com から devin.ai に移っています。

もともとWindsurfは、OpenAIによる買収の話が出たあと、最終的に「Devin（デビン）」という自律型AIエンジニアで知られるCognition AI社に買収されていました。

その後、同社の看板製品であるDevinと名前を揃える形で、エディタ側の名称が「Devin Desktop」に統一されたわけです。

公式には「Devin DesktopはWindsurfの新しい名前です。Windsurfというエディタの土台の上に、すべてのAIエージェントを一箇所で管理する司令塔を作っています」と説明されています。

すでにWindsurfを使っていた方は、自動アップデートで設定も拡張機能もそのまま引き継がれるので、**特別な移行作業は必要ありません**。

8月には、作業を止めずに横で別の質問ができる「Side Chats」（8月12日）、入力欄に「こう書くともっと良くなります」と改善案を出してくれる「Devin Coach」（8月14日）、セッション画面の再設計（8月21日）など、細かな改良が続いています。

9月29日からは、ChatGPTのアカウントでサインインして、ChatGPT PlusやProの契約のままGPTのモデルを使えるようにもなっています。

2026年11月4日には、開発元のCognition社が、速さと安さを重視した**自社のコーディング用AIモデル「SWE-2 Flash」を公開しました**。

上位のSWE-2の5分の1の料金で、3倍の速さとされています。Devin DesktopとDevin CLIで使え、11月30日までは無料と案内されています。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Review **オススメ度** ★★★★☆

Windsurf（ウィンドサーフ）も**Cursorと並んで非常に人気のAIコードエディタです**。どちらもVS Codeというツールを土台にして開発されており、使い勝手が似ているため、Cursorに慣れてきた後にWindsurfを使ってみたところ、スムーズに操作することができました。

もちろんコーディングだけではなく、文章執筆の用途でも使用可能です。ただ、CursorとWindsurfのどちらが良いかは個人的な好みもあると思いますので、私は断言はできません。

一時期、WindsurfはOpenAIに買収されたと報じられたせいか、OpenAIの競合でもあるAnthropicがWindsurfへのClaude 4などのAIモデルの提供をストップするなどのトラブルもありましたが、結局はOpenAIによる買収は破談になりました。

現在はClaudeも含めた主要な言語モデルを使えるようです。そして2026年6月、ついにWindsurfという名前そのものが「Devin Desktop」へと変わりました。

正直、あれだけ有名になったWindsurfの名前が消えてしまうのは少し寂しいのですが、買収したCognition社の看板であるDevinと名前が揃ったことで、「ローカルで動くエディタ」と「クラウドで自律的に働くAIエンジニア」が1つの製品としてまとまった、という印象です。

7月29日の大型アップデートでUIもかなり変わりましたので、以前のWindsurfの画面を覚えている方は、**久しぶりに開くと戸惑うかもしれません**。

それでも設定や拡張機能はそのまま引き継がれますので、昔Windsurfを入れたままになっている方は、一度アップデートして触ってみてはいかがでしょう。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Base44

ベース44

- **公式サイト**：https://base44.com/
- **料金プラン**：無料プランあり。有料プランは月額16ドル（年払い時。月払いだと20ドル）～

Base44は、イスラエルの開発者マオール・シュロモ（Maor Shlomo）氏がほぼ1人で開発をスタートしたAIアプリビルダーです。

あなたが「こういうアプリが欲しい」と日本語や英語で説明するだけで、フロントエンド（見た目の画面）、バックエンド（裏側の処理）、データベース、ログイン認証、デプロイ（公開）まで、**本来なら何週間もかかる作業を数分でAIが組み立ててくれます**。

2025年6月にウェブサイト作成サービスで有名なWix（ウィックス）社に約120億円（8,000万ドル）で買収され、Wixの「Vibe Coding」製品ラインに統合されました。

2026年第1四半期の時点で200万ユーザーを突破し、年間売上は約150億円（1億ドル）に達するなど、AIアプリビルダーの中でも特に急成長しているツールです。

Gmail、Googleカレンダー、Slack、Stripe、Salesforce、Zapierなどのよく使われるサービスとの連携も最初から組み込まれています。

2026年8月は機能追加が非常に多く、Base44のAIアシスタントである「Superagent（スーパーエージェント）」がWhatsAppやTelegram、LINEなどのメッセージアプリから操作できるようになり（8月17日）、AIモデルにClaude Opus 5が加わり（8月18日）、GitHubにあるプログラムを取り込んで開発を続けられるようになる（8月19日）など、本格的な開発ツールとしての足回りも整ってきました。

また、一番安いStarterプランでも自分の独自ドメインでアプリを公開できるようになっています（8月11日）。

2026年9月22日には、あなたのアプリやサイトが、ChatGPTのような**AIアシスタントに質問されたときにどう取り上げられているかを確認できる**「AI Visibility」というタブも加わりました（Builderプラン以上）。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

9月28日には、すでにあるプログラムを取り込んで、エンジニアでない人でもチャットで手直しして変更の提案まで出せる新しい製品「Base Code」も公開されています（料金は2026年11月5日時点でも、公式の料金ページに載っていません）。

2026年10月4日からは、年払いのプランなら**最初の1年間は独自ドメインが無料になり**（申し込みから60日以内の申請が必要）、10月5日には、指示があいまいなときに、作り始める前にAIが質問してくれる機能も加わっています。

10月13日には、ブラウザではなく専用の画面で作業できるMac用のアプリが出たほか、**AIチャットで選べるモデルに、Googleの最新モデル「Gemini 4 Argon」も加わりました**。

10月28日にはOpenAIの「GPT-6.1 Terra」も加わっています。なお、AIのモデルを自分で選べるのはBuilderプラン（年払いで月40ドル）以上です。

また、10月18日以降に作ったアプリには、プランごとにデータベース（データの保存場所）の容量の上限が付いています。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Base44を初めて触ったとき、「ここまでチャットだけでアプリが組み上がるのか」と驚いた記憶があります。

私は普段はClaude Codeでアプリ開発をしていますが、Claude Codeは黒い画面（ターミナル）に慣れる必要があったり、自分でGitHub（コードを保存する場所）を準備する必要があるなど、非エンジニアの方には少しハードルがあります。

その点、Base44はブラウザを開くだけで完結し、画面も親切で、**「とりあえずアプリらしきものを動く形で見たい」という用途には向いています**。

8月からは、Base44のAIにLINEから話しかけて作業を頼めるようになったのも、日本のユーザーにとっては面白い変化ですね。

ただ、本格的なシステム開発をするのであれば、**Claude CodeやCodexのほうがコスパも自由度も高いと感じます**が、「とにかくブラウザだけで完結したい」という非エンジニアの方が、**アイデアをまず形にしてみる初めの一歩としては良い選択肢です**。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Bolt.new

ボルトドットニュー

- **公式サイト**：https://bolt.new/
- **料金プラン**：無料プランあり。**有料プランは月額25ドル〜**

Bolt.newは、ブラウザベース開発環境で有名なStackBlitz社が開発したAIアプリビルダーです。

同社が長年磨き上げてきた「WebContainers」という技術により、Node.jsなどの**本格的な開発環境をあなたのブラウザの中で動かすことができるのが大きな特徴です**。

あなたが「こんなアプリを作って」と入力すると、AIがReact・Tailwind CSS・Node.js・PostgreSQLというモダンな技術構成でアプリを瞬時に組み立ててくれます。

現在は、速くてトークン消費の少ない「Standard」と、有料プラン限定で最大限に考えさせる「Max」という2種類のAIエージェントを使い分ける形になっています。

2026年現在のユーザー数は500万人を超え、累計調達額も1億3500万ドル（約200億円）に達しています。

Figmaからデザインを取り込んだり、ExpoでiPhoneアプリを作ったり、Netlifyにワンクリックでデプロイしたりと、外部サービスとの連携も非常に豊富です。

2026年7月には友達紹介プログラムが始まり、紹介された方は20%オフで使い始められ、紹介した側にも売上の15%（1件あたり最大50ドル）が入る仕組みになりました。

なお、古い「v1エージェント」で作られたプロジェクトは、2026年8月3日に新しい方式へ自動で移行されています（チャット履歴はそのまま残ります）。

8月27日には、AIが作業中でも次の指示を先に送っておける「プロンプトのキュー投入」機能も追加されました。

2026年9月14日には、GLM 5.3やKimi K3、DeepSeek v4 Proといった公開されているAIモデルだけを使う試験版「Bolt Forge（ボルト・フォージ）」が公開され、個人のProプランなら追加費用なしで使えましたが、**この試験公開は10月14日で終わりました**（ProプランのStandardとMaxは、これまでどおり使えます）。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Forgeだけを使える月額9ドルのプラン「Bolt Lite」も、新しい申し込みは10月14日で締め切られ、それまでに契約した方だけが、同じ料金のままForgeを使い続けられます。

さらに、2026年10月7日からは、作ったプロジェクトやチャットの中身をAIの学習に使う設定が、最初から「オン」になりました（欧州・英国・スイスの方は最初から「オフ」です）。

対象は10月7日以降に作ったり送ったりした内容で、使わせたくない場合は、アカウント設定の「Model training」をオフにしてください。

オフにしても、プランの内容は変わりません。2026年10月30日からは、新しく作るデータベースの表が、最初から非公開になりました（権限のエラーが出たら、Boltに直してもらえます）。

11月1日からは、Boltの料金の請求は、Stripeの決済サービス「Link」に移っています（通知メールから10月28日までに断った方を除きます）。

プランの内容は変わらず、手続きもいりませんが、地域によっては税金が加わります。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Bolt.newを使ってみたときに一番感動したのは、**「クリック1つで開発環境が立ち上がる速さ」です**。

普通であればNode.jsをインストールしたり、依存パッケージをダウンロードしたりと、開発を始める前の準備だけで数時間かかることもありますが、Bolt.newはブラウザを開いて指示を出した瞬間からコードが動き出します。

ただ、トークンベースの課金になっているため、複雑なアプリを作るほど消費が激しく、**月額25ドルのProプランでもすぐにトークンが枯渇する**という声がネットでもよく見られます。

Lovableと比較されることが多いツールですが、Lovableのほうがクレジット消費がもう少し予測しやすく、Bolt.newのほうが立ち上がりの速さと自由度が高い、という棲み分けです。

本格的なシステム開発を継続的に行うのであれば、**Claude Codeの月額100ドルのMaxプランのほうがコスパが良いと感じます**が、**「ブラウザだけで素早くプロトタイプを作りたい」**「お客様にデモを見せたい」という用途にはBolt.newは非常に向いていると思います。

≡ 目次に戻る



Lovable

ラバブル

- **公式サイト**：https://lovable.dev/
- **料金プラン**：無料プランあり。**有料プランは月額25ドル〜**

Lovableは、スウェーデンのスタートアップ企業がアントン・オシカ（Anton Osika）氏を中心に2024年に開発したAIアプリビルダーで、もともと「GPT Engineer」という名前で知られていたツールが進化したものです。

あなたが日本語や英語で「こんなアプリを作りたい」と入力するだけで、React（リアクト）・TypeScript・Tailwind CSSというモダンな技術スタックと、Supabase（スーパベース）というバックエンド・データベースサービスを組み合わせた本格的なウェブアプリを生成してくれます。

最大の特徴は、**生成されたコードがGitHubと双方向で自動同期される**ことで、「LovableでAIに作らせて、細かい部分はCursorやClaude Codeで手直しする」というようにエンジニアとの作業の受け渡しがスムーズにできる点です。

2026年8月12日には、シリーズCで4億ドル（約600億円）を調達し、企業価値は133億ドル（約2兆円）に達したと発表されました。

これまでにLovableで作られたプロジェクトは累計6,000万件、Lovable製のアプリへの訪問は月に9億回にのぼるとのことで、**Bolt.newと並んでVibe Codingの代表的なツールとして地位を確立しています**。

2026年7月には大きな動きが続きました。7月15日には、**Lovableで作ったアプリをChatGPTやClaudeの中で直接動かせる**ようになりました。

自分が作ったツールを、普段使っているチャットAIの画面から呼び出して使える、ということです。7月22日には、コーディングエージェントの基盤として業界で初めて「AIUC-1」というAIの安全性・信頼性に関する認証を取得し、7月24日には、ログイン認証・公開範囲の制御・セキュリティスキャンといった企業向けの機能も追加されました。

8月26日には、Slackの中で「@Lovable」と呼びかけるだけでアプリの作成や更新を頼めるようになり、**1つの指示で最長10時間まで自律的に作業を続けられる**ようになっています。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

2026年9月21日には、**プログラムを書き換えずにLovableと相談できる「Chat（チャット）モード」**が加わりました。

「この機能を足すなら、どう作るのがいい？」といった相談を、アプリを壊す心配なくできます。翌22日には、作ったアプリの中からウェブ検索や調べ物ができる「Parallel」との連携も追加されています。

9月25日には、**Googleビジネスプロフィールとのつなぎ込みが加わり**、作ったアプリの中で使うAIとしてGPT-6 Sol／Lunaも選べるようになりました。

また、9月24日からはChatモードでの相談に1日ごとの無料枠が付いています（無料・Pro・Businessプランが対象で、この料金設定は2026年10月31日までとされていましたが、2026年11月5日時点でも、公式の説明ページには「10月31日まで」と書かれたままで、延長や終了の発表はありません。今も無料の枠があるかどうかは、実際の画面でご確認ください。画像や動画を作らせたり、実際の作業に回したりすると、通常どおりクレジットを使います）。

そして9月28日にはMicrosoftとの提携が発表され、全プランで、作ったアプリをOutlook・Teams・Excel・SharePoint・OneDriveなどの**Microsoft 365のデータとつないだり**、Microsoftのアカウントでログインできるようにしたりできるようになりました。

また9月30日には、Lovableで作ったアプリの土台に使われている部品に、細工したリンクを開くと不正なプログラムが動いてしまう弱点が見つかり、対策したことが公表されました。

悪用された形跡はなく、対象のアプリは次に手を加えたときに自動で直りますが、すぐに直したい場合は、**プロジェクトの「Security」のページから無料で修正できます**。

10月7日からは有料プランで、管理者がワークスペース全体の**クレジットの使用上限と、使いすぎを知らせるアラート**を設定できるようになりました。

10月8日からは、無料プランとProプランでも、**作ったアプリを招待した人だけに公開できるようになっています**（ワークスペース全体やグループ単位での公開は、BusinessとEnterpriseのみです）。

10月14日からは、消してしまったプロジェクトを、**消してから60日以内なら元に戻せるようになりました**。

同じ日に、作ったアプリのお客様集め（広告の出稿や分析など）をチャットから手伝ってくれる「Growth tools」も加わっています（Lovable側の追加料金はありませ

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

んが、広告費はGoogleやMetaに支払います）。

10月29日からは、Replit・Bolt・Base44・v0などで作ったプロジェクトをZIPファイルで取り込んだり、今あるウェブサイトをURLで取り込んだりできるようになりました（最初の1回は無料で、2回目からはクレジットを使います）。

10月30日には、作業の中で伝えた好みや決めごと、事実を覚えてくれる「Memory（メモリ）」も加わっています（設定でオフにもできます）。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Lovableは「ユーザーフレンドリーさ」と「本物のコードを吐き出す」という相反する要素を両立しようとしている、ユニークなポジションのツールです。

私が以前試したときは、**10分くらいでログイン機能付きのウェブアプリが立ち上がり**、「これがブラウザだけで完結するのか」と驚きました。

GitHubに自動同期されるおかげで、Lovableで作ったアプリを後からClaude Codeで読み込んで本格的に拡張する、という流れが組めるのがエンジニア寄りの人にも喜ばれている理由でしょう。

本格的に毎日触る方は、**Lovableで叩き台を作って、その先はClaude CodeやCursorで継続開発する**、という併用がコスパ的には良いかもしれません。

バックエンドにSupabaseが入っているので、データを保存するタイプのアプリ（顧客管理ツールやToDoリストなど）を試作したい方には向いていると感じます。

2026年7月に「Lovableで作ったアプリがChatGPTやClaudeの中でそのまま動く」ようになったのは、個人的にかなり大きな変化だと感じています。

自分専用の小さな業務ツールを作っておいて、それを普段のチャットの中から呼び出して使う、という働き方が現実的になってきました。

8月に2兆円という企業価値がついたことで、「このツール、来年もあるのかな？」という心配をしなくて済むようになったのも、実務で使う上では大事なポイントだと思います。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Replit

リプリット

- **公式サイト**：https://replit.com/
- **料金プラン**：無料プランあり。有料プランはCoreが月額20ドル（年払いなら月18ドル）、Proが月額100ドル〜

Replitは、あなたのブラウザ1つで**「コードを書く・実行する・公開する」までを完結できるクラウド型の開発環境（IDE）です**。

2026年現在、自律型AIコーディングエージェント「Replit Agent 4」が中核機能となっており、あなたが日本語や英語で「こういうアプリが欲しい」と伝えるだけで、AIがフルスタックのウェブアプリを設計・実装・テスト・デプロイまで一気通貫で進めてくれます。

50種類以上のプログラミング言語に対応しており、PCはもちろん、スマートフォン向けアプリも提供されているので、移動中にスマホからプロジェクトの状態を確認したり、簡単な修正を加えたりもできます。

Claude CodeやCodexと並ぶ自律型AIコーディングツールとして開発者の間で話題になっています。

2026年7月10日には便利な機能がいくつか追加され、Replitの画面から離れることなく独自ドメイン（自分だけのURL）を購入できるようになりました。

作ったアプリをすぐに自分のドメインで公開できる、ということです。同時に、図やホワイトボードを描ける「Excalidraw」が統合され、画面の設計図をその場で描きながら開発を進められるようになりました。

また、AIエージェントが作業中に投げてくる定型的な質問に、チームの誰でも答えられるようになっています。

8月21日には、**クレジットを消費せずにAIと相談したり簡単なものを作ったりできる**「Free Mode（フリーモード）」、決まった時間に自動で作業を実行する「Routines（ルーティン）」、雑談から始めて必要になったらプロジェクトに昇格させられる「Conversations」などが追加されました。

9月25日には、使えるAIモデルにClaude Opus 5.5とGPT-6 Solが加わっています。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

10月9日には、TikTok広告のアカウントをつなげば、**チャットからTikTok広告の作成・出稿・成果の確認までできるようになりました**（広告の素材もReplitの中で作れます）。

10月23日には、公開したアプリに不具合が起きたとき、AIが記録（ログ）を調べて直し方を試してくれる「Monitoring Agent（モニタリング・エージェント）」も加わっています。

10月30日には、Agentの「Power Mode（パワーモード。手ごろな料金で性能の高いAIを使える有料のモード）」で使うAIモデルに、OpenAIの「GPT-6.1 Terra（テラ）」も選べるようになりました。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Replitは、もともとは「ブラウザで動くプログラミング学習環境」として有名なサービスでしたが、AIエージェント機能の搭載によって性格が大きく変わり、いまや本格的なアプリ開発プラットフォームになっています。

私が触ったときの印象は、「Claude Codeのような自律型エージェントを、黒い画面なしで、最初から最後までブラウザだけで体験できるツール」というものでした。

コードを書ける必要も、Node.jsなどの開発環境を自分のパソコンに準備する必要もないので、**非エンジニアの方が「Vibe Coding」を始めるための入口としては非常に優しい設計です**。

2026年7月からは独自ドメインの購入までReplitの中で完結するようになりましたので、「アイデアを思いついてから、自分のURLで公開するまで」がブラウザ1つで終わってしまいます。

一方で、Replit Agentの料金がクレジット消費型になっており、**AIに重い作業を任せるとあっという間にクレジットが減っていく**、という声がネット上では非常に多いです。

8月21日に加わった「Free Mode」は、この不満に対する回答だと感じました。軽い相談や簡単なビルドならクレジットを使わずに済むので、「ちょっと試したいだけなのにクレジットが減る」というストレスはかなり減りそうです。

本格的にAIに開発を任せたい方は、Claude CodeのMaxプランやCodexと比較しながら、自分の使い方に合うツールを選ばれると良いでしょう。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Anything

エニシング

※旧Create.xyz

- **公式サイト**：https://www.anything.com/
- **料金プラン**：無料プランあり。**有料プランは月額19ドル（年払い時。月払いだと24ドル）〜**。もっと賢いAIモデルとアプリの自動テスト機能が使えるMaxプランは月額199ドル〜

Anything（旧Create.xyz）は、自然言語であなたのアイデアを伝えるだけで、**ウェブアプリやモバイルアプリを自動生成してくれる**AIアプリビルダーです。

以前は「Create.xyz」という名前でしたが、現在は「Anything」というブランド名へのリブランドが完了し、公式サイトもanything.comに移っています（create.xyzのURLも引き続きアクセスできます）。

中で使えるAIモデルはOpenAIのGPT-5系が中心で、40以上の外部サービスとの連携も用意されています。

生成されるアプリにはバックエンド・データベース・認証機能なども自動的に組み込まれ、SwaggerやOpenAPIといった仕様書をアップロードすれば、あなた独自のAPIと連携するアプリも作れます。

Apple TestFlightやExpo Goを使ったモバイル向けのプレビューにも対応しており、**スマートフォンアプリの試作にも使えるのが他のツールと違うポイントです**。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Anything（旧Create.xyz）は、私が触ったAIアプリビルダーの中でも**「生成スピードがとにかく速い」という印象が強いツールでした**。

Lovableが「本格的なReactアプリのコードを生み出す」という思想なのに対し、Anythingはテンプレート化されたUI部品をうまく組み合わせてサクッと見栄えの良い画面を作る、という方向性のため、ランディングページやシンプルなウェブサイトを素早く立ち上げたい場面ではかなり力を発揮します。

逆に、複雑なデータベース処理や本格的な業務システムを作ろうとすると、**テンプレートベースゆえの限界も見えてくる印象です**。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

料金的にはPro月額19ドル（年払い）とAIアプリビルダーの中では割安な部類で、**入門用ツールとしては悪くないと感じます**。

ただし、私が普段使っているClaude CodeやCodexのようにコードを自由に書き換えてカスタマイズできるツールに比べると、自由度の点では物足りなく感じる場面もありました。

「本格的なアプリ開発というよりは、AIサービスを使ったツールを素早く形にしたい」という方は試してみる価値のあるツールです。

名前が変わっていますので、以前のCreate.xyzという名前で探している方は、Anythingという名前で探し直してみてください。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Stitch

スティッチ

- **公式サイト**：https://stitch.withgoogle.com/
- **料金プラン**：**無料で利用可能**

Googleが開発した「Stitch」は、あなたがウェブサイトやアプリを作りたい時に、まるで魔法のように**短時間で完成させてくれるツールです**。

普通の言葉で「こんなデザインが欲しい」と伝えるだけで、AIが自動的に見た目のデザインとプログラムコードを作ってくれます。

さらに驚くことに、手書きのメモや写真をアップロードするだけでも、きれいなデジタルデザインに変えてくれるのです。

完成したデザインはFigmaというツールにすぐに送れて、チームで一緒に作業することもできます。今まで専門知識が必要だったウェブサイト作りが、あなたも簡単にできるようになります。

しかも無料で使えるので、アイデアがある時にすぐ試してみることができます。

Review **オススメ度** ★★★★☆

GoogleのStitchというサイト制作ツールにプロンプトを入力するだけで、日本食レストランや盆栽ECサイトなどのウェブサイトを数分で自動作成してくれます。

英語では高品質なデザインが生成されますが、**日本語にするとフォントが不自然になったり、関係ない画像が表示されるなど問題が発生しました**。

作成したデザインはFigmaに簡単にコピーでき、細かい修正も可能です。Gemini 3.5 FlashとGemini 3.1 Proの2つのモードがあり、上位モードではスケッチや画像からサイトを作る機能も使えます。

サイト制作やウェブデザイナーの**初期デザイン作成には非常に便利なツール**と言えるでしょう。無料で使えるのも魅力的です。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Grok Build

グロック・ビルド

- **公式サイト**：https://grok.com/ （解説ページ： https://x.ai/news/grok-build-for-everyone ）
- **料金プラン**：Grokの**無料プランを含む全てのプランで追加料金なしで使えます**。（有料プランのほうが使用枠は多くなります。2026年10月12日からは、新しく有料プランを契約する場合、「The X Subscription」の月額8ドルのPlus以上を選びます。）

Grok Buildは、SpaceXSI（旧xAI）のGrokの中で、「こんなアプリが欲しい」「こんなウェブサイトを作って」と話しかけるだけで、**その場で動くアプリやサイト、ゲーム、ダッシュボードを作ってくれる機能です**。

2026年7月28日に上位プラン向けの「Build Mode（ベータ）」として始まり、8月19日に「Grok Build」として、無料プランを含む全てのプランに、ウェブとiPhone・Androidアプリの両方で開放されました。

作ったものは「grok.me」というリンクで公開でき（非公開・リンクを知っている人だけ・全体公開の3段階から選べます）、独自ドメインの設定やGitHubへの書き出し、他の人が公開したアプリを元に自分用に作り変える「Remix」にも対応しています。

アプリの中からGrokのチャットや画像生成、音声の機能を呼び出すこともできるので、「AIを組み込んだ小さなアプリ」を作るのに向いています。

2026年9月21日に公開された最新モデル**「Grok 4.7」も、Grok Buildの中で使えるようになっています**。

Review **オススメ度** ★★★☆☆

Grok Buildで一番驚いたのは、**「無料プランでもアプリが作れて、その場で公開できる」という点です**。

この章でご紹介しているBase44やLovableも無料枠はありますが、作ったものを公開して他の人に使ってもらうところまで無料で行けるツールは多くありません。

X（旧Twitter）のアカウントさえあれば、思いついたアイデアをその場で形にして、grok.meのリンクをSNSで共有する、というところまでが数分で済んでしまい

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

ます。

Grokのチャットと同じ画面の中で作れるので、「調べ物の延長でちょっとしたツールを作ってみる」という気軽さがあるのも良いところです。

ただ、正直なところ、**本格的な業務システムをこれで作るのは、まだお勧めしません**。作れるものはあくまで「小さなアプリやサイト」が中心で、複雑なデータの扱いや細かい調整は、Claude CodeやCodexのような本格的なツールのほうが向いています。

また、8月19日に全プランへ開放されたばかりの機能ですので、動作が不安定だったり仕様が変わったりする可能性も十分にあります。

「AIでアプリを作るってどんな感じなのか、まず無料で体験してみたい」という方には、**今いちばんハードルの低い入口の1つだと思います**ので、遊び感覚で一度触ってみてはいかがでしょう。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

結論

どのAIコーディングツールがオススメ？

私も2026年現在、Claude Code、OpenAIのCodex、GoogleのAntigravityという御三家のAIツールを全て使って、自分用のアプリを開発してみました。

メインで使っているのはClaude Codeなので、それが一番慣れているのですが、**必ずしもClaude Codeを使う必要はありません**。

OpenAIのCodexもClaude Codeに勝るとも劣らない性能を持っていますし、GoogleのAntigravityもこれからさらなる進化が期待されます。

（2026年8月5日には、Metaからも「Muse Code」というコーディングエージェントのベータ版が出てきましたので、御三家に4社目が加わる形になりそうです。さらに2026年10月28日には、GitHubも開発者向けのイベント「GitHub Universe」で、「GitHub Copilot」のアプリに、作りたいものを伝えると必要な数のAIエージェントを動かして作業を進めてくれる「Projects」と、パソコンのアプリを代わりに操作する機能（MacとWindows）を、どちらも試験版として加えました。本書ではまだご紹介していませんが、エンジニアの間では定番のツールです。）

AIでシステム開発をするためには、自分のパソコン上のフォルダを指定したり、最低限の専門用語を理解するなど、多少のハードルはありますが、勉強をする前にまずはAIに「こんなものを作りたいのだけど、できる？」とチャットをしてみてください。

AIの回答の中の専門用語がわからなければ、その場で質問をしたり、別のチャットで「〇〇ってどういう意味？」と聞いていくことで、自分の知識やスキルも少しずつレベルアップしていくでしょう。

（私もそれを実感しています。）

そうやって最低限の開発の仕組みや手順がつかめれば、どんどんいろんなアプリやプログラムをAIの力を借りて自分が開発できるようになるので、世界が大きく広がるはずです。

もちろん、お客様からお金をいただいて他人に使ってもらう製品にするためには、自分自身もスキルを磨いたり、人間のエンジニアに助言を乞うことも必要になるでしょう。

しかし、それはまた次のレベルの話ですので、**まずは怖がらずにAIを使った開発にチャレンジしてみてください**。

（本章に、Base44、Lovable、Bolt.new、Replit、Grok BuildなどのAIコーディングツールを追記しましたが、**基本的にはClaude CodeやCodexで十分です**。もしその2つのハードルが高いと感じたら、Base44やGrok Buildなどを試してみるのもありです。）

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Chapter 8

画像生成AI



≡ 目次に戻る

Chapter 8　画像生成AI

もうストック画像に高いお金を払う必要はない

私は今までブログやウェブサイトや動画のサムネイル画像の素材をダウンロードするために、AdobeStock（アドビストック）というAdobe社のストック素材サイトに課金をしてきました。

料金は**画像を1ヶ月に40点ダウンロードできるプランで約1万円です**。（月額3万円近く支払うと画像を1ヶ月に750点ダウンロードできる上位プランもあるようです。）

そのAdobeStockに毎月1万円を支払っていたのですが、画像生成AIツールを使えば、有料プランに課金をしても、大体どれも**月額10ドル（1500円程度）の金額で月に数百枚の画像を生成することができます**ので非常にコスパも良いです。

少し前までは「AI生成画像ってちょっと気持ち悪いし、やっぱり人間のカメラマンが撮影して編集したプロフェッショナルな素材のほうがいいよね」という理由で高額なストック画像サービスにお金を支払っていたのですが、現在はもう「**AI画像生成ツールでも十分にハイクオリティな画像を生成できる**し、AIにしかできない画像を生成できるので、AI画像生成ツールに移行しよう！」という決断を下したわけですが、それには全く後悔していません。

ただ、画像生成AIツールは無数にありますし、多くの方が使っているであろう、ChatGPTなどのチャットボットAIツールでも画像を生成することができますので、「ChatGPTの画像生成機能を使えばいいの？それとも別の画像生成AIを使ったほうがいいの？」と悩む方も多いかもしれません。

そこでこのチャプターでは私が実際にこれまで使ってきた画像生成AIツールとその評価や感想をご紹介していきます。

個人的には、以前はChatGPTやGeminiなどの主要なチャットボットAIツールの画像生成機能はイマイチだと思っていましたが、2026年現在はどちらも非常に高性能になりました。

それでも、写実的な画像やアーティスティックな画像など、より特定の用途に合った画像を生成したい方は**「画像や動画を生成できる専門のAIツール」も使ってみることを推奨します**。

それでは実際に定番の画像生成AIツールを見ていきましょう！

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



ChatGPTの画像生成機能

- **公式サイト**：https://chatgpt.com/
- **料金プラン**：ChatGPTを使った最新の画像生成機能が非常に話題になっていますが、無料プランでは使える回数に制限があるようです。より多く生成したいのであれば、**最低でも月額20ドルのChatGPT Plusプランを契約しましょう**。

今まではChatGPTではDALL-Eという画像生成モデルを使っての画像生成が可能でしたが、クオリティがイマイチでしたので、ほとんど使っていませんでした。

しかし、2026年現在はChatGPTの画像生成モデル「gpt-image-2（ChatGPT Images 2.0）」が公開され、その画像生成の性能の高さに注目が集まっています。

以前のDALL·Eモデルを使う公式の「DALL·E GPT」は、**2026年8月30日をもって提供終了となりました**が、ふだん使っているChatGPTの画像生成機能はこれまで通り使えますので、心配はいりません。

そして2026年9月8日には、新しい世代の「ChatGPT Images 2.5」が公開されました。

細部の描き込みが鮮明になり、**生成にかかる時間は前の2.0と比べて最大で半分になりました**。目立つ新機能は4つです。

1つ目は「Sketch（スケッチ）」で、チャットの中に「@Sketch」と打ち込むと絵を描く画面が開き、**あなたがマウスや指で描いたラフな絵をお手本にして、AIが完成度の高い画像に仕上げてくれます**。

2つ目は「テンプレート」で、ポスターや商品写真といったよく使う形が最初から用意されています。3つ目は「画像へのコメント」です。

出てきた画像の直したい場所を指定して「ここの目の色を変えて」と書き込むと、その部分だけを直してくれます。

4つ目は「プロンプトの共有」で、自分が使った指示文を他の人に渡して、その人の写真で同じことを試してもらえます。

また、何度も修正を重ねても絵柄がぶれにくくなり、参考にした写真の人物や商品の見た目も保たれやすくなりました。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

この2.5は、**無料プランを含むすべてのChatGPT利用者に順次提供され**、パソコン・スマホ・ウェブのどれでも使えます。

開発者向けには、標準の「GPT-Image-2.5 Flare」と、細かい編集に強い上位版の「GPT-Image-2.5 Sunburst」の2つが公開されました。

さらに2026年11月4日には、**次の「ChatGPT Images 2.6」が公開されました**。画像を作る速さが上がり、手直しをくり返しても、服装などの細かい部分が変わりにくくなっています。

新しい機能は2つです。1つは、くり返し動くアニメーション（GIF）の作成で、言葉で頼むほか、手持ちの静止画を動かしてもらうこともできます（順次提供中です）。

もう1つは「参考画像の保存」で、写真に名前を付けて保存しておくと、**別のチャットでも「@名前」と打つだけで呼び出せます**。

開発者向けにも「GPT-Image-2.6 Flare」と「GPT-Image-2.6 Sunburst」が公開されました。

Review **オススメ度** ★★★★★

2026年9月8日に公開された「ChatGPT Images 2.5」で一番おもしろいと感じたのは、やはりSketch（スケッチ）です。

言葉で説明しづらい「こういう構図にしたい」という要望を、下手な絵でいいのでその場に描いて渡せるようになりました。

AIに画像を作らせていて一番もどかしいのが「言葉では伝えきれない」という場面ですので、ここを絵で埋められるのは実務的にありがたい変化です。

あわせて、出てきた画像に直接コメントを書き込んで直せるようになった点も、地味ですが効きます。これまでは「右上の看板の文字を直して」と文章で説明していたところを、**その場所を指して伝えられるようになったので、やり直しの回数が減りそうです**。

生成の速さも最大で半分の時間になったとのことですので、無料プランの方でも試しやすくなりました。2025年にChatGPTの新しい画像生成モデル（gpt-image-1）が公開された際は、ジブリ風の画像が生成できると話題になりました。

ただ、日本語の文字の生成は弱く、「あくまでお遊びだよね」程度の印象でした。しかし、2026年4月に新しい画像生成モデル（gpt-image-2）が公開されると、

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

GoogleのNano Bananaモデルを超えていると言っても過言ではない画像生成が可能となっています。

特に簡単なプロンプトだけでも、AIが裏側で最適なデザインを思考してくれて、文脈に合わせた色使いやフォントの選定、画像の配置など「優秀な人間のデザイナーでないとできないレベルのデザイン」が可能となっています。

私もYouTube用のサムネイル画像やブログのアイキャッチ画像をChatGPTの新しい画像生成モデルで作成していますが、Nano Bananaよりも優れていると感じますので、**メインの画像生成AIとして使っていきます**。

なお、このChatGPT Images 2.0は8月25日からMicrosoftのCopilot Coworkの中でも使えるようになりましたので、Microsoft 365をお使いの方はそちらから試すこともできます。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Geminiの画像生成機能

Nano Banana

- **公式サイト**：https://gemini.google.com/
- **料金プラン**：**Gemini上で無料でも一定回数は画像生成ができる**はずですが、有料のGoogle AI Proプランなどに加入することでより多く画像が生成可能となります。

Nano Banana Pro（Gemini 3 Pro Image）はGoogle DeepMindが2025年11月に発表した画像生成・編集AIモデルで、それまでのNano Banana（Gemini 2.5 Flash Image）の上位版にあたります。

最大4K解像度に対応し、14枚もの参照画像を取り込みながら**最大5人までの人物の見た目の一貫性を保ったまま画像を生成・編集できる**点が特徴です。

日本語を含む多言語の文字レンダリングも大幅に強化され、Google検索と連携することで実世界の最新情報を反映した正確なインフォグラフィックや図解の作成も可能になりました。

2026年2月には後継の標準モデル「Nano Banana 2（Gemini 3.1 Flash Image）」が公開され、Geminiアプリの標準の画像生成モデルになっています（Nano Banana Proは有料プランの利用者向けの高品質用のモデルとして残っています）。

2026年6月末には、シリーズで最も速く低コストな「Nano Banana 2 Lite」（文章から画像を4秒で出力）も追加され、用途に応じてモデルを選べるようになっています。

なお、開発者向けに提供されていた旧世代の画像モデル「Imagen 4」シリーズは8月17日で提供が終了し、**Googleの画像生成はNano Bananaシリーズに一本化されました**。

2026年10月6日には、**改良版の「Nano Banana 2.1」**が、開発者向けのGemini APIとGoogle AI Studioで正式に使えるようになりました。

画質や指示どおりに描く力、人物の一貫性、文字入れが良くなり、参考画像は最大14枚、極端な横長・縦長（1:8〜8:1）の画像も作れます（Geminiアプリに入ったかどうかは、2026年11月5日時点でも公式に書かれていません）。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

また10月7日には、画像・動画・音声がAIで作られたものかどうかを、**誰でも調べられるサイト「SynthID Detector（シンスアイディー・ディテクター）」**も公開されました。

Googleのツールで作ったものに加えて、OpenAIなど他社のツールで作ったものも見分けられます（画面は英語のみです）。

Review **オススメ度** ★★★★★

2025年8月に「nano banana」という謎の画像生成AIがネット上で話題になり、その正体がGoogleの新モデルだと判明したのは記憶に新しいですね。

私も早速GeminiとGoogle AI Studioで使ってみました。日本語のプロンプトで問題なく動作し、特に自分がアップロードした元の写真の人物の顔や雰囲気を維持したまま、背景や衣服を変更できる機能は「これはもうPhotoshopは不要になるのでは？」と話題になりました。

さらに2025年11月にNano Banana Proが公開され、文字の正確性・解像度・複数人物の一貫性がさらに進化しています。

2026年7月末のアップデート（Gemini Drop）では、自分のアバターを毎回アップロードしなくても画像に挿入できるようになり、自分が登場する画像を量産したい人にはますます使いやすくなりました。

8月は画像モデルそのものの更新はありませんでしたが、8月27日には姉妹の動画生成モデル「Gemini Omni 1.1 Flash」が正式版になり、Geminiアプリの中で動画のシーンを延長したり、最初と最後のコマを指定して動画を作ったりできるようになっています。

Geminiの**月額2,900円のAI Proプランに加入していれば、追加課金なしで使える**のもありがたいですね。

ChatGPTのgpt-image-2と並んで、**2026年の画像生成AIの最高峰の1つだと言えるでしょう**。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Canva

キャンバ

- **公式サイト**：https://www.canva.com/ja_jp/
- **料金プラン**：
  - 無料プラン：0円。160万点以上のテンプレートと470万点以上の素材が使えます。AI機能は、標準か高品質のモデルで月に最大20回まで使えます（最高品質のモデルは使えません）。
  - Canva Pro：年額11,800円。360万点以上のテンプレート、1億4,100万点以上の素材、ブランドキット5つ、100GBの保存容量、SNSの予約投稿機能などが使えます。AIの利用枠は無料プランの10倍になります。
  - Canva Business：1人あたり年額18,800円。チームでの管理機能、承認のフロー、500GBの保存容量など。AIの利用枠は無料プランの20倍です。

Canvaは、**オーストラリア発のデザインツール**で、チラシ、SNSの投稿画像、プレゼン資料、名刺、動画までをブラウザ上で作れます。

日本でも個人事業主や中小企業に広く使われているので、すでにお使いの方も多いかもしれません。この本で取り上げる理由は、**2026年に入ってCanvaの中のAI機能が大きく増えたからです**。

対話しながらデザインを仕上げていく「Canva AI」、テキストから画像を作る「Dream Lab」、文章から動画を組み立てる機能などが、ふだん使っている画面の中にそのまま入っています。

2026年10月22日には、Canvaが自社で作った初めての画像生成モデル「Canva Craft（キャンバ・クラフト）」も公開されました。

世界中のすべての利用者がDream Labの中で使え、最大2Kの画質で、30種類以上の縦横の比率の画像を作れます（画像の中に入れる文字は55の言語に対応しています）。

さらに2026年11月5日時点では、作ったデザインを見て、言われたとおりに手直ししてくれるAI「Brush（ブラシ）」も、Canva Proプランの方向けに使えるようになっています（日本語でどこまで使えるかは、公式には書かれていません）。

画面もテンプレートも完全に日本語なので、英語のAIツールに苦手意識がある方でも迷いません。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Review **オススメ度** ★★★★★

このチャプターでは、MidjourneyやFlux、Ideogramといった「ゼロから絵を描く」ツールもご紹介しています。

ただ、実際の仕事で一番多いのは「チラシを作る」「SNSの投稿画像を作る」「セミナーの告知バナーを作る」といった作業ではないでしょうか。

そういう場面では、画像を生成するAIよりも、Canvaのように**「テンプレートがあって、文字を入れ替えれば完成する」ツールのほうが、圧倒的に早く仕事が終わります**。

しかも今のCanvaには画像生成AIも動画生成AIも入っているので、「素材はCanvaの中のAIで作って、そのままレイアウトまで仕上げる」という流れが1つのツールで完結します。

新しいAIツールを1つ増やすより、**すでに使っているCanvaの中にどんなAI機能があるかを知るほうが、実務では役に立つ**と思います。

1つだけ注意点をお伝えすると、**AIの利用回数（クレジット）は表示されている上限よりも早く減っていく感覚があります**。

生成に失敗した分も1回として数えられるためで、「思ったより早く使い切ってしまった」という声をよく見かけます。

無料プランでも月に最大20回は使えますので、まずはその範囲でどこまでできるか試してみてはいかがでしょう。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Muse Image / Muse Video

ミューズ・イメージ／ミューズ・ビデオ

- **公式サイト**：https://www.meta.ai/
- **料金プラン**：**Meta AI上で1日あたり一定数の生成は無料で使えます**。それ以上たくさん生成したい場合は、Metaの有料プラン「Meta One」の契約が必要です。
  日本でも2026年9月15日に始まり、月額949円の「Core」と月額2,900円の「Premium」があります。

Muse Imageは、FacebookやInstagramを運営するMeta社が2026年7月7日に発表し、7月8日から提供を始めた画像生成AIです。

最大の特徴は「エージェント型」であることです。普通の画像生成AIは、あなたのプロンプト（指示文）を受け取ってそのまま一気に絵を描きますが、Muse ImageはWeb検索やコードの実行といった道具を自分で呼び出して事実を確認しながら描き、出来上がった画像を自分で見直して手直しします。

そのおかげで、実際にスマホで読み取れるQRコードや、**文字や数字が崩れないインフォグラフィック（図解）を作るのが得意**で、複数の参考画像を組み合わせて1枚にまとめることもできます。

姉妹モデルの「Muse Video」は音声つきの動画生成に対応する予定で発表されていますが、2026年11月5日時点でも公式ページでは「近日公開」のままです。

なお、Instagramストーリーズのエフェクトや、WhatsAppと連携して使う機能は、2026年10月30日時点でも日本には提供されていません。

8月26日には、Muse ImageがRunwayの開発者向けAPIでも使えるようになりました。そして2026年9月15日には、**Metaの新しい有料サブスク「Meta One」が日本でも始まりました**。

月額949円の「Core」と月額2,900円の「Premium」があり、上位のプランほどMeta AIでの画像生成・動画生成の枠が広がります。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Muse Imageは、これまでの画像生成AIとは発想が違うツールだと感じます。Midjourneyが「絵としての美しさ」で群を抜いているのに対して、Muse Imageは

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

「正しさ」に力を入れている印象です。

特に、実際に読み取れるQRコードが生成できる点と、図解の中の文字や数字が崩れにくい点は、チラシや資料を自分で作る中小企業の方にとって実用的だと思います。

AIが自分でWeb検索をして裏を取り、描いた絵を自分で直すという仕組みは、ChatGPTの画像生成やGeminiのNano Bananaにはない考え方なので、今後の画像生成AIの方向性を示しているのかもしれませんね。

動画のほうのMuse Videoは音声つきで生成できると発表されているので、公開されればSNS用の短い動画を作るには十分でしょうが、2026年11月5日時点でもまだ一般には使えませんので、あまり期待しすぎないほうが良さそうです。

ただ、**正直なところ注意点も多いです**。まず、Instagramストーリーズのエフェクトや、WhatsAppからの利用は日本ではまだ使えないため、海外の紹介記事で見た機能がそのまま試せるとは限りません。

また、Meta AI上で無料で使える枚数は1日あたりの上限があり、本格的に大量生成したい場合はMetaの有料プランが必要になりますが、その有料プラン「Meta One」も、2026年9月15日から日本で使えるようになりました（月額949円から）。

作品としての絵づくりを追求したいならMidjourney、**正確な図やQRコードが要るならMuse Image**、という使い分けが現実的だと感じます。

無料で試せる範囲がありますので、まずはあなたの事業で使う図解を1枚作らせてみてはいかがでしょう。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Midjourney

ミッドジャーニー

- **公式サイト**：https://www.midjourney.com/
- **料金プラン**：（2026年11月5日時点で、無料プランはありません）
  - Basicプラン: 月額10ドルで、約200枚の画像生成が可能です。
  - その上のプランは月額30ドル、60、120ドルのプランがあり、上のプランになるほど素早く生成できる画像の枚数や同時に画像を生成するタスクの数を増やすことが可能です。（まずはBasicプランに課金して試してみると良いでしょう。）

Midjourneyは2022年にリリースされた画像生成AIツールです。会社は少人数で運営されており、投資家からの資金調達を行わずに自己資金のみで経営が行われている珍しい会社だと言えるでしょう。

2026年7月24日には最新モデルの「V8.2」がリリースされ、そのままデフォルトのモデル（何も指定しなければ使われるモデル）になりました。

V8.2では「より創造的で大胆、洗練されていてエッジが効いた絵作り」を目指したチューニングが行われ、**低品質な生成が大幅に減っています**。

また、あなたの好みを学習するパーソナライゼーション機能も強化され、評価データが多いユーザーほど好みを正確に反映してくれるようになりました。

動画生成機能もV8以降はモデルに統合され、文章から直接動画を作ることもできるようになりました。8月には、新しいウェブ画面（alpha.midjourney.com）のテスト公開が始まり（8月13日）、8月27日には「ここを直して」と言葉で指示して画像を編集できるV8向けの編集モデルもテスト公開されました。

また、7月24日には占いアプリ「Co-Star」を買収するという、Midjourneyらしい少し変わった動きもありました。

2026年9月24日には、画像の一部だけを描き直す機能で、選んだ部分以外が変わらないように改良され、スタイルの一覧では、いま入力している指示をそれぞれのスタイルで試した場合の見本も表示されるようになりました。

2026年10月8日には、新しいウェブ画面（テスト版）で、作った画像をAIが自分で見直して、**指示とのずれ（物の数や配置、体の形、文字など）を直してから描き直す**「Thinking Mode」のテストも始まりました。

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Review **オススメ度** ★★★★☆

MidjourneyはAI画像生成業界においては必ず名前が挙がるような定番のAI画像生成ツールです。

無料プランが存在しないのでオススメしづらい部分はあります。ただ、以前は日本語のプロンプトの場合、画像生成の精度がイマイチでしたが、**最近は日本語のプロンプトにも対応するようになったので一気に使いやすくなりました**。

2026年のV8.1からは英語の文字が画像内にきれいに入るようになったため、**ChatGPTやIdeogramと並ぶレベルに進化していると感じます**。

さらに7月にデフォルトになったV8.2では、以前ときどきあった「明らかに失敗している画像」がほとんど出てこなくなり、生成した中から使える1枚を探す手間が減ったという印象です。

8月27日にテスト公開された編集モデルは、「作った画像のここだけ直したい」という時に言葉で指示できるので、正式版になればさらに実用的になりそうです。

Midjourneyで画像を生成して、それを動画生成AIで動画化するのも定番の手法です。**アーティスティックな画像や動画を作りたいならMidjourneyはお勧めできます**。

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Flux

フラックス

- **公式サイト**：https://bfl.ai/
- **料金プラン**：開発元のBlack Forest Labsの公式サイト（およびAPI）は使った分だけ支払う従量課金です。
  2026年10月15日に公開された小型版の「FLUX 3 Image Klein」は、無料でダウンロードして自分のパソコンで動かせます（年間の売上が500万ドル未満の個人や会社なら、商用利用も無料です）。
  Fluxモデルは本書でご紹介しているPoeやKrea、Magnificなどの他社ツールの中でも使うことができ、**そちらでは無料枠で試せる場合が多いです**。

Black Forest Labsが開発したFluxは、テキストから画像を作るAIモデルです。2025年11月にリリースされた「Flux 2」（Pro / Flex / Dev / Klein / Max の5モデル展開）では、最大4メガピクセル（4MP）解像度、最大10枚の参照画像の取り込みが可能になり、テキストレンダリングも大幅に強化されました。

そして**2026年7月23日には、次の世代となる「FLUX 3」が発表されました**。FLUX 3は画像だけのモデルではなく、画像・動画・音声・さらにはロボットの行動予測までを1つの仕組み（単一アーキテクチャ）で扱う「マルチモーダル・フロンティアモデル」です。

その第1弾として、8月4日に動画生成の「FLUX 3 Video」が開発者向けに一般公開されました。

音声つきで最大20秒の動画を一度の生成で出力でき、文章から動画、画像から動画、生成した動画の音声つき続きの生成にも対応しています（料金は1秒あたり0.06〜0.29ドル）。

8月20日には作った動画を4Kまで高画質化する機能も加わりました。そして2026年10月はじめには、**画像を作る「FLUX 3 Image」も、開発元の公式サイトのPlayground（お試し画面）とAPIで使えるようになりました**（開発者向けの料金は1枚あたり0.041ドルから）。

最大10枚の参考画像を組み合わせたり、画面の中に枠を描いて「ここにこれを置く」と配置を指定したり、できあがった画像の一部だけを直したりできます。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

さらに2026年10月15日には、誰でもダウンロードして自分のパソコンで動かせる小型版「FLUX 3 Image Klein（クライン）」も公開されました。

画像の作成と手直しができ、軽くした版なら映像用のメモリが8GBほどのグラフィックボードでも動きます。

年間の売上が500万ドル未満の個人や会社なら、無料で商用利用もできます。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Fluxモデルは、数ある画像生成モデルの中でも、**非常にクオリティが高く、なおかつ素早く画像を生成できる**ので、ブログ用の画像としてほぼ毎日のように仕事で活用してきました。

ChatGPTの画像生成機能がレベルアップしてからは、それまでよりも使う頻度は減りましたが、**ChatGPTよりも圧倒的に素早い画像生成が可能です**ので、スピードを重視する時はFluxモデルを使うようにしています。

（Poeというツールの中でFluxモデルを使うことが多いです。）ChatGPTはジブリなどのアニメ風の画像を作るのは得意ですが、**より写実的な静止画の場合は、Fluxモデルの方が優れていると感じます**。

どんな静止画を生成したいか？によって使うAIツールを使い分けることがお勧めです。

そして2026年7月に発表されたFLUX 3は、画像生成の会社だと思っていたBlack Forest Labsが動画・音声・ロボットまで一気に手を広げてきた形で、正直かなり驚きました。

8月4日には動画の「FLUX 3 Video」が先に一般公開され、HiggsfieldやRunwayなどの動画生成ツールの中でも使えるようになっています。

そして10月に入って、私たちが一番使いたい画像のほうのFLUX 3も、ようやく使えるようになりました。

まずは開発元の公式サイトとAPI、それに2026年10月15日に出た小型版のKleinを自分のパソコンで動かす形で使える段階ですので、私がふだん使っているPoeなどのツールに入ってきたら、Flux 2から画像のクオリティがどれだけ上がったのか、ぜひ試してみたいと思います。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Poeでの画像生成

ポー

- **公式サイト**：https://poe.com/
- **料金プラン**：無料でも使えますが、1日3000ポイントしか使えず、それだと1日に生成できる画像は数枚程度だと思った方がいいです。
  月額3000円の有料プランを契約すると1ヶ月に100万ポイント使えるので文章はもちろん、画像や動画や音声などもあまり制限なく使えます。

Poeは世の中に存在する様々なAIモデルを使うことができる統合型のAIツールです。Flux、Nano Banana 2、ChatGPTのGPT-Image-2、Ideogramなどをはじめ、**たくさんのAIモデルを1つのツール内で使うことができる**便利なツールです。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Poeは画像生成AIに限らず、文章や動画や音声など、様々なAIモデルを使い比べることができる便利な統合型のAIツールです。

もしあなたが「いろいろな会社が公開している画像生成AIを使い比べてみたい」と思うのであれば、**Poeは1つの有力な選択肢になるはずです**。

個人的には、ChatGPTの画像生成AIモデルもPoeの中で使うことができるので、ブログの画像や商品のイメージ画像などを生成する際によく使っています。

（ChatGPT内で画像生成をすると、月額20ドルのPlusプランでも使用制限がかかることも多いので、そうなった際はPoeの中でChatGPTの画像生成モデルを使うようにしています。）また、Poeは各社が公開している**最新のAIモデルをいち早く導入してくれる**ので、画像生成に限らず、1つのツールで様々なAIを使ってみたい方にはお勧めできるツールです。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

Ideogram

イデオグラム

- **公式サイト**：https://ideogram.ai/
- **料金プラン**：無料でも一定数は画像生成が可能です。**有料プランは月額20ドル（年払いなら月あたり15ドル）**のPlusプランから。（以前あった月額8ドルの一番安いプランは、現在はなくなっています。）

Ideogram（イデオグラム）は、2026年6月に公開されたIdeogram 4.0という独自の画像生成モデルを使って画像生成ができる画像生成AIツールです。

指定したテキストを画像に入れて**バナー画像やポスターのような文字入りの画像を作れることが特徴**と評判のツールです。

Ideogram 4.0は2K解像度に対応し、多言語の文字入れや、「この位置にこの要素を置く」というレイアウトの指定、透過画像の書き出しなどにも対応しました。

モデルの重みが公開されており、他社のツールの中でも使えるようになっています（8月にはRunwayなどにも追加されました）。

そして2026年9月30日（日本時間10月1日）には、**編集に強い新しいモデル「Ideogram 4.5」が公開されました**。

同じ画像に何度も修正を重ねても、**色や細かい部分がずれにくくなった**のが特徴で、高い解像度の画像の一部だけを直したり、画像の中の文字を別の言語に差し替えたりもできます（公式ページでは、英語の商品パッケージを日本語にする例が紹介されています）。

Ideogram本体とAPIのほか、KreaやRunway、Gamma、Lumaなどのツールの中でも使えます。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Ideogramは2025年3月にIdeogram 3.0という新しいバージョンのモデルが公開された際に実際に試してみたところ、その性能は非常に高いと感じました。

元々、英文の文字を正確に生成できる画像生成AIツールとして定評がありましたが、バージョン3.0へのアップデートによって、全体的な画像生成のクオリティがさ

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

らに上がったと感じます。

2026年6月には次のIdeogram 4.0が公開され、解像度やレイアウトの指定機能がさらに強化されています。

ただ、**日本語の文字はあまり正確には再現できない**ので、日本語の文字入りの画像を生成したければ、最新のChatGPTの画像生成機能を使ったほうが良いでしょう。

（ただ、9月30日に出たIdeogram 4.5では、英語の文字を日本語に差し替える例が公式に紹介されていますので、日本語の文字入れがどこまで実用的になったかは、改めて試してみたいと思います。）それでも、ChatGPTで一度に複数枚（最大8枚）の画像を作るには、有料プランで「考える」設定（Thinking）を使う必要があるのに対して、Ideogramであれば一般的な画像生成AIツールと同じように手軽に4枚の画像を生成できるので、英単語や英文の文字入りの画像を素早く生成したいのであれば、**Ideogramのほうが使い勝手は良いと言えるでしょう**。

API経由によって他のツールでIdeogramのAIモデルを使うことも可能ですが、いち早く最新のモデルを使いたい場合は、公式サイトを使うのがお勧めです。

なお、以前は月額8ドルの安いプランがあったのですが、現在は一番安い有料プランが月額20ドル（年払いなら15ドル）になっていますので、**「他社より安い」というメリットはなくなってしまいました**。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Krea.ai

クレアai

- **公式サイト**：https://krea.ai/
- **料金プラン**：**無料プランでも1日100ユニット分の画像は作れる**のでまずは無料で試してみましょう。有料プランは、Basic（月額9ドル、年払いなら月あたり約5ドル）、Pro（月額35ドル、年払いなら月あたり21ドル）、Max（月額105ドル、年払いなら月あたり63ドル）、Business（月額200ドル、年払いなら月あたり160ドル）などです（2026年11月5日時点の公式の料金ページ）。
  現在は「コンピュートユニット」という単位で使った分を数える仕組みになっており、使うモデルによって1枚あたりの消費量が変わります。

Krea.aiは、もともとは他社の画像生成・動画生成モデルを使いやすくまとめてくれるAIツールでしたが、2026年5月に自社開発の基盤モデル『Krea 2』を公開し、**独自モデル＋他社60以上のモデルを横断的に使える総合型AIツールへと進化しました**。

Krea 2はスタイル転送（参照画像から雰囲気だけを真似る機能）に強く、ムードボード機能や音声で指示しながら描けるVoice Modeなど、創作プロセスそのものを楽しくする工夫が随所にあります。

6月にはKrea 2の重みも公開されました。そして2026年10月には、次の自社モデル「Krea 3」が加わりました。

文章から画像を作れるほか、言葉で指示して画像の一部だけを直すのが得意で、商品やロゴ、文字の見た目を崩さずに編集できます。

Kreaのアプリでは無料プランを含むどのプランでも使え、上位版の「Krea 3 Ultra」はMaxプラン以上で使えます。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Krea.aiは様々な会社が公開している画像生成と動画生成のAIモデルを切り替えて使うことができる多機能なAIツールです。

画像生成においては、Flux、Ideogram、Nano Bananaなどの各モデルを切り替えて使うことができます。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

無料でも一定数の画像生成は可能ですので、Fluxモデルなどをはじめとする高性能な画像生成AIモデルを気軽に試してみたい場合は、Krea.aiは選択肢の1つになるはずです（2026年11月5日時点では、年払いなら月あたり5ドルの一番安いBasicプランも用意されています）。

ただ、私もしばらくKrea.aiに課金していましたが、「月額20ドル支払えばもっといろいろなAIモデルを使うことができる**Poe（ポー）のほうがコスパが良いよな」と感じて、最近は使っていません**。

なお、**料金の仕組みが「枚数」から「ユニット」に変わっています**ので、以前の「月額10ドルで700枚」という説明はもう当てはまりません。

使うモデルによって消費量が大きく変わるので、契約前に料金ページで確認してみてください。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Leonardo.ai

レオナルドai

- **公式サイト**：https://leonardo.ai/
- **料金プラン**：無料でも一定数の画像を生成可能です。**有料プランは月額10ドル〜です**ので、無料で試してみて気に入ったら有料プランの契約を検討するとよいでしょう。

Leonardo.aiは豊富なプリセットやスタイルを指定することで様々なイメージの画像を簡単に生成できる便利なAI画像生成ツールです。

特にFlowState（フローステート）という機能が非常に便利なのでお勧めできるツールの1つです。なお、Leonardo.aiはデザインツールのCanvaの傘下にあり、2026年9月15日に始まったCanvaのプロ向けのセット「Canva ProSuite」にも含まれています。

Review **オススメ度** ★★★★☆

定番のAI画像生成モデルであるFluxや、日本のアニメ調、映画調、イラストレーション風、ストック画像風など、いろいろなモデルやプリセットを選択できるので、あなたに具体的なイメージがなくても完成形の画像を予想しながらAI画像を生成できます。

初心者にも優しい画像生成AIツールであると言えるでしょう。特に、少し前に実装された「FlowState（フローステート）」というモードをオンにすると自分が伝えたプロンプトに対して、**一気に数十枚の画像を生成してくれて大量の候補の中から画像を選ぶことができます**。

それによって既存のストック画像サイトのようにたくさんの画像の中から自分の希望に合うAI素材を探すことができる点は非常に便利です。

この機能は他の画像生成AIにはないので、FlowStateモードを使うためにLeonardo.aiを使うのもありだと思います。

無料でも一定数のクレジットをもらえますから、まずは無料で試してみてください。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Magnific

マグニフィック

※旧Freepik

- **公式サイト**：https://www.magnific.com/
- **料金プラン**：無料アカウントでも一定数の画像は生成可能です。有料プランは、日本向けの公式の料金ページ（2026年10月30日時点、年払い・税別）では、Premiumが月あたり1,950円（年間24万クレジット）、Premium+が月あたり4,875円（年間60万クレジット。一部のモデルは回数無制限で生成できます）、Pro Starterが月あたり約11,892円から（年間150万クレジット。Nano Banana Proも使える年間400万クレジットの段階もあります）です。
  クレジットは年単位でまとめて付与され、毎月リセットされない仕組みになっています。

スペイン発のAI画像生成ツールとして知られていた「Freepik（フリーピック）」は、2026年4月28日に**サービス名・社名ごと「Magnific（マグニフィック）」へリブランドしました**。

もともとMagnificはFreepikが買収した高性能な画像アップスケール（画像を高解像度に引き伸ばす技術）ツールの名前でしたが、AI事業の成長にともなって、そのMagnificの名前をサービス全体の顔として使うことになった形です。

ドメインも freepik.com から www.magnific.com に移行しています。これにともない「Freepik Spaces」も「Magnific Spaces」に名称が変わりました。

すでにFreepikのアカウントやサブスクリプションを持っていた人は、**特別な手続きをしなくても自動的にMagnificへ引き継がれています**ので、あなたが以前Freepikに登録していたのであれば、そのままのIDでログインできます。

元々はストック画像を提供するサービスでしたが、近年はAIによる画像生成・動画生成に力を入れており、AI画像生成サービスとしての地位も確立しています。

2026年11月5日時点の料金ページでは、**自社の新しい画像モデル「Magnific One」が前面に出ており**、ほかにもChatGPTのGPT Image 2.5、GoogleのNano Banana 2とNano Banana Pro、Flux 2、Recraft V4.1、Grokなど多彩なモデルを使えます。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Review **オススメ度** ★★★★☆

MagnificもKrea.aiなどで使えるFluxモデルを使用して画像を生成することができるAI画像生成ツールなので、生成される画像のクオリティは高いです。

また、GoogleのNano Banana 2やChatGPTのGPT Image 2.5など、各社の最新モデルを1つの画面で切り替えて使えるのが特徴です。

Krea.aiと違うのは、**よりデザインツールとしての機能が豊富な点です**。画像生成をする際に様々なプリセットやスタイルの中から気に入った設定を選ぶことができたり、生成した画像をその場でLightroom（Adobeの写真編集ソフト）のように色補正やレタッチを行うこともできるので、AIが生成した画像に**自分でカスタマイズを加えたいデザイナーの人には向いている**かもしれません。

また、動画の生成機能もありますから、動画生成と画像生成の両方を1つのツールでまとめて行いたい人には選択肢の1つになるでしょう。

なお、2026年4月にFreepikからMagnificへ名前が変わったので、以前の書籍や記事を見て「freepik.comにアクセスしたのにサービス名が違う」と戸惑わないようにしてください。

中身は同じサービスですし、以前からの契約もそのまま引き継がれていますので安心してください。

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Recraft.ai

リクラフトai

- **公式サイト**：https://recraft.ai/
- **料金プラン**：無料プランでも、1つのスタイルにつき1日3回まで画像生成が可能です（1回につき最大2枚。2026年11月5日時点の公式の料金ページの説明です。無料プランで作った画像は公開され、商用利用はできません）。
  有料プランは月額12ドル～です。

Recraft.aiは、AIを活用して高品質な画像生成からモックアップ作成、ロゴ生成などの様々な機能を提供している画像生成ツールです。

他の画像生成AIツールと違い、画像を生成するだけではなく、**実際の商品のモックアップを作成するなどの仕事で使える実用的な機能が豊富**な画像生成AIツールです。

2026年2月にはRecraft V4が公開され、無料プランでもベクター画像生成（SVG出力＝拡大しても劣化しない形式での書き出し）が使えるようになり、5月14日には改良版のRecraft V4.1が公開されました。

さらに2026年7月9日には「Vector Editor（ベクターエディタ）」がリリースされ、AIが生成したベクター画像を**Recraft Studioの中でそのまま直接編集できるようになりました**。

これまでは細かい調整をしたい場合、いったんIllustratorなどの外部ツールに持ち出す必要がありましたが、その手間がなくなった形です。

Recraft Studioの中では、Googleの「Nano Banana 2.1」（2026年10月8日に追加）やChatGPT Images 2.5など、他社の最新モデルも選んで使えます。

8月26日には、参考画像（最大10枚）をアップロードするだけで、学習なしにその画風に揃えた画像を作れる「Recraft V4 Styles」も公開されました。

9月23日には、**約1.3秒で画像を作れる、同社で一番速いモデル**「Recraft V4.1 Flash」も加わっています。

ロゴやアイコンを商用利用したい方には、特に強い選択肢になるはずです。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Review **オススメ度** ★★★★☆

Recraft.aiは他の画像生成AIツールと同じようにハイクオリティな画像を生成できるだけではなく、「犬の顔をプリントしたTシャツ」というような商品イメージを伝えるプロンプトを入力すれば、物販などで販売できるグッズなどのモックアップ画像作成が可能であることが特徴です。

他のAIツールよりも高機能な分、使いこなすには慣れが必要ですし、**どちらかと言えばデザイナー向けのAIツールだと感じます**ので、ただブログやSNSで使うためのAI画像を生成するだけであれば、**他のツールの方が良いかもしれません**。

以前は「せっかくベクター画像を作れても、結局Illustratorに持っていって直す必要があるのが面倒だな」と感じていたのですが、2026年7月にVector Editorが追加されたことで、Recraftの中だけで生成から微調整まで完結できるようになりました。

8月26日に出た「V4 Styles」は、自社のブランドの画風を参考画像で揃えられるので、「SNSの投稿画像の雰囲気を毎回揃えたい」という会社には実用的だと感じます。

私もデザイナーではありませんのでRecraftの機能をフルに使いこなすことは出来ていませんが、ただAI画像を生成するだけではなくてデザイナーとしての仕事にAIの要素を取り入れて生産性や創造性のアップを目指す方にとってぴったりのツールだと思います。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Microsoft Designer

マイクロソフトデザイナー

- **公式サイト**：https://designer.microsoft.com/
- **料金プラン**：無料アカウントでも毎月一定数の画像生成ができるクレジットがもらえます。Microsoft 365のサブスクリプションに課金しているとプランに応じて**使えるクレジット数が最大4倍に増える**のでMicrosoft製品のユーザーは積極的に使うべきでしょう。

Microsoft Designerは、Microsoftが提供するAI画像生成ツールで、ユーザーはテキストプロンプトを入力することで、高品質なデザインや画像を作成できます。

日本語のプロンプト入力でも画像を生成可能な点がメリットです。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Microsoft Designerは、当初はChatGPTのDALL-Eモデルで画像生成が行われており、生成画像のクオリティはイマイチでした。

しかし、2025年12月から2026年3月にかけて、OpenAIのGPT-Image-1.5モデルがMicrosoft 365 Copilot全体に順次統合されたことで、Microsoft Designerの**画像生成のクオリティも大きく向上しました**。

以前のChatGPTの画像生成と同等のクオリティで、なおかつアイコン、アバター、壁紙、招待状、バナー、ポスター、ソーシャル投稿などのプリセットを選んで簡単に画像が生成できる点はメリットでしょう。

Microsoft 365のサブスクリプションをすでに契約している方は、**追加課金なしで使えるため積極的に活用してみると良いでしょう**。

なお、2026年4月にChatGPT本体で公開されたgpt-image-2（ChatGPT Images 2.0）は、8月25日にMicrosoft 365のCopilot Coworkに統合されました。

Designer本体への搭載については2026年11月5日時点では公式の発表を確認できていませんが、Copilot側で使えるようになった以上、時間の問題だと予想しています。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Kling.aiの画像生成機能

クリングai

- **公式サイト**：https://kling.ai/
- **料金プラン**：無料でも使用可能ですが、無料アカウントでは生成数が限られていて、生成時間もサーバーの混み具合に応じて待たされることが多いです。**有料プランは月額10ドル〜です**。

Klingは、中国の企業である快手（Kuaishou/クアイショウ）が開発した画像/動画生成AIサービスです。

特に動画生成のクオリティが高く、注目を集めているツールです。画像生成については、2026年の「Kling 3.0」シリーズで「Kling Image 3.0」と「Image 3.0 Omni」という新しい画像モデルになり、2K・4Kの高解像度での出力や、複数枚の画像で登場人物や背景を揃える「Image Series（シリーズ）」モードにも対応しました（8月13日に公式の使い方ガイドも公開されています）。

なお、公式サイトのURLは以前のklingai.comからkling.aiに変わっています（旧URLからは自動的に転送されます）。

Review **オススメ度** ★★★☆☆

Kling.aiは動画生成AIツールとして話題になっていたので使ってみたのですが、**画像生成もかなりクオリティが高いです**。

以前のKolorsというモデルから、現在はKling Image 3.0という新しい画像生成モデルに切り替わり、さらに性能もアップし、日本語でのプロンプトにも対応しています。

難点を挙げるとすると、人物の画像を生成する際に、中国系の顔立ちになりがちな点や、英字の文字を画面に入れようとするとスペルが間違っているなど、**文字の生成には弱い点です**。

（3.0では文字の精度も上がったとされていますので、今後に期待したいところです。）ただ、こちらで用意した人物写真をアップロードし、任意の洋服に着せ替えるなどのアパレル系ECサイトで使えそうな機能もあるので、衣服をネット販売されたい方は試してみると良いでしょう。

Kling.aiは動画生成の性能が高いので、動画生成をメインの目的で使用し、動画生成に使用しない**余ったクレジットがあれば画像も生成してみる**、というような形の使い方がオススメです。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Grokでの画像生成

グロック

※Imagine Image 2.0

- **公式サイト**：https://x.ai/grok
- **料金プラン**：1日の回数制限はありますが、**Xの無料アカウントでも画像は生成可能です**。Xの有料プラン（2026年10月12日からは、新しく契約する場合は「The X Subscription」のPlus以上で、日本のウェブ版では月額1,280円と報じられています）に課金するとGrokのチャット機能および画像生成の制限は緩和されます。

SpaceXSI社（旧xAI）が提供するGrokには、画像生成機能「Grok Imagine」もあります。

以前はFluxモデルを使った画像生成しかできませんでしたが、その後は独自の画像生成モデル（Aurora）に切り替わり、2026年8月7日には**新しい画像モデル「Imagine Image 2.0」が公開されました**。

grok.comのImagine画面の「Quality Mode」として提供されており、デザイナーのように文字の配置やレイアウトを先に考えてから描くため小さな文字もきれいに入る、最大5枚の参考画像を組み合わせた編集、選んだ部分だけを描き直すマジックワンド編集、背景の削除、画像の縦横比を賢く変える「Smart Resize」などに対応しています。

SpaceXSIによると、公開時点でArenaの画像生成ランキングと画像編集ランキングの両方で世界2位だったとのことです。

なお、それ以前から使われていた古い画像モデル「grok-imagine-image-quality」は、2026年11月2日で終了しました。

今は古いモデルを指定しても、新しいImagine Image 2.0の低画質設定に自動的に切り替わり、1枚あたりの料金は以前より安くなります（開発者向けのAPIは書き換えなくても動きます）。

Review **オススメ度** ★★★☆☆

以前はFluxモデルを使って画像生成を行うことができましたが、その後はAurora（オーロラ）という独自の画像生成モデルが採用され、2026年1月のアップデート

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

で肌や照明の表現が向上するなど、当初に比べれば仕事でも使えるレベルに近づいていました。

そして8月7日の「Imagine Image 2.0」で、**Grokの画像生成は一気に本気モードになったという印象です**。

特に小さな文字まできれいに入る点と、部分的な描き直しや背景の削除といった編集機能が揃った点は、**ChatGPTやNano Bananaと十分に比較できるレベルだと感じます**。

ただし、2026年4月にはGrokによる有名人のディープフェイク画像生成が問題視され、AppleがX（旧Twitter）アプリのApp Store削除を警告するという事態も発生しています。

8月には、幼少期の写真から性的な画像を生成されたという女性が集団訴訟に加わったとも報じられており、こうした規制や訴訟のリスクは引き続き残っています。

SNSへの投稿は慎重に行うことを推奨します。上記のように有名人そっくりの画像を生成できるのも特徴ですが、悪用されたり、有名人の名を騙る人に騙されたりなどないよう、注意してください。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Adobe Firefly

アドビファイアフライ

- **公式サイト**：https://firefly.adobe.com/
- **料金プラン**：無料でも一定数の画像生成は可能です。AdobeのCreative Cloudのサブスクリプションを契約していると使えるクレジットが増えます。
  単体のプランは、**Firefly Standard（月額1,580円、2,000クレジット）**、Firefly Pro（月額3,180円、4,000クレジット）、Firefly Pro Plus（月額6,600円、10,000クレジット）、Firefly Premium（月額31,680円、50,000クレジット）の4種類で、上位プランほど動画生成や他社の高性能モデルをたくさん使えます。
  （以前のProは月額4,780円でしたが、現在は値下げされて新しくPro PlusとPremiumが追加されています。）

Adobe Fireflyは、Adobe社が提供するAI画像・動画生成プラットフォームです。2026年現在のFireflyは、Adobe独自のImage Model 5に加えて、GoogleのNano Banana 2 / Veo 3.1、OpenAIのGPT Image、Runway Gen-4.5、Black Forest LabsのFlux.2 [pro]、Kling、ElevenLabsのMultilingual v2など、**30以上の他社AIモデルを1つの環境で切り替えて使える**「統合型のクリエイティブAIプラットフォーム」に大きく進化しました。

2026年7月には「Interfaces（ベータ版）」も公開されました。これは作業の流れ（ワークフロー）から専用の操作画面を作れる機能で、1回の処理で最大500点の素材をまとめて処理できます。

8月7日には、商用利用しても安全な楽曲を作る「Generate Music」と、ElevenLabsの技術を使ったナレーション生成「Generate Speech」も加わり、8月19日には画像・動画の生成と編集、素材の管理、動画のタイムライン編集を1つにまとめた新しい作業画面（ベータ版）も公開されています。

また、8月21日からは日本向けに、無料ユーザーでも通常の枠とは別に1日一定回数まで画像・動画・音声を生成できる**「AIアシスタント無料体験プログラム」も始まりました**。

さらに2026年9月2日には、SlackからFireflyやPhotoshop、Premiereなど70以上のAdobeのツールを呼び出せる「Adobe for Slack」が公開されました。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

チャットで話している内容をそのまま画像や資料に変えられるという便利なものですが、提供開始時点ではSlackの上位プラン（Business+以上）が必要ですので、個人事業主の方にはまだ縁が薄いかもしれません。

2026年9月24日には、**ClaudeとGeminiの中からAdobeのツールを呼び出せる範囲も広がりました**。

Claudeでは、PDFの整理・墨消し・形式の変換や、PDFを直接書き換える機能が使えるようになり、GeminiでもPhotoshop・Lightroom・Express・Fireflyをつなげられるようになっています（Gemini側は2026年10月10日時点では英語のみの対応です）。

また9月29日には、ChatGPTの中のAdobeのプラグインで、作った画像やデザイン、PDFを手で細かく調整できる操作も加わりました。

Review **オススメ度** ★★★☆☆

以前は「Adobe Firefly独自の画像生成モデルのクオリティは明らかに他社より劣る」という印象でしたが、2026年現在のFireflyは位置付け自体が変わり、**「Adobe以外の最新AIモデルを横断的に試すためのハブ」として使える**ようになりました。

Nano Banana 2、GPT Image、Flux 2、Klingなどの最新モデルを1つの環境で切り替えて比較できるのは便利で、Adobeを普段使っている方なら、**課金ツールを別途増やさずに最新モデルにアクセスできる点が大きなメリットです**。

さらに7月に追加されたInterfacesを使えば、500点もの素材を一度にまとめて処理できるので、バナーや商品画像を大量に作る必要がある会社にとってはかなり実用的だと感じます。

8月には音楽やナレーションまで作れるようになり、「Adobeの中で画像・動画・音・声を全部そろえる」という方向に進んでいるのがよく分かります。

生成した画像をそのままPhotoshopやIllustratorで仕上げる流れもスムーズなので、デザインを仕事としてされている方には選択肢の1つになるはずです。

料金体系も8月に見直され、**Proが月額3,180円に値下げされました**ので、以前「ちょっと高いな」と感じて見送っていた方は、もう一度確認してみると良いでしょう。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

結論

どれがオススメ？

ここまでたくさんの画像生成AIツールをご紹介してきました。これらの中で、どれをオススメするかというと、**あなたの目的や環境次第です**。

まず最初に考えて欲しいのは、「すでにあなたが課金しているツールの中にAI画像生成機能があるかどうか？」です。

もしも、そうでしたら追加で新しいツールに課金をする前に、**すでに使えるツールで画像生成を試してみてください**。

その上で「イマイチだな…」と思う点があれば、目的に応じて追加の画像生成ツールを試してみる、というステップが良いでしょう。

本チャプターでもご紹介しましたが、定番のチャットボットAIであるChatGPT、Gemini、Grokなどにも画像生成機能はあります。

その中でも、ChatGPTのImages（2026年11月5日時点の最新版は2.6）やGoogleのNano Bananaの画像生成機能は非常に性能が高いことが話題になりました。

特に日本語でのプロンプト入力が可能で、なおかつ日本語の文字を含んだ画像を生成できるということは、大きなメリットです。

（8月にはGrokの「Imagine Image 2.0」も出てきて、この分野の競争はさらに激しくなっています。）

となると、「とりあえずAIで画像生成をしたければ、**ほとんどの人にとっては、ChatGPTまたはGemini（Nano Banana）で十分**」ということになりそうですね。

ただ、1つだけ付け加えておきます。「**生成した画像を、そのままバナーやチラシ、SNSの投稿に仕上げたい**」という方は、Canvaを使ってみてください。

Canvaの中でNano BananaなどのAIモデルを呼び出して画像を作り、そのままデザインとして仕上げるところまで1つの画面で完結します。

画像を作ることそのものより、「配る形にするまで」に時間を取られている方には、こちらのほうが早いです。

私の会社でも、以前は画像の制作をデザイナーにお願いしていましたが、Nano Bananaが出てきてからは、社内でAIに作ってもらう形に切り替えました。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

品質と速さと費用のバランスを考えると、その判断にならざるを得なかった、というのが正直なところです。ただ、これは「デザイナーが要らなくなった」という話ではありません。

何を伝えるべきかを考えて、たたき台を良くしていく仕事の価値はむしろ上がっています。**AIに任せられるのは、あくまで「言われた通りに手を動かす」部分だけです**。

これは私自身にも言えることで、あなたも私も、AIに任せられない部分は何かを考え続ける必要がある時代になった、ということだと思います。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

画像生成AIツールの個人的ランキングベスト3

1位 ChatGPTの画像生成機能

2025年11月にGoogleがNano Banana Proを公開し、画像生成のトップの座をしばらくGoogleが守っていましたが、2026年4月にOpenAIがgpt-image-2（ChatGPT Images 2.0）を公開したことで、また形勢が変わったと感じます。

さらに2026年9月8日には後継の「ChatGPT Images 2.5」が公開され、手書きのラフから清書する「Sketch」など、実務で使える機能が増えました。

11月4日には「ChatGPT Images 2.6」も公開されています。両者の性能差は紙一重で、日本語の文字入り画像ならChatGPT、複数人物の一貫性が必要な作業ならNano Banana Pro、というように**『得意分野で使い分ける』時代に入った**と言えるでしょう。

2位 Geminiの画像生成機能

GoogleのNano Bananaも画像生成モデルとしては非常に優れているのですが、ChatGPTの画像生成モデルがバージョンアップしたことで、**現在は私もChatGPTをメインで使うようになりました**。

またGoogleがどんな次の一手を打ってくるのか楽しみですね。

3位 Midjourney（ミッドジャーニー）

Midjourneyは以前は日本語のプロンプトの場合、生成される画像の精度が落ちてしまうことが多かったのですが、最近は日本語プロンプトでも高品質な画像を生成してくれるようになったので非常に使いやすくなりました。

ChatGPTやGeminiよりも**さらに芸術的な画像を生成したい場合はMidjourneyも使ってみると良いでしょう**。

（ただし無料では使えないのが若干お勧めしづらい点です。）

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Chapter 9

動画生成AI



Chapter 9　動画生成AI

時間とコストをかけない新時代の動画制作の形

私は学生の頃に、大学の映画サークルのお手伝いをしたことがあったのですが、当時はDVテープで撮影を行うのが主流で、撮影した素材をMacに取り込むだけでも長い時間がかかり、「映像制作って大変なんだな〜」と感じた記憶があります。

その後、スマートフォンの登場やパソコンの性能が飛躍的に向上したことで誰もが動画を気軽に作れる時代が来たわけですが、その次のステップとして、「文章での指示や静止画の素材があれば、**カメラがなくてもAIを使って映画のような高画質な動画素材を瞬時に生成できる**」というとてつもない技術が現実になってしまいました。

ただ個人的な意見としては、「じゃあ映像は全てAI生成のものを使ったほうがいいよ！」とは思いませんし、まだまだリアルな人間が出演している映像や動画を見たいと私は感じます。

（その考えもいずれは古臭いものになるのかもしれませんが…）

そこで私が考える便利な動画生成AIの使い方としては、**「実写のストック素材を動画生成AIに置き換える」という使い方です**。

私もYouTube動画や広告動画などを作る際に自分の顔だけをずっと写すのではなく、「話している内容に関係がある素材を挿入する」というテクニックを多用しています。

（「インサート映像」とか「Bロール」という呼び方もあります。）

例えば、「こんなことでお悩みではありませんか？」というセリフに合わせて、「悩んでいる女性の動画素材」を画面に表示したいと思ったら、ストック素材サイトでイメージに合う素材を購入する必要があり、それなりのコストがかかりました。

しかし、動画生成AIを使えば、静止画の画像生成AIよりはコストはかかりますが、**月額数千円程度のコストでも一定数のAI動画を生成できます**。

ぜひ今回ご紹介する動画生成AIツールを使ってみて、少ないコストであなたの動画のクオリティを高めることで、よりよい成果を出せるようにしていきましょう！

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

Google Veo

グーグルヴェオ

- **公式サイト**：https://deepmind.google/models/veo
- **料金プラン**：月額2,900円のGoogle AI Proプランなら、**動画制作ツールのGoogle Flowの中で使うことが可能です**（2026年11月5日時点では、Geminiアプリで作る動画はVeoではなくGemini Omniが担当しています）。
  Google Flowの無料枠（1日50クレジット）でも試せるほか、API経由でVeoが使えるサードパーティツール上でも使用可能です。

GoogleのVeoは、**テキストの指示から最大4K解像度の高品質な動画を生成できる**最新のAIモデルです。

この技術は、現実世界の物理法則や人間の動きを深く理解し、シネマティックな効果や特定のレンズを指定することで、プロフェッショナルな映像制作を可能にします。

公開された当初はGoogleが運営しているAIツール上では使えず、API連携している他社製のAIツール上でしかVeoを使って動画生成を行うことができなかったのですが、その後、GeminiやGoogle AI Studio、Flow、Google VidsなどのGoogle製のAIツール上でも使えるようになりました。

ただし、2026年11月5日時点では、Geminiアプリでの動画生成はVeoに代わって、このあと紹介する別系統のモデル「Gemini Omni」が担当しており、Google Vidsの動画生成もGemini Omniに切り替わっています。

また、開発者向けのGemini API（自分のアプリからGoogleのAIを呼び出すための仕組み。Google AI Studioもこれを使っています）で提供されていたVeo 3.1のプレビュー版は、2026年10月22日に提供が終わりました。

今、一般の人がVeoを使う主な場所は動画制作ツールのFlowで、企業向けにはGoogle Cloudの「Gemini Enterprise Agent Platform」（旧Vertex AI）で正式版が提供されています。

なお、2026年11月5日時点での最新モデルは2025年10月に公開された「Veo 3.1」で、**次世代の「Veo 4」についてはGoogleから正式な発表はまだありません**（ネット上には憶測の記事が出回っていますので注意してください）。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

一方でGoogleは、Veoとは別系統の動画生成モデル「Gemini Omni Flash」も提供しており、8月27日にはその改良版「Gemini Omni 1.1 Flash」が正式版になりました。

こちらは動画のシーン延長や、最初と最後のコマを指定した生成、4Kへの高画質化などが得意で、Geminiアプリ・Flow・AI Studioで使えます。

Review **オススメ度** ★★★★★

Veoは最初はGoogleが運営しているAIツール上では使うことができず、API経由で連携している他社ツール上でしか使用できなかったので使いにくく、動画生成のコストも非常に高かったのでお勧めしづらかったです。

でも、それが、2025年4月にGemini AdvancedユーザーにもVeo2での動画生成機能が使えるようになったと発表され、Google AI StudioやWhiskなどのGoogle製AIツールでも使えるようになり、GoogleもOpenAIのSoraに対抗して自社の動画生成AIモデルを一般にも広めていく姿勢であることがうかがえます。

そして、2026年4月にはコストを抑えたVeo 3.1 Lite版もリリースされ、開発者・低コスト用途向けの選択肢が増えました。

Veo3.1では、クオリティの高い動画生成に加えて、**効果音や音声を付与した動画を生成できるようになりました**。

ただ、**日本語の台詞を話すように指示すると英語になってしまう**など、まだ日本語へのローカライズには課題があります。

正直、そろそろ次のVeo 4が出てもおかしくないと思って待っているのですが、2026年11月5日時点でもまだVeo 3.1が最新のままです。

その代わりに、GoogleはGemini Omniという別の動画モデルを月1回のペースで更新しており、8月27日の1.1 Flashでは「動画の続きを作る」「最初と最後のコマを指定する」といった、実務で欲しかった細かい制御ができるようになりました。

Veoの次の一手を待ちつつ、当面はVeo 3.1とGemini Omniを使い分けることになりそうです。

とはいえ、Veoが最高クラスの動画生成AIの1つであることは間違いないでしょう。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Google Flow

グーグルフロー

- **公式サイト**：https://labs.google/flow/about
- **料金プラン**：クレジット制になっており、**無料でも1日50クレジット分の生成ができます**。Google AI Plus（月額725円）で月200クレジット、Google AI Pro（月額2,900円）で月1,000クレジット、Google AI Ultraで月10,000クレジット（20倍枠のプランは25,000クレジット）が付与されます。
  1080pでの書き出しはAI Plus以上、4Kでの書き出しはUltraのみです。

GoogleのFlowは、2025年5月に発表されたAI動画制作ツールです。あなたは**文章を書くだけで、プロ品質の動画を簡単に作れるようになりました**。

このツールの最大の魅力は、難しい動画編集の知識がなくても、テキストや画像を入力するだけで高画質の動画が自動生成されることです。

動画生成のVeo 3.1やGemini Omni Flash、画像生成のNano Banana Pro、AIアシスタントのGeminiを組み合わせており、日本語への対応も進んでいます。

シーンビルダー機能では、Flow上で生成した動画を並び替えて1本の動画にまとめることができ、誰でも気軽に動画を使ってストーリーを伝えることが可能になりました。

2026年5月の大型アップデートでは、動画生成モデル「Gemini Omni Flash」の統合、あなたの代わりに制作を進める「Creative Agent」、プログラミング不要で自分専用の制作手順を組める「カスタムワークフロー」、そして**iOS・Android向けのモバイルアプリが追加されました**。

さらに2026年7月末には、Flowの音楽生成機能「Flow Music」に最新の音楽生成モデル「Lyria 3.5」が搭載され、動画に付ける楽曲のクオリティも上がっています。

そして8月27日には、Gemini Omni 1.1 Flashの正式版にあわせて、動画の最初と最後のコマを指定して作る機能、1080p・4Kでの書き出し、**少ないクレジットで360pの下書きを作ってから本番の画質で作り直せる「ドラフト生成」**が、Web版とスマホアプリの両方に追加されました。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Review **オススメ度** ★★★★☆

Flowは、Googleが提供するAI動画生成ツールで、テキストから動画を作成し、それらを組み合わせてショートムービーを制作できます。

以前はGoogle AI Pro以上の有料プランが必要でしたが、現在は無料でも1日50クレジット分は試せるようになり、月額725円のGoogle AI Plusでも使えるようになりましたので、以前より気軽に始められます。

以前はプロンプトが英語のみの対応でしたが、日本語のプロンプトにも対応が広がってきています（気になる方は実際の画面でお確かめください）。

音声付きの動画が生成可能なVeo 3.1や、細かい制御が得意なGemini Omni Flashを使い分けられるのが良いところです。

操作方法は、プロンプトを入力して動画を生成し、シーンビルダー機能でタイムライン上に並べて編集します。

実際にカピバラと猫、ゴリラと柴犬、サンタクロースなどの動画を作成したところ、個別の動画品質は高いものの、**人物の造形が一致しないため連続性のあるストーリーを作るのは困難でした**。

また、ユーザーインターフェースの使い勝手に問題があり、シーンの削除や順序変更が複雑です。現状では完成度の高い作品制作は難しいですが、**アイデアの具現化や絵コンテ代わりとして活用できる可能性があります**。

まだツールとしての完成度は低いですが、モバイルアプリが出たり、Flow Musicに新しい音楽モデルのLyria 3.5が入ったり、8月には「最初と最後のコマを指定する」「安い下書きで試してから本番を作る」といった実務向けの機能が入ったりと、少しずつ「動画制作の作業場」としての形は整ってきているという印象です。

特にドラフト生成は、動画生成AIで一番もったいない「失敗作にクレジットを使ってしまう」問題を減らしてくれるので、地味にありがたい機能ですね。

GoogleのGeminiに課金している人は試しに使ってみても良いでしょう。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Google Vids

グーグルヴィズ

- **公式サイト**：https://vids.google.com/
- **料金プラン**：個人のGoogleアカウントがあれば誰でも無料で利用可能。AIでの動画生成は、個人のGoogleアカウント（無料）では月60秒分まで、有料のGoogle AI Proでは月500秒分までです（2026年11月5日時点の公式ヘルプ）。

Google Vidsは、Googleが提供しているAI動画作成・編集ツールです。元々はGoogle Workspaceの中の機能として法人向けに公開されていましたが、2026年4月に大幅にアップデートされ、**個人のGoogleアカウントを持っている人なら誰でも無料で使えるようになりました**。

Google製の動画生成AIモデル（2026年11月5日時点ではGemini Omni）を使ったテキストや画像からの動画生成、Lyria 3を使ったオリジナル音楽生成、AIアバターによるナレーション機能（日本語を含む24言語に対応）、画面録画機能（Chrome拡張）、そしてYouTubeへの直接アップロード機能まで、**動画制作に必要な要素がGoogle Vids 1つで完結する仕組みになっています**。

2026年2月には日本語でのAIアバターとAIナレーション機能にも対応しましたので、日本人ユーザーにとっても本格的に業務で使えるレベルになってきました。

さらに2026年7月16日のアップデートでは、自分の顔や姿をもとにした「個人アバター」を作れるようになり、動画生成に「Gemini Omni Flash」モデルも追加されました。

8月20日からは、Googleスライドの画面から直接「録画」ボタンを押して、スライドを使った説明動画をVidsで収録・編集できるようになっています。

そして2026年9月23日には、動画を作るモデルが「Gemini Omni 1.1 Flash」に新しくなり、**フルHD（1080p）で作れるようになった**ほか、作る動画の長さをぴったり指定したり、人物や背景の見た目をそろえたままシーンを引き延ばしたりできるようになりました。

個人のGoogleアカウントでも使えます。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Review **オススメ度** ★★★★☆

Google VidsはGoogleがOffice製品で言うところのPowerPointに相当する位置付けで開発しているAI動画ツールです。

「ドキュメントやスライドのように、動画も気軽にチームで共同編集できるようにする」というGoogleらしいコンセプトを感じます。

実際に使ってみた印象としては、CanvaやCapCutほどの自由度はないものの、Google DriveやGoogleスライドとの連携がスムーズなので、すでに**Google Workspaceを業務で使っている方であれば導入のハードルは低いでしょう**。

最大の魅力は、2026年4月のアップデートで、Google製の動画生成AIが個人アカウントでも無料で使えるようになったことです（当時のモデルは「Veo 3.1」で、月10本までででした。2026年11月5日時点では、モデルはGemini Omniに切り替わっています）。

これによって「動画生成AIをまずは試してみたい」と思っている方は、Google Vidsで気軽にAI動画生成を体験できるようになりました。

2026年7月には自分自身をもとにした個人アバターも作れるようになったので、顔出しの社内向け説明動画やマニュアル動画を量産したい方には、さらに使いやすくなったと感じます。

8月からはGoogleスライドの画面からそのまま説明動画を録画できるようになりましたので、「スライドを見せながら話す動画」を作りたい方にとっては、専用の録画ソフトが要らなくなりました。

すでにGmailを使っているなら追加の課金なしで試せるので、まずは無料枠（2026年11月5日時点では月60秒分）で試してみると良いでしょう。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Hailuo AI ／ MiniMax H3

ハイルオai

- **公式サイト**：https://hailuoai.video/
- **料金プラン**：無料プランでもログインボーナスが付与されて一定数の動画生成は可能。**月額9.99ドル～の有料プランに課金することでウォーターマークを外すことができます**。
  開発者向けのAPIは従量課金で、H3は2K画質が1秒あたり0.13ドル、768p画質が1秒あたり0.08ドルです。

Hailuoは中国のMiniMax社が開発したAIサービスで、動画生成の性能が非常に高いことが話題になりました。

そこからChatGPTのようなチャットボット機能（現在のMiniMax Agent）やElevenLabsのような音声生成機能（Audio）も続々と追加され、総合型のAIプラットフォームを目指していることがうかがえます。

2025年～2026年にかけてHailuo 02、Hailuo 2.3シリーズへと進化し、特に物理法則に基づく動きや表情のリアリズムが大幅に改善されました。

そして2026年7月31日、**最新モデル「MiniMax H3（Hailuo 3.0）」がリリースされました**。

H3は2K解像度・24fpsで4～15秒の動画を生成でき、映像に合わせた音声を最初から同期して作れる「ネイティブ同期音声」に対応しています。

参考素材は画像9点・動画3点・音声3点の最大12点まで組み合わせることが可能です。さらに8月3日には、このH3の重み（768p版）がオープンウェイトとして無償公開され、AIモデルを共有するサイトHugging Face上で2026年**8月末までに490万回以上ダウンロードされる大ヒットになりました**（ライセンス上、EU・英国・韓国・米国では使えない条件になっていますが、日本は対象内です）。

これを受けて、Runway（8月5日）、Krea（8月5日）、Luma（8月6日）、Magnific（8月3日）、PixVerse（8月20日）など、海外の主要な動画生成ツールでも8月上旬から一斉にH3が使えるようになっています。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Review **オススメ度** ★★★★☆

HailuoAIの動画生成機能で、「テキストプロンプトを入力して動画生成」（Text to Video）と「静止画を動かして動画にする」（Image to Video）の両方の機能を試してみましたが、その性能は非常に高いです。

特に他の画像生成AIツールで生成した女性の画像をHailuoで動画にしたところ、自然な表情の動画を生成してくれて、RunwayやLumaなどのImage to Videoが得意な動画生成AIモデルよりもすぐれているのでは？

と感じました。（あくまで私個人の見解です。）また、テキストを入力して動画を生成する場合も、以前は人物の造形に違和感を感じていたのですが、その後また試したところ、以前よりも性能が向上していると感じました。

中国製の動画生成AIとしては、**KlingAIと並んで非常に性能が高い部類に入るでしょう**。2026年7月31日に出たH3（Hailuo 3.0）は、2K画質で音声まで同時に作れるようになった点が大きいです。

1秒あたり0.13ドルということは、**15秒の動画で約2ドル（300円前後）です**。SNSの広告用インサート映像を何本か作ってみる、という使い方なら十分に現実的な金額だと感じます。

しかも**参照画像は5枚までは追加料金なしで入れられる**（6枚目以降は1枚0.04ドル）ので、キャラクターや商品の見た目を揃えたいときに助かります。

そして8月3日に重みまで無償公開されたことで、Hailuoの公式サイトに行かなくても、あなたが普段使っている動画生成ツールの中でH3を選べるようになりました。

同じタイミングでByteDanceのSeedance 2.5、AlibabaのWan 3.0も出てきており、中国勢3社の競争は本当に激しいですね。

チャットや音声なども含めて1つのプラットフォームで全てを賄いたい人はMiniMaxをメインのAIツールとして使うのもありかもしれません。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

MiniMax H3を自分のパソコンで動かす

ミニマックスH3

※オープンウェイト版

- **公式サイト**：https://www.minimax.io/news/minimax-h3-open-source
- **料金プラン**：
  - モデル本体：無料。Hugging Face（AIモデルを共有するサイト）からダウンロードできます。
  - 動かすのに必要なソフト（ComfyUIなど）も無料です。かかるのは電気代とパソコン代だけになります。
  - ライセンス上、EU・英国・韓国・米国では別途申請が必要とされていますが、日本は対象内で、そのまま使えます。
  - 商用利用する場合は、製品の中に「MiniMax H3を使っている」と分かるように表示することが条件です。

MiniMax H3は、中国のMiniMax社が2026年7月31日に公開した動画生成モデルですが、2026年8月3日に、その中身（重み）が無償公開されました。

つまり、月額料金を払ってウェブサイトで使うのではなく、**モデルのファイルを自分のパソコンにダウンロードして、自分の機械の中だけで動画を作れる**ということです。

ここが今、大きな話題になっています。使うのは「ComfyUI（コンフィUI）」という無料ソフトで、公開初日から専用のひな形が用意されました。

必要なファイルは全部で約40GBありますが、**容量を小さく圧縮した版（GGUFという形式のQ4というもの）なら約11.4GBまで下がります**。

ある日本語の解説記事では、**映像用のメモリ（VRAM）が8〜12GB、パソコンのメモリが32GB以上あれば動いた**と報告されています。

つまり、10万円台の一般的なゲーミングパソコンでも動く可能性がある、ということです。作れる動画は4秒から15秒、24コマ／秒で、無料公開版は768pの画質が基本になります（2K画質は公式の有料サービス側で作り直す形です）。

そして一番の売りが、**映像と一緒に音声も同時に作れる点です**。効果音や環境音、さらには口の動きに合わせたセリフまで、別のツールを使わずに1回で出てきます。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

口の動きは日本語を含む11言語に対応しています。Hugging Faceでは公開から1ヶ月足らずで490万回以上ダウンロードされました。

Review **オススメ度** ★★★★☆

この項目を独立して立てたのは、**「動画生成AIは月額課金するもの」という前提が崩れかけているからです**。

これまでの動画生成AIは、1本作るたびにクレジットが減っていく仕組みでした。10秒の動画を20回作り直したら、それだけでお金が飛んでいきます。

ところがH3を自分のパソコンで動かすと、**何回作り直しても追加料金は0円です**。時間はかかりますが、お金はかかりません。

「納得いくまで作り直したい」という方にとっては、この違いはかなり大きいと感じます。しかも音声まで一緒に作れるので、これまで動画と音を別々のツールで作って合わせていた手間も減ります。

ただ、正直にお伝えしておきたいことがあります。まず、パソコンが必要です。

映像用のメモリが8GB以上あるグラフィックボードを積んだWindowsパソコン（またはApple Siliconのマック）が前提になります。

お使いのノートパソコンでは動かない可能性が高いです。次に、**ComfyUIの設定は、正直やさしくありません**。

線をつないで処理の流れを組み立てる画面なので、初めて見ると面食らうと思います。日本語の解説記事は増えていますが、それでも半日は覚悟したほうが良いでしょう。

そして、生成には時間がかかります。環境によっては**短い動画1本に6分から12分ほどかかると報告されています**。

ですので私の結論はこうです。動画をたまに作る方は、素直にHailuoの公式サイトや、あなたが普段使っている動画生成ツールでH3を選んでください。

そのほうが速くて簡単です。一方、動画を毎月何十本も作る方、あるいは「作り直しの回数を気にせず、納得いくまで試したい」という方には、パソコンに投資してでもローカルで動かす価値が出てきます。

中小企業でも、社内に1台だけ動画生成用のパソコンを用意して、そこで作る、という選択肢が現実的になってきた、というのが2026年11月5日時点の状況です。

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Seedance ／ Dreamina（ドリーミナ）

シーダンス

- **公式サイト**：https://dreamina.capcut.com/ （Seedanceを海外向けに公式に使えるByteDanceのアプリ）
- **料金プラン**：**Dreaminaは無料でも一定数の生成が可能で、有料プランは月額19ドル〜です**。Seedanceのモデル自体は、本書でご紹介しているHiggsfield、Krea、Magnific、Runway、PixVerse、Poeなど多くの他社ツールの中でも使うことができます。
  （なお、検索すると「seedance.ai」というサイトが出てきますが、これはByteDanceとは無関係の第三者のサイトです。公式は上記のDreaminaですので、お間違えのないようにしてください。）

Seedance（シーダンス）は、TikTokを運営するByteDance（バイトダンス）社が開発した動画生成AIモデルです。

Seedance 2.0は2026年2月にリリースされ、テキスト・画像・動画・音声を1度に最大12ファイル同時投入できる『マルチモーダル入力』が大きな特徴でした。

動画の長さは4〜15秒、解像度は最大1080p、16:9や9:16などの多様なアスペクト比に対応しており、ネイティブで音声・効果音・BGMも生成できます。

そして2026年7月31日、**最新版の「Seedance 2.5」が正式にローンチされました**。2.5では、**音声つきの動画を一度に最大30秒（従来の15秒の2倍）までワンテイクで生成できる**ようになり、さらに延長を繰り返すことで数分の尺にも対応します。

参考として読み込ませられる素材も、画像30点・動画10点・音声10点の最大50点まで一気に増えました。

粘土模型のように3Dシーンを配置して光の当たり方を決められる「クレイレンダー参照」や、時間を指定したピンポイント編集・グリーンスクリーン置換・カメラ視点の調整・参照素材をもとにした修正という4つの編集モードも搭載されています。

当初は中国国内向けのアプリでしか使えませんでしたが、8月に入ってからByteDance自身の海外向けアプリ「Dreamina」に加えて、Higgsfield（8月6日）、Runway（8月7日）、Krea（8月11日）、Magnific（8月11日）、PixVerse（8月20日）など、**海外の主要な動画生成ツールに一斉に搭載され、日本からも使えるようになりました**。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Review **オススメ度** ★★★★★

TikTokを運営するByteDanceが開発したSeedanceという動画生成AIを実際に私も使ってみました。

当初、公式サイトを見つけることができなかったため、PoeというAIツールの中でAPI経由でSeedanceモデルを使って動画生成をしてみた感想をここではご紹介いたします。

まず、最大の魅力は圧倒的な低コストです。**GoogleのVeoなどの動画生成AIモデルの1/10程度のコスト**で高品質な動画を作成することが可能です。

あなたが文章から動画を作るよりも、Midjourneyなどで作った**静止画を動画化するImage-to-Video機能の方が圧倒的に優秀です**。

複雑なプロンプトを入力するより、シンプルに任せた方が自然で美しい動画に仕上がります。720p解像度で5〜10秒の動画を手軽に作れるため、**セールス動画や広告用のインサート映像として非常に実用的です**。

2026年7月31日に発表されたSeedance 2.5は、音声つきで30秒をワンテイクで作れるという点だけでも相当なインパクトがあります。

動画広告やショート動画は「30秒」がひとつの型なので、途中でつなぎ直さずに1本で作れるようになるのは大きいです。

Seedance 2.5は少し前まで日本からは使えず、API提供を待っている段階でしたが、2026年8月に入ってからHiggsfield、Runway、Krea、Magnific、PixVerseといった主要なツールに一気に搭載され、ByteDance公式の海外向けアプリ「Dreamina」でも使えるようになりました。

つまり2026年11月5日時点では、あなたがすでに使っている動画生成ツールの中でSeedance 2.5を選べるようになっている可能性が高い、ということです。

私も早速試しているところですが、「30秒を1本で作れる」というのは、広告用の動画を作る立場からすると本当にありがたい進化です。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Midjourneyの動画生成機能

ミッドジャーニー

- **公式サイト**：https://www.midjourney.com/
- **料金プラン**：（2026年11月5日時点で、無料プランはありません）
  - 有料プランは月額10、30、60、120ドルのプランがあり、上のプランに行くほど多くの静止画と動画を生成可能です。**まずは一番安いBasicプランに課金してみることを推奨いたします**。

Midjourneyは、あなたが文章で説明するだけで画像を自動生成してくれるAIサービスです。「青い海辺の夕日」や「未来的な都市」などと入力すると、数分でプロ級の画像を作成します。

月額10ドルから利用でき、Web版やDiscordで使えます。2025年6月には新たに動画生成機能も追加され、作った静止画を動画に変換できるようになりました。

2026年7月24日には最新モデル「V8.2」が公開され、標準で使われるデフォルトモデルになっています。

動画は480p（Standardプラン以上なら720p）で生成でき、**「延長」を繰り返すことで最長21秒ほどの動画にできます**。

Review **オススメ度** ★★★★★

2025年6月19日、画像生成AIのMidjourneyがついに動画生成機能「V1 Video」をリリースしました。

これまで静止画しか作れませんでしたが、新しく追加された「Animate」ボタンを1回クリックするだけで、あなたが作った静止画を簡単に動画にできるようになりました。

月額10ドル（約1500円）のベーシックプランで利用でき、**他の動画生成AIと比べてとてもお得です**。480pの画質で一度に4つの異なるパターンの動画を作成でき、日本語での指示にも対応しています。

2026年3月公開のV8 Alpha以降は、動画生成機能もネイティブに統合され、**テキストプロンプトから直接動画を生成できるようになりました**（旧V1 Videoは画像をアニメ化するだけでした）。

さらに2026年7月24日にはV8.2が公開されてデフォルトモデルになり、より大胆で洗練された絵作りになったほか、いわゆる「ハズレ」の低品質な生成がかなり減ったと感じます。

あなたの評価データが溜まるほど好みを理解してくれるパーソナライゼーション機能も強化されました。ただし、**Disneyとユニバーサルから著作権侵害訴訟を受ける**

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

など、訓練データに関する問題も増えてきています。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Kling.ai

クリングai

- **公式サイト**：https://kling.ai/
- **料金プラン**：無料プランでも動画と静止画を生成可能ですが、生成の優先順位は下がるので数時間待たされるケースも多いです。**有料プランは月額10ドル程度と比較的安価**ですので、気に入った方は有料プランを契約されることを推奨いたします。

Kling.aiは、AIを活用してテキストや静止画から動画を生成する中国製のAIツールです。2026年2月にKling 3.0およびKling 3.0 Omni（オムニ）が公開され、**動画の最大長が15秒に延長、画像は2K／4Kに対応**、そして日本語を含む多言語のネイティブ音声生成にも対応するなど、大きな進化を遂げました。

Artificial Analysisの動画生成ベンチマークでもトップクラスの評価を得ており、**2026年現在の最高クラスの動画生成AIの1つです**。

2026年7月には約28億ドル（約4,000億円）の資金調達を実施し、企業価値は180億ドルに達しました。

アリババ・テンセント・バイドゥなども出資しており、将来的な分社化・上場も示唆されています。8月には、動画も「ネイティブ4K」で生成できるようになったことを打ち出しており（4Kの5秒動画で約2ドル）、8月27日にはClaudeなどのAIエージェントからKlingの画像・動画生成を直接呼び出せるMCP（AIと外部ツールをつなぐ共通規格）への対応も発表されました。

なお、公式サイトのURLは以前のklingai.comからkling.aiに変わっています（旧URLからは自動的に転送されます）。

2026年9月28日には、次の世代の「Kling 4.0」が発表され、まず軽量版の「Kling 4.0 Flash」が、Ultraプランを年払いで契約している人に先に公開されました。

そして10月15日には、**完全版の「Kling 4.0」が正式に公開されました**。1回の生成で最長30秒の動画を作れ、参考にする画像などの素材を最大15点、動画の途中の場面を指定するコマ（キーフレーム）を最大10か所まで入れられます。

公式の案内では、**日本語のせりふや、映像の中の日本語の文字にも対応する**とされています。ただし、動画を続けて作って最長2分にする機能や、明るさや色の幅が広

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

い「10bit HDR」での出力は、10月15日の発表の時点では「近日公開」とされていました。

Review **オススメ度** ★★★★★

私もいろいろな動画生成AIツールを試してみましたが、KlingAIの動画生成機能は他の動画生成AIモデルと比べてもかなりクオリティが高く、**特に人物描写は不自然な点も少なく、仕事で使えるレベルだと感じました**。

さらに、静止画も動画もどちらも生成できて、**月額10ドルほどで使えるのは、コスパが良いと感じます**。ただ、月額10ドルのプランの場合、1ヶ月で使えるクレジットが660クレジットで、**最新のモデルは1つの動画で100クレジット前後を消費します**のでたくさん動画を生成したい場合はさらに上のプランに課金することを検討した方が良いでしょう。

（最新モデルになるほど、また高画質になるほど1本あたりの動画生成コストは増えます。）文章から動画を生成するText to Videoの性能も高いですが、静止画から動画を生成するImage to Videoの性能も非常に高いと感じます。

2026年2月にKling 3.0 Omniが公開され、日本語の台詞を話す動画も生成できるようになったため、**Veoの弱点（日本語の台詞が英語になってしまう問題）をカバーする選択肢**として一気に魅力的になりました。

2026年7月には巨額の資金調達も発表されており、当面はサービスが続きそうだという安心感がある点も、有料契約を検討するうえでは大事なポイントだと個人的には思います。

8月に加わったMCP対応は、私のようにClaudeでいろいろな作業を自動化している人間にとっては面白い動きで、「Claudeに台本を書かせて、そのままKlingで動画を作らせる」という流れが1つのチャットの中で組めるようになりそうです。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Higgsfield.ai

ヒッグスフィールド

- **公式サイト**：https://higgsfield.ai/
- **料金プラン**：有料プランはStarter（月額19ドル）、Plus（月額59ドル、年払いなら月あたり47ドル）、Ultra（月額129ドル、年払いなら月あたり99ドル）と、チーム向けのプラン（1人あたり月額65ドル〜）があります（2026年10月10日時点の公式の料金ページ）。
  有料プランを契約すると商用利用が可能となります。Seedance 2.5などの最新モデルはPlus以上のプランで使えます。

Higgsfieldは、一枚の画像から映画のような高品質な動画を簡単に作り出せるAIツールです。このツールの最大の特徴は、**56種類以上のプロフェッショナルなカメラワーク**（ドリーイン/アウト、クレーンショット、手持ちカメラ風など）がプリセットされており、**専門知識がなくても選ぶだけで映画的な表現が可能なことです**。

さらに、「Higgsfield Mix」機能では2つの異なるモーションを組み合わせることも可能です。

モバイルからも利用できるため、手軽にハリウッド映画のような映像制作を楽しめます。2026年7月には、**Adobe Photoshop用のプラグインもリリースされました**。

①絵を描きながらリアルタイムでラフスケッチを完成画像に変える「Real Time」、②任意の画像を編集可能なレイヤー（層）に分解する機能（重なって隠れている部分のピクセルも再構成してくれます）、③プリセットやプロンプトで写真の雰囲気を作り変える「リスタイル」という3つの機能が、Photoshopの中から直接使えます。

動画編集ソフトのDaVinci Resolve用のプラグインも提供されており、タイムライン上でのフッテージ（素材映像）生成、AI生成のLUT（色味の設定ファイル）、背景除去、リフレーム、4Kアップスケールなどが利用できます。

8月も更新が止まらず、Seedance 2.5の搭載（8月6日）、最長30秒の生成と最大50点の参照素材に対応した「Cinema Studio 4.0」（8月12日）、FLUX 3 VideoとMiniMax H3の搭載（8月16日）、広告向けの「Marketing Studio」（8月18日）、Blender用のプラグイン（8月20日）、顔出しなしの動画を作る「Faceless Studio」（8月21日）などが立て続けに追加されました。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

8月10日には賞金総額100万ドルのAI映画祭の開催も発表しています。2026年9月22日には、Seedance 2.5で**低い画質（480p）の下書きを先に作って確認できる「下書きモード」**と、画像生成モデルのGPT Image 2.5が加わり、23日には画像生成モデル「Seedream 5.0 Flash」も追加されました。

2026年10月には、広告づくりの機能が一気に増えました。サイトのURLやブランドの情報から、**静止画の広告を1回で最大20案作る「Ads Studio」**（10月1日、1枚あたり約0.2ドル分のクレジット）と、1本の動画広告をもとに、人物や商品、冒頭のつかみ、最後の呼びかけを差し替えた別バージョンをまとめて作る「Ad Multiplier」（10月6日）が加わり、自分の顔写真をもとにAIのインフルエンサー（キャラクター）を作る「AI Influencer」も作り直されています（10月3日）。

10月12日には、**Claudeの中から使える動画の作り直し機能「Katana（カタナ）」**も紹介されました。

お手本の動画（自分の動画か、用意されたひな形）と、人物・商品・服の写真を最大5枚渡すと、それらに差し替えた動画を作ってくれます（Higgsfieldの有料プランが必要で、費用はプランのクレジットから引かれます）。

Review **オススメ度** ★★★★☆

2026年に入り、Higgsfieldは独自AI画像生成モデル『Soul 2.0』（2026年2月公開）や、シネマレンズの物理シミュレーションができる『Cinema Studio』、写真からキャラクターの一貫性を学習させる『Soul ID』など、独自機能の開発に力を入れています。

さらに、Veo 3.1、Kling 3.0、Seedance 2.5、FLUX 3、MiniMax H3、Nano Banana Proなど**15以上の他社モデルを一つの契約で横断的に使える**ため、複数のAIツールに個別契約する必要がなく、**コスパは抜群です**。

Snap社の元生成AI責任者であるAlex Mashrabov氏が創業した会社で、2026年8月には評価額54億ドル（約8,000億円）で4億ドルを調達し、9月29日には、**年間に換算した売上が10億ドルを超え**、利用者が3,200万人を超えたと公表しています。

ClaudeとのMCP連携機能も提供されているので、Claude内から画像や動画を生成することもできるのが強みです。

個人的に2026年7月で一番おもしろいと感じたのは、Photoshop用プラグインが出たことです。私のようにブラウザとPhotoshopを行ったり来たりしていた人間にと

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

っては、Photoshopの中で画像をレイヤーに分解したり、雰囲気を作り変えたりできるのは地味に効きます。

DaVinci Resolve用のプラグインと合わせて、「AIツール単体」から「あなたが普段使っている制作ソフトの中に入り込むAI」へと軸足を移しているのが、この会社らしいところだと感じます。

8月は話題のSeedance 2.5をいち早く搭載したことで、**「最新モデルを1つの契約で試すならHiggsfield」という立ち位置**がさらにはっきりしました。

ただし、**Seedance 2.5などの最新モデルを使えるのは月額59ドルのPlus以上**（一番安いStarterでは、1つ前のSeedance 2.0の速いモデルまで）なので、料金体系は契約前によく確認してください。

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Magnificでの動画生成

マグニフィック

- **公式サイト**：https://www.magnific.com/
- **料金プラン**：日本向けの公式の料金ページ（2026年10月30日時点、年払い・税別）では、Premiumが月あたり1,950円（年間24万クレジット）、Premium+が月あたり4,875円（年間60万クレジット）、Pro Starterが月あたり約11,892円から（年間150万クレジット。年間400万クレジットの段階もあります）です。
  クレジットは年単位でまとめて付与され、月ごとのリセットはありません。

Freepikは2025年2月21日より、Google Veo 2を統合し、4K品質の動画をテキストプロンプトから生成できる機能を提供開始しました。

主な特徴として、リップシンクや自動BGM提案、自然な動きの表現が可能で、AI Suiteを利用することで6ステップで動画を作成できます。

主な活用シーンは、プロモーション動画やSNS向けショート動画、商品紹介映像など多岐にわたります。ここで大事なお知らせがあります。

Freepikは2026年4月28日に、サービス名・社名ごと**「Magnific（マグニフィック）」へリブランド（名称変更）しました**。

すでに持っているアカウントとサブスクリプション（月額契約）は自動的に引き継がれるので、あなたが何か手続きをする必要はありません。

8月には、MiniMax H3（8月3日）、Seedance 2.5（8月11日）、そしてAlibabaの最新モデルで**最長30秒・1080p・音声つきの動画を一度に作れる「Wan 3.0」**（8月24日）と、話題の最新動画モデルが相次いで搭載されました。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Google VeoモデルがFreepik（現在のMagnific）上で選択できる動画生成AIモデル一覧に追加されたので使ってみました。

他の動画生成AIと比較しても、手や人物の描写が不自然になりにくく、リアリティがある点が強みですが、**高画質での生成にはコストがかかる点が課題です**。

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

私はFreepik時代に月額1400円ほどのプランで試しましたが、5秒の動画作成に1000クレジットを消費し、短時間の動画しか作成できない点が気になりました。

一方で、他の動画生成AIと比較すると、Veo2は特に人間の動きや表情のリアリズムが優れており、OpenAIのSoraと比べても手や顔の不自然な描写が少なく、KlingやLuma Ray 2よりもリアルな映像を生成できる印象でした。

ここではVeoだけでなく、Kling、Seedance、Wan、MiniMax、Runwayなど多様なAIモデルを利用できるため、目的に応じて最適なモデルを選ぶことが可能です。

特に8月は、Seedance 2.5とWan 3.0という「30秒を1本で作れる」最新モデルが2つとも搭載されましたので、「最新の動画モデルをいろいろ試したい」という方にとっては、**Magnificはかなり良い場所になってきました**。

なお、2026年4月にFreepikは「Magnific」へと名前が変わりました。中身は同じで契約もそのまま引き継がれますが、私は最初「Freepikのサイトが消えた」と勘違いして少し焦りました。

あなたも書籍やブログでFreepikという名前を見かけたら、今はMagnificのことだと読み替えてください。

クレジットが年単位でまとめて付与され、月ごとにリセットされない仕組みなので、「今月使い切らないと損」というプレッシャーがないのは、個人的にはありがたい点です。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Krea.ai

クレアai

- **公式サイト**：https://krea.ai/
- **料金プラン**：無料プランは1日100ユニットで、動画はLTX-2という一部のモデルに限って1日2本ほど作れます。有料プランは、年払いなら月あたり約5ドルのBasic（月払いなら9ドル）からあり、Seedance 2.0系の動画モデルも使えるようになります。話題のSeedance 2.5などを使うには、年払いなら月あたり21ドルのPro（月払いなら35ドル）以上が必要です（2026年11月5日時点の公式の料金ページ）。

Krea.aiは、世の中に公開されている様々なAIモデルを選択して動画や画像を生成できる統合型のAIプラットフォームです。

動画生成モデルは、本書でもご紹介しているKling、Seedance、MiniMax（Hailuo）、Luma、Runway、Veoなどの様々なモデルを選択してAI動画を生成して比較することが可能ですので、**1つのツールでいろいろな動画生成AIを試したい人にはピッタリのツールです**。

8月には、MiniMax H3（8月5日）とSeedance 2.5（8月11日）も加わりました。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Krea.ai自体には独自の動画生成モデルは存在しませんが、この章でもご紹介している様々な動画生成AIモデルを使い比べることができるので、まずいろいろなAIツールに課金をする前に、Krea.aiの**一番安いプランに課金して、各AIモデルの性能を使い比べてみると良いでしょう**。

Krea.aiも最新の動画生成AIモデルをいち早く使えるようにしてくれており、Kling 3.0、Seedance 2.5、MiniMax H3、Veo 3.1、Luma、Runwayなどの定番の動画生成AIモデルを使うことができます。

また、画像生成もFluxやIdeogramなどの定番の画像生成モデルを使うことができるので、画像生成や動画生成においていろいろなモデルを試してみたい人にはお勧めできます。

また、Animatorという動画生成機能を使うと、（公開終了前の）Soraにあったストーリーボード機能のようにタイムライン上で細かく動画の遷移を指定することができるので、他社よりも高度な動画生成機能があるのも強みでしょう。

なお、無料プランで作れる動画は、LTX-2という一部のモデルで1日2本ほどに限られますので、いろいろな動画モデルを試したい方は有料プランが前提になります。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Poeでの動画生成

ポー

- **公式サイト**：https://poe.com/
- **料金プラン**：Poeでは様々な動画生成AIモデルを使用した動画生成は可能ですが、動画生成は大量のクレジットを消費するので**実質は月額20ドル（1ヶ月で100万ポイント使用可能）の有料プラン**への課金が最低条件になります。
  月額250ドル支払うことで1ヶ月に1250万ポイント使用可能なプランも新しく追加されました。

Poe（ポー）では様々なAIモデルを使うことができますが、AI動画生成モデルでは、Runway、Veo、Luma、Hailuo（MiniMax）、Wan、Kling、Seedanceなど、このチャプターで紹介している多様なモデルを使って動画生成をすることが可能です。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Poeはチャットボットや画像生成のチャプターでもご紹介しましたが、動画生成や音声読み上げ機能もあります。

このチャプターで紹介している様々な動画生成AIモデルを使うことができるので、わざわざそれぞれの公式サイト上でそれらのモデルに課金しなくても、とりあえずPoeに課金しておけば、チャットボット、画像、動画、検索などの多種多様のAIモデルを使うことができますので、**かなりコスパは良いと思っています**。

ただ、動画生成をする際のクレジットは非常に高く、**1本の動画を生成するのに最低でも1万ポイント以上かかります**。

（高画質のモデルだと1本の動画生成につき数万ポイントかかることもあります。）なので生成できる動画の数には限りはありますが、話題のAIモデルをいち早く使いたいのでしたら、**Poeで動画生成をするのも有効な選択肢だと思います**。

ジャンルを問わずにできるだけいろいろなAIモデルを使ってみたい方にはお勧めです。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



PixVerse

ピックスヴァース

- **公式サイト**：https://pixverse.ai/
- **料金プラン**：**無料アカウントでは1日2本程度の動画を作成可能**。有料プランは月額10ドル〜。月額30ドルのプロプラン以上だと1080p画質で動画を生成可能（それ以下のプランは720pまで）

PixVerse（ピックスヴァース）は、シンガポールのMOTIVAI PRIVATE LIMITEDが運営する動画生成AIサービスで、テキストや画像から数分でプロ級の動画を作成できます。

WebブラウザやDiscord上で利用可能で、リアリスティックからアニメまで多様なスタイルに対応し、カメラモーション機能も備えています。

無料プランから月額30ドルの無制限プランまであり初心者にも使いやすいインターフェースが特徴です。2026年3月にはPixVerse V6が公開され、20以上のシネマティックレンズコントロール、マルチショット動画生成、ネイティブオーディオ対応など、シネマグレードの機能が追加されました（2026年11月5日時点でも、動画を作る自社モデルとしてはV6が最新です。開発者向けには4月に映画的な表現に特化した「C1」というモデルも追加されています。また9月23日には、言葉で指示しながら歩き回れる世界をその場で作り出す「R2」という、別系統のモデルも発表されました）。

運営は2026年7月にシリーズCの延長ラウンドを完了し、**シリーズCの累計調達額は4億3,900万ドルに達しました**。

アリババなどが出資しており、今後はリアルタイムで動く世界を作る「ワールドモデル」の R1 を軸に、インタラクティブなエンタメやゲームの領域へ広げていく方針を発表しています。

利用者は177以上の国と地域で1億5,000万人を超えているとのことです。8月には、**商品ページのURLを入れるだけで広告動画をまとめて作る**「PixVerse Growth Studio」（8月12日）、賞金つきのAI映画コンテスト「PixLight」（8月7日）、そして他社の最新モデルであるSeedance 2.5とMiniMax H3の搭載（8月20日、有料プラン向け）が行われました。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

2026年10月9日には、このGrowth StudioがMeta（Facebook・Instagram）の「カタログ商品動画」とつながり、ネットショップの商品カタログに載っている全商品について、**商品ごとの動画広告をまとめて作り**、FacebookやInstagramの広告でそのまま使えるようになりました（料金や日本での提供については書かれていません）。

Review **オススメ度** ★★★★☆

PixVerseは、**独自の動画生成AIモデルを持つ珍しいツールで、日本語に完全対応している点が特徴です**。

無料プランでは初回90クレジット、その後毎日60クレジットが付与され、**基本的な5秒動画の生成には30クレジットが必要です**。

実際に使用した結果、人物の造形がリアルで高品質な動画が作成でき、日本語のプロンプトでも正確に反映されます。

また、高画質化、動画延長、効果音追加、多様なスタイル適用など編集機能も充実しています。他の動画生成AIツールと比較しても性能が高く、特に日本語対応の使いやすさが優れています。

実際に日本語のプロンプトで動画を生成してみましたが、結果は、かなり高いクオリティです。他の動画生成AIのクオリティに満足ができない人には**PixVerseは良い代替ツールになると思います**。

ただ、自社の動画モデル本体は2026年3月のV6から更新が止まっており、会社としての関心はリアルタイムのワールドモデル「R1」を使ったゲームやインタラクティブ体験のほうへ移っているように見えます。

その代わり、8月からはSeedance 2.5やMiniMax H3といった他社の最新モデルもPixVerseの中で使えるようになりましたので、「自社モデルにこだわらず、良いものは取り込む」という方向に舵を切ったようです。

とはいえ、7月には累計4億3,900万ドルという大きな資金調達も完了しているので、**体力のある会社であることは間違いないでしょう**。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



SkyReels

スカイリールズ

- **公式サイト**：https://www.skyreels.ai/
- **料金プラン**：無料で付与されるクレジットでも一定数は動画生成が可能ですが**本格的に使うには月額9.99ドルの有料プランへの課金が必要です**。

Skyreels.aiは、中国の北京に拠点を置くオンラインゲームパブリッシャーであるKunlun Techが開発したAIプラットフォームです。

SkyReelsのサイト上では、動画生成に限らず、画像生成、音楽生成、リップシンク動画、脚本執筆からのショートフィルム制作、さらには動画編集機能などコンテンツクリエイター向けの豊富な機能があります。

動画モデルは「SkyReels V4」が最新で、**映像と音声を一緒に作れる**ほか、画像・動画・音声を参考にして、登場人物や雰囲気を場面をまたいでそろえることもできます（2026年11月5日時点の公式サイト）。

Review **オススメ度** ★★★★☆

SkyReelsは中国の会社が開発した動画生成ツールですが、実際に使ってみて、その性能の高さに驚きました。

シンプルなプロンプトを入力しただけで、**実用に耐えうる高画質な性能の動画を作ることができました**。OpenAIのSora（公開終了前に試したもの）の動画生成機能も、人物を生成させるとどうしても不自然な部分が多く目立ったのですが、SkyReelsで生成した動画は実写に近いクオリティの人物動画も生成することができたので、やはり中国製の動画生成AIツールの実力はかなり高いと感じます。

個人的には中国製の動画生成AIはKling.aiが非常に性能が高いと感じているのですが、**それに並ぶほどの性能をSkyReelsは持っていると評価できます**。

また、SkyReelsのサイト上では、動画生成に限らず、画像生成や音楽生成、動画編集までできるツールが用意されているので、コンテンツクリエイター向けの総合的なツールとして開発されているようです。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Wan

ワン

- **公式サイト**：https://wan.video/
- **料金プラン**：**旧世代（Wan 2.2まで）のモデルはオープンソースとして無料で公開されています**。最新のWan 3.0などは非公開のモデルで、Alibabaの公式サイトやAPI、あるいはMagnificやRunwayなどの他社ツールの中で有料で使う形になります。
  （検索で出てくるwan-ai.orgというサイトは、2026年8月31日時点でアクセスできなくなっていました。公式は上記のwan.videoです。）

Wan AIの動画生成モデル「Wan」は、中国のAlibaba社が開発した動画生成AIです。「Text-to-Video」や「Image-to-Video」「動画編集」「動画からオーディオ生成」など、多様なタスクに対応することが可能です。

Wan 2.2までのモデルはオープンソースで公開されており、2026年8月7日には人物のイラストや写真を動かす「Wan2.2-Animate-2」も無償公開されました。

一方、Wan 2.5以降は非公開のモデルとなり、2026年4月にWan 2.7、そして**2026年8月24日頃には最新の「Wan 3.0」が登場しました**。

Wan 3.0は最長30秒・最大1080pの動画を、音声もセットで一度に生成でき、画像10点・動画5点・音声5点までの参考素材を読み込ませることができます。

PDFやPowerPoint、ウェブページを読み込ませて動画にすることも売りにしています。Magnific（8月24日）やRunway（8月24日）などの他社ツールでもすぐに使えるようになっています。

Review **オススメ度** ★★★★☆

中国のアリババ社が開発した動画生成AIモデルです。私はKrea.aiという様々な動画生成モデルを利用することができるAIツール上でWan2.1というモデルを使って動画生成をしてみました。

動画生成AIはコストが高いので多くは試してはいませんが、実際に使ってみた感想としては、**他社と比べると生成された動画の品質はイマイチだと感じました**。

どうしてもAI臭い動画になりがちだったので、同じ中国製の動画生成AIであれば、Kling.ai、Hunyuanなどのほうが性能は上のように感じました。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

ただ、Wanの特徴として、動画にテキストアニメーションを生成することもできるのでその点は優れている点だと思いました。

そして2026年8月に出たWan 3.0は、Seedance 2.5と同じく「30秒を1本で、音声つきで作れる」というモデルで、**私が以前使ったWan 2.1とは別物の性能になっているようです**。

MagnificやRunwayの中ですぐに試せますので、「Wanはイマイチ」という私の以前の印象も、そろそろ更新しないといけないかもしれません。

ただし、**2.5以降のモデルはオープンソースではなくなっています**ので、「無料でダウンロードして自分のパソコンで動かせる」というWanの売りは、旧世代のモデル限定になった点は覚えておいてください。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Runway

ランウェイ

- **公式サイト**：https://runway.com/ （以前のrunwayml.comからは自動的に転送されます）
- **料金プラン**：
  - 無料プラン：**基本機能を無料で利用可能（一回限りの125クレジット）**。
  - 有料プラン：**月額15ドル〜のStandardプラン**、月額35ドルのProプラン、月額95ドルのMaxプランに課金をすることで最新機能をいち早く使ったり、生成できる動画数を増やすことが可能になります。（以前あった「Unlimited」プランは新規の申し込みが終了しており、**すでに契約している方も2026年11月30日にMaxプランへ自動的に切り替わります**。月額料金は95ドルのままで、毎月のクレジットは2,250から9,500に増え、使い切らなかった分を1か月分だけ翌月に繰り越せるようになります。年払いの方は、切り替え日までに解約すれば残りの月数分が返金されます。）

2025年12月にRunway Gen-4.5が公開され、Artificial Analysis の動画生成ベンチマークでも1位を獲得するなど、**最高水準のText-to-Video性能を持っています**。

また、既存の映像にプロンプトで編集を加える『Aleph 2.0』や、自分の表情で生成キャラクターを動かす『Act-One/Two』、インタラクティブな世界モデル『Game Worlds』など、他社にはない映像制作特化の機能が増えています。

2026年7月23日には、開発者向けのRunway Devで「Media Router（メディアルーター）」が公開されました。

これは、画質・速度・コストのどれを優先したいかを指定するだけで、画像・動画・音声の生成に**最適なモデルをRunwayが自動で選んでくれる仕組みです**。

Runway自社のモデルだけでなく、他社モデルもAPI経由で使えるようになっており、8月にはMiniMax H3（8月5日）、Seedance 2.5（8月7日）、Ideogram 4.0（8月13日）、Wan 3.0（8月24日）、MetaのMuse Image（8月26日）と、話題のモデルが次々に追加されました。

8月20日には、普通の動画を映画のような16bit HDR（明るさや色の幅が広い高品質な映像）に変換する自社の新モデル「Runway Ruby（ルビー）」も公開されています。

一方で、2026年7月30日にはAPIから「Gen-3 Alpha Turbo」と「Gen-4 Aleph」の提供が終了（サンセット）しました。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

この2つのモデルをAPIで呼び出して自動化を組んでいる方は、別のモデルへの差し替えが必要になりますのでご注意ください。

なお、8月20日の発表によると、Runwayの売上は前年の2倍以上に伸びており、**日本はアジアで最大の市場になっている**とのことです。

2026年8月31日には、**研究段階の新しいモデル「Solaris（ソラリス）」も発表されました**。これは、あなたの操作に合わせて画面そのものをその場で作り出してしまうという実験的なモデルで、まだ一般には公開されておらず、パートナー企業向けの先行利用の申し込みが始まった段階です。

そして2026年9月8日には、**Adobeの編集ソフト向けのプラグイン（追加機能）が公開されました**。Adobe PremiereやAfter Effectsの中から、Runwayの各モデルを使って画像や動画を生成し、その結果を編集画面にそのまま置けるようになります。

動画編集をしている途中で「ここに3秒だけ映像がほしい」というときに、**ソフトを行き来せずに済むということです**。

2026年9月23日には、**DaVinci Resolve Studio（有料版のバージョン19以降）向けのプラグインも公開されました**。

DaVinci Resolveの画面の中から文章で指示して映像や画像を作ったり、タイムライン上のクリップの見た目を『Aleph 2.0』で作り変えたりして、できたものをそのままメディアプールやタイムラインに取り込めます。

プラグイン自体は無料（macOS・Windows対応）で、生成にはRunwayの有料プランのクレジットを使います。

また、9月4日にはチーム向けのプランも始まりました。最大9人で月6,900クレジットを共有し、保存容量1TB、プロジェクトへのコメント機能付きという内容です。

2026年9月17日には、**動画のコマ数を増やして動きを滑らかにする「Enhance Frame Rate」**というモデルが公開されました。

手元の動画を1秒あたり24コマから120コマまで変換でき、料金は入力2秒あたり1クレジット（10秒の動画でおよそ0.05ドル）、最長300秒までです。

10月1日からは、OpenAIの24時間動き続けるAIエージェント「dots」からRunwayを呼び出して、撮影の段取りから動画づくりまで任せられるようにもなりました（全プラン）。

さらに10月27日には、**広告づくりを任せられる「Runway Ads」**が、Runwayのウェブ画面で使えるようになりました。

Meta（Facebook・Instagram）、Google、TikTokの広告アカウントとつなぐと、ブランドの情報をもとに動画や画像の広告をいくつも作り、あなたが承認したものを

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

配信して、反応の良かった広告をもとに次の案を作ってくれます。

最初の設定では、配信の前にあなたの承認が必要です（あとから自動で配信する設定に切り替えることもできます）。

有料プランに含まれますが、対応する言語の一覧は発表には書かれていません。その前日の10月26日には、作りたい制作用のアプリを普通の言葉で説明するだけで、Runwayのモデルとあなたのブランドの素材やファイルを使った自分専用のアプリを作り、そのままRunwayの上で動かしてくれる「App Studio（アップスタジオ）」も、有料プランで使えるようになっています。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Runwayも非常に高性能な動画生成AIツールなのですが、文章のプロンプトから動画を生み出す「Text to Video」の性能よりも、**静止画を動画化する「Image to Video」のほうが性能が高いように感じます**。

なのでまずはハイクオリティな静止画を生成してからRunwayを使ってその静止画を動画化する、というワークフローになるので、私の使い方だとイマイチな点もあると感じました。

（例えば、KlingAIであれば、静止画を生成して、その静止画を動画化する、ということが同じAIツール内で簡単にできてしまうので、使い勝手が良いです。）Runwayに追加された「Frame」という静止画生成機能は月額95ドルのプランを契約する必要があるので競合他社に比べるとコスパが悪い印象です。

Midjourneyなどで生成した芸術的な静止画を動画化して**映画のようなムービーを作りたいAIアーティスト向きのツール**だと個人的には感じています。

2026年7月に出た「Media Router」は、正直、なかなか良い方向性だと感じました。「どのモデルが今いちばん良いのか」を毎回考えるのは私も面倒に感じていたので、画質重視・速度重視・コスト重視のどれかを選ぶだけで自動的に選んでくれるのは楽です。

8月にはSeedance 2.5やWan 3.0といった話題のモデルがRunwayの中でも使えるようになり、自社モデルの「Ruby」も出てきましたので、「Runwayのモデルだけ」という時代から「Runwayという場所でいろいろなモデルを使う」という時代に変わってきた印象です。

ただ、同じ7月にAPIからGen-3 Alpha TurboとGen-4 Alephの提供が終わっているので、**APIで作った自動化の仕組みが急に止まる可能性がある点は要注意です**。

使い放題からトークン課金への移行も進んでおり、この辺りは契約前によく確認しておいたほうが良いでしょう。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Luma AI

ルマAI

※旧Dream Machine

- **公式サイト**：https://lumalabs.ai/
- **料金プラン**：無料でお試し用のクレジットがもらえます。有料プランはPlusプラン（月額30ドル、年払いなら25ドル）、Proプラン（月額90ドル）、Ultraプラン（月額300ドル）などがあり、**有料プランなら商用利用が可能です**。
  （以前あったLITE 9.99ドル／PLUS 29.99ドルという料金体系は、2026年3月の「Luma Agents」への移行にともなって新しい体系に変わっています。）

Luma AIは、AIを活用して高品質な動画を生成するツールです。以前は「Dream Machine」という名前で提供されていましたが、**2026年3月に「Luma Agents」として作り直され**、現在は「Luma」というアプリ（app.lumalabs.ai）として提供されています（Dream Machineという名称は公式に「提供終了」扱いになりました）。

テキストプロンプトによる動画生成（Text to Video）や静止画を動画にする動画生成（Image to Video）の両方が可能です。

最新のRayシリーズのモデル（2026年6月のRay3.2が最新）によって**複雑な動きを伴うシーンでも滑らかな動きが生成可能になりました**。

2026年7月には、動画生成そのものではなく「制作のしやすさ」を強化する2つの機能が公開されました。

1つは7月29日の「Layers（レイヤーズ）」で、Uni-1というモデルをベースに、画像を独立した編集可能なレイヤー（層）として生成できるほか、あなたがアップロードした画像もレイヤーに分解できます。

もう1つは7月28日の「Pages（ページ）」で、1つの作業ボードをセクション単位で整理できるようになりました。

8月には、Seedance 2.5とMiniMax H3が使えるようになり（8月6日）、8月11日には、指示と参考画像から先に絵コンテを作って、あなたが確認してから本番の動画を作る「Luma Scenes（シーンズ）」が公開されました。

「1シーン直すのに1シーン分のコストで済む」というのが売りです。2026年10月1日には、1枚の画像広告を、ロゴ・見出し・ボタンを残したまま、縦長（9:16）・正方形（1:1）・横長（16:9）など**5つのサイズと複数の言語に自動で作り分ける「Luma Variants（バリアンツ）」**も公開されました（発表では英語とスペイン語の例が紹介されており、日本語への対応は書かれていません）。

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

10月23日には、Klingの最新モデル「Kling 4.0」もLumaの中で使えるようになりました。

そして11月3日には、**ChatGPTやClaudeの中からLumaの機能を使えるMCPコネクタ**（MCPは、AIと外部のツールをつなぐ共通の仕組みです）も公開されました。

商品写真1枚から別の角度や背景、照明の画像や短い動画を、チャットの画面のまま作れます（使った分はLumaのクレジットから引かれます）。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Luma AI（旧Dream Machine）は個人的に使ってみた感想としてはRunwayと同じように**「静止画から動画生成（Image to Video）」に強い動画生成AIだと感じました**。

その代わり、テキストプロンプトで動画を生成した場合（Text to Video）のクオリティはKlingAIやHailuo、Hunyuanなどの**中国勢のAIに比べると今ひとつな印象があります**。

その代わり、画像生成AIで生成した静止画やカメラで撮影した写真をアップロードしてLumaで動かした場合は、自然な動きの動画になりやすいです。

「静止画を動かしたい」という場合はLumaを一度試してみると良いでしょう。
2026年3月には「Luma Agents」としてより本格的なプロダクション向けクリエイティブスタジオに進化しています。

Ray3はAIが生成前に『思考』してから動画を作る世界初の推論型動画生成モデルで、ネイティブHDR対応など、技術的にも先進的な動きを見せています。

2026年7月に追加されたLayersとPagesは、動画モデルそのものの進化ではありませんが、私のように「作りっぱなしで素材が散らかる」タイプの人間にはありがたい機能です。

特にLayersで画像をレイヤーに分解できるようになったのは、動かしたい部分だけを直せるということなので、実務では地味に効いてくると感じます。

8月の「Luma Scenes」も同じ方向性で、「先に絵コンテで確認してから本番を作る」という流れは、失敗作にクレジットを使いたくない私のような人間にはぴったりです。

なお、料金体系が変わって**一番安いプランが月額30ドルになりました**ので、「月額9.99ドルで気軽に試せる」というLumaのメリットはなくなってしまった点はご注意ください。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

Hunyuan Video

ハンユアンビデオ

- **公式サイト**：https://github.com/Tencent-Hunyuan/HunyuanVideo （Tencent公式の配布ページです。モデル本体はHugging Faceの「tencent/HunyuanVideo」でも公開されています。なお、検索するとhunyuanvideoai.comのような似た名前のサイトが出てきますが、これらはTencent公式ではない第三者のサイトですので、課金の前に運営者をご確認ください。）
- **料金プラン**：Tencent公式のモデル本体はオープンソースとして無料で公開されています（自分のパソコンなどで動かす場合）。ネット上で見かける「月額9.99ドル〜」などの料金は、Tencent公式ではない第三者のサイトのものです。

Hunyuan Videoは、Tencent社が提供するAI動画生成モデルで、テキストから映画品質の動画を迅速に生成します。

オープンソースとして公開されている動画生成AIモデルなので誰でも自由に開発を行うことが可能です。2025年11月にHunyuanVideo-1.5が公開され、パラメータ数が130億から83億に削減され、RTX 4090などの消費者向けGPUでも動かせるようになりました。

また、音声から人物動画を生成するHunyuanVideo-Avatarや、Image-to-Video専用のHunyuanVideo-I2Vなどファミリーモデルも増えています。

2026年11月5日時点でも動画モデルとしてはこの1.5が最新で、Tencentが7月と8月に公開した「Hy3」「Hy4」は文章用の言語モデルであり、**動画モデルの新版ではありませんのでご注意ください**。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Hunyuan Videoを私も実際に課金して動画生成をしてみた感想としては、**「日本のアニメそっくりな動画を作るのが上手い」ということです**。

アニメに限らず、実写風の動画でも日本の刑事ドラマそっくりの動画が生成されるなど、日本のコンテンツをかなり学習していることが予想されます。

なので、日本のアニメ風の動画をAIに生成させたい人はHunyuan Videoを使うのもありでしょう。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

また、生成した動画に音を付与する機能もあるのですが、人間が会話しているシーンでは中国語っぽい音声が生成されるだけなので実用的ではないです。

（生活音や動物の鳴き声などはリアルな音声を生成してくれます。）個人的には、Hunyuanの動画生成モデルを使える他のツール（Krea.aiやPoeなど）に課金をするほうがいろいろなAIモデルを使い分けることが出来るので、あえてTencent公式ではない有料サイトで課金してまで使う必要はないのでは？

と思います。2026年に入ってからは、同じ中国勢のKling、Seedance、Hailuo、Wanが次々と新モデルを出しているのに対して、Hunyuanの動画モデルは2025年11月の1.5から止まっていますので、**正直、少し存在感が薄れてきた印象です**。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

AnimeGen

アニメジェン

- **公式サイト**：https://huggingface.co/aidealab
- **デモページ**：https://huggingface.co/spaces/aidealab/AnimeGen-T2V
- **料金プラン**：完全無料です。**Apache-2.0というライセンスで公開されており、商用利用も可能です**。

AnimeGenは、東京のAIベンチャーであるAIdeaLab（アイデアラボ）が開発した、アニメに特化した動画生成AIです。

2026年7月13日に正式版が無償で公開されました。文章から動画を作るT2V（テキスト・トゥ・ビデオ）、1枚のイラストを動かすI2V（イメージ・トゥ・ビデオ）、そしてフレーム補間（コマとコマの間を自動で埋めて動きをなめらかにする機能）に対応しています。

AIモデルを公開・共有するサイトであるHugging Face（ハギングフェイス）上にデモが用意されているので、難しい設定をしなくてもブラウザから試すことができます。

特筆すべきは、経済産業省が進める**GENIAC（ジーニアック）というプロジェクトの支援を受けて開発された国産モデル**であること、そして学習データを日本の著作権法に基づいて収集したと開発元が明言していることです。

（技術的には、Alibabaが公開しているオープンソースの動画モデルWan 2.2をもとに、日本のアニメ向けに追加で学習させたモデルです。）ライセンスもApache-2.0なので、生成した動画を仕事で使うことができます。

Review **オススメ度** ★★★★☆

AnimeGenは、**日本の中小企業の方にこそ知っておいていただきたいツールだと感じます**。動画生成AIの世界では、KlingやSeedanceといった中国製、VeoやSoraといったアメリカ製が話題の中心ですが、正直、お客様から一番よくいただく質問は「その動画、仕事で使って権利的に大丈夫なんですか？」というものです。

実際、Midjourneyがディズニーとユニバーサルから著作権侵害の訴訟を受けているように、学習データの問題はまだ決着していません。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

その点、AnimeGenは経済産業省のGENIACプロジェクトの支援を受けた国産モデルで、学習データを日本の著作権法に基づいて収集したと開発元がはっきり明言しています。

しかも**Apache-2.0ライセンスで完全無料、商用利用も可能です**から、「権利面が気になるので、まだAI動画には手を出せていない」という方にとっては、最初の一歩として非常に現実的な選択肢になるでしょう。

文章から動画を作るだけでなく、手持ちの1枚のイラストを動かせるI2V機能もあるので、自社のキャラクターやマスコットを動かしてSNSに投稿する、といった使い方も考えられます。

ただし、注意点もあります。まず、Hugging Faceというエンジニア向けのサイト上でデモが公開されているため、KlingやRunwayのようなきれいな画面を想像していると、少し取っつきにくいと感じるはずです。

日本語の説明も多くはないので、慣れるまでは戸惑うかもしれません。また、アニメ特化のモデルですので、**実写のような映像を作りたい場合は他のツールを使うべきでしょう**。

無料で試せますので、まずはデモページで手持ちのイラストを1枚動かしてみてはいかがでしょう。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Pika

ピーカ

- **公式サイト**：https://pika.art/
- **料金プラン**：無料プランは毎月のクレジットが0で、動画を作るにはクレジットを買い足す必要があります。有料プランはStarter（月額10ドル、年払いなら月あたり8ドル）、Creator（月額35ドル、年払いなら月あたり28ドル）、Fancy（月額95ドル〜、年払いなら月あたり76ドル〜）です。
  どのプランも透かしなしでダウンロードできます。商用利用は、一番安いStarterを含むすべての有料プランでで き、無料プランではできません（2026年11月5日時点の公式の料金ページ）。
  開発者向けには、月額10ドルで100以上の動画・音声モデルをAPIで使える「Pika API Club」（8月5日開始）もあります。

Pikaはテキストでの指示で動画を生成したり、静止画をアップロードして画像を動かすことができる動画生成AIツールです。

自分でアップロードした写真に対して、SNSでバズりやすいような奇抜なエフェクトを付け加えた動画を気軽に生成できることで定期的に話題になっています。

2026年8月には、月額10ドルでSeedance 2.5やMiniMax H3、Kling 3.0、Veo 3.1、自社のPika 2.5など**100以上のモデルを1つのAPIで使える「Pika API Club」**（8月5日）、そして最長6分の音楽を作る「Pika Music」、効果音の「Pika SFX」、声のクローンができる「Pika Speech」などの音声モデル群（8月18日）が公開されました。

そして2026年9月17日には、**サービス全体が「新しいPika」として作り直されました**。動画・画像・音声づくりが1か所にまとまり、最大30秒・音声つきの動画を作る「Video Studio」や、スマホで撮った商品写真を広告向けの写真に仕上げる「Product Shot」など、25以上の「アプリ」を使えます。

中ではSeedanceやMiniMax H3、Pika自身のモデルなどから、目的に合ったものが自動で選ばれます（自分で選ぶこともできます）。

すべてのモデルとアプリはどのプランでも使え、2026年11月5日時点では、**一番安いStarterを含むすべての有料プランで商用利用ができます**。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Review **オススメ度** ★★★☆☆

Pikaは自分の写真をアップロードして、Pikaffect（ピーカエフェクト）などの面白いエフェクトを生成できることで有名ですが、実際に課金をして使ってみた結果、**「SNSでバズるような笑える動画は作れるけど、真面目に仕事で使えるか？というと微妙」**だと個人的には評価しています。

実際にテキストプロンプトを入力して動画を作ってみると、**意外とクオリティの高い動画が生成できます**。商用利用は、2026年11月5日時点では月額10ドルのStarterプランからできますが、毎月のクレジットは900と少なめなので、仕事でたくさん作るには割高に感じます。

それなら、**KlingAIなどに課金をしたほうが動画生成以外の機能も使えるため、コスパも良いでしょう**。

2026年初頭にPika 2.5が公開され、物理ベースのモーション、ネイティブ効果音、リップシンク（Pikaformance）に対応しました。

さらにPika 2.5 Studioという、タイムライン・レイヤーベースの動画編集環境も追加され、『SNSのおふざけ動画用ツール』というイメージから、コンパクトなモーションデザインアプリへと脱皮した印象です。

最大25秒のシーン拡張にも対応するようになりました。8月に始まった「Pika API Club」は、月額10ドルで他社の最新動画モデルまでAPIで使えるという、自社モデルにこだわらない面白い方向転換だと感じます。

開発者向けの仕組みではありますが、「Pikaは自分のモデルで勝負するのをやめて、いろいろなモデルの窓口になろうとしている」という動きは、この会社の今後を考える上で注目しておきたいところです。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Vidu

ビードゥー

- **公式サイト**：https://www.vidu.com/
- **料金プラン**：**無料アカウントでも1ヶ月に80クレジットが自動付与されます**。動画1本を生成するのに必要なクレジットは最低12クレジットです。
  有料プラン（月額10ドル〜）を契約するとウォーターマークがなくなり、商用利用が可能な高画質な動画を生成可能になります。

Viduは、中国の生数科技（Shengshu Technology）社と北京の清華大学が共同開発したAI動画生成プラットフォームです。

Reference to Video（キャラクター参照）という機能も登場し、**アップロードした画像に写っている人物や物を一貫して登場させることができる**など魅力的な機能が開発されています。

APIも公開されており、他の動画生成AIツールでもViduモデルが使えるようになっています。2026年7月3日には、リアルタイムで動画を生成しながらキャラクターと音声で会話できる「Vidu S1」という新しいタイプのモデルも発表されました。

Review **オススメ度** ★★★☆☆

私は無料プランでしかViduを試していないので、Viduの機能をフルに活用したわけではないのですが、無料アカウントで出来る範囲で動画を生成してみたところ、**クオリティは期待するほどではありませんでした**。

文章でプロンプトを入力して動画を生成するText to Video機能では、人物の生成クオリティがイマイチでした。

静止画をアップロードして動画を生成するImage to Video機能も悪くはないのですが、**HailuoやRunway、Lumaなどに比べると精度がワンランク落ちる**ような印象を受けました。

その後、Vidu Q2、Vidu Q3と進化し、Q3では音楽・効果音も一緒に作れるようになりました。

そして2026年10月7日には、**最新の「Vidu Q4 Preview」が公開されました**。4Kの高画質（10bitの豊かな色）に対応し、**参考画像を最大15枚まで組み合わせられる**う

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

え、参考にした声でキャラクターの声をそろえることもできますので、ドラマやアニメ調コンテンツの量産には向いているモデルです（開発者向けの料金は1秒あたり0.045〜0.39ドルで、11月30日までは画像や参考素材から作る場合に30%引きです）。

7月に出た「Vidu S1」は、動画を「作る」のではなく「リアルタイムで動くキャラクターと会話する」というゲームに近い方向のモデルで、動画生成AIの各社が「ワールドモデル」や「インタラクティブ」という方向に向かっているのを感じます。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

Ltx-2

LTX Studio

LTXスタジオ

- **公式サイト**：https://ltx.io/studio （以前のltx.studioからは自動的に転送されます）
- **料金プラン**：無料でも一回限りの800クレジットがもらえ、2回ほど動画を生成可能でした。それ以上は月額15ドル（年払いなら12ドル）～のLiteプランに課金して使う必要があります。
  生成した動画を商用利用したい場合は、**月額35ドル（年払いなら28ドル）のStandardプラン以上**を契約する必要があります。
  さらに上には、Veo 3.1なども使える月額125ドルのProプランがあります。

LTX Studioは、Lightricks社から2026年7月に独立した「LTX」社が開発しているAI駆動の映像制作プラットフォームです。

他のAI動画生成ツールとは違い、こちらが提示したアイデアを膨らませて、脚本やストーリーやキャラクターなどをAIが考えてくれて、**実際にクライアントに提示できるようなイメージ動画を生成することができるツールです**。

映像制作を手掛けている人にはピッタリのツールかもしれません。開発元のLTXは2026年7月8日に、**自社を「オープンなワールドモデルの会社」として位置づけ直すと発表しました**。

ワールドモデルとは、物理的な現実世界を理解してシミュレートするAIのことで、今後は映画だけでなくロボティクス（ロボット開発）や産業向けの基盤AIを作っていく方針とのことです。

8月はその方針を裏付けるように動きが多く、8月11日には1つの指示で複数のカットを続けて作れる新しいオープンモデル「LTX-2.5」を公開、8月16日にはNVIDIAが立ち上げた「Cosmos Coalition」の創設メンバーに参加、8月19日にはAPIの契約なしでLTXの30以上のツールをクレジット制で試せる「LTX Explore」を公開しました。

Review **オススメ度** ★★★☆☆

LTX Studioを無料プランの範囲内で使ってみましたが、**映像制作や映画の制作をされている方にはお勧めできるAIツールだと思いました**。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

実際に「パソコンの前で悩んでいる男性」というキーワードを私が入力しただけで、「現代社会で働き疲れて生きがいを失ってしまった男性が、家族との対話を通じて自分が小さい頃の夢だった絵を描くという情熱を思い出し、創作活動をスタートさせる」という喪失と再生のストーリーを提案してくれました。

その後も、キャラクターを「日本人男性」「アニメ風のスタイル」などのパラメーターを指定すると、絵コンテと1分ほどの動画を素早く作ることができました。

各シーンやショットも細かく分かれているので、各ショットのアングルをワイドやクローズアップなど指定できるので映像制作の知識がある人には嬉しい機能だと感じました。

ここで作成した動画を作品として世の中に公開するというよりも、「こんなストーリーはどうですか？」と**クライアントに提案するための絵コンテ的な使い方が向いていると思います**。

一時は「会社の軸足が基盤AIのほうへ移って、LTX Studioという製品に力が注がれなくなるかもしれない」と心配していましたが、2026年8月にはLTX-2.5という新モデルやLTX Exploreが出てきましたので、**製品の開発はむしろ活発になっている印象です**。

心配は杞憂だったようで、映像制作をされている方は引き続き注目しておいて良いツールだと思います。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



DomoAI

ドーモAI

- **公式サイト**：https://domoai.app/ja
- **料金プラン**：無料お試しあり。有料プランは**Basic（年払いなら月あたり9ドル、月払いだと13ドル）**、Standard（月あたり29ドル／42ドル）、Pro（月あたり99ドル／142ドル）の3種類です。

DomoAIは、プログラミング知識不要で簡単に利用できるAI動画・画像生成プラットフォームです。主な機能として、**実写動画をアニメ風に変換するVideo to Video(V2V)**、静止画から動画を生成するImage to Video(I2V)、キャラクターアニメーション機能、テキストから画像を生成するText to Image(T2I)、画像のスタイル変換を行うImage to Image(I2I)、アニメを実写風に変換するReal機能などを提供しています。

日本語対応で、Discordサーバー上でコマンドを入力するだけで、多様なスタイルの高品質コンテンツを短時間で作成できる点が特徴です。

現在はSeedance 2.5やMiniMax H3、Nano Banana 2など70以上の他社モデルも統合されています。

Review **オススメ度** ★★★☆☆

DomoAIは自分の動画をアニメ風の動画に作り変えることができる機能が強みの動画生成AIツールのようです。

私も無料で使えるクレジットの範囲内で動画を生成してみましたが、個人的な感想としては**それほどクオリティが高いとは思いませんでしたので期待は禁物です**。

ただ、**UIが日本語も選択できるので日本でも使いやすい点は評価できます**。また、アバター生成や音声生成など、カスタムアバターを作れる機能も多く存在するようなので、一般的な動画生成よりもアニメ風のアバターを生成したい人にとっては試してみる価値があるツールかもしれませんね。

しかし、同じような機能を持つAIツールが乱立しているため、DomoAIも含めてどれだけの会社が今後生き残れるのか？

ということはわからないなと感じてしまいました。（今は他社の最新モデルを次々に取り込む「窓口」型のツールになってきているので、その方向で生き残りを図っているのかもしれません。）

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Genmo

ジェンモ

- **公式サイト**：https://www.genmo.ai/
- **料金プラン**：無料プランでは（支払い方法を登録すると）一生分として250クレジットがもらえ、**透かし付きで動画を生成できます**。
  有料プランはLite（月1,200クレジット）とStandard（月5,000クレジット）があり、Mochiでの動画1本に100クレジットを消費します。
  （各プランの金額は公式サイトでご確認ください。）

Genmo社はアメリカ合衆国カリフォルニア州サンフランシスコに本社を構える、最先端のビデオ生成モデルを開発するAI研究所です。

Genmoが開発している「Mochi1（モチ ワン）」という動画生成AIモデルはオープンソースであり、誰でも開発が可能です。

物理法則に基づいた自然な動きの表現、**水や液体の動きの再現が得意だとされています**。（2026年11月5日時点でも**新しいモデルは公開されておらず、Mochi 1のままです**。）

Review **オススメ度** ★★☆☆☆

実際に私もGenmoのサイトでMochi1モデルを使ってテキストプロンプトを入力して動画生成をしてみましたが、人物の顔や表情などはAIっぽさが拭えず違和感を感じてしまうクオリティでした。

「日本人の男性（または女性）」という指示を（英文で）行なっても、中国系の顔立ちの人物が生成されてしまうので、**少なくとも無料版では使えるレベルではないと判断しました**。

他のユーザーが生成した動画の一覧を見ていると、動植物の造形や動きは違和感がない自然な動きになっているケースが多いと感じましたが、人間の表情などは自然でない部分も多いと感じましたので、私のプロンプトの問題ではなく、モデル自体の性能の限界なのだと予想します。

今後の性能アップに期待したいですね。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Viggle.ai

ヴィグル.ai

- **公式サイト**：https://viggle.ai/
- **料金プラン**：**無料プランでも1日5回の動画生成が可能です**。有料プランはProプラン（月額9.99ドル、80クレジット）、Liveプラン（月額19.99ドル、200クレジット）、Maxプラン（月額79.99ドル、800クレジット）の3種類で、年払いだと2割引になります。
  課金すると生成速度アップ、ウォーターマークの除去などのメリットがあります。

Viggle AIはカナダのトロントに本社を置く生成AI企業であり、AIを活用して人物の動きを動画にするツールを開発しています。

同社は画像の人物をアニメーション化するAI動画生成ツールを提供しており、2026年2月に公開された**「Viggle V4」では、1分以上の長い動きも転写できるようになりました**。

現在は「3Dモーション」を軸に、動画から3Dの動きのデータを取り出す無料ツール「PINOC」や、リアルタイムで動く「Viggle LIVE」なども展開しています。

Web、Discord、iOS、Androidアプリなどの様々なプラットフォームで使用することが可能です。

Review **オススメ度** ★★☆☆☆

ViggleAIは**ネットでバズりやすいネタ動画（ミーム動画）を簡単に作れる動画生成AIツールです**。ネット上でよく見かけるネタ動画のテンプレートが豊富に用意されているので、そのテンプレートに自分の写真をアップロードすることで、画面に登場している人物を自分に置き換えることができるので、SNSでいいねをもらいやすい面白動画を簡単に作ることができます。

また、「ラップ動画」の生成機能もあり、簡単なラップの歌詞（リリック）と自分の写真や動画のスタイルを設定することで、自分がラップをしているMV（ミュージックビデオ）のような動画を作ることができます。

（ただ、ラップの歌詞を日本語にするとうまくいかなかったです。）自分の写真を動画化した際のクオリティはそれなりに高いと感じました。

ただ、SNSインフルエンサーの人は使えるかもしれませんが、**通常の仕事ではあまり使うことがないツールである、というのが正直な意見です**。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Morphic

モーフィック

- **公式サイト**：https://www.morphic.com/
- **料金プラン**：無料プラン（最大20クレジット、商用利用は不可）あり。有料プランはBasic（月額19ドル）、Standard（年払いなら月あたり24ドル、月払いだと29ドル）、Pro（月あたり45ドル／49ドル）、Max（月あたり170ドル／185ドル）、エンタープライズプラン（要問い合わせ）があり、有料プランはどれも商用利用ができます（2026年10月15日時点の公式の料金ページ）。

Morphicが提供する「Morphic Studio」は、AIを活用した高度な動画制作プラットフォームです。

ただのAI画像・動画制作ツールというよりは、**手書きのラフスケッチからAI画像を生成することが可能な機能**があったり、生成した画像や動画をブラウザ上でタイムラインに並べて動画編集まで出来る「クリエイター」を支援するためのツールのようです。

2026年4月には、決まった手順を自動化する「Workflows」機能も追加されました。

Review **オススメ度** ★★☆☆☆

Morphicは日本のアニメ風の静止画や動画を生成するのが得意なAIツールのようです。UIも日本語を選択することができるので、日本市場も狙っているように思えるのですが、日本語のプロンプトを入力すると生成結果の質が落ちるので、**実際には日本人向けには使いづらいと感じました**。

無料プランで使ってみましたが、静止画のクオリティはそれなりに高いものの、その静止画を動画化すると**動画のクオリティはイマイチになってしまう**と感じました。

また、Morphic上で生成した静止画や動画素材をタイムラインに並べて編集できる簡易的な動画編集機能があることも強みですが、非常にシンプルな機能しかないので、今後の進化に期待したいところです。

自分のアイデアやラフスケッチをAIに画像化してもらい、それを動画化しながらデモムービーを作りたいクリエイターや動画制作者の方には向いているツールだと思います。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

Moonvalley Marey

ムーンヴァレーマレー

- **公式サイト**：https://www.moonvalley.com/
- **料金プラン**：**月額14.99ドル**、34.99ドル、149.99ドル～

2025年3月12日、カナダのスタートアップMoonvalleyが映画制作や広告業界向けAI動画生成モデル「Marey（マレー）」を発表しました。

このモデルは**100%ライセンス取得済みデータで訓練された「クリーン」な技術**として、著作権問題を抱える従来のAI動画モデルとは一線を画しています。

Mareyは映画制作者や広告主に高度な制御機能を提供しながら、倫理的なコンテンツ創造の新時代を開くことを目指しています。

2025年7月からは誰でも登録して使えるようになっており、現在のモデルは「Marey Realism v1.5」です。

Review **オススメ度** ★★☆☆☆

「Marey（マレー）」は2025年3月に発表された新しい動画生成AIモデルで、映画のようなリアリティのある高品質な動画を生成できる動画生成AIモデルです。

このAIモデルの最大の特徴は、権利元から正式に許可を得た「クリーン」なデータのみで学習されている点にあります。

他の多くの動画生成AIが権利的にグレーな領域で運用されている中、Mareyは著作権問題の解決策を示す重要な事例として注目されています。

以前は一般ユーザーが利用できない状態でしたが、2025年7月から一般公開され、特に大手企業や映画制作などコンプライアンスを重視する商業利用において、**訴訟リスクを回避できる選択肢として価値があります**。

ただし、権利処理にかかるコストがユーザー料金に反映される可能性があり、今後の価格設定や普及状況に注目が集まっています。

とはいえ、**映画製作会社向けなので一般ユーザーがあえて使うものではないと感じます**。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



OpenAI Sora

オープンAI ソラ

※公開終了

- **公式サイト**：https://sora.chatgpt.com/
- **料金プラン**：**新規の申し込みはできません**。Web版・アプリ版は2026年4月26日に停止し、最後に残っていたAPIも2026年9月24日に提供を終了しました。

OpenAIのSoraは、テキストから高品質な動画を生成するAIモデルです。深い言語理解と高度な映像生成能力を組み合わせ、詳細で動的、かつ感情豊かな動画を作成することが可能でした。

サービス終了が発表され、Web版・アプリ版（sora.chatgpt.com）は**2026年4月26日にすでに停止しています**。

残っていたAPIも2026年9月24日に提供を終了し、**Soraは完全に終わりました**。ユーザーのデータも削除されており、復旧はできません。

OpenAIは計算資源を企業向け・コーディング分野へ振り向ける方針で、Sora自体はワールドモデル（現実世界をシミュレートするAI）の研究として継続するとしています。

Review **オススメ度** （公開終了）

2025年9月末に突如公開されたOpenAIの最新動画生成AIモデル「Sora2」の招待コードを頂くことができましたので、私も動画を生成してみました。

2024年末にSoraが最初に公開された時は、他の動画生成AIと比べて、人物描写に違和感があったりと、正直使う気にはなりませんでした。

（なので2025年にGoogle Veoが使えるようになってからはSoraを使うことはありませんでした。）しかし、Sora2は、音声付きで動画を生成できるようになり、自分自身を動画に出演させることができる「Cameo（カメオ）機能」、自分や他人が生成した動画に追加の指示をして、動画を作り替えることができる「Remix」機能など、たくさんの新機能が追加されました。

実際に私も自分を動画に出演させてみましたが、**シンプルなプロンプトだけで複数のシーンから成る10秒の動画を簡単に生成できました**ので、非常に驚きました。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

しかし2026年3月にOpenAIが終了を発表し、Web/App版は2026年4月26日に正式にサービスを停止、API版も2026年9月24日で完全に終了し、Soraで作った動画や画像を含むデータも削除されました。

もう手元に残す方法はありません。あれだけ話題になったツールが1年半足らずで消えてしまうというのは、正直、驚きですが、**AIツールは永遠に使えるものではない、大事なデータは自分の手元に置いておく**、ということを改めて学ばされた出来事でした。

なお、OpenAIはSora開発で得たノウハウをワールドモデルの研究として継続していくと発表しています。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Meta Movie Gen → Muse Video

メタムービージェン

- **公式サイト**：https://ai.meta.com/research/movie-gen/
- **料金プラン**：**一般公開はされていないため不明です**。

Meta Movie Genは、Meta社が開発した動画生成AIツールで、テキストや画像からリアルな動画を簡単に作成できます。

既存の動画の編集も可能で、オブジェクトの追加・削除や背景変更などが簡単に行えます。また、個人の写真とテキストを組み合わせてカスタム動画を作成したり、動画に合わせたBGMや効果音を自動生成する機能も搭載されています。

映画制作、広告、教育分野での活用が期待される一方、著作権や倫理的な問題への対応も求められています。なお、2026年7月7日にMetaの新組織Meta Superintelligence Labsが発表した「Muse Video」（音声つきの動画生成モデル）が、このMovie Genの実質的な後継にあたると見られますが、Muse Videoも2026年11月5日時点でも「近日公開」のままで、一般には使えません。

Review **オススメ度** （未公開のため評価なし）

FacebookやInstagramの運営元であるMeta社が開発している動画生成AIモデルである「Meta Movie Gen」ですが、**サイトを見る限りは非常に高性能な機能を持っていることがうかがえます**。

ただ、どのAIツールもそうですが、「サンプルのクオリティはすごいけど、実際に自分で生成してみたらイマイチだった」ということはよくあるので、過剰な期待はできませんね。

そもそもMetaの収益はほとんどが広告事業の収入ですので、開発している生成AIの技術に対して一般ユーザーからお金を取ったり、開発者向けにAPIを公開して収益を得るようなビジネスモデルというよりは、「Meta広告を使ってFacebookやInstagramで広告を配信している広告主が気軽に広告クリエイティブを作れるようにするためにAIを開発している」という目的も大きいのでは？

と推測します。私もMeta広告を出稿する際に、私の書籍のイメージ画像をアップロードしたらMeta側で自動的に書籍画像の背景をいろいろなパターンで合成した画像を提案してくれて、意外とその広告の反応もよかったので、最新のAIの技術がより広告配信の現場で生かされるようになると良いなと思います。

ただ、その後、Movie Genのサイトは更新されておらず、2026年7月に発表された後継の「Muse Video」も2026年11月5日時点で「近日公開」のままですので、**Metaの動画生成はもうしばらく待つ必要がありそうです**。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

結論

どの動画生成AIツールがオススメ？

ここまでたくさんの動画生成AIツールをご紹介してきましたが、「で、どれがお勧めなのか教えてほしい」という声が聞こえてきそうですので、こちらでお伝えします。

まず大事なことは、**「あなたはどのような目的で動画生成AIを活用したいのか？」**です。例えば私であれば、自分のWEB動画コンテンツや動画広告のためのBロール（インサート）素材用に、コスト削減のために実写のストック動画サイトを解約してAI動画生成ツールに置き換えたい、という目的で動画生成AIを使い始めました。

そして、動画生成AIの中にも「Text to Video（文章でプロンプトを入力して動画を生成）」のクオリティが優れているモデルや、「Image to Video（静止画を動画化する）」のほうが優れているモデルなど、それぞれ特徴があります。

私の場合は、例えば広告動画を作る際に「Web集客で悩んでいませんか？」というフレーズに合うような「パソコンの前で悩んでいる男性（女性）」の写実的な動画をAIに作ってもらうケースが多いです。

SNSでバズるような芸術作品的なAI動画は求めていないので、**「自分が文章で入力したプロンプトをいかに正確に再現できるか？」**を重要視しています。

その観点で見ると、今はGoogleの動画生成AIモデルのVeoもGoogle Flowなどで手軽に使えるようになり、その性能も非常に高いのでVeoをメインで使っていこうと考えています。

Veo以外では中国製のKlingAIも非常に性能が高いので気に入っていますし、Seedanceも話題になっています。

そして2026年8月は、中国勢の新モデルが一気に出てきた月でした。ByteDanceのSeedance 2.5、MiniMaxのH3（Hailuo 3.0）、AlibabaのWan 3.0が、Higgsfield、Runway、Krea、Magnific、PixVerseといった海外の主要なツールに次々と搭載され、**「30秒の動画を音声つきで1本で作る」ということが当たり前になりつつあります**。

あなたがすでに何かの動画生成ツールに課金しているなら、まずはその中で新しいモデルを選べるようになっていないか確認してみてください。

OpenAIのSoraが公開終了となってしまったため、動画生成を試したければ、まずはGoogleのGeminiの中で動画生成を行ってみることを推奨いたします（2026年11月5日時点では、Geminiアプリの動画生成はVeoに代わってGemini Omniが担当しており、**Veoそのものを使いたい場合はGoogle Flowで使えます**）。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

動画生成AIツールの個人的ランキングベスト3

1位 Google Veo（グーグルヴェオ）

動画生成AIはコストが高いのですが、**誰でも気軽に使えて一番お勧めしやすい**のはGoogle製の動画生成AIモデルであるVeoでしょう。

まだ日本語の音声の生成がおかしくなることも多いですが、非常にリアリティのある動画を生成することが可能です。

Google Flowなら無料枠（1日50クレジット）でも試せますので、まずはそこから使ってみるといいでしょう（2026年11月5日時点では、Geminiアプリの中で作る動画はVeoではなくGemini Omniが担当しています）。

ただし、**使用制限が厳しいので使える回数は限られています**。

2位 Seedance（シーダンス）

Seedanceは中国製の動画生成AIモデルです。2026年に入ってから、中国の動画生成AIは大きく進化しています。

Seedance 2.5という最新モデルでは、**音声つきの30秒動画を1本で作れる**など性能が大きくレベルアップしており、8月からはHiggsfieldやRunway、Krea、Magnific、PixVerseなど、複数の動画生成AIモデルに対応しているツールの中で日本からも使えるようになりました。

ぜひ試してみてはいかがでしょうか？

3位 Kling AI（クリングAI）

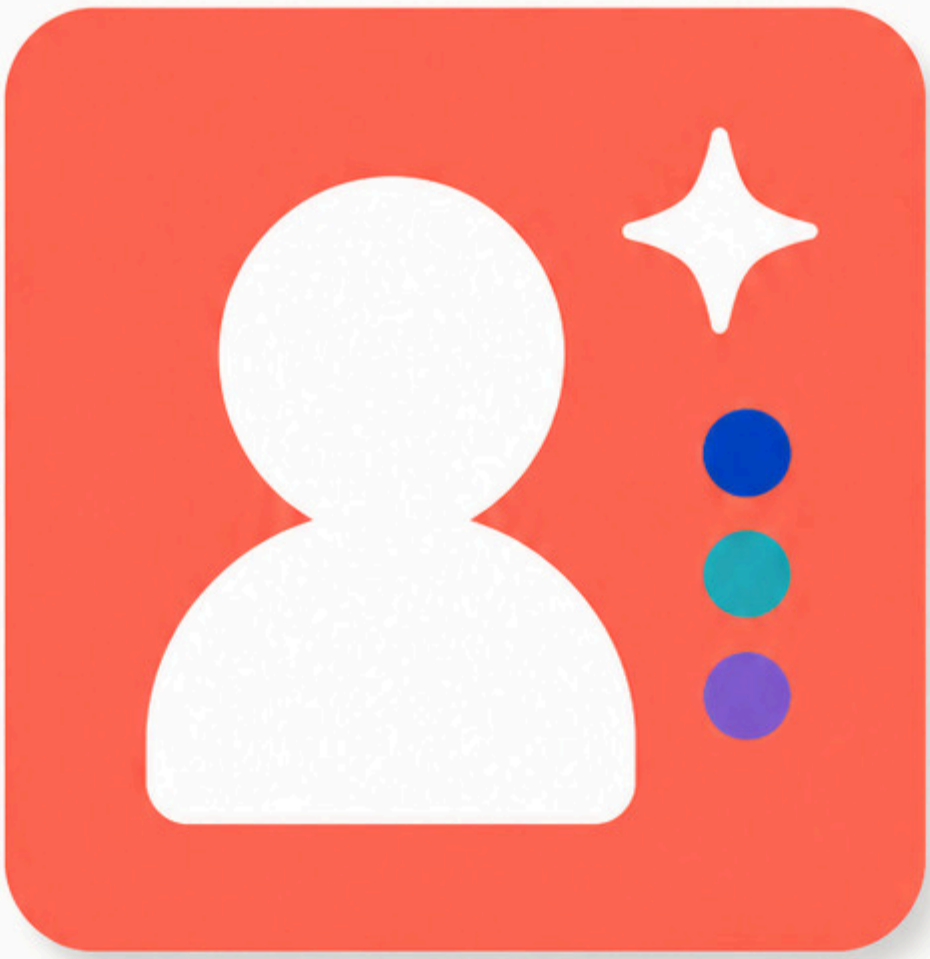
Kling AIは中国製の動画生成AIですが、**非常にハイクオリティな動画を作ることができます**。Google Veo以外の動画生成AIモデルを試してみたい方はKlingを試してみると良いでしょう。

直接契約したくない方は、GensparkなどのAIツール内でAPI経由でKlingの動画モデルを使って動画生成が可能ですので試してみるとよいでしょう。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Chapter 10

アバター生成AI



≡ 目次に戻る

Chapter 10　アバター生成AI

AIアバター動画はビジネスで使えるのか？

AIアバター生成は、実在する人物の動画と音声をサンプルとしてAIに学習させることで、まるでその人物本人が話しているかのような**リアルな動画を気軽に作れてしまう技術です**。

このような技術が最初に話題になった時には多くのインフルエンサーが「自分のAIアバター動画を作ってみた！」という形でAI動画を公開していましたが、その流行は下火になってしまったのでは？と感じます。

実際に私も今回ご紹介するアバター生成AIツールを使ってみて感じたのは、「**日本語で正確な発音をさせるのが意外と難しい**」「長時間の動画を作るのにはコストもかかるし、気になる発音を修正するのが大変…」という点です。

「それならば人間がカメラの前に出て話した方が速いよね！」という話になると思いますし、動画の視聴者も「自分が見ている配信者やインフルエンサーがAIアバター動画しか出さなくなったら見たいか？」と言われると、そこはまだまだ受け入れられないのでは？

と思います。（私もやはりAIアバター動画よりも、リアルな人間が話している動画を見たいと思ってしまいますので…）

ただ、そのような属人性の高い分野ではAIアバター動画は受け入れられづらいかもしれませんが、ビジネス用途だとどうでしょう？

カスタマーサポートやチュートリアルの動画、またはコールセンターでの電話対応など、「情報さえ手に入れられれば、誰が話していてもいい」というような属人性の低い分野では、**AIが生成した動画や音声を積極的に活用するメリットは大いにあるはずです**。

または、海外展開をする際に「日本語で話した動画の音声に対し、AIによって様々な言語での吹き替え音声を生成してもらう」ということを行えば、**多くの時間やコストが削減できるでしょう**。

AIアバター生成や音声生成の精度は今後さらに進歩していくでしょうから、今回ご紹介するツールを参考に「AIアバター動画を自分の仕事でどうやって活用できるだろうか？」を考えていただき、未来に備えていきましょう！

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Akool

アクール

- **公式サイト**：https://akool.com/
- **料金プラン**：
  - 無料プランでお試し可能
  - 有料プランはクレジット制で、Starterプラン（月額12ドル、毎月200クレジット）～。Proプランは月額30ドル（年払いなら月21ドル相当、毎月600クレジット）で、上位にPro Max（月額59ドル）、Business（月額249ドル）もあります。

AKOOLは、AIを活用した高品質なアバター作成・動画編集プラットフォームで、リアルなデジタルアバターの生成や**リアルタイムでの表情・動作の制御が可能です**。

動画・画像編集機能としてフェイススワップや背景変更、多言語対応の翻訳・リップシンクを備え、ストリーミングアバター機能（ベータ版）ではテキストや音声入力による操作が可能です。

料金はクレジットベースの課金システムを採用し、マーケティング、Eコマース、カスタマーサービス、デジタルコンテンツ制作など幅広い用途に活用できます。

専門的なスキルがなくても簡単に高品質なコンテンツを作成できる点が特徴です。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Akoolを実際に試してみたところ、**特にトーキングアバターの精度が高く**、写真をリアルな動画として動かせる点に感心しました。

私が試した中では**音声はHeygenやSynthesiaなどよりも日本語を自然に読み上げてくれました**。

無料トライアルで100クレジットがもらえ、いくつかの機能を試せましたが、本格的に使うなら有料プランが必要になります。

他のアバター生成ツールと比べてもクオリティは高いものの、自分で話す方が早い場面もあり、用途次第では不要かもしれません。

サポート動画やコンテンツ作成には便利そうなので、興味がある人は試してみる価値があると思います。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



HeyGen

ヘイジェン

- **公式サイト**：https://www.heygen.com/
- **料金プラン**：
  - 無料プラン: 月に3本（1分まで・透かし付き）の動画を作成可能。有料プランは**Creator（月額29ドル、年払いなら24ドル）**～。上位にはPro（月額49ドル～）、Business（月額149ドル～）があります。2026年5月以降の新規契約はクレジット制になっており、Creatorプランは月600クレジット（最新のAvatar Vなら1分あたり20クレジット）です。

HeyGenは、AIを活用してテキストから高品質な動画を生成するプラットフォームです。ユーザーはテキストを入力するだけで、**175以上の言語でスタジオ品質の動画を作成できます**。

カスタムアバターの作成や、音声、背景の変更も容易に行えます。2026年6月のアップデートでは、トーキングヘッド（話している人物の動画）で最大30分の連続動画を一度に生成できるようになりました。

HeyGenの説明によれば、これは**「業界のこれまでの上限の6倍、HeyGen自身の従来比では10倍」にあたる長さ**です。

また、Webサイトから動画を作る、ビート（音楽のリズム）に合わせて編集する、自動でキャプションを付ける、といった9種類の統合ワークフローが『HyperFrames Skills』として使えるほか、1万曲を超える音楽ライブラリやLinkedInへの直接投稿にも対応しています。

7月には、2人のAIアバターが会話する「Video Podcast（ビデオポッドキャスト）」、Figmaのデザインから動画を作る機能、絵コンテ（ストーリーボード）機能などが追加され、8月11日には不動産業界向けの「HeyGen for Real Estate」（物件紹介動画や市況レポート動画のテンプレート）も発表されました。

8月27日には、口コミサイトG2の2026年秋のレポートで「小規模事業者向けAI動画」部門の1位に選ばれています。

さらに2026年9月30日には、文章や画像から、せりふや効果音の入った短い動画を作る動画生成モデル「HeyGen Video」が公開されました（2026年11月5日時点では、HeyGenの画面からも、開発者向けのAPI（ほかのアプリから呼び出して使う仕組み）からも使えます）。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

10月9日には自社開発の音声モデル「HeyGen Voice」も発表されました。HeyGen Voiceは、HeyGenの画面からもAPIからも追加料金なしで使えます（発表文では、日本語への対応には触れられていません）。

Review **オススメ度** ★★★★☆

HeyGenは、AIを活用してテキストから高品質なアバター動画を生成する代表的なプラットフォームです。

2026年4月8日に公開されたAvatar Vモデルでは、わずか15秒のスマホ撮影動画を素材にして、**写真と区別がつかないレベルの10分動画を生成できる**ようになりました。

その後さらに改良が進み、**現在はトーキングヘッドで最大30分の連続動画まで生成できます**。長時間動画でアバターの顔が徐々に変わってしまう『識別ドリフト』問題もほぼ解消されており、175以上の言語に対応した精密な音声同期（リップシンク）が可能です。

個人的に便利だと感じたのは『Speech Cleanup』という機能で、**「えーと」「あのー」といった不要な言葉を自動で取り除き**、切り貼りしたジャンプカットの不自然さも目立たなくしてくれます。

また、アバターの見た目を毎回そろえて生成できる『Look Packs』も追加され、シリーズものの動画を作る人には助かる機能です。

さらにVeo 3.1のBロール、Seedance 2.0などの動画生成モデルも統合され、HeyGen 1つで本格的な動画コンテンツを完結できるようになっています。

加えてClaudeのMCPコネクタ（AIと外部ツールをつなぐ共通規格）に対応したので、Claudeと会話しながらHeyGenに動画を作らせる、といった使い方もできるようになりました。

7月に加わった「Video Podcast」は、2人のアバターに台本を渡すだけで対談風の動画が作れるので、社内向けの説明動画などで「1人で話し続けるのは単調」という場合に使えそうです。

日本語の音声品質も改善されつつあるので、**海外展開を視野に入れた多言語動画展開を検討されている方は試してみる価値があります**。

なお、**料金が2026年5月からクレジット制に変わりました**ので、以前のような「尺の範囲内なら作り放題」という契約ではなくなっている点は、契約前にご確認ください。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Synthesia

シンセジア

- **公式サイト**：https://www.synthesia.io/
- **料金プラン**：
  - 無料のBasicプランは、毎月「動画10分」と「500クレジット」まで使えます（透かし付き）。有料プランはStarter（月額19ドル、年払いなら月14ドル、毎月1,250クレジット）〜。上位のProプラン（以前のCreatorプラン）は月額89ドル（年払いなら月59ドル、毎月6,000クレジット）です。クレジットは動画・吹き替え・アンケートなどで共通に使え、動画は1分あたり約100クレジットが目安です（どのプランも毎月10分までは込み）。（2026年11月5日時点の公式料金ページの内容です。）

Synthesiaは、**エンタープライズ市場で圧倒的地位を築いており**、SOC 2 Type II、ISO 42001、ISO 27001、GDPR EU residencyなどの認証を取得した数少ないアバタープラットフォームです。

230以上のアバター、160言語以上のAI Dubbing（既存動画にも適用可能）、Veo 3.1のBロール統合など、企業のIT・法務部門が安心して導入できる体制が整っています。

さらに2026年7月22日には『Roleplay Sessions』という新機能が発表されました。これは動画を作るツールから一歩踏み出して、**AIアバターを相手に会話の練習ができる機能です**。

営業ピッチ、人事評価の面談、クレーム対応といった「気まずい会話」の相手をアバターが務め、こちらの話し方に応じて動的に反論もしてきます。

練習が終わると、あらかじめ決めた評価基準に沿ったフィードバックと点数がリアルタイムでもらえます。8月には、AIで作った動画であることを示す「Content Credentials（C2PA）」の自動付与（8月10日、EUやカリフォルニア州の規制に対応）、PowerPointのスピーカーノートから台本を自動で作る機能（8月18日）、最大10本の動画をまとめて多言語に吹き替える一括ダビング（8月21日）などが追加されました。

そして2026年10月1日には、Roleplay Sessionsを広げた「Sessions（セッションズ）」が発表され、会話の練習に加えて、アバターが相手に質問しながら声を集める

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

会話形式のアンケート「Survey」も使えるようになりました（今後もセッションの種類を増やしていく予定と案内されています）。

さらに2026年10月9日には、作りたい動画の説明や、PowerPoint・資料・YouTubeのリンクを渡すだけで、動く図や文字、アバター、ナレーション、BGM入りの動画（最長3分、横長・縦長）を作ってくれる**新しいツール「Syren（サイレン）」のベータ版が公開されました**。

無料のアカウントでも試せます（クレジット制で、最初の1本分のクレジットがもらえます。日本語への対応は書かれていません）。

その後、10月21日には、作る前に3つの雰囲気の案（Moodboards）を見比べて選べる機能と、SynthesiaのアバターをSyrenの動画に使える機能が、10月23日には、PowerPointの資料をSyrenの動画に作り直す機能が加わりました。

そして11月3日には、**ChatGPTの中でSynthesiaの動画を作れるプラグイン**が、Synthesiaの無料プランを含むすべてのプランで使えるようになりました。

作りたい動画の説明や資料を渡すと、チャットの中で動画を作って手直しできます。大規模なコーポレートトレーニング、コンプライアンス研修、内部コミュニケーション動画には依然として最良の選択肢でしょう。

Review **オススメ度** ★★★☆☆

実際に私もHeygenとSynthesiaの両方を課金してためしてみました。アバター動画のクオリティはどちらも高いですが、**やはり日本語の音声の性能がイマイチだったので、日本での使用はハードルが高いと感じました**。

英語圏向けであればより自然な動画を作りやすいはずですので、海外市場向けにアバター生成動画を検討されている方は試してみると良いでしょう。

Heygenよりも**Synthesiaのほうがより企業向けに特化したマーケティングを行なっている**ように感じましたので、企業としてアバター動画が生成できるツールを検討されている方は、Synthesiaが候補になるのではないでしょうか。

個人的に注目しているのは、2026年7月に追加された『Roleplay Sessions』です。たとえば新しく入った営業スタッフに、いきなり本番のお客様の前でトークさせるのではなく、AIアバターを相手に何度でも営業ピッチの練習をさせて、その場でフィードバックと点数を返す、という使い方ができます。

人数が少なくて**ロープレの相手役を用意できない中小企業ほど、この機能の恩恵は大きい**のではないでしょうか。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

なお、Roleplay Sessionsは、**無料プランを含むすべてのプランで無料版を試せるようになりました**。

社員に本格的に使わせる場合は、受講者1人あたり月額29ドル（年払いなら月25ドル）の席を、100人分まで直接購入できます（2026年10月30日時点の公式料金ページ）。

8月に加わった「AIで作った動画だという表示を自動で付ける」機能は、地味ですがこれからの時代には大事な機能だと感じます。

海外ではAI生成動画の表示義務が法律で決まり始めていますので、企業向けに特化しているSynthesiaらしい対応ですね。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Tavus

タヴァス

- **公式サイト**：https://www.tavus.io/
- **料金プラン**：
  - 無料プランでは、機能は限定的で（会話20分・生成5分まで）、本格的に使うためには**月額22ドル〜のStarterプラン（会話60分）**や月額59ドルのBuilderプラン（会話175分）などの有料プランを契約する必要があります。一般向けの「PALs by Tavus」アプリは無料（月15分）、Plus（月額20ドル）、Max（月額50ドル）です。

Tavusは、**AIアバターとリアルタイムで会話できる対話型の動画AIプラットフォームです**。2026年5月にはImage-to-Replicaという革命的機能が公開され、1枚の写真やイラスト、ブランドマスコットから、**会話できるAI人間を即座に生成できる**ようになりました。

NeRFs（Neural Radiance Fields）という3Dモデル構築技術を採用しており、深度・光・テクスチャを正確に再現します。

7月には、プログラミングなしで自分専用の会話AI「PAL（パル）」を作れる「PAL Maker」、8月13日にはそのPALを外部のサイトなどに配置できる「Deployments」、そして8月27日には会話の「間」を人間のように判断する新しい会話モデル「Sparrow-2」が正式版になりました。

Sparrow-2は、相手のあいづちと「話に割り込みたい」というサインを10ミリ秒単位で見分け、騒がしい場所でも自然に会話を続けられるとされています。

9月には、写真や動画から数分で使い始められる新しい顔のモデル「Phoenix-4.5」が標準になり、作ったPALがGoogle MeetやZoomに加えて、**Microsoft Teamsの会議にも参加できるようになりました**（9月12日）。

企業のカスタマーサポートやセールスアウトリーチを大規模に自動化したい場合の選択肢となります。

Review **オススメ度** ★★★☆☆

Tavusは日本語にも対応をしているので、実際にサンプルのAIアバターと会話をしてみたところ、**まるで人間と話しているかのような自然な対話が可能でした**。

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

ただ、日本語へのローカライズは完璧ではなく、たまに英語が出てくるなど、日本で使うためには課題もありそうです。

また、私がアップロードした音声をもとに日本語でAIに話してもらいましたが、日本語の会話とアバターのリップシンクが完璧ではなく、不自然さも目立ちました。

欧米では問題なく使えそうですが、**日本の企業が導入するにはハードルが高そうです**。また、以前は価格も高めで個人が気軽に使うというより、それなりの企業が導入することを想定しているAIツールだという印象を受けましたが、現在は月額22ドルからのStarterプランや、一般向けの「PALs」アプリも出てきましたので、以前よりは試しやすくなっています。

8月27日に正式版になった「Sparrow-2」のように、「AIがどのタイミングで話し始めるか」という会話の呼吸の部分を磨いているのは、電話対応などの用途を本気で狙っているからでしょう。

日本語での自然さが追いついてくれば、**コールセンターの代わりとして現実的な選択肢になるかもしれません**。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Arcads

アークアド

- **公式サイト**：https://www.arcads.ai/
- **料金プラン**：**有料プランのみ：月額110ドル（Starter）**、220ドル（Creator）、550ドル（Pro）の3つのプランのみ。
  無料プランがないのが残念ですね。（料金は公式サイトには掲載されておらず、アプリの中で表示されます。なお、2026年11月5日時点の公式サイトには「無料トライアルあり（Free trial available）」と書かれていますが、期間や条件は書かれていません。）

Arcadsは、あなたがアイデアやテキストを入力するだけで、**AIが感情豊かでリアルな動画広告を自動生成するサービスです**。

このツールの最大の魅力は、時間とコストを大幅に削減しながら、高品質な動画コンテンツを作れる点にあります。

編集可能なスクリプトと**1,000種類以上のAIアクターから選べる**ので、あなたのブランドイメージに合った広告を簡単に作成できます。

2026年11月5日時点では30以上の言語に対応しています。2026年には、複数の工程をつないで広告制作を自動化する「Workflows」や、無限に広がるキャンバス上で広告を作る「Create Workflow」も追加され、8月にはByteDanceの最新動画モデルSeedance 2.5を前面に押し出したキャンペーン（新規契約者は7日間Seedance 2.5が使い放題）も行われました。

Review **オススメ度** ★★☆☆☆

Arcadsは「実在する人間」を元にして生成した「AIアバター」を好きに使いながら、SNSで反応の良い動画広告を作ることができるサービスです。

無料プランがないので私も実際に試すことはできていないのですが、このような海外系のアバター生成ツールは**日本語の音声読み上げへの対応はイマイチであることがほとんど**ですので、あまり期待はできません。

また、素材となるAIアバターも欧米人が中心でしょうから、日本では使いづらいかもしれませんね。逆にそれを利用して、例えば、アメリカ人のアバターにカタコトの日本語を喋らせて、「今これがアメリカで話題です！」という謳い文句の動画広告を作ってみるのも活用方法の1つかもしれません。

（なお、以前は「35の言語に対応、日本語にも対応」と案内されていましたが、2026年11月5日時点の公式サイトでは「30以上の言語」という表記で、日本語の明記は確認できませんでしたので、**日本語で使いたい方は契約前に確認してみてください**。）

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



D-ID

ディーアイディー

- **公式サイト**：https://www.d-id.com/
- **料金プラン**：
  - 無料プラン 無料でも動画は生成可能ですが、本格的に使うのであれば、**月額5.9ドル（年払いなら4.7ドル程度）**からの有料プランに課金する必要があります。

D-IDのアバター生成AIは、静止画像からリアルなデジタルアバターを作成するためのツールです。このプラットフォームは、AIを活用してアバターの顔の表情や口の動きをアニメーション化し、提供されたオーディオやテキストと同期させることができます。

Review **オススメ度** ★☆☆☆☆

D-IDを無料プランで実際に使ってみましたが、**正直に言うとかなり微妙でしたね**…。音声に合わせて写真を動かすリップシンク動画も私の写真をアップロードして試してみましたが、口だけ不自然に動いているような不気味な動画ができてしまいました。

また、日本語への対応も限られているようで、少なくとも**無料アカウントでは日本語のナレーションを選択できませんでした**。

また、私の動画をサンプルとしてカスタムアバター動画も作ってみたのですが、競合となる他のツールに比べると不自然さが目立つ動画になってしまったので、性能は低いように感じました。

サンプル事例を見る限り、欧米の言語であればより自然に感じましたが、**日本では使えないと思われます**。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

結論

どれがオススメ？

まずAIアバター生成ツールとして、比較されるのがHeygenとSynthesiaです。海外のYouTuberさんが公開している比較動画も参考のために見てみましたが、「**よりアバター動画のクオリティが高いのはSynthesia**」だという意見が見られました。

ただ、Synthesiaは有料プランでも1ヶ月間で生成できる動画の尺に制限があるので、大量の動画を作るのには向いていません。

その点、Heygenのほうは以前は「1本あたりの尺の制限内なら無制限に動画を作れる」というメリットがあったのですが、**2026年5月からはHeygenもクレジット制に変わりました**ので、「作り放題」という違いはなくなってしまいました。

どちらもクレジット（または分数）の範囲内で使う形になりますので、制作するAIアバター動画の本数を重要視するのであれば、それぞれのプランで1か月にどれくらいの尺を作れるのかを比べて選ぶと良いでしょう。

（または新しく出てきたAkoolを試しても良いでしょう。）

ただ、どれも英語圏のサービスですので、日本語の音声生成のクオリティが足をひっぱりがちでもあるため、**AIアバター動画自体にあまり過度な期待はしないほうがいいかもしれません**。

または、次の「音声生成AI」のチャプターでご紹介するツールの中には、日本製のAIツールも存在しますので、「まず音声データを日本製の音声読み上げツールで生成する」→「その音声をHeyGenなどのアバター生成ツールにアップロードし、静止画と組み合わせてAIアバター動画を作る」というような**複数のツールを組み合わせるようなワークフローのほうがクオリティが高くなる**可能性もありますので、ご興味がある方はご自身で試してみてください。

顔出しをして発信しているような属人性の高い演者の場合は、AIアバターを使うことが議論の的になりがちでしょうが、カスタマーサポート動画であったり、多言語への音声吹き替えなどの機能はAIを使うことのメリットが多い分野だと思いますので、適切に使い分けていくのが良いでしょう。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Chapter 11

音声生成
(音声読み上げ)



≡ 目次に戻る

Chapter 11　音声生成AI

属人性の低い仕事はAI音声に任せよう！

「AIが生成した音声」というと、かつては「あ、これは機械が話している音声だな」ということが誰もが1発でわかるようなクオリティだったと思います。

それが今では技術の進歩によって、「聞いてみても、**AIなのか人間なのか判別がつかない**…」と判断に迷うクオリティの音声を簡単に生成できるようになりました。

このような技術はやはり英語圏の企業が中心となって開発することが多いので、特に英語のAI生成音声であれば、私が聞いても「まさに人間が話しているような音声だな」と驚くぐらいのクオリティの音声をAIが生成できるようになっていると実感します。

以前は、海外製のAIモデルも日本語の読み上げ性能はイマイチでしたが、2026年現在は日本語の読み上げ性能も上がっているので、**OpenAIやGoogleなどの大手の読み上げモデルを試してみると良いでしょう**。

音声生成とセットで語られることも多い「動画生成」の場合は生成のためにより多くのリソースがかかりがちですが、音声の生成であれば、動画に比べてコストは安い傾向があると感じます。

ですので、今後は企業でもコールセンターなどの**属人性の低い業務はAIにどんどん置き換わっていくと予想します**。

もしあなたも属人性の低い業務や発信をしている場合は、AI音声読み上げツールを活用して、少ないコストと時間で成果を出せるように新しいチャレンジをしてみてはいかがでしょうか？

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

GPT-Live

ジーピーティー・ライブ

- **公式サイト**：https://chatgpt.com/
- **料金プラン**：ChatGPTのPlus・Pro・Businessプランでは「GPT-Live-1.1」が、無料プランとGoプランでは軽量版の「GPT-Live-1.1 Quip（クイップ）」が使えます（2026年11月5日時点）。
  GPT-Live単体の追加料金はありません。

GPT-Liveは、OpenAIが2026年7月8日にリリースしたリアルタイム音声モデルです。**最大の特徴は「全二重（ぜんにじゅう）」であることです**。

全二重とは、電話のように人とAIが同時に話せるという意味で、これまでの音声AIのように「あなたが話し終わるのを待ってからAIが答える」のではなく、話している途中で割り込んだり、AIの返事に相づちを打ったりできます。

リアルタイム翻訳にも対応しているので、相手の言葉を聞きながら同時に訳してもらう、といった使い方もできます。

2026年11月5日時点では、Plus・Pro・Businessプランでは「GPT-Live-1.1」、無料プランとGoプランでは軽量版の「GPT-Live-1.1 Quip」が使われます。

関連する動きとして、2026年7月22日には企業向けのリアルタイム音声エージェント基盤「OpenAI Presence」が発表され、7月23日にはOpenAIのコーディングツールCodexのChatGPT Voice連携にもGPT-Liveが使われるようになりました。

さらに7月28日には、音声を文字にする「GPT-Live-Transcribe」「GPT-Transcribe」もリリースされ、7月31日にはGPT-Liveが作った音声に「AIが作った音声である」ことを示す電子透かしが入るようになっています。

8月7日には、音声で会話しながらファイルをアップロードしたり、プロジェクトの資料を参照したりできるようになりました。

そして2026年9月9日には、音声モードの中で使うAIモデルとして**「GPT-5.6」と最新の「GPT-6 Astra」を選べるようになり**、文字のチャットと同じ設定画面から切り替えられるようになりました。

つまり、**賢いモデルに声で相談する、ということが普通にできるようになった**ということです。同じ日に、開発者向けのGPT-Liveの料金も1分あたり0.05ドル（法人向

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

けの場合）に見直されています。

そして2026年9月10日には、開発者向けの「GPT-Live-1 API」が正式に公開されました。

話をさえぎられたときの受け答えが自然になり、**声も12種類が新しく追加され、電話回線につないで自動応答をさせることもできる**ようになっています。

「電話で受け答えするAI」を自社で作りたい会社にとっては、一気に現実的になった発表だと言えるでしょう。

さらに2026年9月23日には、**音声モードの中でメールやカレンダー、Slackなどのプラグインを使えるようになり**、作業を任せる「ChatGPT Work」にも声で頼めるようになりました。

音声モードで使えるモデルにも、Astraに加えてGPT-6 SolとGPT-6 Lunaが加わっています。

そして2026年10月15日には、**音声モデルそのものが「GPT-Live-1.1」に新しくなりました**。

日本語を含む7つの言語で13種類の新しい声が加わり、なまり（アクセント）もより自然になったほか、調べものの途中で同じ「確認しています」という言葉をくり返すことも減っています（開発者向けのAPIは、2026年11月5日時点ではまだGPT-Live-1のままです）。

Review **オススメ度** ★★★★★

GPT-Liveを使って一番驚いたのは、**AIの話に途中で割り込んでも会話が壊れないことです**。これまでの音声AIは、こちらが話し終わるのをじっと待ってから返してくる「トランシーバー」のようなやり取りでしたが、GPT-Liveは本当に電話で人と話しているのに近い感覚になります。

この章でご紹介しているElevenLabsやCoeFontは「原稿を読ませてナレーション音声のファイルを作る」ためのツールですが、GPT-Liveは方向性がまったく違い、**「AIと会話をする」ためのモデルだという点はぜひ理解しておいてください**。

ですので、YouTube動画のナレーションを作りたいという目的であれば、**GPT-Liveではなく従来どおりCoeFontや音読さんを使うべきでしょう**。

逆に、英語の会話練習の相手をしてもらったり、リアルタイム翻訳を挟みながら海外の方と話したりという用途では、かなり強力だと感じます。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

8月7日から音声での会話中に資料を渡せるようになったので、「この資料を見ながら話し合いたい」という使い方もできるようになりました。

無料プランでも軽量版のGPT-Live-1.1 Quipが使えるので、まずは無料で会話の自然さを確かめられるのはありがたい点です。

注意点としては、リアルタイムで動くぶん通信環境の影響を受けやすく、**電波の悪い場所では会話が途切れやすい**という印象があります。

また、AIが同時に話せるということは、こちらが少し声を出しただけで反応してしまうこともあるので、静かな場所で試したほうが本来の性能が分かるでしょう。

Geminiの音声機能（8月26日にはGemini Liveから声でエージェント機能を呼び出せるようになりました）やClaudeの音声モードも同時期に進化していますので、あなたが普段使っているチャットAIの音声機能と比べてみてはいかがでしょう。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



OpenAI.fm

オープンAIエフエム

- **公式サイト**：https://www.openai.fm/
- **料金プラン**：**上記のウェブサイト上で無料で使用可能です**。API経由で音声読み上げ機能を使用する場合は使用料に応じて課金されます。

OpenAI.fmは、OpenAIが2025年3月20日にリリースした新しいオーディオモデルを体験できるインタラクティブなプラットフォームです。

このプラットフォームでは、OpenAIのテキスト読み上げ（TTS）モデルと音声認識モデルを無料で試すことができます。

（開発者向けに公開されているサイトですが**誰でも気軽に無料で使うことができます**。2026年11月5日時点でも引き続き提供されています。）ただし、2026年10月1日にOpenAIは、このサイトの土台になっている読み上げモデル「gpt-4o-mini-tts」などを、**2027年1月6日で開発者向けのAPIから外すと発表しました**（代わりのモデルは「gpt-realtime-2.1-mini」です）。

OpenAI.fmのサイト自体がその後どうなるかは、2026年11月5日時点では発表されていません。

Review **オススメ度** ★★★★★

OpenAIが新しく公開した音声読み上げモデルをOpenAI.fmのサイトで実際に試してみましたが、**日本語の音声読み上げの性能も高くて驚きました**。

正直、ElevenLabsなどの海外製の音声読み上げ（TTS）モデルは日本語の音声を読み上げさせると、漢字を読み間違えたり、アクセントやイントネーションがイマイチだったりと、とても使えるものではありませんでした。

それに比べると、OpenAIの新しい音声モデルはかなり優れていると感じますので、同業他社は相当脅威に感じるのではないでしょうか？

現在はChatGPT本体でも「GPT-Live」として会話用の音声機能が使えるようになりましたが、**原稿を読み上げて音声ファイルにするなら、このOpenAI.fmが手軽です**。

また、様々な会社が新しく音声読み上げツールを開発する際に、このOpenAIの音声モデルを採用する可能性は高いので、AIを使った音声読み上げの性能が底上げされるのは素晴らしいことですね。

OpenAI.fmで生成した音声はダウンロードも可能ですので、あなたもAIに話してもらいたい音声を生成してみてください。

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Geminiの音声読み上げモデル

- **公式サイト**：https://aistudio.google.com/generate-speech
- **料金プラン**：**Google AI Studioのサイト上では無料で使用可能です**。

Google AI Studioの最新音声読み上げ機能は、あなたが入力した文章を人間のような自然な声で読み上げてくれる画期的なツールです。

従来の機械的な音声とは全く違い、2人の話者が実際に会話しているような自然なやり取りを作り出すことができます。

2026年4月に公開された読み上げモデル「Gemini 3.1 Flash TTS」では、約100の言語から選択でき、**日本語も驚くほど自然な発音で生成されます**。

感情や話し方のスタイルも細かく指定できるため、喜んでいる声や悲しんでいる声など、場面に合わせた表現が可能です。

ブラウザから無料で使えるため、特別な設備や技術知識は必要ありません。**約5分程度の音声まで作成でき**、ポッドキャストやオーディオブック、研修資料など様々な用途で活用できます。

従来は高額な録音スタジオや声優が必要だった音声コンテンツ制作が、あなたの手元で簡単に実現できるようになりました。

そして2026年9月23日には、新しい読み上げモデル「Gemini 3.8 Flash TTS」と、より軽くて速い「Gemini 3.8 Flash-Lite TTS」が、Google AI StudioとGemini APIで公開されました。

「落ち着いた声の40代の男性ナレーター」のように**文章で説明するだけで新しい声を作れる機能**や、本人の同意を録音したうえで、**30秒ほどの音声からその人の声を再現する機能**が加わり、2,000種類以上（Googleの発表による数です）の用意された声から選ぶこともできます。

100以上の言語に対応し、Googleによると、**日本語でも声の品質を比べるランキングで上位に入っている**とのことです。

作った音声には、AIが作ったことを示す目に見えない透かし（SynthID）が入ります。2026年11月4日には、用意された声や自分で作った声を文章の指示で変えて、

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

新しい声として保存できる「ボイスリミックス」も、Google AI StudioとGemini APIで使えるようになりました。

Review **オススメ度** ★★★★★

Google AI StudioのGemini Speech Generation機能では、あなたが入力した日本語の文章を自然な音声で読み上げてくれます。

1人での読み上げはもちろん、**2人の話者による対談形式のポッドキャスト音声も作成できます**。話し方のスタイルも「ハキハキと情熱を持って話す」など日本語で細かく指定でき、その指示がしっかり反映されます。

従来のElevenLabsと比べても音質が高く、**息継ぎや抑揚も自然で人間の声とほとんど区別がつかないレベルです**。

最大の魅力は無料で利用できることで、ポッドキャスト制作やオーディオブック作成、動画のナレーション音声として活用できます。

あなたの文章コンテンツを音声化して補助資料として提供したり、AIアバターと組み合わせて動画を作成することも可能ですので、**非常にお勧めできるものです**。

（なお、8月26日には読み上げとは逆の「文字起こし」専用のモデルGemini 3.5 Transcribeも正式版になりました。こちらはChapter 14でご紹介します。）また、2026年9月15日には、読み上げではなく**「その場で会話する」ための音声モデル「Gemini 3.8 Live」が公開されました**。

97の言語を自動で聞き分け、話しながら裏で調べ物などの作業も進めてくれます。GeminiアプリやGoogle AI Studio、Google Workspaceなどで順に使えるようになっていますので、「原稿を読み上げさせる」のではなく「AIと会話しながら進めたい」という方は、こちらも試してみてください。

なお、9月23日に出たGemini 3.8 Flash TTSでは、声そのものを文章で注文して作れるようになりました。

「この動画にはこういう声のナレーターがほしい」というイメージがある方は、ぜひ試してみてください。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

CoeFont

コエフォント

- **公式サイト**：https://coefont.cloud/
- **料金プラン**：
  - 無料プラン: 基本的な機能を無料で利用できますが、生成された音声の商用利用は不可となっています。
  - 有料プラン: 商用利用が可能なプランが提供されており、スタンダードプラン（登録から6か月間は特別価格の月額3,300円、その後は月額4,400円。どちらも税込）と、企業向けの月額55,000円（税込）のPlusプランの2種類があります。

CoeFontは、AIを活用して自分の声やプロの声優の声をもとに、テキストから音声を生成するプラットフォームです。

50文・5分間の音声を収録するだけで、自分の声のAI音声を作成できます。また、アナウンサーや声優の音声を使ったナレーション生成も可能で、多彩な音声スタイルに対応しています。

さらに、同社の「CoeFont通訳」は2026年7月3日にドキュメント翻訳へ対応し、PDF・Word・PowerPoint・Excelのファイルをそのまま翻訳できるようになりました。

8月3日には、15言語のリアルタイム通訳と話者の区別ができるAI議事録サービス「CoeFont MeetingBank」（無料プランあり）も発表され、8月17日には広島空港でCoeFont通訳の実証実験も始まっています。

Review **オススメ度** ★★★★★

CoeFontはやはり日本製の音声AI読み上げツールなだけあり、**日本語の音声読み上げのクオリティは高いです**。

また、有料プランにアップグレードすることで、**ひろゆき氏などの有名人のAI音声ナレーター機能にアクセスすることができる**ようなので、有名人の音声を使った音声を生成したい場合は、有力な選択肢となるでしょう。

また、自分が生成した独自の音声ナレーターをプラットフォーム上で公開することで、そのナレーターを他のユーザーが使った場合に収益がシェアされる魅力的な機

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

能もあるようです。

2026年7月3日には「CoeFont通訳」がPDF・Word・PowerPoint・Excelのドキュメント翻訳にも対応しました。

海外の取引先から届いた資料や、自社の提案書をまるごと翻訳するといった使い方ができるので、音声だけでなく「言葉の壁をなくすツール」として使える幅が広がっています。

8月にはAI議事録の「MeetingBank」まで出てきて、「読み上げ」「通訳」「議事録」と、声にまつわる仕事を1社でまとめて引き受ける方向に進んでいるのが面白いですね。

興味がある方は**一度無料で使ってみて性能を確かめてみることを推奨いたします**。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

Ondoku

音読さん

- **公式サイト**：https://ondoku3.com/ja/
- **料金プラン**：
  - 無料プラン:
    - 非会員: 月に1,000文字まで無料で利用可能。
    - 無料会員: 月に5,000文字まで無料で利用可能。
  - 有料プラン:
    - ベーシックプラン: **月額1,078円（税込）で、月に200,000文字まで利用可能**。
    - バリュープラン: 月額2,178円（税込）で、月に450,000文字まで利用可能。
    - プレミアムプラン: 月額3,278円（税込）で、月に1,000,000文字まで利用可能。

音読さんは、インストール不要でブラウザ上から利用できる音声読み上げソフトです。テキストを入力するだけで、AIが自然な音声を生成し、MP3形式でダウンロードできます。

日本語をはじめ、英語、中国語、韓国語など**約50の言語に対応しており、商用利用も可能です**。現在は、感情や話し方のスタイルを指定できる新しいAI音声（25種類）を「音読さん Beta」として試験公開しており、無料でも1回400文字まで試すことができます。

Review **オススメ度** ★★★★★

音読さんも日本製の音声生成AIツールですので、**日本語のクオリティはかなり高いです**。無料でもある程度使えますし、有料プランも月額1,078円からと比較的安いので、AIで音声を生成して動画などを効率的に作りたい場合は有力な選択肢となるでしょう。

サイトからアカウント登録なしでも使うことができますので一度試してみると良いでしょう。試験公開中の新しいAI音声は、「明るく元気に」「落ち着いて」といった話し方の指定ができるので、正式版になればさらに使いやすくなりそうです。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

ElevenLabs

イレブンラボ

- **公式サイト**：https://elevenlabs.io/ja
- **料金プラン**：
  - Freeプラン: 月額無料で、10,000クレジット（文字数の目安）までの音声生成が可能です。標準的な音声モデルを利用できますが、商用利用は不可となっています。
  - Starterプラン: 月額6ドルで、30,000クレジットまでの音声生成が可能です。カスタム音声モデルを1つ作成でき、商用利用も許可されています。
  - Creatorプラン: 月額22ドルで、121,000クレジットまでの音声生成が可能です。プロ品質の音声クローンが作成でき、優先サポートが提供されます。

ElevenLabsは、AIを活用した高品質な音声生成プラットフォームで、**テキストから自然で感情豊かな音声を生成します**。

ユーザーはテキストを入力するだけで、Eleven v3モデルなら70以上の言語でリアルな音声を作成できます。

また、カスタムボイスの作成や音声クローン機能も提供しており、個別のニーズに応じた音声コンテンツの制作が可能です。

そして2026年9月10日には、世界最大のレコード会社である**ユニバーサル ミュージック グループ（UMG）と提携し、許諾を取った楽曲を使って音楽を作れる新しいサービスを一緒に開発すると発表されました**。

ファンがUMGの楽曲をもとにリミックスやマッシュアップを作ったり、新しい解釈の曲を作ったりできるようにするもので、**参加するアーティストには正当な対価が支払われる仕組み**だと説明されています。

ElevenLabsにとっては初めての大手レコード会社との正式な許諾契約で、公開日はまだ発表されていません。

そして2026年9月28日には、**新しい音声モデル「Eleven v4」**と、反応の速い「Eleven v4 Turbo」が公開されました。

対応言語が70から90以上に増え、ある言語で録音した声に別の言語を話させても、**その言語の人らしい自然なアクセントで話せるようになった**と公式に説明されています（日本語について特に触れた説明はありません）。

10秒ほどの音声があれば声を再現できるようになり、文章の中に目印を入れるだけで、感情や間の取り方、効果音まで指示できます。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

公式ブログでは、無料のアカウントからでもv4とv4 Turboを試せると案内されています（無料プランでは商用利用できない点は変わりません）。

さらに2026年10月20日には、声で会話するAI（音声エージェント）向けに、相手の声を聞いてそのまま声で返事をする**新しいモデル「Eleven Realtime」が公開されました**。

費用をおさえた「v1 Mini」と、答える前に考えてから難しい用件もこなす「v1 Max」の2種類で、90以上の言語に対応し、ElevenLabsの音声エージェント機能「ElevenAgents」から使えます（日本語について特に触れた説明はありません）。

2026年11月2日には、**文章から効果音を作る新しいモデル「SFX v3」も公開され**、Sound EffectsやStudioなどの標準のモデルになりました。

いくつもの指示を含む頼み方に、より忠実に従えるようになっています。

Review **オススメ度** ★★★★☆

2025年6月のEleven v3で70以上の言語（日本語含む）への対応が大きく改善され、テキストに[excited]（興奮）、[whispers]（ささやき）、[laughs]（笑い）などの**『Audio Tags』を埋め込むことで感情やトーンを細かく制御できる**ようになりました。

さらに2026年には、音楽生成の『Eleven Music』、音声エージェントの『ElevenAgents』、リアルタイム文字起こしの『Scribe』など、音声プラットフォーム全体を急速に拡張しています。

2026年7月には電話対応の音声エージェント向けの機能が強化され、通話が終わったあとにその会話が良い雰囲気だったかどうかをエージェントごとに採点する「センチメント分析」や、文字起こしをアプリの言語へ自動で翻訳する機能、Twilio経由でのSMS（ショートメッセージ）の振り分け設定などが追加されました。

8月は新しい読み上げモデルの発表はなく、90以上の言語に対応した吹き替えAPIの第2版（8月10日）、動画や画像も含めて生成できる「ElevenCreative」（8月17日）、ClaudeなどのAIから直接ElevenLabsを呼び出せるMCP対応（8月22日）など、開発者向けの足回りの強化が中心でした。

音声で顧客対応を自動化したい方にとっては、使いどころが広がっています。日本語の音声クオリティはv3で大きく改善されました。

9月28日に出たv4は、公式の説明では日本語について特に触れられていませんが、言語ごとの話し方のリズムやアクセントがより自然になったとされていますので、ぜひ最新版を試してみると良いでしょう。

（なお、Starterプランの料金は以前の5ドルから6ドルに上がっています。）

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

MiniMax Audio

ミニマックス・オーディオ

※旧Hailuo AI Audio

- **公式サイト**：https://www.minimax.io/audio
- **料金プラン**：
  - 無料プラン：毎日一定のクレジット（約5分間の音声を生成可能）が付与されます
  - 有料プラン：**月額5ドルのスタータープランで1ヶ月あたり約2時間**、月額30ドルのスタンダードプランで1ヶ月で約20時間の音声を生成可能です。

中国製のAI生成プラットフォームであるMiniMax（Hailuo）はもともと動画生成AIとして注目を浴びましたが、ChatGPTのようなチャットボット機能に加えて、音声も生成できるオーディオ機能も追加されました。

以前は「Hailuo AI Audio」という名前でしたが、**現在は「MiniMax Audio」という名称になり**、URLもminimax.io/audioに変わっています（旧URLからは自動的に転送されます）。

現在の読み上げモデルは2026年1月に公開された「Speech 2.8」で、「えーと」のような自然な間の表現や、**10秒の音声からの声のクローン**、中国語と日本語をまたいだ読み上げの改善などが行われています。

今後もChatGPTなどのアメリカ製のAIプラットフォームに対抗して、総合的なAIツールとして進化していくことが予想されます。

Review **オススメ度** ★★★★☆

動画生成AIで有名なMiniMax社のHailuoAIが音声生成機能をリリースしたということで実際に私も使ってみました。

中国製ということで、英語圏の読み上げツールよりも**日本語にローカライズした機能を搭載している**と感じました。

特に最初から用意されているサンプルのAIナレーター音声では、アニメ調のAIナレーターが多く、日本のユーザーにも受け入れられるよう工夫をしていると感じました。

日本語の音声生成も完璧ではありませんが、**英語圏の音声生成AIに比べるとクオリティは高く使いやすい印象です**。

無料でもある程度の音声は生成することができますので、**まずは無料で試してみるとよいでしょう**。名前が「MiniMax Audio」に変わっていますので、以前のHailuoという名前で探している方はご注意ください。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Speechify

スピーチファイ

- **公式サイト**：https://speechify.com/
- **料金プラン**：
  - 無料プラン： 基本的な音声読み上げ機能を無料で利用できます。
  - 有料プラン：**Premiumプランは月額29ドル**で、年間払いだと6割引になります。また、ElevenLabsと同じような機能を持つSpeechify Studioという機能は別料金となっており、そちらは年額100ドル（Starter）または300ドル（Creator）の使用料金がかかります。

Speechifyは、テキストを高品質な音声に変換するAIツールで、記事やPDF、ウェブページなど、**さまざまなテキストコンテンツを音声で聴くことができます**。

複数の言語と音声スタイルを選択でき、ユーザーのニーズに応じたカスタマイズが可能です。モバイルアプリとデスクトップ版の両方が提供されており、さまざまなデバイスで利用できます。

2026年8月には、自社の読み上げモデル「SIMBA 3.2」が、AIの性能を比較する2つのランキング（Artificial AnalysisとVoice Arena）で1位になったと発表しています（ただし英語が中心で、他の言語への対応はこれからとのことです）。

Review **オススメ度** ★★★☆☆

Speechifyは失読症の方など文章を読むことに障害を抱えている方向けに音声読み上げ機能を提供することで、誰でも文章の情報にアクセスしやすくすることを理念として掲げているプラットフォームです。

やはり海外のツールですので、**日本語の音声生成には難あり**ですので、英語の書籍を音声で読み上げてもらうなど、英語学習の一環として音声生成を使いたい方向けのツールとなっています。

また、ご自身のコンテンツ生成の目的で音声を生成されたい場合は別料金のSpeechify Studioという機能もあるので、そちらを試してみると良いでしょう。

個人的に試した範囲では**ElevenLabsよりも日本語音声のクオリティは高いと感じました**。8月に「英語の読み上げでは世界1位」という発表もありましたので、**英語の音声を作りたい方にとっては、いよいよ有力な選択肢になってきた**と言えるでしょう。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

Artlist.ioのボイスオーバー機能

- **公式サイト**：https://artlist.io/
- **料金プラン**：
  - AI Starterプラン: 月額11.99ドル（年間払い。月払いだと19.99ドル）の料金でAI音声読み上げ（約3時間分のクレジット）などのAI機能を使うことが可能になります。上位にAI Core（月額23.99ドル）、AI Creator（月額41.67ドル）があります。
  - Artlist Maxプラン: Artlistが提供しているすべての音楽、効果音、映像素材、そしてAI機能をまとめて使える全部入りプランです。

Artlist.ioは、音楽や効果音、ストック動画のライブラリを提供するプラットフォームで、AIを活用したボイスオーバー機能も備えています。

ユーザーはテキストを入力することで、プロフェッショナルなナレーション音声を生成し、動画やプレゼンテーションに組み込むことができます。

2026年8月には、動画生成モデルSeedance 2.5の搭載（8月2日）や、Adobe Premiereの中からArtlistのAI機能を直接使えるプラグイン（8月23日）も追加されています。

Review **オススメ度** ★★☆☆☆

Artlistはもともとロイヤリティフリーの楽曲を提供しているサブスクリプション型のサービスでした。

そこに近年はストック動画のダウンロード機能やAIにおけるナレーション音声の生成機能など時代のトレンドに合わせて様々な機能を提供するようにアップグレードしています。

AI音声読み上げ機能も最初は日本語に対応しておらず、後から日本語などのアジア圏の言語にも対応したので使ってみましたが、日本語のクオリティは気になる点も多いので、**あえて積極的にお勧めするレベルではない**、というのが正直な感想です。

音楽やストック画像のダウンロードのために**Artlist Maxプランを契約されている方であれば試しに使ってみても良いのでは？**

という印象です。（以前あった「AI VoiceOver」という読み上げ専用のプランは、現在は「AI Starter」というAI機能全般のプランに再編されています。）

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

結論

どれがオススメ？

各ツールの紹介文の中でもお伝えしましたが、音声生成AIツールを日本で使う場合は、**日本製のAIツールを使う方が確実に日本語の音声読み上げのクオリティは高くなる**傾向があります。

CoeFontや音読さん、それ以外にも日本製の音声読み上げツールは多数存在すると思いますので、ぜひいろいろ試しながら使ってみてください。

ElevenLabsなどの海外の代表的なツールは日本語に特化していないため、どうしても英語圏の言語に比べて、漢字の読み間違いやアクセントが不自然なため、**残念ながら使えるレベルではないと感じました**。

（追記：ElevenLabsはV3でかなり日本語の読み上げ性能が改善され、2026年9月28日にはさらに新しい「v4」も出ていますので、今後のさらなるローカライズに期待したいですね。）

ただ、中国製のMiniMax Audio（旧Hailuo AI Audio）の音声生成機能は、海外製のサービスにしては日本語の音声読み上げのクオリティはかなり高いと感じましたので、技術の進化によりその格差は縮まっていくのかもしれませんね。

追記：OpenAIやGoogle Geminiの音声読み上げモデルの性能も非常に高いので、とりあえず無料で使いたい場合は、**Google AI Studioで音声を生成するのがお勧めです**。

（しかも2人までの対談音声も生成できるのがGoogleの音声読み上げの強みです。）

それで満足できない部分があれば、その他の日本製の音声読み上げAIツールを使って音声を生成してみることをお勧めします。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Chapter 12

音楽生成（楽曲生成）AI



Chapter 12　音楽生成AI

プロレベルの楽曲制作が瞬時に可能に

これを読んでいる方の中には、過去にギターやキーボードなどの楽器を手にしながらコード（和音）を覚えたり、コード進行などの音楽理論を勉強したり、パソコンとDTM（デスクトップミュージック）のソフトやMIDIキーボードとオーディオI/Oなどの機材を揃えたりして、「自分のオリジナル曲を作る！」と思い立った経験がおありの方も多いのではないでしょうか？（私もそうです。）

そのように「音楽を作る」というクリエイティブなスキルをマスターしたいという欲求は多くの人にあるものだと思いますが、これからは「**人間の代わりにAIが曲を作って歌詞を考えて歌ってくれる**」という時代になりました。

もちろん、素晴らしい曲を作って演奏してくれる人間のミュージシャンの需要がなくなることはありませんが、音楽知識がゼロでも「こんな曲を作りたいな」と思ったら**AIが私たちの代わりに良い感じの曲を作ってくれる時代が来てしまったのです**。

例えば、個人や中小企業では会社のテーマソングやプロモーションのイメージソングなどをプロのミュージシャンに依頼する予算はないケースがほとんどでしょう。

しかし、音楽生成AIであれば、**月額10ドル程度のコストでAIが作曲をしてくれて商用利用も可能**ですので、スピードやコストを最優先するのであれば**人間に作曲を頼む理由はありません**。

または、YouTubeやSNSなどで動画配信をする際も、ロイヤリティフリーの楽曲ダウンロードサイトにお金を支払って気に入る曲を探さなくても、「こんな曲が欲しい！」という依頼をAIに伝えて楽曲を作ってもらえば、ネット上の発信活動に使う時間を短縮することも可能です。

そのための代表的な音楽生成AIツールをご紹介しますので、「仕事でオリジナル楽曲が必要だ！」という方はもちろん、「自分で曲を作ってみたいけど時間がない」という方もぜひお気軽にAIに曲を作ってもらう体験をしてみてください！

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Suno

スーノ

- **公式サイト**：https://suno.com/
- **料金プラン**：
  - 無料プラン：基本的な楽曲生成機能を無料で利用可能です（1日50クレジット）。ただし2026年9月3日から、無料プランでダウンロードできる楽曲は「一生で7曲まで・個人利用のみ」という制限が実際に始まりました。
  - 有料プラン：**月額10ドル（年払いなら8ドル）のProプラン**と月額30ドル（年払いなら24ドル）のPremierプランがあり、最新モデルへの優先アクセス、使用できるクレジット数の増加、生成した楽曲の商用利用権利などが付与されます。9月3日からはダウンロードの回数にも上限（Proは月20曲、Premierは月60曲。Suno Studioからの書き出しは無制限）が設けられました。この上限は、9月3日より前に作った曲をこれからダウンロードする場合にも適用されます。

Sunoは、AIを活用して**テキストから楽曲を生成する音楽生成AIツールです**。ユーザーは歌詞やプロンプトを入力することで、AIが完全な楽曲を作成します。

2026年7月には歌詞エディタが全面的に作り直され、自分の作風を保存してAIに反映させる『Lyricist』や、気になる部分を選んで「ここをもっと面白くして」と日本語で指示できる部分編集、韻や言い換えの候補を出してくれる『Variations & References』が使えるようになりました。

8月には、**自分の声でAIに歌わせる「Voices」機能**がスマホアプリと無料プランにも広がり（8月7日）、Premierプラン向けの音楽制作ソフト「Suno Studio」がMIDIの編集やシンセサイザー、エフェクトなどを備えた「Studio 2.0」に刷新されました（8月13日）。

また、8月12日には大手音楽会社のBMGと、音楽業界と一緒に作る新しいSunoモデルの開発に向けた提携も発表しています。

一方で、8月10日にはダウンロードに関する規約の改定が発表され、無料でも使うことはできますが、「作った曲を手元に保存する」ことについてはプランごとの上限が設けられることになりました。

なお、Sunoは2026年9月22日に、最新のv6モデルの学習に、**利用者が作った曲そのものも使っていたことを初めて認めました**。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Sunoの利用規約は、**あなたが作った曲をAIの改良に使うことを期限なく許す内容**になっています。そして2026年10月1日には、入力した文章をAIの声で読み上げて、**オリジナルのBGMを付けた1本の音声にしてくれる「Speech（スピーチ）」**のベータ版が、すべての利用者に順に公開されました。

詩や自分で書いた文章を入れて、声の雰囲気と音楽のスタイルを言葉で指定するだけで作れます（対応する言語や商用利用の扱いは、まだ発表されていません）。

10月15日には、ProとPremierのプランで、チームで曲のライブラリを共有できる「ワークスペース」機能も加わりました。

さらに2026年10月28日には、ClaudeやChatGPTなどのAIとSunoをつなぐ**「Suno MCP」（MCPは、AIと外部のツールをつなぐ共通の仕組みです）のベータ版が発表されました**。

チャットの画面から離れずに、曲を作ったりリミックスしたりできるもので、すべてのプランが対象です。作った曲には、ふだんどおりクレジットを使います（2026年11月5日時点では、使うには先行利用の申し込みが必要です）。

10月29日には、Suno Studioの中に、言葉で頼むとトラック名の整理や音量の調整、エフェクトの追加などを手伝ってくれるアシスタント「Chat」が加わりました（Studioが使えるPremierプラン向けです）。

11月4日には、ProとPremierのプランで、**MIDIファイル（音の高さと長さを記録したファイル）から曲を作り始められるようになりました**（今のところ、Simple Createとv6-wildモデルで使えます）。

Review **オススメ度** ★★★★★

Sunoは、AI音楽生成の代名詞的ツールで、**2026年現在200万人の有料ユーザーを抱える業界リーダーです**。

2026年3月に公開されたSuno v5.5では、自分の歌声をAIに学習させて『自分の声でAIが歌う曲』を生成できる『Voices』機能、自分のオリジナル楽曲でAIをカスタマイズできる『Custom Models』機能、AIがあなたの音楽の好みを学習する『My Taste』機能の3つが目玉として追加されました。

そして2026年9月9日には、**最新モデルの「v6」が公開されました**。曲の一部分だけを言葉で直したり、複数の曲を組み合わせたりできるようになっています（v6と、より自由で予想外の曲を作る「v6-wild」は有料プランのみで、速くて軽い「v6-mini」は無料でも使えます）。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

さらに、2025年9月には『Suno Studio』というブラウザ内で完結する本格的なAI音楽DAW（音楽制作ソフト）も公開され、8月13日の「Studio 2.0」ではMIDIの読み込みや編集、シンセサイザー、エフェクトの追加まで対応し、本格的な音楽制作ソフトにかなり近づいてきました。

2026年7月のアップデートも実用的で、**私が一番ありがたいと感じたのは歌詞エディタの全面刷新です**。フルスクリーンで書けて自動保存され、Aメロ・サビといった構成ラベルも付けられるうえに、「この2行をもっと切ない感じに」と自然な言葉で指示すればその部分だけ書き直してくれます。

韻や言い換えの候補まで出してくれるので、作詞が苦手な方でも形にしやすくなりました。加えて、7月にはiPhoneのiMessage（メッセージアプリ）にキーボードとして組み込めるようになり、友人とのやり取りの中でその場で曲を作って送り、相手も返歌できるという遊び方もできます。

Webの作成画面には曲の長さを決めるDurationスライダーも追加されました。なお、Sunoは2024年に大手レコード会社から著作権侵害で訴訟を受けていましたが、2025年11月にWarner Music Groupと和解し、8月12日にはBMGとも提携して、『ライセンスAIモデル』へ移行する準備を進めています。

ここで1つ大事な注意があります。9月3日から、**無料プランでダウンロードできる曲は一生で7曲まで（しかも個人利用のみ）**、Proプランでも月20曲、Premierでも月60曲までという上限が付きました。

また、**新しい世代のモデルが出たら古いモデルは全て使えなくなる**、ということも明言されました（作った曲の再生や共有はできますが、新しく生成はできなくなります）。

「無料で作った曲をSpotify等で配信したい」という使い方はもうできませんので、**仕事で使う方は有料プランを前提に考えてください**。

訴訟のほうは、8月27日にUMGとSonyが「YouTubeから曲を抜き出して学習に使った」という新しい主張の追加を認められるなど、まだ続いています。

そして9月3日には、この新しいルールが実際に始まりました。あわせて、これまでの世代のモデルが順次使えなくなることも発表されています。

音楽会社との提携にもとづく新しい世代のモデルへの移行が進んでいるためで、過去に作った曲の再生や共有はこれまで通りできますが、その曲を延長したり作り直したりすると、新しいモデルで処理されるため音が変わる可能性があります。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

気に入っている曲がある方は、早めに手元にダウンロードしておくことをお勧めします。それから、2026年9月18日に大きな動きがありました。

ユニバーサル ミュージックとソニー・ミュージックが、Sunoを2度目の提訴に踏み切ったのです。「許諾を得た」とされている最新のv6モデルも、もとをたどれば権利を侵害したモデルから作られたものだ、というのが原告側の主張で、6万曲あまりが対象とされています。

Sunoは9月22日に「事実の面でも法律の面でも誤り」と反論していますが、Sunoを仕事で使うことを考えている方は、この裁判の行方も気にしておいたほうが良さそうです。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Google Flow Music

グーグル・フローミュージック

- **公式サイト**：https://www.flowmusic.app/ （flowmusic.google という新しいアドレスへの移行も案内されています）
- **料金プラン**：
  - Free（無料）：毎日補充されるクレジットで、同時に2曲まで生成可能。**無料のまま商用利用も可能です**。
  - 有料プラン：Starter（年払いなら月あたり6ドル、月3,000クレジット＝約600曲）、Plus（月あたり18ドル、月10,000クレジット）、Member（月あたり48ドル、月30,000クレジット）。Google AI PlusやGoogle AI Proを契約している場合は、そちら経由でも利用できます。（「Starter無料／Creator／Professional」という古いプラン名を紹介している記事もありますが、現在の公式ページでは上記の名称に変わっています。）

Google Flow Musicは、Googleの音楽生成AIです。もともとGoogleが実験的に公開していた「MusicFX」と、独立系のサービスだった「Riffusion」という2つの流れが、このFlow Musicに統合されました。

Riffusionは「Producer.ai」に名前を変えたのち、2026年2月にGoogleに買収され、2026年4月に「Google Flow Music」へ改名されています。

そしてMusicFXとMusicFX DJは2026年7月1日に告知が出され、**2026年7月31日で提供を終了しました**。

これによりGoogleのAI音楽はFlow Musicに一本化されたことになります。機能面では、テキストのプロンプトを入れるだけで、ボーカル・楽器・ミックスまで揃った**最大3分のフル楽曲を数秒で生成できます**。

曲をAメロ・サビといったセクション単位で編集したり、ジャンルを変換してリミックスしたり、AIミュージックビデオを作ることも可能です。

日本語のプロンプトにも対応し、生成された曲にはSynthID（AIが作ったことを示す電子透かし）が入ります。

さらに2026年7月29日～30日には最新モデル「Lyria 3.5」が搭載され、ボーカルの表現力・発音の正確さ・歌詞どおりに歌う精度が大きく向上しました。

そして2026年9月4日には、**このLyria 3.5がGeminiアプリと開発者向けのAPIにも世界中で開放されました**。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

つまり、Flow Musicの画面を開かなくても、**いつも使っているGeminiのチャット画面から「こんな曲を作って」と頼めば楽曲が返ってくる**ようになった、ということです。

長さは最大3分で、誕生日ソングやBGMなど用途別のひな形も用意されています。指示を書いた言語で歌詞が作られ、発音や歌い方もその言語に合わせてくれます。

ただし、いまのところ「作った曲に追加で注文を出して直していく」ということはできず、作り直すには最初から指示し直す形になります。

2026年10月6日には、言葉で説明して作った自分だけの楽器や音の効果（Spaces）を、**音楽制作ソフト（DAW）の中で使えるプラグイン（VST3・AU形式）として書き出せる**ようにもなりました。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Google Flow Musicは、SunoとUdioが二強だった音楽生成AIの世界に、Googleが正面から乗り込んできたツールだと感じます。

これまで本書でご紹介していたMusicFXは「Googleが開発中の機能を楽しく体験できる」という位置づけで、歌入りの曲は作れませんでしたが、Flow Musicではボーカル入りで最大3分のフル楽曲が作れるので、まったく別物になりました。

MusicFXは2026年7月31日で終了し、Riffusionも実質的にこのFlow Musicへ吸収されましたので、**本書の読者の方も乗り換え先はここになります**。

2026年7月末に追加されたLyria 3.5では、歌詞どおりに歌う精度が上がったとのことですので、日本語の歌詞で悩んでいた方は一度試す価値があるでしょう。

個人的にありがたいと感じるのは、**無料プランでも毎日クレジットが補充されて、しかも商用利用が認められている点です**。

Sunoは9月3日から無料プランのダウンロードが「一生で7曲まで・個人利用のみ」に制限されましたので、「まずは無料で商用に使える曲を作りたい」という中小企業の方には、Flow Musicのほうが入りやすいでしょう。

ただし弱点もあります。Sunoは有料ユーザーが200万人規模で、歌詞エディタやSuno Studio 2.0といった作り込みの機能で明らかに先行していますし、Udioはレコード会社との提携という別の強みがあります。

Flow Musicは統合されたばかりで、日本語の歌のクオリティが本当にSunoを超えているかは、**あなた自身の耳で聴き比べていただくのが確実だと思います**。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Udio

ユーディオ

- **公式サイト**：https://www.udio.com/
- **料金プラン**：
  - 無料プラン: 1日10クレジットと月100クレジットが無料で付与され、1日あたり最大3曲の楽曲を生成可能です。
  - Standardプラン: **月額10ドルで2,400クレジットを利用できます**。
  - Proプラン: 月額30ドルで6,000クレジットを利用できます。

Udioは、AIを活用してプロフェッショナルなサウンドトラック風の楽曲を生成するプラットフォームです。

ユーザーはプロンプトを入力することで、AIが高品質な楽曲を作成します。また、生成された楽曲を**パート別に分けてダウンロードする「ステム分割」機能**も提供しています。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Udioは、AI音楽生成プラットフォームの中で、**いち早くメジャーレコード会社と公式提携を結んでいる点が大きな特徴です**。

2025年10月にUniversal Music Group（UMG）、11月にWarner Music Group、2026年1-4月にはMerlinやKobalt、Believeなどのレーベルと相次いで提携を結び、業界の地殻変動を起こしています。

新しいライセンスAIプラットフォームは『Starstruck』という名前で2026年中にリリース予定で、UMG所属アーティスト（Ariana GrandeやThe Weekndなど）の楽曲をユーザーがリミックスやカバーで使えるようになる予定です（アーティスト側が許可した場合のみ）。

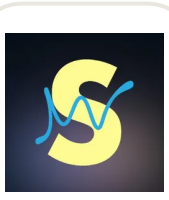
ただ、2026年11月5日時点でも、**Starstruckはまだ公開されていません**。2026年7月17日にはBuyDRMという会社とDRM（デジタル著作権管理。楽曲を勝手にコピー・持ち出しできないようにする仕組み）で提携し、権利者が安心して楽曲を預けられる「囲われた庭」の守りをさらに固めました。

レーベルとの提携を軸に進むUdioらしい動きだと感じます。なお、Sony Musicだけは訴訟を続けており、7月20日には3万曲以上を対象にした2つ目の訴訟を起こしました。

以前は「2026年夏にフェアユース（公正な利用）についての重要な判決が出る」と言われていましたが、裁判の予定は後ろにずれており、**判決は2027年以降になる見込みです**。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



SoundRaw

サウンドロー

- **公式サイト**：https://soundraw.io/
- **料金プラン**：
  - 無料プランでも一定数の曲はお試しとして生成可能です。
  - 有料プランはCreatorプラン（2026年10月30日時点の日本向けの公式料金ページで、年払いなら月あたり1,072円、月払いなら月額1,293円。どちらも割引後の表示価格で、割引前はそれぞれ1,650円と1,990円）で、ネット配信で利用可能な著作権フリーのBGM楽曲を生成し、何曲でもダウンロードできます。なお、従業員10人以上の会社は、問い合わせ制のEnterpriseプランが対象です。
  - また、生成したBGMを使用して自分の歌を入れたりするなど、自分のオリジナル楽曲のトラックとして使用してSpotifyなどの音楽配信プラットフォームでストリーミング配信をしたい場合は、アーティスト向けプラン（Artist Starter／Artist Pro／Artist Unlimited。年払いなら月あたり1,885円〜、月払いなら月額2,535円〜。ダウンロードできる曲数はStarterが月10曲、Proが月20曲、Unlimitedは無制限）を選択する形になります。（2026年11月5日時点では、日本から公式サイトを開くと円建ての料金が表示されます。）

SoundRawは、**日本発のAI音楽生成ツール**で、ユーザーが入力したプロンプトに基づいて完全オリジナルのBGMを生成します。

生成された楽曲は、曲の長さやテンポ、各パートの強弱など、細部までカスタマイズ可能です。

Review **オススメ度** ★★★★☆

SoundRawは他の音楽生成AIツールと異なり、**「AIと一緒に作曲をする」ということができるツール**だと感じました。

SoundRawを使うと、まずAIがサンプルとして提示してきた曲に対して、各パートごとに使う楽器や曲調などを細かく指定して設定を変えることができます。

つまり、自分好みのトラックを生成することができる**「作曲者向けのツール」だと感じました**。楽器や作曲の知識や経験が多少でもある方には細かいアレンジが可能なので良いかもしれませんが、一般ユーザーには「細かい指示をするのは面倒なので1発でいい感じのトラックを生成して欲しい」という感想になると思います。

なお、**歌入りの曲は生成できないので、その場合はSunoを使うべきでしょう**。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Mureka.ai

ムレカai

- **公式サイト**：https://www.mureka.ai/
- **料金プラン**：
  - 無料プラン: 無料では数曲のみ楽曲を生成可能です。
  - 有料プラン: 10ドルと30ドルの有料プランがあり、**どちらも商用利用が可能です**。

Mureka.aiは、AIを活用してユーザーの歌詞やプロンプトから完全にプロデュースされた楽曲を生成するプラットフォームです。

生成された楽曲は**無制限かつロイヤリティフリーで利用できます**。モデルは2026年に入ってからもV8（3月）、V9（4月）と更新が続き、2026年8月31日には、歌声の自然さや曲全体のまとまりを高めた**最新モデル「V9.5」が使えるようになったと発表されました**。

8月14日には、開発者向けのAPIに動画生成の機能も追加されています。

Review **オススメ度** ★★★☆☆

Mureka.aiは、AI音楽生成プラットフォームで、2024年のローンチ以来**約1,000万人のユーザーを抱える主要プレイヤーに成長しました**。

MusiCoT（Music Chain-of-Thought）という独自技術で『AIが楽曲の構造を事前に思考してから生成』する仕組みを採用しており、最新のV9.5（2026年8月31日発表）やO2というモデルでは、より一貫性のある楽曲を作れるようになっています。

日本語対応も改善されつつあり、**最大5分のトラック生成**、ステム分離（楽曲を楽器パーツごとに分解）、ボイスクローン、DAW（Ableton等）統合、MIDI出力など、プロ向けの機能が充実してきています。

また、AI音楽のマーケットプレイス機能もあり、自分が生成した楽曲を5ドル（非独占）～30ドル（独占）で他のユーザーに販売することも可能です。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

結論

どれがオススメ？

AI音楽生成ツールについては、**一番お勧めしやすいのは、やはりSunoです**。もちろん、Sunoも人間が歌った曲とはやはり細かい違いがありますので、細かいことを気にする人には不満な点があるかもしれませんが、スーパーなどの店舗で流れているようなBGMであれば、十分通用するレベルのクオリティの楽曲をAIが瞬時に作り出すことができるので、一部の音楽家さんの仕事は減ってしまう可能性もあるツールだと感じました。

プロの職業音楽家さんにとっては危機に感じるかもしれませんが、プロに楽曲制作を頼むような予算がない個人や中小企業にとっては、イベント用や配信用であったり、**会社のテーマソングなどを安価に制作することができる**ので、素晴らしい時代になったと感じます。

そして、2026年に入り、AI音楽生成業界は**『訴訟』から『ライセンス契約』への大きな転換期を迎えています**。

SunoはWarner MusicやBMG、UdioはUMG/Warner/Merlin/Kobalt/Believeと続々と和解・提携し、ライセンスAIモデルへの移行を進めています。

Sunoの新しい『Voices』機能で自分の声でAIに歌わせたり、Udioが公開を予定している『Starstruck』ではAriana Grandeなどメジャーアーティストの楽曲を合法的にリミックスできるようになる予定で、音楽の作り方そのものが大きく変わろうとしています。

その裏返しとして、Sunoは9月3日から無料プランのダウンロードを「一生で7曲まで」に制限するなど、「無料で作った曲を自由に持ち出す」ことには厳しくなってきました。

「無料で商用利用できる曲を作りたい」という方は、**当面はGoogle Flow Musicのほうが向いていると思います**。

一方、UdioにはSony Musicが、SunoにはUMGとSony Musicが、今も訴訟を続けています（Sunoへの2度目の提訴は2026年9月18日）。

Udioの裁判で、以前は2026年夏に予定されていたfair use（公正な利用）についての判決も、2027年以降にずれ込んでいます。

その結果次第ではAI音楽業界全体の未来が大きく変わる可能性もあるので、引き続き注目です。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Chapter 13

動画編集AI



Chapter 13　動画編集AI

動画編集はAIでどこまで効率化できる？

「プロンプトを入力して動画を生成したり、静止画を動かして動画を作る」という動画生成モデルが一般的には話題にはなりがちですが、より仕事の現場で求められているのは、「**撮影した動画をAIに自動的に編集してもらいたい**」というニーズではないでしょうか？

私のお客様からも「動画素材を生成してくれるAIよりも、自分が撮影したYouTube動画をいい感じに編集してくれるAIがほしい」という意見もよくいただいています。

もちろん、人間が編集したような完璧な動画を、AIが一発で作ってくれるわけではありません。それでも、**AIに動画編集ソフトを操作させて、編集作業の多くを任せることは、すでにできるようになっています**。

私自身、これまではRecut（リカット）というツールで「空白部分を自動的に削除してもらう」作業を自動化し、そのデータを定番の動画編集ソフトであるDaVinci Resolveに引き継いで、AI機能で文字起こしや字幕作成を行っていました。

そして2026年9月の後半からは、メインで使っているDaVinci ResolveをClaudeやChatGPTとつないで、チャットで指示を出すだけで、素材の同期や色づけ、カット編集、字幕、テロップ、BGMまでAIに編集してもらっています。

どこを使うかは自分でチェックしていますが、**自分で編集ソフトを触る必要はほとんどなくなりました**。

また、世間では「切り抜き動画」も流行っていますが、海外だと「あなたのYouTubeやPodcastの動画をアップロードすれば、自動的に切り抜き動画を量産できますよ」というツールも数多くあります。

ただ、実際にそれらのツールを試してみたところ、日本語の動画だと切り抜きの精度がイマイチだったり、字幕のフォントが日本語に最適化していなかったりと、**あまり良いツールがないのも現状だと感じます**。

そのようにAI動画編集ツールの良い点もイマイチな点も含めて、正直にご紹介していきます。なお、このチャプターでご紹介するツールのうち、私がまだ実際に使っていないものについては、その旨をレビューの中に明記したうえで、公式情報と海外のレビューをもとに評価しています。

ぜひあなたの動画編集の参考にしていただければ幸いです。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



DaVinci Resolve

ダヴィンチリゾルブ

- **公式サイト**：https://www.blackmagicdesign.com/jp/products/davinciresolve
- **料金プラン**：
  - 無料プラン：無料版でも、カット編集・色の調整・音の編集など基本の機能はひととおり使えます。ただし、書き出しはUltra HD（3840×2160）までで、ClaudeやChatGPTとの連携や、ほとんどのAI機能は使えません。
  - 有料プラン：Studio版が51,980円（税込）の1回払い（買い切り）です。ClaudeやChatGPTとの連携、自動文字起こし、ノイズ除去などのAI機能が使えます。

DaVinci Resolveは、Blackmagic Design社の動画編集ソフトで、カット編集から色の調整、音の編集、書き出しまでを1本で行えます。

Windows・Mac・Linuxに対応していますが、Macの場合はAppleシリコン（M1以降のチップ）を搭載した機種と、macOS 15以降が必要です。

いま一番の注目点は、バージョン21.1以降の有料のStudio版なら、**ClaudeやChatGPTといったAIにResolveを直接操作させられることです**。

Resolveの中に、AIがソフトを操作するための窓口（MCPサーバー）が組み込まれていて、「ファイル」メニューの「Setup AI Assistants」から、Claudeのデスクトップアプリ、Claude Code、ChatGPT（Codex）、GoogleのAntigravityとつなげます。

あとはAIのチャット画面で「この素材でYouTube動画を編集して」のように頼むだけで、素材の整理、タイムラインの組み立て、色づくり、書き出しなどをAIが進めてくれます（AIが作って動かすプログラムは、AIと同じようにパソコンの中のファイルにアクセスできる点には注意してください）。

ほかのAI機能も、ほとんどがStudio版だけです。たとえば、自動文字起こしと、文字を消すだけで映像も切れる編集、音声からの字幕づくり、人物や物、会話の言葉で素材を探せる「AI IntelliSearch」、雑音から声だけを取り出す「ボイスアイソレーション」、人物などを自動で切り抜く「Magic Mask」、横長の動画を縦型などに作り直す「スマートリフレーム」などがあります。

無料版でも基本の編集はひととおりできますが、**ClaudeやChatGPTとの連携や、Python（プログラミング言語の一つ）を使った自動操作はできません**。

2026年11月5日時点の最新版は、10月下旬に公開された21.1.2です（編集画面の操作性の改善や、グラフィックの再生が最大4倍速くなったことなどが中心です。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

21.1.2で開いたプロジェクトは、以前の版（20.3.2など）では開けなくなるため、更新の前にバックアップを取っておくと安心です）。

Review **オススメ度** ★★★★☆

私が今メインで使っている動画編集ソフトが、このDaVinci Resolveです。以前から、自動文字起こし機能があることや買い切りで使えることが気に入って使ってきましたが、2026年9月の後半からは、ClaudeやChatGPTをDaVinci Resolveとつないで、自分で編集ソフトをいじるのではなく、チャットで指示を出して編集してもらっています。

AIがゼロから編集の仕組みを作るより、すでにある編集ソフトを使わせたほうがトークン（AIの使用量）の負担も少ないと思いますし、2026年10月9日時点でChatGPTにネット上を調べてもらったところ、公式の機能としてAIとつなげられて一番かんたんだという理由で、DaVinci Resolveが一番おすすめという結論でした。

残念ながらAIとつなぐ機能は有料のStudio版だけで、円安で前より少し高い51,980円ですが、今どき珍しいサブスクではない買い切りで、10年以上前に買った人も追加料金なしでアップデートを受けられています。

人間の編集者に頼むと5万円ぐらいはすぐかかりますし、あとは月3,000円ぐらいのAIのプランでも編集できるので、このくらいは経費として使ってもいいと思います。

実際には、素材をDaVinci Resolveに読み込むところまでは私がやり、「今開いているプロジェクトでYouTube動画を編集して」と頼むと、2つの素材の同期、色づけ、音の調整、顔のワイプの位置、ズーム、字幕やテロップ、効果音、BGM、書き出しまでAIがやってくれます。

編集のやり方を「スキル化して」と頼んでおけば、次からは短い指示で済みます。ただ、一発で完璧なものができるわけではありません。

台本なしで話す私の動画では、「見ている人がだるいだろうから思い切って切る」といった、**どこを使うかの判断はAIにはまだ難しいので**、そこは自分でチェックして指示を出しています。

DaVinci Resolveが固まって再起動することもたまにあります。それでも、字幕やBGMのように正解がわりとはっきりした作業はAIが得意なので、**私たちは編集マンに指示を出すディレクターになり**、体力を取られずに編集できるのがすごくいいなと感じています。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Recut

リカット

- **公式サイト**：https://getrecut.com/hiltl
  - **↑こちらのリンクから購入すると10ドルオフで購入できます**
- **料金プラン**：
  - 無料プラン： 無料でも3回まで動画やXMLファイルを出力可能
  - 有料プラン：**129ドルの買い切りプラン**、または月額15ドル、年額79ドルのサブスクプランもあり

Recutは、動画やポッドキャストの**無音部分を自動検出・削除し、編集作業を大幅に短縮できるツールです**。

Mac・Windows・Linux対応で、Adobe PremiereやFinal Cut Proなど主要編集ソフトとも連携可能。

カット精度の調整やマルチカメラ対応も備え、クリエイターから高評価を得ています。無料で試せるほか、買い切り・サブスクの選択や30日間返金保証もあり、手間をかけずに動画制作を加速できます。

2026年11月5日時点の最新版は、2026年11月1日公開のバージョン4.5.2です（10月16日公開のバージョン4.5.0で、アプリが一から作り直されました。4.5.2では、次に書く.drt形式のタイムラインがDaVinci Resolve 21で開けない不具合も直っています）。

この新しい版では、**DaVinci Resolveにそのまま読み込める専用の形式（.drt）**でタイムラインを書き出せるほか、iMovieやCamtasiaへの書き出しや、付けた目印（マーカー）からYouTubeのチャプターを作ることもできます。

Review **オススメ度** ★★★★☆

このAIツール大全の書籍を作るにあたってChatGPTのDeep Research機能でAI動画編集ツールを調べていたらこのツールの存在を知ることができました。

収録した動画ファイルをRecutに取り込むと、タイムライン上の無音部分を自動的にカットしてくれるので、動画編集の1つの工程を丸々自動化することができました。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

しかも、Recutで編集した動画のタイムラインをXMLファイルとして出力することで主要な動画編集ソフト（FCP、Premiere、Davinci Resolve、Screenflow、CapCut）に受け渡すことができるので、「**最初はRecutで自動編集して、続きは使い慣れた編集ソフトで完成させる**」というワークフローも簡単にできます。

強いて言えば、「言い間違えた部分を判別してカットできるようになる」というAI機能まで実装されれば完璧なのですが、とりあえず**買い切りで使えて価格も安くてシンプルなので気軽にお勧めしやすいツールです**。

無料お試しもできますので、動画編集を効率化したい人は試してみてください。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



FireCut

ファイアーカット

- **公式サイト**：https://firecut.ai/
- **料金プラン**：
  - 無料プラン：0円。無音部分の削除、音声トラックの分割、マーカー機能が回数無制限で使えます。
  - Captionsプラン：月12.99ドル。90以上の言語の字幕作成、文字起こし月8時間分。
  - Proプラン：月20.99ドル（年払いなら月16ドル）。言い直しの検出、フィラー（「えー」「あの」）の削除、最初のカット作りなどAI機能が一式。文字起こし月10時間分。
  - Maxプラン：月59.99ドル（年払いなら月49.99ドル）。文字起こしが週50時間に増え、ナレーション生成や画像生成、処理を保存して再実行する「ワークフロー」も使えます。
  - 上の料金はDaVinci Resolve版のものです（Adobe Premiere版は、Starterが月19ドル、Proが月34ドルなど、別の料金になっています）。
  - 有料プランには7日間の無料体験があります。

FireCutは、DaVinci ResolveやAdobe Premiereの中にそのまま組み込んで使う、AI編集の追加機能（プラグイン）です。

動画編集ソフトを乗り換える必要がないのが、他のAI編集ツールとの一番の違いになります。できることは、無音部分の自動カット、「えー」「あの」といった口ぐせの削除、字幕の自動作成、話の内容に合わせた章分けなど幅広いのですが、中でも注目されているのが**「Remove Repetition（言い直しの削除）」**です。

同じ内容を言い直した部分、途中でやめて話し直した部分、複数のテイクを自動で見つけ出し、「どれを残すか」を一覧で選べる形にしてくれます。

どのくらいの長さの文章を比較するか、どのくらい似ていたら同じと見なすか、といった細かい設定も変えられます。

文字起こしの精度は言語ごとに公表されており、DaVinci Resolve版では**日本語は最高ランクの「ほぼ完璧」に分類されています**（Adobe Premiere版では、日本語は試験的な対応です）。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Review **オススメ度** ★★★★☆

私はまだ試していないので、以下は世の中のレビューと公式情報をもとにした評価です。まず、私のように動画編集ソフトを長く使ってきた人間にとって、**「ソフトを乗り換えなくていい」というのは想像以上に大きな利点です**。

AI編集ツールの多くは、素材を専用サイトにアップロードして、そこで編集して、書き出したものをまた編集ソフトに戻す、という往復が必要になります。

この往復のたびに、画質が落ちたり、複数の映像の同期がずれたり、という事故が起きます。FireCutは編集ソフトの中で完結するので、その心配がありません。

特に、パソコン画面の録画と、自分の顔の映像を組み合わせて解説動画を作っている方には、この点が効いてくると思います。

そして「言い直しの削除」は、収録した動画を最初から最後まで見ながら「あ、ここ言い直してるな」と探していく作業を、大きく減らしてくれる可能性があります。

この探す作業が、実は動画編集で一番時間を食う部分です。一方で、注意点もあります。

日本語の文字起こしができることと、日本語の説明を正しく取捨選択できることは、別の話です。「言い直しに見えるけれど、実は大事な補足だった」という部分まで消されてしまうと、確認作業がかえって増えます。

ですので、いきなり字幕もBGMもまとめて任せるのではなく、まずは言い直しの検出だけを試して、自分の話し方に合うかどうかを確かめるのが良いと思います。

7日間の無料体験がありますので、いつも撮っている10分から20分くらいの動画で1本試してみて、「何分短くなったか」ではなく**「自分が実際に手を動かした時間が何分減ったか」で判断してみてください**。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Eddie AI

エディーAI

- **公式サイト**：https://www.heyeddie.ai/
- **料金プラン**：
  - 基本は、月額ではなく、クレジットを買い切る方式です。買ったクレジットに有効期限はありません。
  - よく使う方向けに、年払いのプランもあります（Eddie Plus：年239ドルで毎月3,000クレジット、Eddie Max：年1,999ドルで毎月30,000クレジット）。プランで付いたクレジットは、プランが終わると使えなくなります。
  - 1,000クレジット：10ドル（1時間分ほどの素材の取り込みと編集）
  - 5,000クレジット：45ドル（3時間の案件を2本ほど）
  - 15,000クレジット：120ドル（1ヶ月しっかり編集する場合）
  - 50,000クレジット：350ドル
  - 新規登録すると500クレジットが無料でもらえます。
  - プランによる機能制限はなく、どのクレジット量でも全機能が使えます。

Eddie AIは、**「こう編集してください」と文章で伝えると、その通りに編集案を作ってくれるツールです**。

素材を読み込ませたうえで、例えば「これはパソコン操作を説明する講座です。要約せず、説明の順番は変えないでください。言い間違いと、同じ説明をやり直した部分だけ整理してください」というように、編集方針を日本語で伝えます。

そして出来上がった編集結果を、DaVinci ResolveやAdobe Premiere、Final Cut Proに戻せるのが特徴です。

元の素材とのつながり、タイムコード、フレームレート、解像度もそのまま保たれると公式に案内されています。

複数のカメラで撮った素材にも対応しています。2026年8月の公式ヘルプでは、日本語の文字起こし、文字を使った編集、字幕への対応が明記されました。

商品名や人名など、間違えられたくない言葉を先に登録しておく仕組みもあります。さらに**MCPという仕組みに対応しており**、ClaudeやChatGPTの画面から直接、文字起こしの読み取り、編集案の作成や修正、字幕やタイトルの追加、書き出しまで指示できるとされています。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

2026年10月4日からは、**無料版のDaVinci Resolve（バージョン21.1以降）でも**、Eddieとのやり取り（素材の取り込みや、編集結果をResolveに送る機能）が使えるようになりました（パソコン用アプリのバージョン4.0.27以降が必要です）。

Review **オススメ度** ★★★★☆

私はまだ試していませんので、公式情報と世の中のレビューをもとにお伝えします。このツールで一番おもしろいと感じたのは、MCPに対応している点です。

つまり、いつも使っているClaudeやChatGPTの画面から、動画編集ソフトに指示を出せる、ということになります。

「AIに動画編集を任せる」と聞くと、AIがマウスを動かして編集ソフトの画面を操作する姿を想像しがちですが、画面をクリックして操作させるやり方は、正直、まだ実用的ではありません（DaVinci Resolveのように、編集ソフトの側にAIとつなぐ公式の窓口がある場合は別です）。

操作を1回間違えても気づかず、そのまま次の編集を進めてしまうからです。それに対してEddieの方式は、**「AIには編集の指示書を作らせて、実際の反映は専用の仕組みが行う」という分け方**になっています。

これなら、間違いが起きても後から確認できます。私が動画編集の自動化について調べていて、一番現実的だと感じたのがこの考え方でした。

料金の仕組みも良心的だと思います。月額の縛りがなく、**買ったクレジットに期限もない**ので、「毎月動画を作るわけではない」という方でも無駄がありません。

新規登録で500クレジットもらえますので、短めの素材で一度通してみることができます。ただし、確認しておきたい点もあります。

公式の説明を読んだ限りでは、「パソコンの画面録画＋別撮りの顔ワイプ＋音声」という3つの素材の組み合わせが、編集ソフトに戻した後もこちらの希望どおりに保たれるかどうかは、断言できませんでした。

Eddieの画面上のプレビューだけで判断せず、**実際にDaVinciに戻したタイムラインまで見て確かめる必要があります**。

それから、これは全てのAI編集ツールに共通することですが、日本語の解説動画で「必要な説明まで消されていないか」の確認は、結局こちらでやるしかありません。

無料クレジットの範囲で1本試して、そこを見極めてから本格導入されるのが良いと思います。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

Adobe Premiere

アドビプレミア

※旧Premiere Pro

- **公式サイト**：https://www.adobe.com/jp/products/premiere.html
- **料金プラン**：
  - 無料プラン：7日間の無料体験あり
  - 有料プラン：**月額3,280円（年間プランの月々払いの場合）**

Adobe Premiere（旧Premiere Pro）は、革新的なAI機能を導入し、動画編集の効率を大幅に向上させています。

新たなメディアインテリジェンスと検索パネルにより、オブジェクトや撮影情報を自動認識し、必要なクリップを素早く検索可能に。

さらに、18言語対応の自動キャプション翻訳機能でグローバルな視聴者へのリーチを拡大。生成AIでは、クリップの長さを自動調整する「生成拡張」、動画内オブジェクトの追加・削除、テキストからBロールを生成する機能が搭載され、編集作業がより直感的かつスムーズになりました。

2026年9月のバージョン26.5では、文字起こしの文章を選ぶだけでおおまかな編集（ラフカット）を作れる「Paper Edit」や、文章で指示して映像や効果音を作り、そのまま編集できる素材としてタイムラインに置ける「Generative Media Tool」も加わりました（Paper Editが日本語の文字起こしで使えるかどうかは、公式の案内には書かれていません）。

2026年9月22日には、スマホ版の「Premiere」アプリがAndroidにも登場しました（iPhone版は2025年末に公開済み）。

無料で使え、透かしなしで4Kまで書き出せます。なお、2026年11月5日時点の公式サイトでは、「Premiere Pro」は、パソコン版とスマホ版をまとめた**「Adobe Premiere」という名前に変わっています**。

Review **オススメ度** ★★★★☆

私は最近は使っていないですが、一時期はメインの編集ツールとして使っていました。ただ、サブスクで費用がかかるのに嫌気がさして、Final Cut ProやDaVinci Resolveに移行しました。

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

ただ、Adobe社も生成AI機能に力を入れて開発しているので、そこに価値を感じる方はサブスク料金を支払う価値はあるのかもしれません。

自動キャプション機能を使って文字起こしや字幕を作成することも可能です。また、動画生成AIの機能を使って、実写で撮影した素材をベースに新しいシーンを生成して動画の尺を伸ばす、というような画期的な機能もあるようです。

ただ、そのような機能は**動画制作のプロ向け機能ですので私も含めて多くの方は必要ないでしょう**。Windows/Macの両方で使えることはメリットですが、**使い方は難しいのであまりお勧めはしません**。

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Final Cut Pro

ファイナルカットプロ

- **公式サイト**：https://www.apple.com/jp/final-cut-pro/
- **料金プラン**：
  - 無料プラン： サブスクの「Apple Creator Studio」なら1か月（30日）の無料お試しあり
  - 有料プラン： **50,000円（税込）の1回払い**（または、Final Cut Pro・Logic Pro・Motion・Pixelmator Proなどがセットになった月額1,780円／年額17,800円のサブスク「Apple Creator Studio」もあり）

Final Cut Proは、2026年に入ってから更新のペースが上がっており、1月のバージョン12.0では、文字起こしの内容から場面を探せる「トランスクリプト検索」、映像の中身を言葉で探せる「ビジュアル検索」、音楽の拍に合わせて自動で編集点を打つ「ビート検出」が追加されました。

そして6月30日公開のバージョン12.3では、**音声から自動で字幕を作る「Generate Captions」**、緑色スクリーンなしで人物や物体を切り抜く「Auto Mask」、複数のクリップの色味を自動で合わせる「Match Color」、編集済みの動画からカット点を自動で見つける「Edit Detection」、画像編集ソフトPixelmator Proとの連携などが追加されています。

9月29日に公開された最新のバージョン12.4では、iPhoneやiPad用の撮影アプリ「Final Cut Camera」のシネマティックモードで撮った映像について、**ピントを合わせる位置とぼけ具合を後から直せるようになりました**（macOS 27が必要です）。

既存のAI機能には、ソーシャルメディア向けに動画を簡単にリサイズできる「スマートコンフォーム」や、色補正を自動化する「ライトとカラーの強化」が含まれています。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Appleが開発しているFinal Cut Proは、当然Mac専用の動画編集ツールなので誰にでもお勧めできるわけではありませんが、**個人的には今まで一番長く使ってきた動画編集ツールです**。

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Adobe PremiereやDaVinci Resolveに比べると**カメラや動画の知識がない初心者の方でも気軽に使うことができる**ので、「動画編集をするならFinal Cut Proを使うためにMacを買ったほうがいいです」と人に勧めたこともあります。

YouTuberの方々もFinal Cut Proを使っている人が非常に多く、定番の動画編集ソフトの1つです。

最近はAI機能も増えてきましたが、6月のバージョン12.3で追加された自動字幕機能（Generate Captions）は、2026年11月5日時点では**まだ米国英語にしか対応しておらず**（9月29日に公開された最新のバージョン12.4でも変わっていません）、日本語では使えません。

今後の機能の発展に期待しています。個人的には、AI自動文字起こし機能が使いたくて、DaVinci Resolveをメインで使うようになってしまったので、Appleも他社に遅れずにどんどん最新のAI機能を、日本語対応込みで追加して欲しいですね。

買い切りのツールで気軽に動画編集をしたい人にはお勧めのツールです。（なお、以前あった買い切り版の90日間無料体験はなくなり、現在はサブスクのApple Creator Studioの30日間無料が唯一のお試し方法になっています。）

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



CapCut

キャップカット

- **公式サイト**：https://www.capcut.com/ja-jp/
- **料金プラン**：
  - 無料プラン：**基本的には無料で使えます**。
  - 有料プラン：自動文字起こしを含む一部のAI機能を使うためにはサブスク課金する必要があります。（2026年11月5日時点の公式の料金ページでは、Proプランの参考価格が月額2,700円で、毎月800のAIクレジットが付きます。年払いや割引で安くなる場合があり、実際の金額はログインすると確認できます）

CapCutは、AIを活用した多彩な動画編集機能を提供するクリエイティブプラットフォームです。主な機能として、「背景除去」「スマートカット」「自動字幕生成」などの自動編集機能、「動画品質向上」「手ぶれ補正」「自動リフレーム」などの映像強化機能、「ノイズ除去」「フィラーワード除去」「テキスト読み上げ」などの音声処理機能があります。

さらに、「AIアバター生成」「モーショントラッキング」「感情スタイリング」などのクリエイティブツールも備えており、**プロ・アマ問わず効率的で高品質な動画制作を可能にします**。

同じByteDance社の動画生成モデルSeedance 2.5やGoogleのNano Banana Proなど、生成AIのモデルもアプリの中から使えます。

Review **オススメ度** ★★★★☆

CapCutはTikTokを運営しているByteDance社が公開している動画編集ツールです。スマートフォン版だけではなく、デスクトップ版やブラウザ版も用意されているので使われたことがある方も多いでしょう。

私もデスクトップ版を使ってみたことがありますが、「Final Cut Proを動画の初心者向けにさらに使いやすくしたソフト」という印象を受けましたので、**とにかく初心者でも使いやすいツールだと思います**。

サブスク課金をすることで、AI文字起こし機能なども制限なく使えるようになりますので、TikTokなどのSNS用の動画編集がメインの方は使ってみても良いかもしれません。

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

ただし、素材（テンプレートや効果音、フォントなど）の使い方には注意が必要です。CapCutの素材ライセンス規約（2026年1月22日版）では、**「commercial use」と表示された素材だけが商用利用を認められており**、商用利用が認められていない素材を1つでも混ぜると、**その動画全体が「個人利用・非商用のみ」の扱いになる**と書かれています。

仕事の動画で使うなら、使う素材に商用利用のマークが付いているかを1つずつ確認してください。また、規約はたびたび変わりますので、業務で本格的に使う前には公式の規約ページに目を通しておくことをお勧めします。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Video Remix

ビデオリミックス

- **公式サイト**：https://photos.google.com/
- **料金プラン**：**Google AI Plus（月額725円）**、Google AI Pro、Google AI Ultraのいずれかを契約している方が利用できます。Video Remix単体の料金プランはありません。

Video Remixは、Googleが2026年7月8日から**Googleフォトに提供を始めたAI動画編集機能です**。

スマホで撮った手持ちの動画を選んでテンプレートを指定するだけで、映像の雰囲気をまるごと別のスタイルに変えたり、背景を差し替えたり、リライティング（光の当たり方を作り直す処理）をかけたりできます。

裏側ではGoogleのGemini Omni系のモデルが使われています。海外から順番に展開されることが多いGoogleの新機能ですが、Video Remixは**展開対象の国に日本が最初から含まれているのがうれしい点です**。

専用の編集ソフトを立ち上げる必要はなく、普段使っているGoogleフォトのアプリの中でそのまま完結します。

Review **オススメ度** ★★★☆☆

Video Remixは、この章でご紹介しているRecutやDaVinci Resolveのような「作業を効率化する編集ツール」とは少し性格が違い、「撮った動画の見た目をAIに作り替えてもらう」ためのものだと感じます。

私が良いと思ったのは、とにかく手軽なことです。編集ソフトを起動して素材を読み込んで……という手順がまったく要らず、Googleフォトの中で動画を選んでテンプレートを押すだけなので、スマホしか持っていない方でも使えます。

背景の差し替えやリライティングまでスマホの中で完結するのは、CapCutなどと比べても敷居が低いと言っても過言ではないでしょう。

しかも、Googleの新機能としては珍しく日本が最初から対象に入っているので、海外の紹介記事を見て「日本ではまだ使えない」とがっかりすることがありません。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

ただし、正直なところ、**これ1つで動画編集が完結するわけではありません**。テンプレートを選ぶ方式なので細かい調整の自由度は低く、カット編集や字幕入れといった実務的な作業はDaVinci ResolveやOpus Clipなど他のツールに頼ることになります。

また、**無料では使えず、Google AI Plus以上の契約が必要な点も押さえておいてください**。とはいえGoogle AI Plusは月額725円と安いですし、GoogleフォトやGeminiもまとめて使えることを考えれば、コスパは悪くないと感じます。

すでにGoogle AIのプランを契約している方は、追加費用なしで試せますので、昔撮ったスマホの動画を1本入れて遊んでみてはいかがでしょう。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Figma Motion

フィグマ・モーション

- **公式サイト**：https://www.figma.com/
- **料金プラン**：デザインツール「Figma」の既存プランの中で使えます。2026年11月5日時点でもまだベータ版（試験公開）で、無料のStarterプランを含むすべてのプランの「Full（フル）」シートで使えます。
  ただし、Figmaのエージェントにアニメーションを作らせる機能、動く部品（コンポーネント）の公開、高画質での書き出しには、有料プランのFullシート（**Professionalプランなら1人あたり月額16ドル**）が必要です。
  なお、Figmaのエージェントは2026年10月6日に正式版になり、同じ日から、使った分だけ「AIクレジット」を消費する形に変わりました（ProfessionalプランのFullシートには、毎月3,000クレジットが付きます）。

Figma Motionは、世界中のデザイナーが使っているデザインツール「Figma（フィグマ）」に、2026年6月25日の「Config 2026」という発表会でお披露目された新しいモードです。

これまでFigmaは止まっている画面のデザインを作るツールでしたが、Figma Motionではキャンバスの中にタイムライン（時間の流れを表す帯）とキーフレーム（動きの節目を指定する仕組み）が組み込まれ、そのまま動きを付けられるようになりました。

ボタンを押したときのアニメーション、動くバナー広告、SNS用の動く素材などを、**専門の動画ソフトを使わずに作れます**。

さらに、AIエージェントに「ここをふわっと出してほしい」と言葉で伝えるだけでアニメーションを作らせることもできるため、**モーションデザインの経験がない方でも形にしやすくなっています**。

2026年11月5日時点でも正式版にはなっておらず、ベータ版のまま提供が続いています。

Review **オススメ度** ★★★☆☆

Figma Motionは、この章の他のツールとは少し毛色が違い、「撮った動画を編集する」のではなく「動く素材をゼロから作る」ためのものだと感じます。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

私が注目しているのは、広告用のバナーやランディングページの中で動くパーツを、**外注せずに自社で作れるようになる点です**。

これまでこうした動きを付けるには、専門のソフトを覚えるか、モーションデザイナーに依頼するしかありませんでした。

小規模な会社にとっては、どちらもハードルが高かったはずです。AIに言葉で伝えて動きを作らせられるので、CapCutなどの動画編集アプリとはまた違った意味で敷居が下がったと感じます。

ただし、**正直なところ、万人向けのツールではありません**。まずFigma自体の操作に慣れている必要がありますし、2026年11月5日時点ではベータ版ですので、動作が不安定だったり、仕様が変わったりする可能性もあります。

また、**AIに作らせる機能や高画質での書き出しには、有料プランのFullシートが必要になる点**も注意してください。

動画そのものを編集したいのであれば、同じ章のDaVinci ResolveやCapCutのほうが適しています。

とはいえ、すでにFigmaで自社のバナーやWebサイトのデザインを作っている方であれば、一度Motionモードを開いてみると良いでしょう。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



AutoCut

オートカット

- **公式サイト**：https://www.autocut.com/
- **料金プラン**：
  - Basicプラン：月9.9ドル（年払いなら月6.6ドル／年79ドル）。無音カットのみ。
  - AIプラン：月19.8ドル（年払いなら月14.9ドル／年178.8ドル）。無音カット、字幕、言い直しの削除、自動ズーム、Bロール挿入、章分けなど10機能すべて。
  - Enterpriseプラン：1ライセンスあたり月19.9ドル。チームでの利用や優先サポート付き。
  - 14日間の無料体験があり、クレジットカードの登録は不要です。

AutoCutも、FireCutと同じくDaVinci ResolveとAdobe Premiereの中で動くAI編集の追加機能です。

もともとは「無音部分を自動でカットする」ツールとして知られていましたが、現在は10種類の機能がそろっています。

今回注目したいのは、その中の**「AutoCut Repeat」という機能です**。同じ内容を繰り返している部分を見つけ出し、必要であれば台本も参照しながら、どれを残すかを確認したうえでカットしてくれます。

公式サイトでは80以上の言語に対応するとされています。ほかにも、話している人に合わせてカメラを自動で切り替える機能、話の内容に合わせて自動でズームする機能、内容に合った素材映像を自動で差し込む機能などがあり、SNS向けの短い動画を量産する方には便利な作りになっています。

Review **オススメ度** ★★★☆☆

私はまだ使っていませんので、公式情報と海外のレビューをもとにお伝えします。AutoCutは、このチャプターでご紹介しているFireCutと立ち位置がかなり近いツールです。

どちらもDaVinci ResolveやAdobe Premiereの中で動き、どちらも言い直しを見つけてカットしてくれます。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

ですので、**両方に課金する必要はまったくありません**。同じ動画を両方に読み込ませてみて、**「必要な説明を消さず、あとの手直しが少ないほう」を選ぶ**、という比べ方をするのが良いでしょう。

FireCutは7日間、AutoCutは14日間の無料体験がありますので、順番に試せば1ヶ月もかからずに結論が出ます。

あえて違いを挙げるなら、AutoCutは自動ズームやBロールの自動挿入など、「SNS向けの短い動画を賑やかに仕上げる」方向の機能が充実しています。

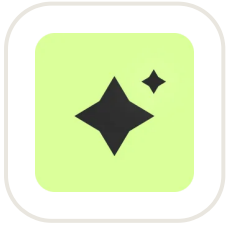
逆に言えば、私のような落ち着いた解説動画を作る人間には、使わない機能も多いということです。星を3つにしたのは、機能が劣っているからではなく、**日本語の言い直し検出についての具体的な情報が、今回調べた範囲では見つからなかったため**です。

「80以上の言語に対応」とは書かれていますが、日本語の精度がどの程度かは、実際に試して確かめる必要があります。

あなたがすでにAdobe Premiereをお使いで、無音カットだけできれば十分、という場合は、月6.6ドルのBasicプランという安い選択肢があるのも良いところです。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Gling.ai

グリング.ai

- **公式サイト**：https://www.gling.ai/
- **料金プラン**：
  - 無料プラン： 1ヶ月につき1時間分の素材を編集可能（出力はウォーターマーク付き）
  - 有料プラン：**Plusプランが月額20ドル（年払いなら月あたり10ドル）**で1ヶ月10時間まで、Proプランが月額40ドル（年払いなら20ドル）で1ヶ月30時間まで、Eliteプランが月額100ドル（年払いなら50ドル）で1ヶ月100時間までの素材を編集可能

Glingは、**AIが自動で不要なテイクや沈黙をカット**し、字幕やノイズ除去などでプロ仕様のYouTube動画を簡単に作成できるツールです。

最適なタイトルやチャプターもAIが提案し、視聴率アップをサポート。Final Cut ProやAdobe Premiereとも連携可能で、3ステップで簡単に編集・公開できます。

話している内容に合わせたイメージ映像（Bロール）の自動挿入や、複数のカメラで撮った素材の自動切り替え、ショート動画の自動生成などの機能もあります。

Review **オススメ度** ★★★☆☆

GlingはRecutの多機能版と言ってもよいツールで、無音部分だけではなく、不要なテイクをAIが判断してくれてカットしてくれることも可能です。

また、自動的に字幕もつけてくれるなど非常に多機能なAI動画編集ツールです。ただ、実際に使ってみると、「不要なテイク」を削除しようとしてくれるのは良いのですが、「いや、ここを削除するのは違うかな」と気になる点も多いので、**「AIに不要な箇所を判断させる」機能としては完璧ではないと思ったほうがいいです**。

また、字幕も英語に最適化したフォントや見栄えになるので、**日本語の動画では多少違和感が残ります**。そのように多機能なのですが、どうしてもクオリティは改善の余地があるツールだと思ったほうがいいです。

そのあたりの基準や目的は人によって異なると思うので、**一度無料で試してみるのが良いでしょう**。（1時間以内の素材を使って試してみてください。）個人的には、Recutで無音部分を削除してもらい、その後は人間が編集をするほうがよいのでは？

と思ったりします。（なお、以前は年払いのみでしたが、現在は月払いも選べるようになっています。）

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Opus Clip

オーパスクリップ

- **公式サイト**：https://www.opus.pro/
- **料金プラン**：
  - 無料プラン：基本的な機能を無料で利用可能（月60クレジット、透かし付き）。
  - 有料プラン：**月額15ドルのスタータープランと月額29ドルのプロプラン**（年払いだと月あたり14.5ドル）のほか、法人向けのBusinessプラン（料金は問い合わせ）があります（上位プランほどより多くのAI機能が使えるようです。）

Opus Clipは、AIを活用して長尺の動画から自動的にショートクリップを生成するツールです。特に、YouTube動画などからSNS向けの短い動画を作成する際に便利です。

AIが動画の重要な部分を認識し、最適なクリップを提案します。2026年7月には、**切り抜き動画そのものを作り込むための機能が一気に増えました**。

7月10日には「AI B-roll生成」が追加され、文字起こしの内容をAIが読み取って、話している内容に合ったイメージ映像（B-roll）を約20種類のスタイルで自動生成できるようになりました（ProとBusinessプラン向け）。

7月14日には「効果音の自動生成」が追加され、効果音を入れるべき箇所をAIが自分で見つけて音を付けてくれるようになっています。

さらに7月7日には、あなたの声をクローン（複製）して**20言語以上に吹き替えできる動画翻訳機能が追加されました**。

2026年8月31日時点では、素材を渡すだけで公開できる動画に仕上げる「AI Producer」、記事や台本、音声、ブログ、Xの投稿から動画を作る「Agent Opus」、サムネイルの自動生成、ClaudeなどのAIから直接Opus Clipを操作できるMCP対応なども「新機能」として公式サイトで紹介されています。

Review **オススメ度** ★★★☆☆

無料プランで使ってみて、40分ほどの私のポッドキャスト動画を切り抜いてもらったのですが、**40分の中から26個の短い動画を提案してくれました**。

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

それだけ数が多いと微妙な切り抜きも多かったのですが、数本は「お、これは使えるかも」という切り抜きもあったので、とりあえず量を提案してくれることは利点ですね。

ただ、**やはり字幕は英語に特化しているので、日本語では使えません**。無料プランでは、切り抜いてもらった動画を編集することはできず、そのままダウンロードして使うしかないのですが、字幕を編集したり、他の編集ソフトで編集を引き継ぐためのXMLデータの出力（PremiereとResolveにのみ対応のようです）はProプラン（月額29ドル、年間払いだともっと安くなる）に課金が必要なようです。

2026年7月のアップデートで、Opus Clipは**「切り抜くだけのツール」から「切り抜いた後の仕上げまでやるツール」に寄ってきた印象です**。

話している内容に合わせたイメージ映像を約20スタイルから自動で作ってくれるAI B-roll生成や、効果音を入れる場所をAIが自分で判断して付けてくれる機能は、正直、ショート動画で一番面倒な作業なので、ここが自動化されるのはありがたいところです。

また、自分の声をクローンして20言語以上に吹き替えられる機能も追加されたので、日本語で撮った動画を海外向けに出してみたい人は試す価値があると感じます。

「Agent Opus」のように、ブログ記事やXの投稿から動画を作る、という方向にも広がってきていますので、「切り抜き」という枠を超えた総合的な動画AIになろうとしているようですね。

ただし、これらの新機能は基本的にProプラン以上での提供なので、無料プランのままでは体験できない点には注意してください。

人間が動画を見て「ここを切り抜こうかな」という手動の作業をAIに任せたい場合は、導入してみるのもありかもしれません。

ただ、**必ず無料で性能を確かめてから使いましょう**。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

Klap

クラップ

- **公式サイト**：https://klap.app/
- **料金プラン**：
  - 無料プラン：無料でも1本お試し可能
  - 有料プラン： 年払いなら月あたり14.5ドル（Basic、月100クリップ）、39.5ドル（Pro、月300クリップ）、94.5ドル（Pro+、月1,000クリップ）の3つのプランがあり、上位プランになるほど1ヶ月に作れる切り抜き動画の本数が増えます。月払いだと約2倍の料金になります。（以前の「読み込ませる動画の長さ」ではなく「作れるクリップの本数」で数える料金体系に変わっています。）

Klapは、AIを活用して動画から**ハイライトシーンを自動抽出し、短いクリップを生成するツールです**。特に、長尺の動画からSNS向けのショート動画を作成する際に役立ちます。

ユーザーは、生成されたクリップを編集し、字幕やエフェクトを追加することも可能です。現在は52の言語に対応し、人物を自動で画面の中央に収める「AI Reframe 2」や、開発者向けのAPIも提供されています。

Review **オススメ度** ★★☆☆☆

海外製の「ショート動画自動切り抜きツール」をいろいろ試したのですが、**正直どれもあまり使えないと感じました**。

ただ、数ヶ月前に試した時はそもそも日本語の動画に対応していなかったのに、可能になっているなど、進化はしているようです。

Klapは**珍しく最初から日本語の動画に対応**しており、YouTube動画のリンクを貼ったり、動画ファイルをアップロードすると、それを1分程度のショート動画に切り分けてくれます。

（そのショート動画が面白いかは、元の動画がそもそも面白いかどうか次第ですが…）で、どのショート動画切り抜きツールにも言えるのですが、テロップの作成機能が英語に最適化しているので、**日本語でいい感じの字幕やテロップを作成してもらうことは諦めたほうがいいです**。

もしKlapを無料で試してみて、「いい感じに切り抜いてくれるな」と思ったら継続して使うために課金をしてもいいですが、字幕は別の動画編集ツールを使ったほうがいいですね。

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



2ShortAI

2ショートAI

- **公式サイト**：https://www.2short.ai/
- **料金プラン**：
  - 無料プラン：**月に30分までの動画素材を切り抜き可能**
  - 有料プラン：月額9.90ドル、19.90ドル、49.90ドルの3種類の有料プランが存在し、金額が高くなるほど1ヶ月間に切り抜ける動画の長さが伸びるようです。

2ShortAIは、YouTube動画から自動的にショート動画を生成するAIツールです。ユーザーは、YouTubeのURLを入力するだけで、AIが動画のハイライトを抽出し、短いクリップを作成します。

生成されたクリップは、SNSでの共有に最適化されています。

Review **オススメ度** ★★☆☆☆

数ヶ月前に試したときは日本語の動画のせいかエラーが出てしまったのですが、この書籍の執筆のために再度試してみたところ、素早く私のYouTube動画を切り抜いてくれました。

こちらも40分ほどの私のPodcast動画のYouTubeリンクを貼ったところ、瞬時に6本ほどの切り抜き候補を提案してくれました。

字幕については、漢字は表示できるのですが、平仮名と片仮名はなぜか表示されなかったので、**日本語の字幕には難がありそうです**。

切り抜きの候補もOpus Clipに比べると数が少なく、性能は劣っているような印象を受けました。他の動画編集ソフトで編集を引き継ぐためのXML形式の出力に対応していないようなので、**個人的にはあまり使いたくないツールかな、という評価ですね**。

もし使うならKlapやOpus Clipのほうがマシだと思います。

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Submagic

サブマジック

- **公式サイト**：https://www.submagic.co/
- **料金プラン**：
  - 無料プラン： 基本的な機能を無料で利用可能（月3本まで、1分30秒以内、透かし付き）。
  - 有料プラン：**月額19ドル、39ドル、69ドルの3種類のプラン**があり、値段が高いほど1ヶ月で切り抜ける動画の数や書き出せる動画の尺が伸びるようです。（年払いならそれぞれ月あたり12ドル、23ドル、41ドル）

Submagicは、AIを活用して**動画に自動的に字幕を追加するツールです**。多言語対応しており、動画の内容を自動的に認識して高精度な字幕を生成します。

また、字幕のスタイルや位置のカスタマイズも可能で、視覚的な魅力を高めることができます。

Review **オススメ度** ★☆☆☆☆

Submagicは、自動で字幕を付けたり、長い動画から切り抜き動画を作ったりできるツールです。ただ、私が試した限りでは、期間を空けて数回試したものの、**日本語の動画は「FAILED（失敗）」と表示されてしまって使い物になりませんでした**。

なのでお勧めはしません。それでも「手動編集（Manual Edit）」のボタンを押し、文字起こしを見ながら使えそうなパートを選択していくことによって、「文字起こしを見ながら使えるところを切り抜く」という形の編集は可能のようです。

ただ、それなら個人的には通常の編集ソフトで動画を再生しながら使えそうなところを切り抜いていくほうがマシなので、**残念ながらお勧めできるツールではありません**。

AIを使った編集機能はいろいろあるようなので、日本語に対応していないのが残念ですね。（公式サイトの対応言語には日本語も載っているのですが、実際の精度は私が試した限りでは厳しかったです。）

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

結論

どの動画編集ツールがオススメ？

このチャプターでは様々な種類の動画編集ツールをご紹介してきましたが、どれをお勧めするかは目的や好みによるところも大きいので、私が実際に動画編集をしている際に使っているツールとワークフローをここでご紹介します。

１、動画撮影：自宅で動画を撮影し、カメラの素材と画面収録のデータをパソコンに取り込んで、DaVinci Resolveに読み込みます。

ここまでは自分でやります。

↓

２、AIに編集を指示：DaVinci Resolve StudioとClaude（Claude Code）やChatGPTをつないで、「今開いているプロジェクトでYouTube動画を編集して」と頼みます。

2つの素材の同期、色づけ、音の調整、カット編集、顔のワイプの位置やズーム、字幕・テロップ・効果音・BGMまでAIが進めてくれます。

編集のやり方は「スキル化して」と頼んで保存しておくと、次からは短い指示で済みます。（あえてDaVinci Resolveを使う理由は、公式の機能としてAIとつなげられること、**自動文字起こし機能があること**、Blackmagic Cloud機能を使えばリモートで他人に編集してもらえること、さらに、買い切りで使えること、などです。）

↓

３、人間がチェック：**どこを使うか、どこを思い切って切るかの判断はAIにはまだ難しいので**、自分でチェックして「もう少し短く」「『あー』『えー』を消して」などと追加で指示したり、自分で軽く手直ししたりします。

↓

４、書き出し：完成したら、YouTubeに合った形式での書き出しもAIに頼みます。

↓

５、切り抜きショート動画とブログ記事：長い動画から1分ほどの切り抜きショート動画もAIに作ってもらっています。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

今回ご紹介したAI自動切り抜きツールの中では**Opus Clipが一番マシだと思いました**が、DaVinci ResolveとつないだChatGPTに頼んだときは、そのまま使える切り抜きを作ってくれました。

さらに、動画をもとにしたブログ記事も、静止画の切り出しからWordPressへのアップロードまでAIに任せられるようになり、**私はチェックして公開ボタンを押すだけになりました**。

最後に、このチャプターでご紹介したその他のツールについても、目的別に整理しておきます。

まず、無音カットや言い直しのカットを自動化したい方は、Recutのほかに、FireCut・AutoCut・Gling.aiという選択肢があります。

ただし、FireCutとAutoCutは私自身がまだ使っていませんので、評価は公式情報と海外のレビューをもとにしたものです（Gling.aiは実際に試したうえでの評価です）。

いずれも無料体験がありますので、あなたの動画で試して、**手直しが一番少ないものを選んでください**。**複数に課金する必要はありません**。

編集ソフトそのものを選ぶなら、私がメインで使っていて、有料のStudio版ならClaudeやChatGPTに編集を任せられるDaVinci Resolve（買い切り）、Adobe製品をすでに使っているならAdobe Premiere（旧Premiere Pro）、Macをお使いで買い切りが良いならFinal Cut Pro、スマホ中心で手軽に済ませたいならCapCutが候補になります。

文章で編集の方針を伝えて、結果をいつもの編集ソフトに戻したいならEddie AI、Googleフォトの中で手軽に見た目を変えたいならVideo Remix、Figmaで広告バナーに動きを付けたいならFigma Motionというように、「編集」とひとくちに言っても用途はさまざまです。

あなたがいま一番時間を取られている工程はどこかを考えて、そこから1つだけ試してみてください。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Chapter 14

その他の便利なAIツール（文字起こしAIなど）



Chapter 14　その他の便利なAIツール

作業効率を大幅に向上させるサポート役

さて、ここまでのチャプターでは様々なAIツールをご紹介してきました。ツール紹介としては最後となるこのチャプターでは、ここまでご紹介してきた**チャプターに入りきらなかった追加のツール**をご紹介していきたいと思います。

会議の議事録を自動的に生成してチームメンバーに共有してくれる「tl;dv（ティーエルディーブイ）」や「Notta」、**音声や動画の文字起こしを高精度に行なってくれる**「ElevenLabsのScribe」機能、「SimonSaysAI（サイモンセッズAI）」や「Rimo（リモ）」、Otter（オッター）、ブックマークしておいたURLを視覚的に管理できる便利なブックマークツール「mymind（マイマインド）」、そしてGoogleの新しいAIツールをいち早く試すことができるサイト「Google Labs（グーグルラボ）」など、様々なツールをご紹介しています。

この中にあなたのお役に立てるツールがあれば幸いです！

（このチャプターに限らずですが、また新しいツールが出てきたり、すでに紹介済みのツールがアップデートされたりした場合は、可能な限りこの書籍も加筆修正してアップデートしたいと思っています。）

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Google AI Studioでの音声文字起こし

- **公式サイト**：https://aistudio.google.com/
- **料金プラン**：Google AI Studioのサイト上では**無料で文字起こし可能です**。

Google AI Studioの文字起こし機能は、あなたの音声や動画を**驚くほど正確に文字に変換してくれる無料のツールです**。

GoogleのAI「Gemini」を使っているので、難しい専門用語でもしっかり認識します。会議の録音、インタビュー、YouTube動画など、どんな音声ファイルでもWebブラウザに直接アップロードするだけで、短時間でテキストに変換完了。

日本語だけでなく英語など多言語にも対応し、作成されたテキストはその場で編集や保存もできます。アプリのインストールは不要で、Googleアカウントがあればすぐに使えます。

ただし、**長時間の音声は分割が必要で、操作画面が英語表記**という点にご注意ください。議事録作成や文字起こし作業に時間をかけているなら、このツールがあなたの作業時間を大幅に短縮してくれるでしょう。

（Geminiの公式アプリでも文字起こしができます。）そして2026年8月26日には、文字起こし専用の新しいモデル**「Gemini 3.5 Transcribe」が正式版になりました**。

日本語を含む85以上の言語を自動で判別し、最大8人までの話者を区別し、単語ごとの時間の情報や、社名・商品名などの独自の用語（最大1,000語）の登録にも対応しています。

雑音や言い直し、「えーと」のようなつなぎの言葉も賢く処理して、整った文章として書き起こしてくれるのが特徴で、Googleによると英語での誤り率は2.6%、以前のモデルより応答が70%速くなったとのことです。

無料枠もあり、有料で使う場合も音声1分あたり約0.005ドル（音声の入力が0.003ドル、文字の出力が0.002ドル）という安さです。

ただし、無料で使う場合は、送った音声や文字起こしの結果が**Googleのサービス改良に使われることがあります**（有料枠では使われません）。

社外秘の会議を扱うときは注意してください。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Review **オススメ度** ★★★★★

Google AI Studioの文字起こし機能は、あなたが音声や動画を無料で正確にテキスト化できる優れたツールです。

GoogleのGeminiの最新AIモデルを使うことができ、操作画面は英語ですが、Googleアカウントがあれば誰でもすぐに利用できます。

音声ファイルをアップロードするだけでなく、「えー」「あの」などの無駄な言葉を削除し、固有名詞を適切に表記し、読みやすい文章に整えてもらうための詳しい指示を一緒に送ることができます。

単に「文字起こしして」と頼むより、具体的な要望を伝えることで、あなたが後から修正する手間を大幅に減らせる高品質な文字起こしが完成します。

私も文字起こしはGoogle AI Studioをメインで使っています。8月26日に出た文字起こし専用のGemini 3.5 Transcribeは、私のように「収録した動画の文字起こしをAIに読み込ませてブログや要約を書かせる」という使い方をしている人間にとっては、**正直、一番うれしい8月のニュースでした**。

話している人の区別ができるようになったので、対談やインタビューの文字起こしにも使いやすくなりますし、社名や商品名を先に登録しておけるので「毎回同じ固有名詞を直す」という手間も減りそうです。

他の文字起こしツールには申し訳ないですが、**やはり無料で使えるのでお勧めします**。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Rimo

リモ

※旧Rimo Voice

- **公式サイト**：https://rimo.app/about/voice
- **料金プラン**：
  - 無料トライアル：7日間、クレジットカードの登録なしで試せます（2026年11月1日時点の公式の料金ページには、ずっと無料で使えるプランは載っていません）
  - 有料プラン（2026年11月5日時点の公式の料金ページ。税込・月払いの価格で、年払いも選べます）：文字起こしだけを使う「文字起こしプラン」は月額1,650円（月2,100分まで、データの保管は30日）、AIの要約や会議の自動録画も使える個人向けの「プロプラン」は月額4,950円（文字起こし時間は無制限）、チームで使う「チームプラン」は1アカウントあたり月額6,600円、11アカウント以上の「法人プラン」は個別見積もりです。（以前の「音声22円／30秒」という従量制から、月額定額制に変わっています。）

Rimo（リモ）は、**日本語に特化した高精度（98%以上）のAI文字起こしツール**で、日本語の言い回しや抑揚を正確に認識し、ノイズ環境や複数話者にも対応可能です。

1時間の音声を約5分で処理し、リアルタイム文字起こしも可能。直感的なインターフェースと多様な音声・テキストフォーマット（MP3、WAV、Word、PDFなど）に対応し、AIによる話者識別機能（90%精度）も備えています。

また、ZoomやMicrosoft Teamsなどのオンライン会議ツールや動画ファイルとの連携も可能です。

開発元の更新頻度が非常に高く、2026年7月だけでも、7月3日にPDF形式でのダウンロード追加、7月6日にチーム情報のCSV一括ダウンロード、7月7日に「Rimo Knowledge AIエージェント」のベータ版リリース、7月8日にチームアーカイブ機能と個人APIキーの発行、7月13日にブラウザ録音中の一時ミュート、7月16日にノート・ドキュメントの編集ロック機能（エンタープライズ・チーム・Proプラン向け）、7月23日に文字起こし対応言語の拡充、7月24日にノート検索機能のアップデートと、**ほぼ毎週のように機能が追加されています**。

8月も、ClaudeなどのAIから直接Rimoの文字起こしを参照できるMCPサーバー（8月6日）、ノートと文字起こし画面のデザイン刷新（8月19日）、文字起こしに注釈や修正の提案を付けられるコメント機能（8月20日）が加わりました。

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

そして2026年10月1日、創業7周年に合わせて、**サービスの名前が「Rimo Voice」から「Rimo」に変わり**、ロゴも新しくなりました。

「声を記録するだけの道具」から「仕事そのものを助けるサービス」へと進化したため、とのことです。**料金や機能、契約内容、保存したデータ、ログインの方法はそのままです**。

2026年10月8日には、**60の言語から2つを選んで**、**会議の発言をその場で双方向に翻訳して表示する「リアルタイム翻訳」**も始まりました。

リアルタイム文字起こしを使える契約中の方なら、追加料金なしで使えます。会議室の大きな画面に言語ごとに左右に分けて表示したり、スマホのアプリで向かい合った相手に見せたりもできます。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Rimo（旧Rimo Voice）は日本製の文字起こし&議事録作成ツールです。日本企業が運営しているだけあって、**サイトのUIもサポートも全て日本語**ですので、海外ツールが苦手な方は候補になるかもしれません。

ただ、「会議を頻繁に行い、毎回議事録の作成を求められる」というような**JTC向けのツールかもしれませんね**。

実際、2026年7月に追加された機能を見ても、ノートやドキュメントを他の人に勝手に編集されないようにする編集ロック機能（エンタープライズ・チーム・Proプラン向け）など、チームで使うことを前提にした改良が中心です。

7月7日には、蓄積した文字起こしやノートを社内のナレッジとして扱う「Rimo Knowledge AIエージェント」のベータ版も登場しました。

私も実際に試してみて、文字起こしの精度も高いですし、SRTファイルなどの形式で字幕データを書き出して、動画編集ソフトで字幕を自動的に生成するなどの使い方も可能です。

7月23日には対応言語も増えているので、日本語以外の音声を扱う機会がある人にも使いやすくなっています。

以前は個人プランでも比較的に料金が高めだったので、個人的には導入には至りませんでしたが、2026年11月5日時点では、**文字起こしだけなら月額1,650円（税込、月2,100分まで）の「文字起こしプラン」が用意されています**（文字起こし時間が無制限のプロプランは月額4,950円）。

文字起こしの精度は高いと感じますので、「日本語の文字起こしを定額でたくさんやりたい」という方は、あらためて検討してみても良いかもしれません。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



ElevenLabsのScribe機能

文字起こし

- **公式サイト**：https://elevenlabs.io/ja
- **料金プラン**：
  - **無料プランでも一定の文字起こし（月に約12分）は可能**
  - 月額6ドル～の有料プランに課金することで文字起こし可能な時間が増えます

ElevenLabsは音声生成が得意なAIツールですが、文字起こしモデル『Scribe』も提供しています。

2026年1月にはScribe v2とScribe v2 Realtimeがリリースされ、Scribe v2は**90以上の言語（日本語含む）に対応し、業界最低の誤認識率を実現**しています。

さらにScribe v2 Realtimeは~150msという業界最速のレイテンシでリアルタイム文字起こしができるので、ライブ字幕やAI音声エージェントに最適です。

話者分離（speaker diarization）も精度が高く、複数人の会議の文字起こしにも便利です。

（2026年11月5日時点でもScribe v2が最新です。）

Review **オススメ度** ★★★☆☆

音声文字起こしツールは様々なAIツールや動画編集ソフト内の文字起こし機能も使ってきましたが、それらと比較しても**ElevenLabsの文字起こし機能の精度は高いと感じました**のでこの書籍で取り上げることにしました。

他の文字起こしツールでは、例えば「ChatGPT」は「チャットGPT」、Claudeは「クラウド」などのようにカタカナになってしまったり、微妙に異なるカタカナ表記になってしまうことが多いのですが、ElevenLabsの文字起こし機能では、そのあたりの精度が高く、固有名詞も比較的正確に文字起こしをしてくれるので、修正の手間が減って助かっています。

（もちろん完璧ではないですが、他のツールと比べると確実に精度は高いと感じます。）難点を言うと、文字起こしデータから動画用の字幕を作る場合は、字幕の表示が日本語だとイマイチになるので**動画字幕の作成ツールとしては使いにくい点です**。

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

tl;dv

ティーエルディーブイ

- **公式サイト**：https://tldv.io/
- **料金プラン**：
  - 無料プラン：0円。録画と文字起こし（30以上の言語）は無制限ですが、AIによる会議メモは10回分までなど、AIの機能には上限があります。
  - 有料プラン：個人や小さなチーム向けのプロプランが1人あたり月額4,980円（年払いなら月あたり3,080円）、チーム向けのビジネスプランが1人あたり月額6,980円（年払いなら月あたり4,980円）、そのほかに企業向けのエンタープライズプラン（個別見積もり）があります（2026年10月15日時点の日本向けの公式料金ページ）。

tl;dvは、Zoom、Google Meet、Microsoft Teamsなどの**オンライン会議を録画し、AIを活用して自動的に議事録を作成する**ツールです。

会議の録音・文字起こし、AIによる要約、マルチミーティングAIインサイトなど、多彩な機能を提供しています。

Review **オススメ度** ★★★☆☆

もしあなたが日頃から頻繁にZoomやTeamsでのリモート会議やお客様とのコンサル、商談を行っており、「参加者や欠席者向けに録画や議事録、要約の提供を自動的に行いたい」と思っているのであれば、導入を検討すべきツールかもしれません。

ただ、私の会社ではSlackのハドル（ビデオ会議）機能を使って毎週ミーティングを行なっているのですが、**Slackのハドル機能にはtl;dvは対応していない**ようなので残念です。

また、Zoomを使って顧客向けに毎週ウェビナー配信をしているのですが、Zoomのミーティング機能には対応しているが、Zoomウェビナー機能には対応していない、などの制限もあるようで**弊社では導入に至りませんでした**。

もしあなたが「Zoomでのリモート会議が終わったら自動的に録画や要約文を関係者に送りたい」と思うのであれば、試してみると良いでしょう。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

Notta

ノッタ

- **公式サイト**：https://www.notta.ai/
- **料金プラン**：
  - 無料プラン： 120分の文字起こしが可能
  - 有料プラン：**プレミアムプランは月額1,975円（税込）**、年払いだと月額1,185円（税込）。チーム向けのビジネスプランは年払いで月額2,508円（税込）～。

Nottaは、Notta株式会社が提供する高性能AI音声認識技術を活用した自動文字起こしサービスで、日本語・英語・中国語など**58言語の音声を98%以上の認識率でテキスト化**し、1時間の音声をわずか5分で処理できる高速性を誇ります。

音声ファイルのアップロード、リアルタイム文字起こし、Web会議での文字起こしに対応し、YouTubeやGoogleドライブのURLからも文字起こしが可能で、AIによる自動要約機能（Claude活用）、チーム共有機能、テキスト検索機能、タイムスタンプ機能、2言語同時文字起こし・翻訳機能など多彩な機能を備えています。

2026年7月8日には「Nottaデスクトップ」が正式リリースされ、**パソコンの中だけで音声処理を完結させる完全ローカル処理に対応**しました（AIボイスレコーダーで録音した音声も扱えます）。

音声データを社外のサーバーに送りたくない、という場面で使える選択肢です。また2026年に入ってからは、BANT（営業のヒアリング項目）やSOAP（医療の記録形式）といった用途別のAI要約カスタムテンプレート、2か国語の同時リアルタイム翻訳、Web会議へのBot自動参加の強化なども追加されています。

7月27日には法人向けの「ビジネスPlus」プラン（画像やスライドの生成、リアルタイム要約などに対応）が新設され、8月5日には会社としての事業を**「AI議事録」から「音声AIプラットフォーム」へと定義し直し**、ロゴも新しくなりました。

8月20日からは、文字起こしの結果を話している最中に少しずつ表示するリアルタイム表示に切り替わり、応答も速くなっています。

2026年9月28日には、AIボイスレコーダーの新製品**「Notta Memo Pro」（29,700円・税込）の予約受付**が公式ストアで始まりました（数量限定）。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

電話と対面の会話を自動で見分けて録音し、文字起こしとAI要約までしてくれる製品で、**2026年10月13日に発売されました**（公式ストアのほか、Amazon・楽天市場でも販売すると発表されています）。

Review **オススメ度** ★★★☆☆

音声文字起こしツール「Notta」を実際に試してみた上での感想をお伝えします。Nottaは日本語インターフェースで使いやすく、ブラウザ上での録音やZoomなどのウェブ会議との連携、画面収録機能などが便利です。

無料プランでは2時間分の文字起こしが可能です（以前は月60分でしたが、月120分に増えました。**ただし1回あたり3分までという制限があります**）。

しかし、文字起こしの精度については最新モデルを使用していないようで、**特に英語の固有名詞や専門用語の認識が不正確でした**。

比較すると、ElevenLabsやGoogle AI Studioの文字起こし機能の方が精度が高く、DaVinci Resolveの内蔵機能も悪くありません。

Nottaの価値は使いやすさと機能の統合にありますが、精度に関しては今後のアップデートに期待したいところです。

UIが英語のツールは使いたくない人向けの文字起こしアプリだと感じます。なお2026年7月8日には「Nottaデスクトップ」が正式リリースされ、パソコンの中だけで音声を処理する完全ローカル処理ができるようになりました。

会議の音声をクラウドに上げること自体がNGという職場もあるので、そういう方には嬉しい進化だと感じます。

8月には会社としてのブランドも刷新されましたので、「議事録ツール」から「声にまつわる仕事を何でも引き受けるツール」へと広げていこうとしているようですね。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



SimonSaysAI

サイモンセッズAI

- **公式サイト**：https://www.simonsaysai.com/ja/home
- **料金プラン**：
  - 無料プラン： 無料トライアルあり
  - 有料プラン： **月額20ドル（年払いなら15ドル、月2時間）**、40ドル（年払いなら33ドル、月4時間）、150ドル（年払いなら125ドル、月30時間）の3つのプラン。使った分だけ払う従量制（1時間15ドル）もあります。

SimonSaysAIは、**100以上の言語に対応し、高精度（95%以上）**かつ高速（20分の動画を2〜3分で処理）の文字起こしと翻訳を提供するAIツールです。

クラウド上で過去の文字起こしデータを管理し、編集やブックマーク、注釈付けが可能で、ビジュアル字幕エディタを使ったフォーマット調整にも対応しています。

さらに、Final Cut ProやAdobe Premiereなどの動画編集ソフトと連携し、Word、SRT、CSVなど多様な出力形式をサポートしています。

Review **オススメ度** ★★☆☆☆

海外製の文字起こしツールですが、日本語の文字起こしや、いろいろな言語への翻訳も可能です。最近はChatGPTのアプリでも音声認識と文字起こしができるようになったり、DaVinci ResolveやAdobe Premiereなどの動画編集ソフトでも文字起こしができるようになってきているので、**以前よりは使用頻度が減りました**。

それでも「動画の字幕を正確に作りたい」というように文字起こしのクオリティを重要視したい際は、SimonSaysAIで文字起こしをして、そこからSRTファイルなどの字幕データを書き出して、動画編集ソフトに取り込んで素早く動画の字幕作成をしています。

料金はUSドルでの支払いになるので、多少高く感じますが、以前は前述のRimoなどよりは安かったのでよく使っていました。

ただ、**最新の文字起こしモデルと比べると性能がイマイチだと感じますね**…。

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

Otter

オッター

- **公式サイト**：https://otter.ai/jp
- **料金プラン**：
  - 無料プラン：**1ヶ月に300分間まで無料で文字起こし可能**
  - 有料プラン：月額16.99ドル（年額払いなら8.33ドル）

Otter.aiは、AIを活用した会議アシスタントツールで、リアルタイム文字起こし、自動要約、スピーカー識別、アクションアイテムの抽出などの機能を提供しています。

音声とテキストの連動再生が可能で、Zoom、Google Meet、Microsoft Teamsなどの主要なビデオ会議プラットフォームと統合できるOtterPilot機能も搭載しています。

さらに、カレンダー連携、カスタム語彙の作成、AIチャット機能、多言語対応など、会議の効率化をサポートする多彩な機能を備えており、クラウドベースのアーキテクチャにより、どのデバイスからでも会議記録にアクセスできる利便性があります。

以前は英語の音声の文字起こしにしか対応していませんでしたが、2026年11月5日時点の公式の料金ページでは、無料のBasicプランを含むすべてのプランで**「英語・スペイン語・フランス語・ドイツ語・日本語・中国語」の文字起こしに対応**していると書かれています。

2026年7月21日には、同社が「初のライブコーチングエージェント」と呼ぶ「Live Assist（ライブアシスト）」が発表されました。

これは**通話の最中にAIがリアルタイムであなたをコーチしてくれる機能**で、ヒントは自分の画面にだけ表示されるため相手には見えません。

話すべき項目を話し終えると自動でチェックが付き、Agent Builderを使えば自社の営業トーク集（プレイブック）に沿ったカスタム版も作れます。

Zoom、Google Meet、Microsoft Teams、Otterデスクトップに対応し、ClaudeやSalesforceとの連携も可能です。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

ただしLive Assistは、**Otter Enterprise（法人向けの上位契約）の顧客限定の提供**で、価格は公表されていません。

8月12日には、GoogleのGemini Sparkの連携先アプリにもOtterが加わっています。

Review **オススメ度** ★★☆☆☆

Otter.aiは長らく英語専用の文字起こしツールで、英語の音声に対して高精度な文字起こし機能を提供してきました。

毎月300分まで無料で利用でき、外国人の講演やセミナー、海外コンテンツの理解に役立ちます。ブラウザ版とスマートフォンアプリがあり、ZoomやSlackとの連携機能も備えています。

英語の音声をリアルタイムで文字起こしでき、議事録作成やリスニング学習に活用できます。有料プランは月額16.99ドルですが、**年間払いにすると8.33ドル/月と51%割引になるためお得です**。

海外の情報収集や英語コンテンツの理解を助ける実用的なAIアプリとして、イベント会場や講演会などでの使用に適していると言えるでしょう。

なお、2026年11月5日時点の公式サイトの料金表では、無料プランを含むすべてのプランで日本語の文字起こしにも対応していると書かれています。

私自身はまだ日本語での精度を試せていませんので、日本語で使いたい方は無料枠で実際に確かめてみてください。

2026年7月21日に発表された「Live Assist」は、通話中にAIが「次はこれを聞きましょう」といったヒントを自分だけに見える形で出してくれるという、なかなか未来的な機能です。

ClaudeやSalesforceとも連携するので、英語で商談をする方には面白いと思います。ただ、正直に書いておくと、この機能が使えるのはOtter Enterpriseという法人向けの契約をしている顧客だけで、価格も公表されていません。

個人で月額16.99ドルを払っている人が使えるものではないので、期待しすぎないようにしてください。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



mymind

マイマインド

- **公式サイト**：https://mymind.com/
- **料金プラン**：
  - 無料プラン：**100個までのサイトをブックマーク可能**
  - 有料プラン：月額4.99ドル（ブックマーク数が無制限）、月額7.99ドル（ベーシックなAI機能）、月額12.99ドル（高度なAI機能）の3種類の有料プランが公開されています。（以前の3.99ドル／6.99ドルから少し値上がりしています。）

mymindは、情報やアイデアを整理・保存するためのAIベースのツールです。ウェブページ、画像、テキストなどを簡単に保存し、**AIが自動的にタグ付けや分類を行います**。

視覚的に美しいインターフェースで、情報の整理と検索が容易です。保存した内容の要約や、保存したもの同士をつなぐリンク機能、開発者向けのAPIもあります。

Review **オススメ度** ★★★★★

Mymindは海外のYouTuberさんから教えてもらったブックマークツールなのですが、**視覚的にブックマークができるので非常に便利に使っています**。

通常、ブラウザのブックマーク機能を使うとただの文字の羅列になってしまい、「どれがどれだっけ？」と大量にブックマークされたリストを活用できないことも多かったのですが、mymindでブックマークしておくと、ブックマークしたサイトやYouTube動画を、YouTubeのフィード画面のように視覚的に一覧表示できるのです。

その結果「ああ、そういえばこんなサイトをブックマークしたんだった！」とそのサイトに再訪問しやすくなります。

シンプルですが便利なブックマークツールだと思います。（各ブラウザの拡張機能とモバイルアプリもあります。）有料プランにするとAIによる自動分類機能などが使えるようですが、**無料プランで十分だと思います**。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Wispr Flow

ウィスパーフロー

- **公式サイト**：https://wisprflow.ai/
- **料金プラン**：
  - 無料プラン：0円。パソコン（Mac・Windows）は週2,000語まではふつうに使え、それを超えると動きが遅くなり、週5,000語に達するとその週は使えなくなります（有料プランにすれば続けて使えます）。スマホ（iPhone・Android）は、2026年11月5日時点の公式の料金ページでは「週ごとに使える量に限りがある」とだけ案内されています。公式のヘルプページでは、iPhoneは週550語（最大750語）、Androidは週2,500語（最大3,000語）が目安とされていますが、人によって違うことがあり、アプリの更新なしに変わることもあるそうです。
  - Proプラン：1人あたり月15ドル（年払いにすると月12ドル）。文字数の制限がなくなり、より高性能なAIモデルが使えます。
  - 法人向けには、Growthプラン（1人あたり月23〜33ドル、年払いなら月18〜26ドル）と、個別見積もりのEnterpriseプランもあります。

Wispr Flowは、**話した言葉をその場で文字にしてくれる音声入力ツールです**。この章でご紹介してきたNottaやOtterが「録音した会議をあとから文字にする」ツールなのに対して、Wispr Flowはもともと「これから書く文章を、キーボードの代わりに声で入れる」ためのツールです。

ただし2026年8月5日には、**会議の文字起こしと要約をしてくれる「Wispr Notetaker」も加わりました**。

Zoom、Google Meet、Microsoft Teams、Slackのハドルなどに対応し、会議にボット（自動で参加する記録係）を入れずに、パソコンの中で記録する仕組みです。

2026年11月5日時点では、無料プランでも週ごとの回数の範囲で使えます（Mac・Windowsのみ。日本語の会議への対応は、公式には明記されていません）。

最大の特徴は、話した内容をそのまま文字にするのではなく、「えーと」「あの」といった口ぐせや、言い直した部分をAIが自動で取り除き、**句読点まで整えた読める文章にしてくれる点です**。

しかも、専用のアプリの中だけでなく、メールの作成画面、Slack、Word、ブラウザの入力欄など、**文字が打てる場所ならどこでも同じように使えます**。

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

100以上の言語に対応しており、日本語でも実用的な精度で使えます。

Review **オススメ度** ★★★★☆

このツールが効くのは、「頭の中には言いたいことがあるのに、キーボードを打つのが追いつかない」というタイプの方です。

経営者の方には、けっこう当てはまるのではないでしょうか。メールの返信、社員への指示、ブログの下書きなど、文章を書く場面はいくらでもありますが、**話すスピードは打つスピードのだいたい3倍と言われています**。

ふつうの音声入力と違うのは、言い直しやつっかえた部分を消してくれるところです。ふつうの音声入力だと「えーと、あの、これは、いや違うな、これについては」がそのまま文字になってしまい、結局あとから直す手間がかかります。

Wispr Flowはその整理までAIがやってくれるので、**出てきた文章がほぼそのまま使える状態になります**。

無料プランでも週2,000語まで使えますので、まずはメールの返信を声で書いてみるところから試すと、効果が分かりやすいと思います。

なお、**Macをお使いの方は、無料の選択肢も出てきました**。Metaが2026年9月1日に公開した音声認識モデル「Muse Voice Transcribe」がMac用のMeta AIアプリに載っており、Fnキーを押しながら話すだけで、どのアプリの入力欄にも音声で文字を入れられます。

ただ、Wispr Flowのように「言い直しや口ぐせを消して文章を整える」ところまでやってくれるかどうかは別の話ですので、まずは両方試してみて、出てきた文章の読みやすさで選ぶのが確実だと思います。

注意点としては、**当然ながら声を出せる環境が必要なことです**。共有オフィスやカフェでは使いづらいですし、家族がいる部屋でも気を使うかもしれません。

ご自身の仕事場が「声を出せる場所」かどうかで、向き不向きがはっきり分かれるツールだと感じます。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Julius AI

ジュリアスAI

- **公式サイト**：https://julius.ai/
- **料金プラン**：
  - 無料プラン：0円。1日ごとのクレジットの範囲内で使えます。
  - Plusプラン：月20ドル（年払いにすると月16ドル）。月2,000クレジット。
  - Proプラン：月45ドル（年払いで月37ドル）。月5,000クレジット。一度に扱えるデータの量も増えます。
  - その上に、チームで使うBusinessプラン（月450ドル）とEnterpriseプランがあります。

Julius AIは、**ExcelやCSVのファイルをアップロードして、日本語で話しかけるだけでデータを分析してくれるツールです**。

「月別の売上を棒グラフにして」「去年と比べて伸びている商品を教えて」といった指示を出すと、裏側でAIが分析用のプログラムを書いて実行し、表やグラフにして返してくれます。

あなたはプログラムを1行も見る必要がありません。分析だけでなく、その結果からスライドやレポートを作らせることもできます。

Review **オススメ度** ★★★★☆

この本の中で、**実は今まで抜けていたのが「手元にある数字を分析する」という分野です**。売上の一覧表、顧客リスト、広告の管理画面から書き出したレポート。

こういうExcelのファイルは、どの会社にも必ずあります。ChatGPTに数字を貼り付けて聞くこともできますが、ファイルが大きいと途中で切れてしまったり、計算を間違えたりすることがあります。

Julius AIはファイルをそのまま読み込んで、決まった手順で計算してくれるので、**同じ質問には同じ答えが返ってくるという安心感があります**。

私が便利だと感じるのは、**グラフの作り方を知らなくても「これをグラフにして」と言えば出てくる点です**。Excelのグラフ機能に毎回つまずいていた方には、それだけでも価値があると思います。

注意点としては、**無料プランは1日ごとのクレジット制で、じっくり分析するにはすぐ足りなくなります**。本格的に使うなら月20ドルのPlusプランが前提と考えておいてください。

また、日本語でも指示は通りますが、複雑な条件を伝えるときは英語のほうが安定するという声もあります。まずは無料枠で、手元の売上ファイルを1つ読み込ませて

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

みて、「これは仕事で使えそうか」を確かめてみると良いでしょう。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る



Google Labs

グーグルラボ

- **公式サイト**：https://labs.google/
- **料金プラン**：**基本的に全て無料で利用可能**

Google Labsは、**Googleの最新AI技術や実験的機能をいち早く試せるプラットフォーム**です。

クリエイティブツールとして、AI動画・画像生成スタジオの「Flow」、文書管理の「Gemini Notebook（旧NotebookLM。2026年7月16日に正式に名称が変更されました）」、デザインツールの「Stitch」、マーケティング向けの「Pomelli（ポメリー）」、自然言語でAIミニアプリを作れる「Opal（オパール）」、学習コンテンツを自動生成する「Learn Your Way」など、様々な実験ツールが集約されています。

2026年5月のGoogle I/O 2026では、研究者向けの「Gemini for Science」も発表され、学術論文の調査や仮説生成、計算研究を支援する3つの新ツールも追加されました。

なお、これまでGoogle Labs内で公開されていた画像生成ツールの「Whisk（ウィスク）」と「ImageFX」は、2026年4月30日に**スタンドアロン版が終了し、AI動画・画像生成スタジオの「Flow」に統合**されています。

同じように、AI音楽生成の「MusicFX」と「MusicFX DJ」も、2026年7月1日の告知を経て7月31日に提供終了となり、GoogleのAI音楽は「Google Flow Music」に一本化されました。

なお、AIコンセプトボードの「Mixboard（ミックスボード）」は、2026年9月28日で提供を終了しました。

2026年11月5日時点のGoogle Labsのトップページには、**チームで一緒に、言葉で指示しながらツールやWebサイトをリアルタイムに作れる**「Play with Putty」（順番待ち）や、毎日あなた向けの物語を届けるスマホアプリ「dreambeans」（米国の18歳以上が対象）といった新しい実験が並んでおり、FlowとFlow Musicはそれぞれflow.google、flowmusic.googleという独立したアドレスに「卒業」する形になっています。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

一方で、自然言語でAIミニアプリを作れる「Opal」は、**2026年11月17日で終了することが9月30日に発表されました**。

その日を過ぎると作った仕組みは動かなくなりますが、ファイルはGoogleドライブの「マイドライブ＞Opal」に残ります。

同じような使い方は、Geminiアプリの「スキル」に引き継がれます。スキルは2026年10月13日から、個人のGoogleアカウントと仕事用のアカウントの両方に向けて順に提供が始まっており、11月中ごろまでに行き渡る予定です。

Review **オススメ度** ★★★★☆

Google LabsはGoogleが研究している実験的なAIツールをいち早く試せるサイトです。私が使った限りは、**「面白いけど、仕事では使えないかな？」という機能が多い印象です**。

また、基本的には英語ですので、英語に苦手意識がある人は使いづらいかもしれません。ただ、Googleが開発しているAI機能をいち早く使うことができたり、Googleが公開しているセッションの動画などを視聴することができるので、「GoogleがAIでどんなことをやろうとしているのか？」という情報をリサーチしたい方は、見てみるとよいかもしれません。

個人的にはGoogle Labs上で公開されていた「Whisk（ウィスク）」というツールが面白いと感じていましたが、2026年4月30日にスタンドアロン版が終了し、現在はFlow（フロー）というAI動画・画像生成スタジオの中に統合されました。

同じことがAI音楽の「MusicFX」にも起きていて、こちらは2026年7月31日で提供が終了し、Google Flow Musicに一本化されています。

Google Labsのツールはこうして「実験して、良ければ本体に統合する（あるいは静かに終了する）」という流れを繰り返すので、**気に入ったツールがあっても、あまり依存しすぎないほうがいいかもしれませんね**。

逆に言えば、2026年7月8日からGoogleフォトで使えるようになった「Video Remix」や、8月26日に正式版になった文字起こしモデル「Gemini 3.5 Transcribe」のように、ここで試された機能が私たちが普段使っているアプリに降りてくることもあるので、**Googleの次の一手を先に見ておく場所として眺めるのが、ちょうどいい付き合い方**だと感じます。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

結論

どれがオススメ？

このチャプターでは、文字起こしをはじめとした「作業を助けてくれるAIツール」をご紹介してきました。種類がバラバラですので、目的別に整理しておきます。

まず、文字起こしです。**費用をかけたくないなら、Google AI Studioでの文字起こしが一番のお勧めです**。

無料で、日本語の精度も高いのが魅力です（長時間の音声は、分割して読み込ませる必要があります）。ただし操作画面が開発者向けなので、「難しそう」と感じたら、**日本語に特化した有料サービスのRimo（旧Rimo Voice）が安心です**。

オンライン会議をそのまま記録して要約まで任せたい方は、tl;dvやNottaが候補になります。英語の音声が中心なら、Otterや、ElevenLabsのScribeも選択肢に入ります。

次に、毎日の作業を軽くしてくれるツールです。キーボードを打つ時間を減らしたい方には、**話した言葉をそのまま文章に変えてくれるWispr Flowをお勧めします**。

文字を打つのが遅い方ほど効果を感じられるはずです。表計算ファイルを渡して「この数字を分析して」と頼みたい方はJulius AI、気になった記事や画像を放り込んでおくだけで後から探し出せるようにしたい方はmymindが便利です。

最後に、Google Labsです。こちらはツールというより「Googleの実験室」で、まだ正式な製品になっていない新しい機能を、無料で先に試せる場所です。

「新しいものをいち早く触ってみたい」という方は、ときどき覗いてみると面白いと思います。

このチャプターのツールは、どれも「メインのAI」ではありません。ですが、**こういう小さな自動化こそ、毎日の時間をじわじわと取り戻してくれます**。

まずは、あなたが一番「面倒だな」と感じている作業を1つだけ思い浮かべて、それに合うツールから試してみてください。

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

Chapter 15

まとめ



≡ 目次に戻る

AIを頼れるあなたの相棒に

さて、本書の内容はいかがでしたでしょうか？

ぜひ今回お伝えしたAIツールの中から1つでもあなたのお仕事や日常生活でお役に立てるツールがあれば嬉しいです。

あなたが日頃、「面倒だな」「時間がかかるな」と感じている作業、ありますよね。もしかしたら、**AIがそれを手伝ってくれるかもしれません**。

そうして生まれた時間や心の余裕で、あなたが本当にやりたかったこと、新しいアイデアを試すことに集中できるようになったら、どうでしょう。

もちろん、すぐに完璧に使いこなせるわけではないかもしれません。でも、この本をきっかけに、まずは**「ちょっと試してみようかな」くらいの気持ち**で、AIツールに触れてみてほしいのです。

AIと一緒に働くことで、あなたの毎日が少し楽になったり、昨日まで思いつかなかった面白い工夫が生まれたりする。

そんな、ちょっと嬉しい変化を、ぜひあなた自身で感じてみてください。

AIは、あなたのその「やってみたい！」を、そっと後押ししてくれる、**頼もしい相棒になってくれるはずです**から。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

さらに詳しく最新のAIツールの使い方と活用事例を学びたい方へ…

ここまでお読みいただき、本当にありがとうございました。

この本の情報は、AIツールの進化に合わせて、私が**できる限り早いペースで更新し続けています**。ですから「読んだ内容が古かった」ということは起きにくいはずです。

ただし、この本には1つだけ、どうしても越えられない壁があります。

それは、**154個のツールを1冊に収めている**ため、1つのツールに割けるページ数がどうしても限られているということです。

この本の役割は、あくまで「あなたに合いそうなツールを見つけていただくこと」です。カタログのようなものだと思ってください。

でも、実際に仕事で使い始めると、次はこういう疑問が出てきますよね。

- 具体的に、どんな指示（プロンプト）を出せばいいのか
- 自分の仕事で、実際にどう使えばいいのか
- 無料プランのままでいいのか、課金するならどのプランなのか

この「使い始めてから出てくる疑問」に答えているのが、私の公式サイトのブログです。

ブログでは、**1つのツールについて数千文字から1万文字以上**をかけて、実際の活用事例や、私が使っている具体的な手順まで詳しく解説しています。

記事によっては、実際に操作している画面の解説動画も付けていますので、文章だけではイメージしづらい部分も、見ながら真似していただけます。

この本で「気になるツール」を見つけて、ブログで「使いこなし方」を身につける。この2つを組み合わせていただくのが、遠回りをせずにAIを仕事に取り入れる、いちばん早い道だと思っています。

もし「何から始めればいいか分からない」という場合は、**まずこの3つだけ試してみてください**。1つ目は、ChatGPTかClaudeの無料プランに登録して、いま抱えている仕事を1つ相談してみること。

© HILTL, Inc. All Rights Reserved.

2つ目は、その会話の中で「資料にして」と頼んでみること。3つ目は、気に入ったほうの有料プランを1ヶ月だけ契約して、本気で使い倒してみることです。

この順番なら、**お金をかける前に「自分の仕事で本当に使えるか」を確かめられます**。

なお、この本のどこが新しくなったのかは、目次の次にある「更新履歴」のページにまとめてあります。前の版をお読みいただいた方は、そちらから確認していただくのが早いと思います。

ヒルトル公式サイトでブログを読んでみる！

https://philipptarohiltl.com/

上記のサイトをブックマークしておいていただければ、次に「あのツール、どう使うんだっけ？」と思ったときにすぐ戻ってこられます。

ぜひ私の公式サイトとブログ記事もご活用ください！

ヒルトル・フィリップ太郎より

 © HILTL, Inc. All Rights Reserved.

≡ 目次に戻る

毎朝のAIニュースも、音声で聞けます

この本の更新の合間にも、AIの世界では毎日のように新しい発表があります。

そこで、その日のAIニュースを約5分の音声と記事にまとめたサイト「AIツール大全 今日のニュース」を公開しています。

更新は毎朝7時ごろです。登録はいりません。

無料で、スマホからそのまま聞けます。

音声はAIで作り、内容は各社の公式の発表と照らして確認しています。



https://aitooltaizen.com/

 | © HILTL, Inc. All Rights Reserved.